

北陸新幹線関係発掘調査報告書XVII

北前田遺跡Ⅱ
野畔遺跡
諏訪前遺跡
北新田遺跡Ⅱ
中田原遺跡Ⅱ
岩ノ原遺跡Ⅱ

2010

新潟県教育委員会
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

北陸新幹線関係発掘調査報告書XVII

北^{きた}前^{まえ}田^だ遺跡Ⅱ
野^の畔^{あぜ}遺跡
諏^す訪^わ前^{まえ}遺跡
北^{きた}新^{しん}田^{でん}遺跡Ⅱ
中^{なか}田^だ原^{はら}遺跡Ⅱ
岩^{いわ}ノ^の原^{はら}遺跡Ⅱ

2010

新潟県教育委員会

財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

北陸新幹線は、東京を基点に上越新幹線高崎駅から分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・小浜市を経て、大阪市に至る総延長700kmの新幹線鉄道です。全面開通により、北陸地方と関東圏・関西圏は短時間で結ばれ、日本海沿岸地域の産業・経済・文化の交流発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

本書は、この北陸新幹線建設に伴って実施した上越市に所在する北前田遺跡Ⅱ、野畔遺跡、諏訪前遺跡、北新田遺跡Ⅱ、中田原遺跡Ⅱ、岩ノ原遺跡Ⅱの発掘調査報告書です。

発掘調査面積に多少の差があるものの、それぞれの遺跡からは多くの遺構・遺物が見つかりました。

特に岩ノ原遺跡Ⅱは竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑などの遺構や墨書土器から荘園遺跡であることが分かり、中田原遺跡Ⅱは墨書土器からその外郭部と推定できました。平成18年度に実施した岩ノ原遺跡の発掘調査と合わせ、8世紀中葉の奈良時代に上越地方で成立した「東大寺領石井荘」が、9世紀後葉の平安時代までこの地に存続していたことが明らかになりました。また、北前田遺跡Ⅱでは石井荘の存続時期に並行する時期の集落が検出されました。

これらの発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されることを期待しています。

最後に、この発掘調査に対し、多大な御協力と御理解をいただきました上越市教育委員会、並びに地元の方々、また発掘調査から本書の作成まで格別な御配慮いただきました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北陸新幹線建設局、同上越鉄道建設所に対し厚くお礼を申し上げます。

平成22年3月

新潟県教育委員会

教育長 武藤 克己

例 言

- 1 本報告書は、新潟県上越市に所在する北前田遺跡・野野遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡・中田原遺跡・岩ノ原遺跡の発掘調査記録である。各遺跡の所在地は、北前田遺跡は大字上中田字北前田 471 番地ほか、野野遺跡は大字上中田字野野 1085 番地ほか、諏訪前遺跡は大字寺町字諏訪前 1365 番地 3 ほか、北新田遺跡は大字荒町字南新田、中田原遺跡は大字上中田字中田原 81 番地 2 ほか、岩ノ原遺跡は大字向橋字岩ノ原 162 番地ほかである。
- 2 この調査は、北陸新幹線の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委）が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、鉄道運輸機構）から受託したものである。
- 3 発掘調査は、県教委が主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社ノガミに委託し、埋文事業団の管理・監督のもと平成 20 年 4 月から 12 月にかけて株式会社ノガミが実施した。発掘調査面積は、北前田遺跡は 2,100㎡、野野遺跡は 160㎡、諏訪前遺跡は 230㎡、北新田遺跡Ⅱは 250㎡、中田原遺跡Ⅱは 830㎡、岩ノ原遺跡Ⅱは 1,250㎡である。
- 4 整理作業及び報告書作成に係る作業は、平成 20 年度に埋文事業団の管理・監督のもと株式会社ノガミが行った。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料（含観察データ）は、一括して県教委が保管・管理している。データの無や閲覧希望者は県教委に問い合わせ願いたい。
- 6 遺物の注記は、北前田遺跡Ⅱの略記号「08 北マエ」、野野遺跡の略記号「ノアゼ」、諏訪前遺跡の略記号「スワマ」、北新田遺跡Ⅱの略記号「08 北シシ」、中田原遺跡Ⅱの略記号「08 中タ」、岩ノ原遺跡Ⅱの略記号「08 イワノ」として、遺構名、出土地点や層位を続けて記した。
- 7 本書の図版で示す方位は、すべて真北である。
- 8 遺物番号は種別に関わらず遺跡ごとに通し番号を付した。本文及び観察表、図面・写真図版の番号は一致している。
- 9 本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 10 自然科学分析（花粉分析・樹種同定・植物珪酸体分析）はバリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行い、原稿は再編集したものを掲載した。
- 11 調査成果の一部は『埋文にいがた』63・65・66 号、『平成 20 年度 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』で公表しているが、本報告書をもって正式とする。
- 12 遺構・遺物図面・挿図のトレース及び遺構・遺物写真の各種図版は、アドビシステムズ株式会社製 Illustrator・Photoshop を用いて編集・作成した。本文編は同社製 InDesign を用いて編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 13 本書の執筆は高橋保雄（埋文事業団調査課長代理）の指導のもと、戸根与八郎（株式会社ノガミ埋蔵文化財調査部調査室長）、岡本範之、土沼章一、大谷祐司、金内元、村端和樹、秋山泰利（以上、同調査員）がこれにあたり、岩ノ原遺跡Ⅱの墨書土器に関しては相沢史氏（新潟市教育委員会）から執筆いただいた。第Ⅱ章 1 は新潟県埋蔵文化財調査報告書第 197 集「北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ」に掲載したものを一部改変した上で再掲した。編集は金内・秋山が担当した。執筆分担は以下のとおりである。
第Ⅰ章 1・2A・B…高橋、2C…土沼・大谷・秋山、2D・E…岡本 第Ⅱ章 1…大谷、2…秋山 第Ⅲ章 1・4A…C…岡本、2…土沼、3A・5…金内、3B・4E…秋山、3C…土沼・秋山、4D…大谷、4E…村端 第Ⅳ章 1・4B…岡本、2・3・4A…土沼、4C…村端、5…戸根 第Ⅴ章 1・4A…B…岡本、2・3・4C…D…大谷、5…千葉博俊・高橋敏・馬場健司（バリノ・サーヴェイ株式会社）、6…戸根 第Ⅵ章 1・4…岡本、2・3・5…秋山 第Ⅶ章 1・4B…岡本、2・3・4A・4D…大谷、4C…村端、5…千葉・高橋・馬場、6…戸根 第Ⅷ章 1・4A…B…岡本、2…土沼、3A・5A…金内、3B…土沼・大谷・秋山、4C・4E・4F…大谷、4D…村端、5B…相沢
- 14 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力をいただいた。ここに記して厚く御礼を申し上げます。（敬称略 五十音順）
金子 拓男 草間 敬子 小池 義人 笹澤 正史 高橋 理彦 高橋 道房 中西 聡
野村 忠司 水澤 幸一
上越市大字上中田町内会 上越市大字寺町町内会 上越市大字中田原町内会 上越市大字向橋町内会
上越市大字大和三四丁目町内会 上越市教育委員会 上越市都市整備部新幹線建設対策課

目 次

| | |
|------------------|----|
| 第 I 章 序 説 | 1 |
| 1 調査に至る経緯 | 1 |
| 2 調査と整理の経過 | 1 |
| A 試掘確認調査 | 1 |
| B 試掘確認調査体制 | 6 |
| C 本発掘調査 | 7 |
| D 整 理 | 8 |
| E 本発掘調査・整理体制 | 8 |
| 第 II 章 遺跡の位置と環境 | 10 |
| 1 地理的環境 | 10 |
| 2 歴史的環境 | 11 |
| 第 III 章 北前田遺跡 II | 13 |
| 1 グリッドの設定 | 13 |
| 2 基本層序 | 14 |
| 3 遺 構 | 14 |
| A 概 要 | 14 |
| B 記述方法 | 15 |
| C 遺構各説 | 16 |
| 4 遺 物 | 25 |
| A 概 要 | 25 |
| B 土器の分類 | 25 |
| C 土 器 | 27 |
| D 土 製品 | 28 |
| E 石 製品 | 28 |
| F 金属製品 | 29 |
| 5 ま と め | 29 |
| 第 IV 章 野畔遺跡 | 37 |
| 1 グリッドの設定 | 37 |
| 2 基本層序 | 37 |
| 3 遺 構 | 37 |
| A 概 要 | 37 |
| B 遺構各説 | 38 |

| | | |
|---------------|---------|----|
| 4 | 遺物 | 39 |
| A | 概要 | 39 |
| B | 土器 | 39 |
| C | 石製品 | 39 |
| 5 | まとめ | 40 |
| 第V章 諏訪前遺跡 | | 42 |
| 1 | グリッドの設定 | 42 |
| 2 | 基本層序 | 42 |
| 3 | 遺構 | 43 |
| A | 概要 | 43 |
| B | 遺構各説 | 43 |
| 4 | 遺物 | 43 |
| A | 概要 | 43 |
| B | 土器・陶磁器 | 43 |
| C | 土製品 | 44 |
| D | 木製品 | 44 |
| 5 | 自然科学分析 | 44 |
| A | 試料 | 44 |
| B | 分析方法 | 44 |
| C | 結果 | 45 |
| D | 考察 | 46 |
| 6 | まとめ | 47 |
| 第VI章 北新田遺跡II | | 49 |
| 1 | グリッドの設定 | 49 |
| 2 | 基本層序 | 50 |
| 3 | 遺構 | 50 |
| A | 概要 | 50 |
| B | 遺構各説 | 50 |
| 4 | 遺物 | 53 |
| A | 概要 | 53 |
| B | 土器 | 54 |
| 5 | まとめ | 54 |
| 第VII章 中田原遺跡II | | 56 |
| 1 | グリッドの設定 | 56 |
| 2 | 基本層序 | 56 |

| | |
|---------------------|-----|
| 3 遺 構 | 57 |
| A 概 要 | 57 |
| B 遺 構 各 説 | 57 |
| 4 遺 物 | 60 |
| A 概 要 | 60 |
| B 土器・陶磁器 | 61 |
| C 石器・石製品 | 62 |
| D 木製品・竹製品 | 62 |
| 5 自然科学分析 | 63 |
| A 分析方法 | 63 |
| B 結 果 | 64 |
| C 考 察 | 64 |
| 6 ま と め | 66 |
| 第Ⅶ章 岩ノ原遺跡Ⅱ | 69 |
| 1 グリッドの設定 | 69 |
| 2 基本層序 | 70 |
| 3 遺 構 | 70 |
| A 概 要 | 70 |
| B 遺 構 各 説 | 71 |
| 4 遺 物 | 84 |
| A 概 要 | 84 |
| B 土器・陶磁器 | 86 |
| C 土 製 品 | 92 |
| D 石 製 品 | 92 |
| E 錢 貨 | 92 |
| F 木 製 品 | 92 |
| 5 ま と め | 93 |
| A 岩ノ原遺跡における遺構の変遷 | 93 |
| B 岩ノ原遺跡Ⅱ出土の墨書土器について | 95 |
| 《要 約》 | 112 |
| 《引用・参考文献》 | 114 |

挿図目次

| | | | |
|----------------------|---|---------------------------|---|
| 第1図 北陸新幹線の路線と遺跡の位置 | 2 | 第4図 北前田遺跡・北新田遺跡 試掘トレンチ位置図 | 4 |
| 第2図 諏訪前遺跡 試掘トレンチ位置図 | 3 | | |
| 第3図 岩ノ原遺跡Ⅱ 試掘トレンチ位置図 | 3 | 第5図 中田原遺跡 試掘トレンチ位置図 | 5 |

| | | | | | |
|--------|-----------------|----|--------|------------------|----|
| 第 6 図 | 野畔遺跡 試掘トレンチ位置図 | 5 | 第 21 図 | 植物珪酸体 | 46 |
| 第 7 図 | 遺跡とその周辺の地形 | 10 | 第 22 図 | 北新田遺跡Ⅱ グリッド設定図 | 49 |
| 第 8 図 | 北前田遺跡 グリッド設定図 | 13 | 第 23 図 | 小グリッド模式図 | 49 |
| 第 9 図 | 小グリッド模式図 | 13 | 第 24 図 | 北新田遺跡Ⅱ 基本土層図 | 50 |
| 第 10 図 | 北前田遺跡Ⅱ 基本土層図 | 14 | 第 25 図 | 中田原遺跡Ⅱ グリッド設定図 | 56 |
| 第 11 図 | 遺構の平面形状の分類 | 15 | 第 26 図 | 小グリッド模式図 | 56 |
| 第 12 図 | 遺構の断面形状の分類 | 15 | 第 27 図 | 中田原遺跡Ⅱ 基本土層図 | 57 |
| 第 13 図 | 覆土の堆積形状の分類 | 15 | 第 28 図 | 樹種同定結果 | 65 |
| 第 14 図 | 器種分類図 (古代) | 26 | 第 29 図 | 岩ノ原遺跡Ⅱ グリッド設定図 | 69 |
| 第 15 図 | 北前田遺跡Ⅱにおける遺構の変遷 | 30 | 第 30 図 | 小グリッド模式図 | 69 |
| 第 16 図 | 野畔遺跡 グリッド設定図 | 37 | 第 31 図 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 基本土層図 | 70 |
| 第 17 図 | 小グリッド模式図 | 37 | 第 32 図 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 出土土器分布図 | 85 |
| 第 18 図 | 諏訪前遺跡 グリッド設定図 | 42 | 第 33 図 | 岩ノ原遺跡における遺構の変遷 | 94 |
| 第 19 図 | 小グリッド模式図 | 42 | 第 34 図 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 出土の墨書土器一覧 | 96 |
| 第 20 図 | 植物珪酸体含量 | 45 | 第 35 図 | 岩ノ原遺跡Ⅱの墨書土器出土地点 | 97 |

表目次

| | | | | | |
|--------|-----------------------|----|--------|-----------------------|-----|
| 第 1 表 | 北前田遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (1) | 32 | 第 22 表 | 中田原遺跡Ⅱ 木製品観察表 | 68 |
| 第 2 表 | 北前田遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (2) | 33 | 第 23 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (1) | 100 |
| 第 3 表 | 北前田遺跡Ⅱ 掘立柱建物・杭列柱穴観察表 | 34 | 第 24 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (2) | 101 |
| 第 4 表 | 北前田遺跡Ⅱ 畑作溝観察表 | 35 | 第 25 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (3) | 102 |
| 第 5 表 | 北前田遺跡Ⅱ 土製品観察表 | 35 | 第 26 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (4) | 103 |
| 第 6 表 | 北前田遺跡Ⅱ 石製品観察表 | 35 | 第 27 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (5) | 104 |
| 第 7 表 | 北前田遺跡Ⅱ 金属製品観察表 | 35 | 第 28 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱穴観察表 (6) | 105 |
| 第 8 表 | 北前田遺跡Ⅱ 土器観察表 | 36 | 第 29 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物・杭列柱穴観察表 | 106 |
| 第 9 表 | 野畔遺跡 掘立柱建物柱穴観察表 | 41 | 第 30 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 土器・陶磁器観察表 (1) | 107 |
| 第 10 表 | 野畔遺跡 土器観察表 | 41 | 第 31 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 土器・陶磁器観察表 (2) | 108 |
| 第 11 表 | 野畔遺跡 石製品観察表 | 41 | 第 32 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 土器・陶磁器観察表 (3) | 109 |
| 第 12 表 | 植物珪酸体含量 | 45 | 第 33 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 土器・陶磁器観察表 (4) | 110 |
| 第 13 表 | 諏訪前遺跡 土器観察表 | 48 | 第 34 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 土製品観察表 | 111 |
| 第 14 表 | 諏訪前遺跡 土製品観察表 | 48 | 第 35 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 石製品観察表 | 111 |
| 第 15 表 | 諏訪前遺跡 木製品観察表 | 48 | 第 36 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 銭貨観察表 | 111 |
| 第 16 表 | 北新田遺跡Ⅱ 杭列柱穴観察表 | 55 | 第 37 表 | 岩ノ原遺跡Ⅱ 木製品観察表 | 111 |
| 第 17 表 | 北新田遺跡Ⅱ 溝観察表 | 55 | | | |
| 第 18 表 | 北新田遺跡Ⅱ 土器観察表 | 55 | | | |
| 第 19 表 | 樹種同定結果 | 65 | | | |
| 第 20 表 | 中田原遺跡Ⅱ 土器観察表 | 67 | | | |
| 第 21 表 | 中田原遺跡Ⅱ 石器・石製品観察表 | 68 | | | |

図版目次

[図面図版]

- 図版 1 北前田遺跡Ⅱ 遺構配置図
- 図版 2 北前田遺跡Ⅱ 遺構分割図1
- 図版 3 北前田遺跡Ⅱ 遺構個別図1 SB381・383・412・482, SA486, SE378, SK364・365・384・385
- 図版 4 北前田遺跡Ⅱ 遺構個別図2 SK386～389・408・463・468・475～477・491、畑作溝
- 図版 5 北前田遺跡Ⅱ 遺構分割図2
- 図版 6 北前田遺跡Ⅱ 遺構個別図3 SB307, SE111・341・474, SK178・189・347・369
- 図版 7 北前田遺跡Ⅱ 遺構分割図3
- 図版 8 北前田遺跡Ⅱ 遺構分割図4
- 図版 9 北前田遺跡Ⅱ 遺構個別図4 SB269・319・320・358, SK112・326・397
- 図版 10 北前田遺跡Ⅱ 遺構個別図5 SK327, SB288, SK207・313・478、畑作溝
- 図版 11 北前田遺跡Ⅱ 遺構分割図5
- 図版 12 北前田遺跡Ⅱ 遺構分割図6
- 図版 13 北前田遺跡Ⅱ 遺構分割図7
- 図版 14 北前田遺跡Ⅱ 遺構個別図6 SB98・108・258・259・287
- 図版 15 北前田遺跡Ⅱ 遺構個別図7 SA266, SE277, SK160・200・203・213・228・251・271・359・382, SD109, SB99, SK282, SX55, SB100
- 図版 16 北前田遺跡Ⅱ 遺構出土土器1
- 図版 17 北前田遺跡Ⅱ 遺構出土土器2・遺構外出土器・土製品・石製品・金属製品
- 図版 18 野群遺跡 遺構配置図・基本層序・遺構個別図1 SB34・46, SD1
- 図版 19 野群遺跡 遺構個別図2 SE10, SK11・14, SX41・43 遺構出土土器・石製品
- 図版 20 諏訪前遺跡 遺構配置図・基本層序・遺構個別図 SK5・11・遺構外出土器・木製品
- 図版 21 北新田遺跡Ⅱ 遺構配置図
- 図版 22 北新田遺跡Ⅱ 遺構分割図1
- 図版 23 北新田遺跡Ⅱ 遺構分割図2
- 図版 24 北新田遺跡Ⅱ 遺構個別図1 SI847, SB1605, SX1609, SK1619, SD845・846・1612・1614, SI203, SX1676
- 図版 25 北新田遺跡Ⅱ 遺構個別図2 SI1660, SK1645・1678・1679, SX1665, 畑作溝・遺構出土土器・遺構外出土器
- 図版 26 中田原遺跡Ⅱ 遺構配置図
- 図版 27 中田原遺跡Ⅱ 遺構分割図1
- 図版 28 中田原遺跡Ⅱ 遺構分割図2
- 図版 29 中田原遺跡Ⅱ 遺構分割図3
- 図版 30 中田原遺跡Ⅱ 遺構個別図 SE13・15, SK32・38・42・44, SX12・31・39・40, TP14・18・20・23・24・26・37・41
- 図版 31 中田原遺跡Ⅱ 遺構出土土器・遺構外出土器・遺構出土木製品1
- 図版 32 中田原遺跡Ⅱ 遺構出土木製品2
- 図版 33 中田原遺跡Ⅱ 遺構出土木製品3
- 図版 34 中田原遺跡Ⅱ 石器・石製品
- 図版 35 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構配置図
- 図版 36 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構分割図1
- 図版 37 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図1 SB1501～1504
- 図版 38 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図2 SB1533・1534, SE337・609・760, SD1265
- 図版 39 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構分割図2
- 図版 40 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図3 SB1508・1518・1521, SA1510, SE788・826・830・834・1565
- 図版 41 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構分割図3
- 図版 42 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図4 SI1312, SB1505・1511・1512
- 図版 43 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図5 SB1513～1517, SE1139・1221
- 図版 44 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構分割図4
- 図版 45 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図6 SI1311・1344, SB1519, SK1345
- 図版 46 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図7 SB1520・1523・1525・1529・1576, SA1524・1530
- 図版 47 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図8 SE488・1155・1493, SK476・477・483・1500・1554
- 図版 48 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構分割図5
- 図版 49 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図9 SB1522・1526～1528, SA1531・1532
- 図版 50 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図10 SE1405, SK1087・1399, SD724
- 図版 51 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構分割図6

- 図版 52 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図 11 SB276・288～292
- 図版 53 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構個別図 12 SB293～295、SE143・200～203、SK4・61・132・182・183・187・206、SD106・190
- 図版 54 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構出土土器 1
- [写真図版]
- 図版 60 北前田遺跡Ⅱ 調査区全景
- 図版 61 北前田遺跡Ⅱ 調査区全景
- 図版 62 北前田遺跡Ⅱ 基本層序、SB381・383・482・412・269・307
- 図版 63 北前田遺跡Ⅱ SB319・320・358・108・258・259・287・288
- 図版 64 北前田遺跡Ⅱ SB98、SA266、SB99・100、SE378・474・111・277
- 図版 65 北前田遺跡Ⅱ SK463・468・476・475・389・491・364・365
- 図版 66 北前田遺跡Ⅱ SK369・189・327・207・228・112・200・313
- 図版 67 北前田遺跡Ⅱ SK251・203・160・213、P308、SD115・116・119・109
- 図版 68 北前田遺跡Ⅱ 遺構出土土器 1
- 図版 69 北前田遺跡Ⅱ 遺構出土土器 2・遺構外出土器・土製品・石製品・石製品・金属製品
- 図版 70 野畔遺跡 調査区全景、基本層序、SB34・46
- 図版 71 野畔遺跡 SE10、SK11・14、SD1、SX41・43、P13・42、遺構出土土器・石製品
- 図版 72 諏訪前遺跡 調査区全景、基本層序、SK5・11、遺構外出土器、木製品
- 図版 73 北新田遺跡Ⅱ 調査区全景、基本層序、SI203
- 図版 74 北新田遺跡Ⅱ SI203・1660
- 図版 75 北新田遺跡Ⅱ SB1605、SK1645、SI847、遺構出土土器、遺構外出土器
- 図版 76 中田原遺跡Ⅱ 調査区全景、基本層序、TP14
- 図版 77 中田原遺跡Ⅱ TP20・23・24・26
- 図版 78 中田原遺跡Ⅱ TP18・37・41、SE13
- 図版 79 中田原遺跡Ⅱ SE15、SK32・38・42・44、SX12・31
- 図版 80 中田原遺跡Ⅱ SX39・40、足跡
- 図版 81 中田原遺跡Ⅱ 遺構出土土器・遺構出土木製品 1
- 図版 82 中田原遺跡Ⅱ 遺構出土木製品 2
- 図版 83 中田原遺跡Ⅱ 遺構出土木製品 3
- 図版 84 中田原遺跡Ⅱ 石器・石製品
- 図版 85 岩ノ原遺跡Ⅱ 調査区全景
- 図版 86 岩ノ原遺跡Ⅱ 掘立柱建物群、基本層序、SI1311・1312
- 図版 87 岩ノ原遺跡Ⅱ SI1312・1344
- 図版 88 岩ノ原遺跡Ⅱ SB276・288・293・294・289～292・295
- 図版 89 岩ノ原遺跡Ⅱ SB276・288～292・295・1501
- 図版 90 岩ノ原遺跡Ⅱ SB1501～1505
- 図版 91 岩ノ原遺跡Ⅱ SB1505・1508・1511～1515
- 図版 92 岩ノ原遺跡Ⅱ SB1514～1518
- 図版 93 岩ノ原遺跡Ⅱ SB1519～1521
- 図版 94 岩ノ原遺跡Ⅱ SB1522、SA1532・1523・1525・1526
- 図版 95 岩ノ原遺跡Ⅱ SB1527～1529・1533
- 図版 96 岩ノ原遺跡Ⅱ SB1534・1576、SA1530～1532
- 図版 97 岩ノ原遺跡Ⅱ SE143・200・201・337
- 図版 98 岩ノ原遺跡Ⅱ SE337・488・609・760・788
- 図版 99 岩ノ原遺跡Ⅱ SE826・830・834・1139
- 図版 100 岩ノ原遺跡Ⅱ SE1139・1155・1221・1363・1405
- 図版 101 岩ノ原遺跡Ⅱ SE1405・1493・1565、SK4・61・132・182・SB289、SK183 P6・16・297
- 図版 102 岩ノ原遺跡Ⅱ SK187・476・477・483・1087・1345、P169
- 図版 103 岩ノ原遺跡Ⅱ SK1345・1399・SB1519、SK1500、SD106・190・724・1265、P623
- 図版 104 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構出土土器 1
- 図版 105 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構出土土器 2
- 図版 106 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構出土土器 3
- 図版 107 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構出土土器 4・遺構外出土器 1
- 図版 108 岩ノ原遺跡Ⅱ 遺構外出土器 2・石製品・木製品・金属製品
- 図版 109 岩ノ原遺跡Ⅱ 墨書土器 1
- 図版 110 岩ノ原遺跡Ⅱ 墨書土器 2

第 I 章 序 説

1 調査に至る経緯

北陸新幹線は、「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設される新幹線鉄道である。上越新幹線高崎駅から分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・小浜市を經由し、東京都と大阪市を結ぶ路線である。総延長 700km のうち、高崎・長野間は既に平成 9（1997）年 10 月に開業している。その後、長野市を基点とし、長野県飯山市を経て上越市に至る長野・上越間の延長 60km は、昭和 47（1972）年に基本計画が、翌年に整備計画が決定され、平成 10 年 3 月に工事実施計画が認可された。これを受けて、日本鉄道建設公団（以下「鉄建公団」という）北陸新幹線建設局と県教委との間で、建設用地内における埋蔵文化財の分布調査・試掘確認調査等に関する協議が本格化した。

平成 10 年 9 月、鉄建公団から埋蔵文化財の分布調査の依頼を受けた県教委は、平成 10 年 11 月に調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の具体的な規模・内容等は不明であるものの、今後、試掘確認調査を実施して取り扱いを判断する必要があると回答した。

上越市内の試掘確認調査は、平成 14 年度から本格的に始まった。諏訪前遺跡は平成 15・17・19 年度、岩ノ原遺跡は平成 16・19・20 年度、北前田遺跡・北新田遺跡は平成 18・19 年度、中田原遺跡は平成 18・19 年度、野群遺跡は平成 19 年度の試掘確認調査を経て、いずれも新遺跡としてそれぞれ周知化され、最終的な本調査範囲が確定した。これらの試掘確認調査の結果を受け、鉄道運輸機構は県教委に対して発掘調査の早期実施を要望した。

その結果、鉄道運輸機構と県教委の協議が整った遺跡から本発掘調査を実施することとなった。岩ノ原遺跡・中田原遺跡は平成 18 年度、北前田遺跡・北新田遺跡は平成 19 年度に既に本発掘調査の一部を実施した。平成 20 年 3 月、鉄道運輸機構はこれらの遺跡の未調査部分と野群遺跡・諏訪前遺跡を加えた 6 遺跡の発掘調査を県教委に委託した。県教委は同年 4 月、埋文事業団に調査を依頼し、本発掘調査に着手することとなった。最終的な調査面積¹⁾は北前田遺跡Ⅱ²⁾：2,100㎡、野群遺跡：160㎡、諏訪前遺跡：230㎡、北新田遺跡Ⅱ：250㎡、中田原遺跡Ⅱ：830㎡、岩ノ原遺跡Ⅱ：1,250㎡である。

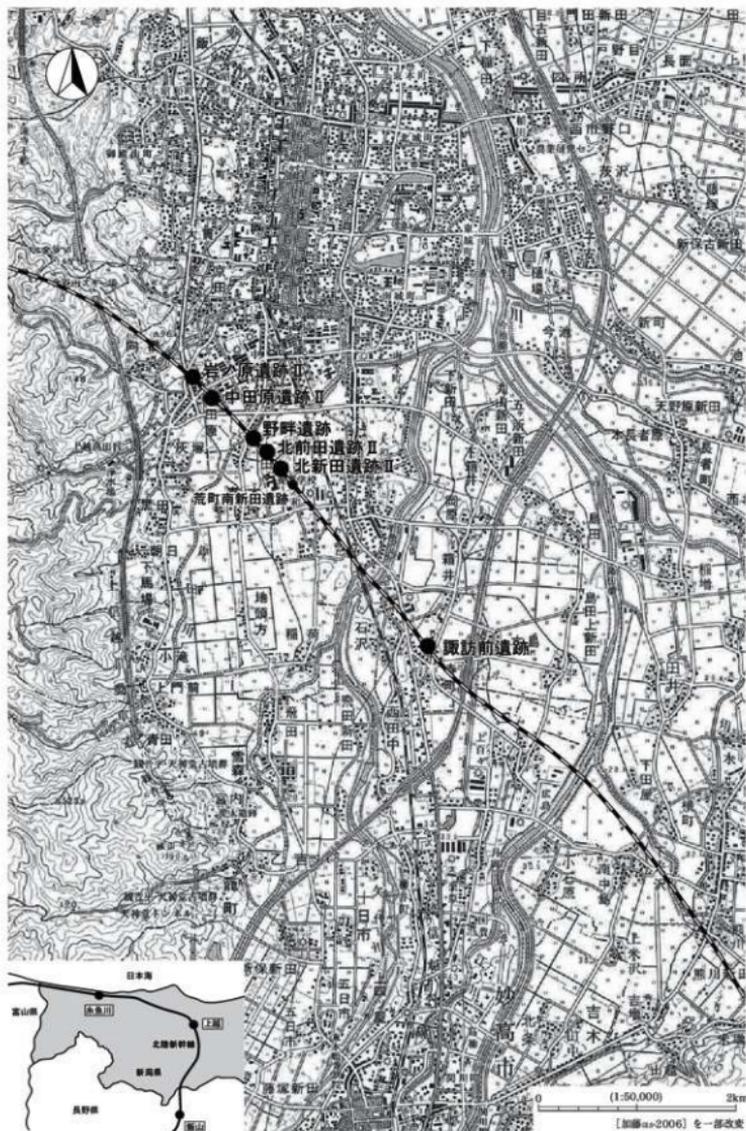
2 調査と整理の経過

A 試掘確認調査

いずれも試掘確認調査以前は未周知の遺跡で、試掘確認調査の結果、新たに発見された遺跡である。分布調査、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、試掘確認調査を行った。調査方法の詳細は各遺跡で異なるが、基本的には調査対象範囲内において任意にトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認しながら調査を進めた。掘削はバックホーを中心に行い、遺構・遺物の有無、層序観察など、必要に応じ

1) 当初、北前田遺跡Ⅱは 1,950㎡であったが、酒窖基地に伴うパイプ埋設部分 150㎡が追加された。同じく岩ノ原遺跡Ⅱは 150㎡であったが、その後の確認調査を経て橋脚工事範囲及び市道付替部分、橋脚建設に伴う土壌改良部分の 1,100㎡が追加された。

2) 遺跡名の後に「Ⅱ」が付く場合は、2回目の本発掘調査であることを表している。以下同じ。



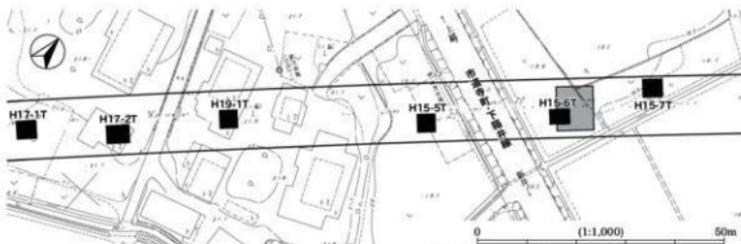
第1図 北陸新幹線の路線と遺跡の位置
 [国土地理院発行「高田東部」(高田西部) 1:50,000縮刷]

[加藤等2006]を一部改定

て人力で掘削を行った。以下、各遺跡の調査の概略を記述する。

1) 諏訪前遺跡 (平成15年11月25日～12月5日、平成17年4月11日、平成19年10月29日)

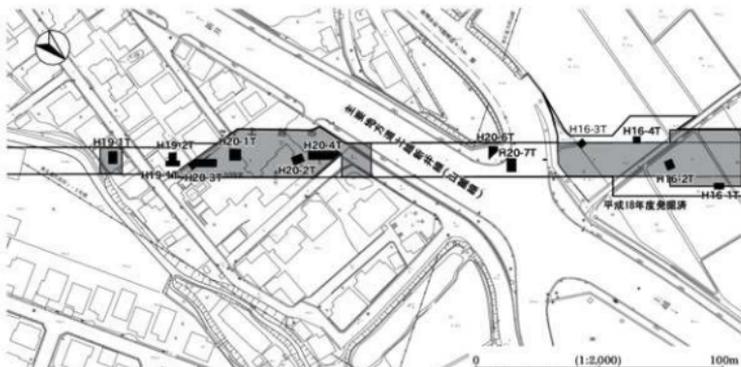
用地買収の関係から調査は3回に分けて行った。調査対象範囲の約1,800㎡に6か所のトレンチを設定した。現況は水田であることから、バックホーで掘削を行った。調査の結果、平成15年度調査のH15-6Tで土坑が検出され、5T・6Tで古代の遺物が数点出土した。しかし、平成17・19年度の調査では、いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出できなかった。これらの状況を受けて、H15-6Tを含む周辺を小字名から「諏訪前遺跡」として周知し、H15-6T付近の橋脚及び橋脚工事範囲の150㎡を本調査必要範囲とした。



第2図 諏訪前遺跡 試験トレンチ位置図 (S=1/1,000)

2) 岩ノ原遺跡 (平成16年11月8日～11月10日、平成19年4月10日、平成20年8月4日・9月9日・10月29日)

用地買収、工事工程の関係から調査は5回に分けて行った。平成16年度は県道土越新井線(山麓線)の西側を調査対象とし、調査対象面積4,956㎡に7か所のトレンチを設定した。現況は水田であることから、バックホーで掘削を行った。調査の結果、すべてのトレンチから古代の土師器・須恵器が出土し、H16-1T・2T・4T・6Tで土坑・ピットなどの遺構を検出した。また遺物包含層も良好に遺存し、



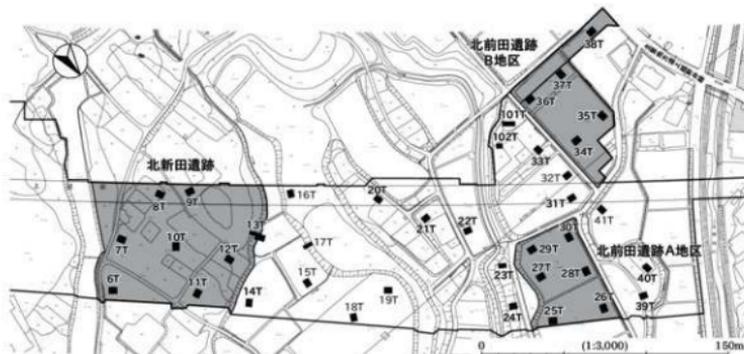
第3図 岩ノ原遺跡II 試験トレンチ位置図 (S=1/2,000)

2 調査と整理の経過

低湿地であることから木製品等の出土も期待された。このように新遺跡の存在が明らかになり、遺跡名は小字名から「岩ノ原遺跡」として周知された。したがって、県道上越新井線の西側は、遺跡に影響のある新幹線本線部分及び工事範囲の3,750㎡を本調査必要範囲とし、平成18年度に本調査を実施した。本調査の結果、「石井庄」「石庄」の墨書土器などから、8世紀中葉に上越地方で成立した東大寺領石井荘の荘園遺跡であることが判明した。一方、県道上越新井線（山麓線）の東側は、平成19年度から試掘確認調査を行った。調査対象範囲の約2,800㎡に9か所のトレンチを設定した。調査の結果、H19-1T、H20-1T～4Tで古代の土師器・須恵器などの土器と、土坑・柱穴などの遺構を検出し、岩ノ原遺跡の範囲が拡大することになった。したがって、県道上越新井線の東側は、これらのトレンチ付近の橋脚工事範囲及び市道付替部分、橋脚建設に伴う土壌改良部分の1,250㎡を本調査必要範囲とした。

3) 北前田遺跡・北新田遺跡（平成18年11月13日～11月30日、平成19年4月25日）

試掘調査未同意地の関係から調査は2回に分けて行った。調査対象地は新幹線本線部分、車両基地、消雪基地の広大な範囲であった。調査対象範囲の約34,000㎡に38か所¹⁾のトレンチを設定した。現況は畑・水田であることから、バックホーで掘削を行った。調査の結果、7T・10T～14T・25T・27T～32T・34T・36T～38Tで古墳時代の土師器や古代の土師器・須恵器が出土し、6T～11T・25T・28T・30T・34T・37Tで土坑・溝・ピット等の遺構を検出した。これらの結果、複数の新遺跡の存在が明らかになった。遺跡は遺構・遺物の分布状況、調査地の地形等を考慮し、小字名から6T～13Tを含む範囲を「北新田遺跡」、同じく25T～30T・34T～38Tを含む範囲を「北前田遺跡」として周知した。したがって、北新田遺跡は新幹線本線部分及び車両基地に係る6,800㎡、北前田遺跡は車両基地及び消雪基地に係る4,850㎡を本調査必要範囲²⁾とした。このうち、工事工程の関係から平成19年度に北前田遺跡のA・B地区3,110㎡、北新田遺跡の農道部分を除いた6,550㎡の本発掘調査を実施した。



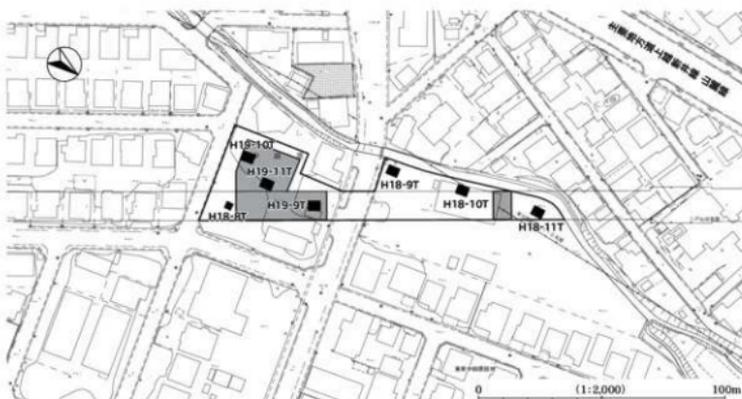
第4図 北前田遺跡・北新田遺跡 試掘トレンチ位置図 (S=1/3,000)

1) 平成18年度は6T～41Tの36か所、平成19年度は101T・102Tの2か所である。

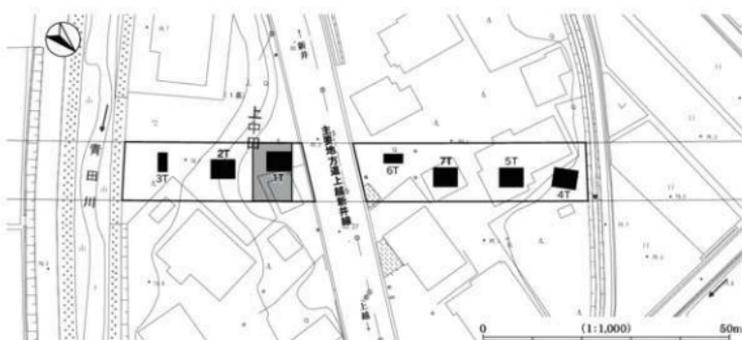
2) その後、平成20年度にC地区北側の鉄塔基上げ仮設範囲、消雪基地パイプ埋設範囲の360㎡が本調査必要範囲として追加されている。

4) 中田原遺跡 (平成18年4月25日～27日、平成19年6月6日)

用地買収の関係から調査は2回に分けて行った。調査対象範囲の約2,700㎡に7か所のトレンチを設定した。現況は宅地・車庫・駐車場跡であることから、支障物件を避けながらバックホーで掘削を行った。調査の結果、平成18年度調査ではH18-8Tで土師器、H18-11Tで土師器・須恵器と土坑2基が確認され、新遺跡の存在が明らかとなった。新遺跡は小字名から「中田原遺跡」として周知し、H18-11T付近の橋脚及び橋脚工事範囲78㎡が本調査必要範囲とした。なお本調査は範囲が狭いことから、平成18年度の岩ノ原遺跡の本調査と並行して行った¹⁾。平成19年度調査では、遺構が検出されなかったものの、いずれのトレンチからも土師器・須恵器、またH19-9Tから縄文土器が出土した。これらの結果を受けて、本線・通信基地部分の830㎡を本調査必要範囲とした。



第5図 中田原遺跡 試掘トレンチ位置図 (S=1/2,000)



第6図 野時遺跡 試掘トレンチ位置図 (S=1/1,000)

1) 調査の結果、平安時代の溝1条とピット2基の遺構、須恵器6点・土師器5点の遺物を検出した。詳細は平成18年度の年報を参照のこと。

2 調査と整理の経過

5) 野群遺跡（平成19年6月4日～6日）

調査対象範囲の約930㎡に7か所のトレンチを設定した。現況は宅地・竹林・ガス管理設地であることから、支障物件を避けながらバックホーで掘削を行った。調査の結果、1T・5T・7Tで土師器・須恵器、4Tで中世土師器、また7Tで縄文土器が出土した。しかし、1T以外は散発的な出土であった。遺構は1Tで溝1条を検出した。これらの状況から1Tを含む周辺に遺跡の存在する可能性が明らかとなり、小字名から「野群遺跡」として周知した。したがって、1T付近の橋脚及び橋脚工事範囲の160㎡を本調査必要範囲とした。

B 試掘確認調査体制

【平成15年度】

| | | |
|------|----------------------|----------------------|
| 調査主体 | 新潟県教育委員会（教育長 板垣越 麟一） | 新潟県教育委員会（教育長 板垣越 麟一） |
| 調査 | 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 総括 | 黒井 幸一（事務局長） | 黒井 幸一（事務局長） |
| 管理 | 長谷川二三夫（総務課長） | 長谷川二三夫（総務課長） |
| 庶務 | 高野 正司（総務課班長） | 高野 正司（総務課班長） |
| 調査総括 | 藤巻 正信（調査課長） | 藤巻 正信（調査課長） |
| 指導 | 田海 義正（調査課担当課長代理） | |
| 調査担当 | 石川 智紀（調査課班長） | 山本 肇（調査課担当課長代理） |
| 職員 | 片岡 千恵（調査課嘱託員） | 田中 一徳（調査課嘱託員） |

【平成16年度】

【平成17年度】

| | | |
|------|---------------------|---------------------|
| 調査主体 | 新潟県教育委員会（教育長 武藤 克己） | 新潟県教育委員会（教育長 武藤 克己） |
| 調査 | 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 総括 | 波多 俊二（事務局長） | 波多 俊二（事務局長） |
| 管理 | 長谷川二三夫（総務課長） | 斎藤 栄（総務課長） |
| 庶務 | 長谷川 靖（総務課班長） | 長谷川 靖（総務課班長） |
| 調査総括 | 藤巻 正信（調査課長） | 藤巻 正信（調査課長） |
| 調査担当 | 寺崎 裕助（調査課担当課長代理） | 田海 義正（調査課担当課長代理） |
| 職員 | 田中 一徳（調査課嘱託員） | 田中 一徳（調査課嘱託員） |

【平成18年度】

【平成19年度】

| | | |
|------|---------------------|---------------------|
| 調査主体 | 新潟県教育委員会（教育長 武藤 克己） | 新潟県教育委員会（教育長 武藤 克己） |
| 調査 | 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 総括 | 木村 正昭（事務局長） | 木村 正昭（事務局長） |
| 管理 | 斎藤 栄（総務課長） | 斎藤 栄（総務課長） |
| 庶務 | 長谷川 靖（総務課班長） | 長谷川 靖（総務課班長） |
| 調査総括 | 藤巻 正信（調査課長） | 藤巻 正信（調査課長） |
| 調査担当 | 田海 義正（調査課担当課長代理） | 田海 義正（調査課担当課長代理） |
| 職員 | 田中 一徳（調査課嘱託員） | 島野 義昭（調査課主任調査員） |

【平成20年度】

C 本発掘調査

北前田遺跡Ⅱ 4月17日、平成19年度の発掘調査区域と接する南側から北へ向けてバックホーによる表土除去を行う。包含層は残存しておらず、遺構検出面までバックホーで下げることにした。4月21日、表土除去は調査区北側を中心に行った。遺構検出面（地山）は南から北にかけて黄褐色シルト・暗灰黄褐色シルト・黒色シルトへと移行することを確認した。4月24日、作業員説明会を行う。表土除去を調査区北東部の鉄塔代替地を除き終了する。4月28日、作業員を投入し、調査区南端部から遺構検出を行う。この結果、平成19年度の調査で確認した掘立柱建物の続きを検出する。その北側では掘立柱建物・土坑・井戸等を検出する。5月1日、遺構掘削を行う。土坑は遺物の出土状況から廃棄用に掘られたものと想定した。5月27日、調査区北東部の鉄塔代替地の表土除去をバックホーで行った。6月19日、遺跡全景の航空写真撮影を行う。6月21日、現地説明会を開催（見学者約109名）。6月25日、遺構掘削及び平面測量を終了し、県教委に終了確認の検査を受ける。本発掘調査は全て終了した。

野畔遺跡 6月16日、調査区東側から西へ向けてバックホーによる表土除去を行う。包含層が残存していないことから、遺構検出面までバックホーで下げることにした。6月20日、表土除去を終了する。その後遺構検出を行い、掘立柱建物・溝・井戸等を検出する。6月27日、遺構掘削を行う。掘立柱建物(SB34)は柱穴の底面の形状から2回の建て替えを行ったものと想定した。7月10日、遺構掘削を終了する。7月11日、全景の写真撮影を行う。県教委に終了確認の検査を受ける。7月14日、平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

諏訪前遺跡 6月17日、調査区北側から南へ向けてバックホーによる表土除去を開始する。6月18日、表土除去を終了する。その後サブトレンチを設定し、遺構検出面の確定作業を行う。6月27日、遺構検出面はIV層と判明する。包含層(Ⅱ・Ⅲ層)掘削を人力で行う。7月15日、包含層掘削を終了する。その後遺構検出を行い、土坑2基を検出する。7月16日、遺構掘削を行い、当日終了した。7月17日、遺跡全景の写真撮影を行い、平面測量を終了する。県教委に終了確認の検査を受ける。本発掘調査は全て終了した。

北新田遺跡Ⅱ 6月23日、調査区南西側から北東へ向けてバックホーによる表土除去を行い、当日終了した。包含層は残存しておらず、遺構検出面まで掘り下げていったが、32112・17グリッド付近では遺物が出土し始めたため、遺構検出面より20cm程高い位置でバックホーによる表土除去から人力による表土除去に切り替えた。7月7日作業員を投入し、表土除去及び遺構検出・遺構掘削を並行して行った。その結果、平成19年度の調査で検出した竪穴住居(SI203・847)の続きを確認し、他にも竪穴住居・土坑等を検出した。7月30日、SI203の土層断面観察のためのベルトを残して掘削し、焼土を検出した。焼土は遺構の東側で検出したことから、SI203は東側にカマドをもつ竪穴住居と断定した。7月31日、SI203のほぼ中央部で地床炉と考える焼土を検出した。県教委に終了確認の検査を受ける。8月5日、遺構掘削を終了する。8月6日、遺跡全景の写真撮影を行う。8月8日、平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

中田原遺跡Ⅱ 7月10日、調査区南西側から北へ向けてバックホーによる表土除去を行う。7月22日、作業員を投入し、調査区周囲に排水を兼ねたサブトレンチの掘り下げを行い、遺構検出面の確定作業を行う。その結果、遺構検出面は南東へ向けて緩く傾斜していることが判明した。7月24日、表土除去を終了し、包含層掘削を人力で行う。8月1日、包含層掘削を終了し、遺構検出を行う。その結果、陥穴(T

2 調査と整理の経過

ビット)・土坑・井戸を検出する。引き続き遺構掘削を開始する。8月27日、陥穴の掘削を終了し、完掘状況の写真撮影を行う。陥穴(Tビット)は7基、北から南へ向けて3～5m間隔で並列することを確認した。8月28日、陥穴の構築状況確認のため断ち割りを行う。9月11日、土坑・井戸の掘削を終了する。調査区南東端部で検出した沢状の落ち込みからは、多量の自然木に混じって加工痕のある木製品が出土した。9月17日、遺跡全景の写真撮影を行う。撮影後、木製品の取上げを開始する。9月19日、県教委に終了確認の検査を受ける。9月30日、木製品の取上げを終了する。平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

岩ノ原遺跡Ⅱ 9月16日、調査区北側から南へ向けてバックホーによる表土除去を開始した。表土除去は当日終了し、引き続き包含層掘削を人力で行う。9月25日、包含層掘削を終了し、遺構検出を北端部から中央へ向けてと南端部から中央へ向けての2方向で実施した。その結果、南半部では大型の掘立柱建物・井戸等を検出した。北半部では、井戸のほかに多数の小ビット群を検出した。10月9日、遺構掘削を開始する。10月16日、調査区北東端部に接する市道路下を対象に、バックホーによる表土除去を行った。その結果、調査範囲内のほとんどは攪乱により破壊されており、検出した遺構はビット1基のみである。10月17日、市道路下の調査を終了する。11月6日、井戸・土坑等の掘削をほぼ終了する。引き続き竪穴状遺構・掘立柱建物の掘削を中心に行う。2か所で確認した竪穴状遺構は、規模や平面形態も同じ様相を呈し、貼床をしている点でも同タイプのもものと判断した。また、調査区中央東端で検出した竪穴状遺構では、遺構の南壁中央にカマドの痕跡と思われる焼土の堆積を確認する。11月12日、遺跡全景の航空写真撮影を行う。11月15日、現地説明会を開催(見学者約188名)する。11月20日、遺構掘削を終了する。11月21日、県教委に終了確認の検査を受ける。11月27日、平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

D 整 理

平成20年5月から、写真の整理及び出土遺物の水洗・注記・接合・復元は現地作業棟で、本発掘調査と並行して行った。本発掘調査終了後の12月から、株式会社ノガミ亀田営業所で、野群ほか5遺跡の本格的な整理を実施した。遺物の実測・拓本・版組みを12月から2月中旬にかけて行い、2月から3月に遺物写真撮影・遺構実測図編集・版組み、遺物写真図版組み作業、原稿作成、編集・校正を行った。整理作業の主な流れは下記のようになる。

| 内容 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 水洗・注記 | | | | | | | | | | | |
| 接合・復元 | | | | | | | | | | | |
| 実測・拓本 | | | | | | | | | | | |
| 遺物写真撮影 | | | | | | | | | | | |
| 図版作成 | | | | | | | | | | | |
| 原稿作成 | | | | | | | | | | | |
| 編集・校正 | | | | | | | | | | | |

E 本発掘調査・整理体制

調査期間 北前田遺跡Ⅱ：平成20年4月17日～6月25日

野群遺跡：平成20年6月16日～7月14日

諏訪前遺跡：平成20年6月17日～7月17日

北新田遺跡Ⅱ：平成20年6月23日～8月8日

中田原遺跡Ⅱ：平成20年7月10日～9月30日

岩ノ原遺跡Ⅱ：平成20年9月16日～11月27日

整理期間 全遺跡：平成20年11月28日～平成21年3月31日

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 武藤克己）

調 査 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

管 理 木村 正昭（事務局長）

齋藤 栄（総務課長）

藤巻 正信（調査課長）

庶 務 長谷川 靖（総務課班長）

監 督 高橋 保雄（調査課本発掘調査担当課長代理）

調査組織 株式会社ノガミ

現場代理人 中里 幸道（埋蔵文化財調査部）

調 査 指 導 戸根与八郎（同 調査室長）

調 査 担 当 岡本 範之（同 調査員）

調 査 員 土沼 章一（同 調査員）

大谷 祐司（同 調査員）

調査補助員 秋山 泰利（同 調査員）

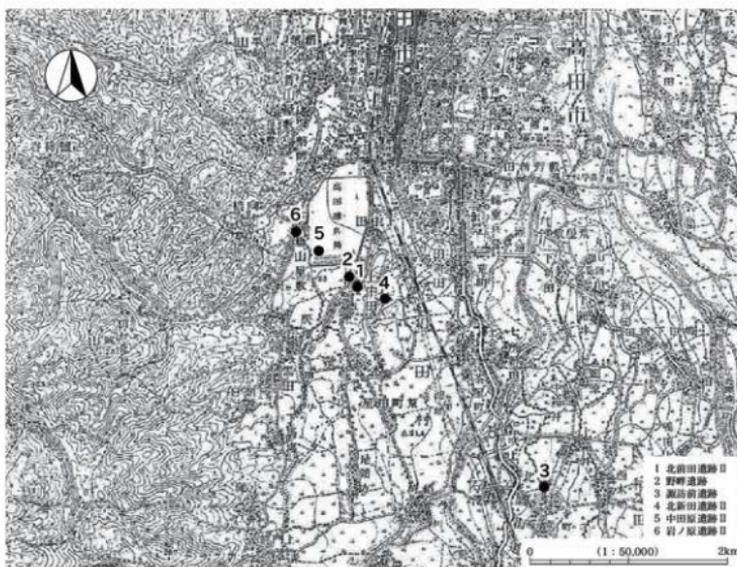
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

北前田遺跡・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡・中田原遺跡・岩ノ原遺跡が所在する高田平野は、新潟県の南西部に位置する。各々の遺跡は直線距離にして最大 1.8km 範囲に入り、非常に近接し、さらにその営まれた時期もほぼ同じである。

高田平野の周辺を概観すると、北側は海岸砂丘である潟町砂丘を隔てて日本海と接する。北東～南東側は東頸城丘陵を隔てて、標高 993m の米山を主峰とする米山山地や、標高 1,000m 前後の山が連なる関田山脈がある。南側は富士火山帯の北端部にあたる妙高・黒姫・飯縄・焼山の各火山、南西～西側は標高 2,462m の火打山から同 949m の南葉山(青田難波山)に至る西頸城山地、西～北西側は西頸城丘陵がある。

高田平野で最大の河川である関川は、西頸城山地や信越国境の山々を水源として信越国境沿いを東へ流れ、野尻湖から流れ出した池尻川と合流後、北東に向きを変え、妙高市で平野に入って扇状地を形成し、平野部の西寄りから北へ貫流して直江津で日本海に注ぎ込む。その途中には多くの支流が平野部で扇状地を形成して合流する。そのうち本遺跡が所在する関川の左岸では、西頸城山地を水源とする矢代川が遺跡の南側を流れ、高田城の東側で関川と合流する。本遺跡のすぐ北西側を流れる青田川や、その北西に流れる儀



第7図 遺跡とその周辺の地形(大日本陸地測量部発行『高田西部』・『高田東部』1:50,000、明治44年)

明川はいずれも西頸城丘陵から流れ出し、高土町付近で両河川が一本となり、さらに関川に流れ込む。関川・青田川・儀明川は、近世初頭の高田城築城の際に付け替え工事が行われ、関川は現在の稲田橋付近の旧蛇行部分をカットして、外堀として利用され、青田川や儀明川もこの時にほぼ現在の流路となった〔高野 2004〕。

高田平野は約 80 万～1 万年前の水河期に形成された洪積台地と、約 1 万年前以降の完新世に形成された沖積低地に大別される。このうち沖積低地は平野の大部分を占め、標高が高く形成時期が古い面から順に高田面・関川面に分けられる。高田面は、平野の沖積面で最も広い面積を占める。高田面を構成する高田層は、最終氷期であるヴュルム氷期の最盛期（2 万～1 万 8 千年前）以降、海面水位の上昇によって低地を埋没させた関川やその支流による堆積物と考えられる。高田層は下位から下部高田層、中部高田層及び上部高田層に分けられる。最上位の上部高田層は粘土層とシルト層を主体としている。その堆積時期は約 1 万年前以降の完新世である〔高野 2004〕。その後、約 6,000 年前をピークとする縄文海進期を経て、海面水位の低下に伴って弥生時代には高田面が段丘化したと考えられる。関川面はその高田面を関川が侵食して一段低い段丘面ができ、その上を氾濫原性堆積物である関川層が覆うことによって、中世末頃に形成された。したがって、その分布域は関川及びその支流に沿っており、ごく狭小である〔高田平野団体研究グループ 1981〕。

北前田遺跡Ⅱ・北新田遺跡Ⅱは高田平野の西縁部、青田川の右岸、標高 17～19 m の高田面上に立地する。調査前の地目は水田と畑である。野畔遺跡は北前田遺跡Ⅱの西側に隣接する上中田集落内の標高 20 m 前後の青田川扇状地端部にあり、調査前の地目は竹藪である。岩ノ原遺跡Ⅱは儀妙川右岸、標高 19 m の高田面上に立地する。調査前の地目は宅地である。中田原遺跡Ⅱは洪積台地の一つ標高 20 m の灰塚面上に立地する。調査前の地目は宅地である。諏訪前遺跡は高田平野の西部を流れる矢代川と関川の間の沖積地、自然堤防上に立地する。標高は約 19 m を測る。調査前の地目は宅地及び水田である。

2 歴史的環境

北前田遺跡Ⅱ・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱの調査では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が出土し、中でも、平安時代が主体となる。高田平野とその周辺に広がる平安時代の遺跡分布は、〔金内ほか 2008〕を参照されたい。ここでは上越地方の平安時代の代表的な遺跡と東大寺領荘園について記述する。

頸城郡には、『和名類聚抄』に「国府在頸城郡」とあるように国府が置かれ、越後国の政治・経済・文化の中心地として機能するようになる〔笹澤 2003〕。国府がどこに置かれていたかについては現在でも不確定であるが、関川右岸、高田平野中央部の今池遺跡周辺に求める意見もある。また、郡衙についても同様で、新井市栗原遺跡からは、鈿帯や、「郡」の墨書土器が出土したことなどから、官衙的性格のもの、あるいは郡衙官人の居宅的な性格の官衙関連遺跡である可能性が高いとされる〔高橋 1984〕。「越後国留守所驛」によれば、石井荘は「府辺之要地」と記され、越後国府周辺に存在した〔市澤 2004〕。岩ノ原遺跡は、国府が所在していたと推定される今池周辺から関川を挟んで西方向約 4.2km に所在し、関川右岸、儀明川の左岸に近接する。国府に隣接する比較的交通や灌漑の便の良い所に設置されていたものであろう〔木村 1984〕。また、岩ノ原遺跡は「大字向橋字内沖」・「大字向橋字岩ノ原」に所在する。荘園名の「石荘」「石井荘」の「石」・「石井」が「岩ノ」に転訛し、字名として現在まで残されてきたものである〔高

橋 2008]。

諸寺の墾田所有許可の動『続日本紀』（寺々墾田地許奉）が下された後、『続日本紀』（天平勝宝元年七月乙巳条）によれば、天平勝宝元年七月に諸寺の所有すべき墾田地の額の上限が定められ、東大寺は四千町の所有を認められた。石井荘は散在した田地からなる荘園であるから、条里上のどの坪にその田地を設定するかを決めることが、荘園の成立にとって必須の条件だった〔市澤 2004〕。東大寺が北陸道の北隈である越後国にまで荘園を設定することができたのは、海運と河川水運を利用して河口の津に至る水系を考慮して設置されたためである〔荻野 1986〕。その他に、律令官寺の中で、後進的立場にある東大寺にとって、法隆寺・大安寺等の先進的勢力の進出地帯との重複・競合を避けた点も挙げられる〔藤井 1986〕。古代荘園の分布状況を見ると、東大寺の荘園の数は北陸道に最も多く三十荘となる。これは、本地域に比較的未開拓地域が多かったことを示し、寺院の技術と資力によってこの地方を開かんとする政策の一顕現とも見られる〔竹内 1999〕。

〔小口 1999〕は、政治史との関係から八世紀の東大寺領荘園を三期に時期区分した上で、その経営形態の変遷を論じ、「第1期は、造東大寺司という強力な国家機関が荘園の直接的な管理者であった時期である。（中略）第1期の経営は、造寺司の意図としては造寺司一専当国司一専当郡司という律令制的管理システムをとることによって国郡衛の取捨機構を利用することにあつた」という。〔藤井 1986〕によれば、荘園の管理運営は八省にも匹敵する律令制官司である造東大寺司という強力な国家機関の主導の下に行われ、荘地を占定する前段階では田地の所有権は東大寺にあらず、荘地一元化のための編成は在地農民を圧倒して権力的に行われたと思われるという。第2期は、天平宝字二年頃から寺田圧迫の兆しが現れ始め、藤原仲麻呂政権は自らの土地経営のためにも東大寺領荘園を抑圧するようになり〔小口 1991〕、「東大寺の対立という状況下で、三綱管理による政策にもかかわらず一時的に衰退していった時期である。（中略）寺田に関する直接的な史料が何も残っていないこともそれによっているものと思われる。第3期は、天平宝字八年以後、道鏡による僧綱政治を背景に東大寺田の回復がなされた時期である」〔小口 1999〕。道鏡政権下では、第1期にもまして太政官との密接な関係を保つことが可能となり、東大寺はその権威を背景に強力な経営を推し進めていくのである〔小口 1991〕。道守荘（福井県福井市）においては、寺田再編の過程で必要が生じた寺田と口分田との交換に際しては農民に有利に交換することも行い、また周辺農民によって共同利用されていたと推測されるいくつかの泉を荘域内に取り込むことを避けている。こうした在地共同体の取り組みともいうべき動きは第1期には見られなかったものであり、東大寺が直接在地への影響力を及ぼした現れである〔小口 1991〕。同時に、在地農民は荘園経営ないしは耕営において有効に参画していたものと思われる〔藤井 1986〕。このように、8世紀における初期（古代）荘園は成立一衰退一再編と盛衰を繰り返し、経営管理主体も造寺司から三綱へと代わっていった。

延暦十七（798）年、『日本紀略』延暦十七年九月十九日条に「土井庄在越後国志志郡」とある。土井庄は他の越後国三荘（石井荘・吉田荘・真沼荘）とは異なり、酒人内親王賜田の施入という形で成立した。9世紀になると、律令制の崩壊とともに、北陸における荘園は荒廃していった。承和八（841）年の某院政所文書家「某院政所告状案」（未見）には、「さきごろ某院の荘に寄進されたため寺家の産業は年々廃」と記されている〔荻野 1986〕。長徳四（998）年「東大寺領諸国庄家田地目録案」によれば、越前国荘園は「右件郡々荒廢數多、熟田不幾」・「荒蕪」、越中国は「郡々庄田悉荒廢」、越後国石井庄は「荒蕪得」、真沼庄・吉田庄は「荒蕪」などと記され〔小口 1999〕、兩荘園はこれを以て史料には見られなくなる。そして、東大寺は越後国において、石井荘・土井荘のみを存続させていくのである。

第Ⅲ章 北前田遺跡Ⅱ

1 グリッドの設定

グリッドは、『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』〔金内ほか2008〕のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標 178k100m（世界測地系 X = 120937.0055; 北緯 37° 05' 22.73502", Y = -23149.5914; 東経 138° 14' 22.54033", 5J 杭）と同 177k900m（世界測地系 X = 120791.299, Y = -23012.611, 25J 杭）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横 10m 方眼を組み、大グリッドとした。

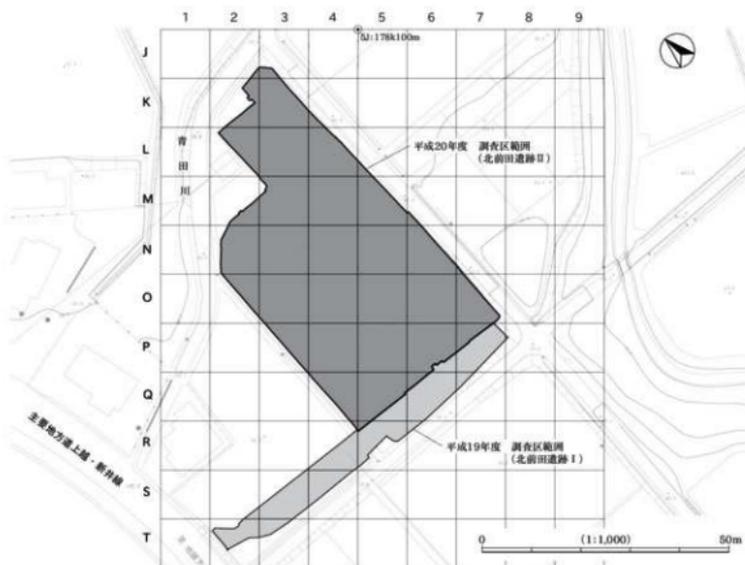
大グリッドは一辺 10m で、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。北前田遺跡Ⅱは、横軸が大グリッド 2～7、縦軸が J～R である（第 8 図）。両者を組み合わせて「2J」のように表記した。

小グリッドは第 9 図のように北隅を起点として、大グリッドを 2m 方眼に 25 等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「2J15」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して 46° 46' 05" 東偏する。

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |

0 (1:400) 10m

第 9 図 小グリッド模式図



第 8 図 北前田遺跡 グリッド設定図

2 基本層序

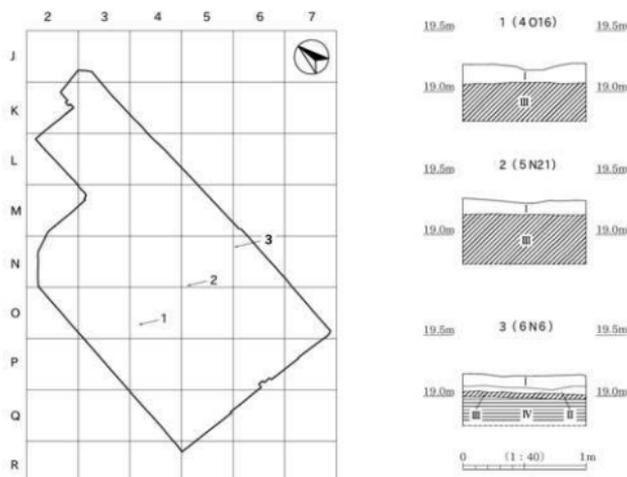
北前田遺跡は青田川右岸の沖積地に立地する。調査前現況標高 19.4m 前後、遺構検出面標高 19m 前後を測る。遺構検出面は基本的に平坦であるが、調査区北西側から南東側にかけて比高差 60cm の傾斜が見られる。基本層序は『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』[金内ほか2008]に準じ、4層に分層した(第10図)。

I層：灰色粘土(N6/) 現水田耕作土。

II層：黒色シルト(N2/) 粘性弱、しまり中。調査区内で部分的に見られる。

III層：にぶい黄橙色シルト(10YR6/3) 粘性弱、しまり中。調査区東側では堆積が10cm程度と薄い(地山)。

IV層：黒色シルト(N1.5/) 粘性弱、しまり中(地山)。



第10図 北前田遺跡Ⅱ 基本土層図

3 遺 構

A 概 要

北前田遺跡Ⅱは基本層序Ⅲ及びⅣ層(地山)を遺構検出面として、掘立柱建物17棟(柱穴122基、雨落ち溝2条)、掘立柱建物の目隠し塀と推定される杭列2基、井戸5基、土坑36基を検出した。このうち掘立柱建物3棟は平成19年度に調査を行った北前田遺跡Ⅰ(B地区)[金内ほか2008]で検出したものである。構築時期は出土遺物から古代に比定される。この他に調査区北東側から東側にかけて畑作溝25条がほぼ東西方向に走っているのを検出した。遺構の切り合い関係から上記の遺構よりも新しいものと考えられる。

調査区西側の一部は低湿地状を呈し、北前田遺跡Ⅰ(B地区)で検出した自然流路(SD51)に関連したものと考えられる。この部分に数本のトレンチを設定し掘り下げを行ったが、遺物は出土しなかった。

B 記述方法

記述方法は北前田遺跡Ⅱ・野野遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱで共通のものとし、遺構の説明は本文・観察表・図面図版・写真図版を用いた。

遺構名 遺構種別ごとに略号を用い、番号は遺跡ごとに遺構種別に関係なく検出順に通し番号を付けた。北前田遺跡Ⅱ及び北新田遺跡Ⅱは平成19年度の調査区と隣接しており、遺構が連続しているものも見られる。そのため平成19年度調査から連続した通し番号を付し、番号が重複しないようにした。また検出段階に遺構番号を付したものが調査の結果、複乱と判断されたものなどは、その番号を欠番とした。したがって、遺構番号の数は遺構数と一致しない。竪穴住居・掘立柱建物・杭列はそれぞれに上記の順に基づいて略号と番号を付し、それぞれの遺構を構成する柱穴の遺構名は、SI1312-P1・SB1519-P1のように記載した。土坑と柱穴以外のピットに関してはおおむね長径が60cm以上のものを土坑とし、それ以下のものをピットとした。

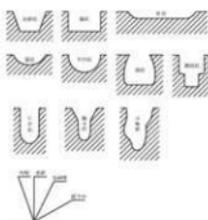
遺構の略号は以下の通りである。SI：竪穴住居、SB：掘立柱建物、SA：杭列、SE：井戸、SK：土坑、SX：性格不明遺構・焼土遺構・道状遺構、TP：陥穴、SD：溝・畑作溝、P：ピット

本文 遺構の説明は、他の遺構との関連が認められない単独のピットや一部の溝を除き、原則として個別に記述した。遺構各説及び遺構観察表に記載した遺構の平面及び断面の表記は、和泉A遺跡〔荒川・

| 平面形状 | |
|-------|---|
| 円形 | 長径が短径の1.2倍未満のもの。 |
| 楕円形 | 長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。 |
| 長楕円形 | 長径が短径の1.5倍以上のもの。 |
| 方形 | 長楕円が短楕円の1.2倍未満で、角のあるもの。 |
| 楕丸方形 | 長楕円が短楕円の1.2倍未満で、角に丸みがあるもの。 |
| 長方形 | 長楕円が短楕円の1.2倍以上で、角のあるもの。 |
| 楕丸長方形 | 長楕円が短楕円の1.2倍以上で、角に丸みがあるもの。 |
| 不整形 | 凸凹が著しく一定の平面形をもたないもの。但し、おおむねその形状のわかるものは不整形形、不整形楕円形などと呼ぶ。 |



第11図 遺構の平面形状の種類（荒川・加藤1999から転載・一部改変）



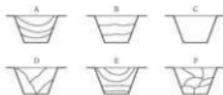
断面形状

| | |
|-----|--|
| 自然状 | 底部に平坦面をもち、緩やか〜急斜度で立ち上がるもの。 |
| 箱状 | 底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。 |
| 皿状 | 溝を除いた平面長径が深さの10倍以上で、底部に平坦面をもち、緩やかに立ち上がるもの。 |
| 弧状 | 底部に平坦面をもたない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。 |
| 平凹状 | 底部に平坦面をもたない碗状で、急斜度で立ち上がるもの。 |
| 袋状 | 検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの。 |
| 階段状 | 階段状の立ち上がりをもつもの。 |
| U字状 | 平面長径よりも深さの径が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。 |
| 漏斗状 | 下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。 |
| 不整形 | 凸凹で一定の断面形をもたないもの。 |

第12図 遺構の断面形状の種類（荒川・加藤1999から転載・一部改変）

覆土堆積形状

| | |
|---------|-------------------------|
| A レンズ状 | 複数層がレンズ状に堆積するもの。 |
| B 水平 | 複数層が水平に堆積するもの。 |
| C 草屑 | 覆土が草屑の層のもの。 |
| D 斜位 | 覆土が斜めに堆積するもの。 |
| E 水平レンズ | 覆土下位は水平、上位はレンズ状に堆積するもの。 |
| F ブロック状 | 覆土がブロック状に堆積するもの。 |



第13図 覆土の堆積形状の種類（荒川・加藤1999から転載・一部改変）

3 遺 構

加藤 1999]に準拠する(第11～13図)。規模は1m以上のはメートル、1m以下のはセンチメートルで表した。遺構の主軸方向は、長径を基準に真北から角度を測定し、[N-25°-E]のように記載した。但し、カマドを持つ竪穴住居は、カマドの位置する辺と直行する線を主軸とした。掘立柱建物に関しては、主軸は設定せず柱間の多い方向を桁行(長軸)、少ない方向を梁行(短軸)とした。

遺構観察表 掘立柱建物・杭列の柱穴、煙作溝について観察項目を設け記載した。観察項目は、柱穴が位置・平面形・断面形・標高・規模・柱遺存状況・柱間寸法・出土遺物、煙作溝が位置・断面形・規模・長軸方向・覆土・出土遺物などである。遺構の新旧関係は、「<」「>」「=」の記号を用いた。「A<B」は「AはBより古い」、「A>B」は「AはBより新しい」、「A=B」は「AとBの切り合い関係は不明」である。

図面図版 遺構図面は配置図・分割図・個別図で構成される。個別図は分割図ごとに竪穴住居、掘立柱建物、杭列、陥穴、井戸、土坑、性格不明遺構、溝の順に掲載した。平面図は配置図・分割図に示し、個別図には断面図のみを掲載した。但し、遺物の出土位置が特定できる遺構に関しては個別図に平面図と断面図を併せて掲載した。重複する遺構の表示は、切り合い関係が明確であるものに限り、切っている遺構を実線で表示し、切られている遺構は残存している部分を破線で表示した。

図面の縮尺は基本的に以下の通りである。遺構配置図：1/100～1/300、遺構分割図：1/80～1/100、掘立柱建物の断面図・エレベーション図：1/60、遺構個別図の平面図、掘立柱建物以外の遺構の断面図：1/40である。但し、状況に応じて前述した縮尺でない遺構もある。

写真図版 遺構図面において掲載した遺構を中心に種別順に掲載した。掘立柱建物・杭列は柱痕検出状況・柱痕完掘状況などを優先して掲載した。

C 遺 構 各 説

1) 掘立柱建物

古代の掘立柱建物を17棟検出した。調査区全体で検出し、SB288及び長軸方向が明らかでないSB482を除くすべてが東西棟である。検出した遺構はすべて側柱建物で、面積は15.15㎡から52.83㎡まで幅がある。SB98・383には目隠し棚が伴い、SB99・108には雨落ち溝が伴う。桁行と梁行の間数は、3×2間が6棟と最も多く存在する。次いで、2×2間4棟、4×2間3棟(SB319は1間分の面が付く)、3×1間・2×2間・1×2間がそれぞれ1棟ずつ存在するが、規模にばらつきが見られる。

SB381 (図版2・3・61・62)

2K・L、3Kグリッドに位置する側柱建物である。建物の北側は調査区域外へ延びるが、柱並びから桁行4間(6.87m)、梁行2間(4.48m)の東西棟と推定される。面積は30.97㎡以上を測る。長軸方向はN-76°-Wを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1を除くすべての柱穴に認められ、径約20～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1・P3～P7から古代(8世紀中葉～後葉)の土師器が出土している。

SB383 (図版2・3・61・62)

SB383は3・4Lグリッドに位置する側柱建物である。P4がSD361、P8がSD342とそれぞれ重複し、これらに切られている。桁行4間(7.25～7.43m)、梁行2間(4.77～5.00m)で、梁行中央の柱穴が若干外側に張り出すことで長六角形を呈する。面積は36.14㎡を測る。長軸方向はN-60°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認

められ、径約 15～30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P3・P5～P9・P12 から古代の須恵器・土師器が出土している。

SA486 は 4L グリッドに位置する杭列である。南北方向に 2 間（3 本）検出した。長さ 4.38m、柱間寸法 2.11～2.27 m を測る。柱穴の規模は SB383 のそれと比べて一回り小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P3 から古代の土師器が出土している。SB383 の南東側約 2m 先に位置し、短軸方向と近似することから、SB383 の目隠し堀と推測される。

SB412 (図版 2・3・61・62)

2・3L、3K グリッドに位置する側柱建物である。P4 が SD361 と重複し、これに切られる。桁行 2 間（5.00～5.06m）、梁行 2 間（4.39～4.85m）で、桁行及び梁行中央の柱穴が若干外側に張り出す長六角形を呈する。面積は 24.10㎡を測る。長軸方向は N-72°-W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P8 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB482 (図版 2・3・61・62)

3・4K グリッドに位置する側柱建物である。北東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行 1 間以上（2.25m 以上）、梁行 1 間以上（1.66m 以上）の南北棟と推定される。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB307 (図版 5・6・62)

2・3M グリッドに位置する側柱建物である。北側は調査区域外へ延びるため明らかではないが、柱並びから桁行 3 間以上（5.73m 以上）、梁行 1 間以上（2.13m 以上）の東西棟と推定される。面積は 15.15㎡以上を測る。長軸方向は N-63°-W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1～P5 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB269 (図版 7・9・61・62)

3N グリッドに位置する側柱建物である。P6 が SK112、P7 が SB320-P7 とそれぞれ重複し、これらを切っている。桁行 3 間（6.1m）、梁行 2 間（4.22m）で、長方形と呈すると考えられるが、北西側の柱穴は検出できなかった。面積は 27.39㎡を測る。長軸方向は N-43°-W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1～P7 に認められ、径約 15～20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P6・P8 から古代の土師器が出土している。

SB319 (図版 7・9・61・63)

2・3N、3・4M グリッドに位置する側柱建物である。桁行 4 間（7.80～8.00m）、梁行 2 間（5.15～5.43m）で、北側の桁行の柱穴が若干外側に張り出す長方形を呈する。面積 52.83㎡を測る。長軸方向は N-84°-W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認められ、径約 15～25cm の柱が据えられていたものと推定される。建物の東側に廂と推定される 1 間分の張り出しがある。遺物は P3～P7・P9・P10・P13・P14 から古代（8世紀末葉）の須恵器・土師器が出土している。

SB320 (図版7・9・61・63)

3Nグリッドに位置する側柱建物である。P5・P6がSK112と重複し、これを切っている。またP7はSB269-P7と重複し、これに切られている。桁行3間(4.70～4.71m)、梁行2間(4.45～4.84m)であるが、北側の桁行でP5・P6に対応する柱穴は検出できなかった。西側の梁行中央の柱穴が外側に張り出す長方形を呈する。面積は23.20㎡を測る。長軸方向はN-81°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認められ、径約20～40cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2～P7から古代の須恵器・土師器、P3から土製品(35)が出土している。

SB358 (図版7・9・61・63)

3・4M、4Nグリッドに位置する側柱建物である。P2がSD130、P3がSD116とそれぞれ重複し、これらに切られている。桁行1間(4.50～4.74m)、梁行2間(4.02～4.10m)で、梁行中央の柱穴が外側に若干張り出す長六角形を呈する。面積は19.28㎡を測る。長軸方向はN-83°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認められ、径約20～30cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1～P4・P6から古代(8世紀末葉)の土師器が出土している。

SB288 (図版8・10・60・63)

5N・Oグリッドに位置する側柱建物である。桁行2間(5.35～5.51m)、梁行2間(3.45～3.88m)で、P2・P6が北側、P4が東側に若干張り出す長方形を呈する。面積は21.06㎡を測る。長軸方向はN-19°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P5～P7に認められ、径約20～30cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1・P4～P7から古代の土師器が出土している。

SB108 (図版11・14・15・60・63・67)

SB108は3・4P、4Oグリッドに位置する側柱建物である。桁行3間(6.74～6.80m)、梁行2間(4.60～4.70m)の長方形で、面積は31.26㎡を測る。長軸方向はN-83°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はP10を除き径57～91cm、検出面からの深さ43～73cmを測り、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1～P4・P6～P8に認められ、径約20～30cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1～P9から古代の須恵器・土師器が出土している。

SD109は4・5Pグリッドに位置する溝である。SK213と重複し、これに切られる。長さ6.65m、幅1.50m、検出面からの深さ9cmを測る。長軸方向はN-83°-Wを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(8世紀中葉～後葉)の須恵器・土師器(29)が出土している。SB108の南側に近接し、長軸方向が同一であることから、SB108の雨落ち溝である可能性が高い。

SB258 (図版11・14・60・63)

4・5Qグリッドに位置する側柱建物である。桁行3間(4.62～5.85m)、梁行2間(4.05～4.66m)の不整形を呈する。桁行南側と梁行西側でP3・P5にそれぞれ対応する柱穴は検出できなかった。面積は21.39㎡を測る。長軸方向はN-64°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P4～P8に認められ、径約20～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB259 (図版11・14・60・63)

4P・Qグリッドに位置する側柱建物である。西側は調査区域外へ延びるため明らかではないが、柱並びから桁行2間以上(3.34m以上)、梁行2間(3.96m)の東西棟と推定される。面積は13.36㎡以上を測る。長軸方向はN-85°-Wを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2～P5に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP5から古代(8世紀中葉～後葉)の土師器が出土している。

SB287 (図版11・14・60・63)

4O・P、5O・Pグリッドに位置する側柱建物である。P2がSK160と重複し、これに切られる。桁行2間(5.00～5.35m)、梁行2間(4.95～5.05m)の方形を呈し、梁行西側でP4に対応する柱穴は検出できなかった。面積は25.74㎡を測る。長軸方向はN-82°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2～P7に認められ、径約15～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1～P3・P5～P7から古代(8世紀中葉～後葉)の土師器が出土している。

SB98 (図版11・14・15・64)

SB98は5Q・Rグリッドに位置する側柱建物である。南側は平成19年度の調査〔金内^{ほか}2008〕で検出した。桁行3間(6.10～6.33m)、梁行2間(3.67～3.83m)の長方形で、面積23.57㎡を測る。長軸方向はN-78°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1～P4に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1～P3から古代の土師器が出土している。

SA266は4・5Qグリッドに位置する杭列である。南北方向に2間(3本)検出した。長さ4.10m、柱間寸法1.76～2.34mを測る。柱穴の規模はSB98のそれと比べて一回り小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、径約15～20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は全ての柱穴から古代の土師器が出土している。SB98の北西側に近接し、長軸方向と近似することから、SB98の目隠し扉と推測される。

SB99 (図版12・15・64)

SB99は6P・Q、7P・Qグリッドに位置する側柱建物である。南側は平成19年度の調査〔金内^{ほか}2008〕で検出した。桁行3間(5.72m)、梁行2間(4.90～5.15m)で、西側の梁行中央の柱穴が若干外側に張り出す長方形を呈する。面積は28.76㎡を測る。長軸方向はN-79°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1～P3に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2から古代の土師器が出土している。

SX55は6P・Qグリッドに位置する溝である。南側は平成19年度の調査〔金内^{ほか}2008〕で検出した。長さ5.50m、幅1.65m、検出面からの深さ28cmを測る。長軸方向はN-13°-Eを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は2層に識別でき、水平に堆積するが、北側では覆土2層は見られず、覆土1層の単層となる。平成19年度の調査では覆土中から古墳時代前期の土師器と古代(8世紀中葉)の須恵器が出土している。SB99の西側約1m先に位置しており、軸方向が近似していることから、SB99の雨落ち溝である可能性が高い。

SB100 (図版13・15・64)

7Pグリッドに位置する側柱建物である。南側は平成19年度の調査〔金内^{ほか}2008〕で検出した。桁

3 遺 構

行2間(4.30～4.44m)、梁行2間(3.80～3.93m)で、西側と北側中央の柱穴が若干外側に張り出す方形を呈する。面積は17.78㎡を測る。長軸方向はN-80°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P2に認められ、径約20cmの柱が据えられていると推定される。遺物はP1～P3から古代(8世紀末葉)の須恵器・土師器片が出土している。

2) 井 戸

古代の井戸を5基検出した。全て素掘りの井戸で、掘立柱建物の近くに位置する。覆土の堆積状況は、レンズ状に堆積するものと水平に堆積するものがある。覆土が水平に堆積する井戸は、遺構の約3分の2まで短期的に埋め戻されている。

SE378 (図版2・3・61・64)

3J・Kグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径82～84cm、検出面からの深さ87cmを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は黒褐色シルトとぶい黄褐色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器・土師器が出土している。

SE111 (図版5・6・61・64)

4N・Oグリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈し、径1.26～1.50m、検出面からの深さ1.51mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルト・灰黄褐色シルトを主体とし、7層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SE341 (図版5・6)

3Oグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径83～91cm、検出面からの深さ1.38mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の土師器(2)が出土している。

SE474 (図版5・6・64)

3Mグリッドに位置する。SK369と重複し、これに切られる。平面形は不整形円形を呈し、径1.57～1.71m、検出面からの深さ2.06mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、3層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土3層から古代(9世紀中葉)の須恵器(3)・土師器が出土している。

SE277 (図版11・15・60・64)

5Pグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径1.47～1.52m、検出面からの深さ1.91mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色粘質シルトを主体とし、3層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器(1)が出土している。

3) 土 坑

古代の土坑を36基検出した。いずれも掘立柱建物の近くに位置する。平面形は円形・長楕円形のものが多く、断面形は台形状が最も多く存在する。遺物が出土している土坑は、須恵器片・土師器片が散在的に出土する傾向があることから、その多くは廃棄土坑であると考えられる。

SK364 (図版2・3・61・65)

3Lグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径1.11m、短径70cm、検出面からの深さ38cmを測る。長軸方向はN-63°-Wを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトとぶい

黄褐色シルトを主体とし、4層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK365 (図版2・3・61・65)

2Lグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径81～86cm、検出面からの深さ24cmを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器、刀子(37)が出土している。

SK384 (図版2・3・61)

3Lグリッドに位置する。SK491と重複し、これを切っている。平面形は長楕円形を呈する。長径1.12m、短径76cm、検出面からの深さ7cmを測る。長軸方向はN-25°-Eを示す。断面形は皿状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK385 (図版2・3・61)

3Lグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径52～59cm、検出面からの深さ4cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK386 (図版2・4・61)

2・3Lグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径1.36～1.48m、検出面からの深さ3cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK387 (図版2・4・61)

2Lグリッドに位置する。SK388と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径2.25m、短径1.58m、検出面からの深さ1cmを測る。長軸方向はN-66°-Wを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK388 (図版2・4・61)

2Lグリッドに位置する。SK387と重複し、これに切られている。平面形は楕円形を呈し、長径58cm、短径45cm、検出面からの深さ4cmを測る。長軸方向はN-22°-Eを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK389 (図版2・4・61・65)

3Kグリッドに位置する。SK475・476・477と重複し、これらに切られている。東側は調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整形を呈すると推定される。長径3.97m、短径3.22m、検出面からの深さ8cmを測る。長軸方向はN-44°-Eを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルト、にぶい黄褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器(25)、土師器(26)が出土している。

SK408 (図版2・4・61)

4Mグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径71～79cm、検出面からの深さ9cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK463 (図版2・4・61・65)

2Kグリッドに位置する。SK468と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径69～76cm、検出面からの深さ28cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

3 遺 構

SK468 (図版2・4・61・65)

2Kグリッドに位置する。SK463と重複し、これに切られている。平面形は長楕円形を呈する。長径2.37m、短径1.33m、検出面からの深さ30cmを測る。長軸方向はN-45°-Eを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと灰黄褐色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(8世紀)の須恵器(27)・土師器(28)が出土している。

SK475 (図版2・4・61・65)

3Kグリッドに位置する。SK389と重複し、これを切っている。平面形は不整形を呈し、長径1.02m、短径62cm、検出面からの深さ15cmを測る。長軸方向はN-55°-Eを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとぶい黄褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK476 (図版2・4・61・65)

3Kグリッドに位置する。SK389と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径81～88cm、検出面からの深さ40cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとぶい黄褐色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK477 (図版2・4・61)

3Kグリッドに位置する。SK389と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径86cm、短径54cm、検出面からの深さ27cmを測る。長軸方向はN-17°-Eを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK491 (図版2・4)

2L・M、3L・Mグリッドに位置する。SK384と重複し、これに切られる。西側が調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整形を呈すると推定される。径3.14m、検出面からの深さ9cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK369 (図版5・6・66)

3Mグリッドに位置する。SE474と重複し、これを切っている。平面形は長楕円形を呈する。長径1.36m、短径80cm、検出面からの深さ39cmを測る。長軸方向はN-56°-Wを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器が出土している。

SK178 (図版5・6・61)

3Mグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径73～84cm、検出面からの深さ16cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色シルトの2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古代の土師器が出土している。

SK347 (図版5・6)

2Nグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径77cm、短径50cm、検出面からの深さ19cmを測る。長軸方向はN-57°-Eを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK189 (図版5・6・61・66)

2M・N、3M・Nグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径4.30m、短径2.18m、検出

面からの深さ31cmを測る。長軸方向は $N-74^{\circ}-E$ を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色粘質シルトの2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土1層から古代の須恵器(8)・土師器(10)、覆土2層から古代(8世紀中葉)の須恵器(9)が出土している。

SK112 (図版7・9・61・66)

3Nグリッドに位置する。SB269-P6・SB320-P5・SB320-P6と重複し、これらに切られている。平面形は楕円形を呈し、長径2.77m、短径1.88m、検出面からの深さ34cmを測る。長軸方向は $N-8^{\circ}-E$ を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトと灰黄褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土1・2層から古代の須恵器(4~6)・土師器(7)が出土している。

SK326 (図版7・9・61)

3Mグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径72~75cm、検出面からの深さ10cmを測る。断面形は弧状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトを主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古代の土師器が出土している。

SK397 (図版7・9・61)

3Mグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径66cm、短径36cm、検出面からの深さ11cmを測る。長軸方向は $N-80^{\circ}-E$ を示す。断面形は台形状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK327 (図版7・10・61・66)

3・4Mグリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈し、径3.00~3.23m、検出面からの深さ12cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は炭化物と焼土を含む黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(8世紀末葉)の須恵器(21~24)・土師器が出土している。

SK207 (図版8・10・66)

5Lグリッドに位置する。東側が調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整形を呈すると推定される。検出面からの深さ29cmを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の土師器(16)が出土している。

SK313 (図版8・10・60・66)

5Oグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径88~99cm、検出面からの深さ23cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SK478 (図版8・10)

4Nグリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、長径2.16m、短径87cm、検出面からの深さ10cmを測る。長軸方向は $N-59^{\circ}-E$ を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK200 (図版11・15・60・66)

5Pグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径2.71m、短径1.44m、検出面からの深さ9cmを測る。長軸方向は $N-65^{\circ}-W$ を示す。断面は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、壁面付近は明黄褐色シルトブロックを多量に含んでいる。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器(11・12)・土師器(13)が出土している。

SK251 (図版 11・15・60・67)

5Pグリッドに位置する。SK203と重複し、これに切られている。平面形は長楕円形を呈する。長径3.26m、短径1.64m、検出面からの深さ29cmを測る。長軸方向は $N-88^{\circ}-E$ を示す。断面は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルト・明黄褐色シルト・にぶい黄褐色シルトを主体とし、6層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(8世紀中葉)の須恵器(16)・土師器(17~20)が出土している。

SK203 (図版 11・15・60・67)

5Pグリッドに位置する。SK251と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径1.58m、短径1.12m、検出面からの深さ26cmを測る。長軸方向は $N-87^{\circ}-E$ を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代(8世紀中葉)の須恵器(14)・土師器、磁石(36)が出土している。

SK228 (図版 11・15・60・66)

4Oグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径1.02m、短径57cm、検出面からの深さ62cmを測る。長軸方向は $N-88^{\circ}-W$ を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SK271 (図版 11・15・60)

5P・Qグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径71~72cm、検出面からの深さ19cmを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトを主体とし、3層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK359 (図版 11・15・60)

4Oグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径1.03m、短径45cm、検出面からの深さ13cmを測る。長軸方向は $N-86^{\circ}-W$ を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK213 (図版 11・15・60・67)

4Pグリッドに位置する。SD109と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径79~80cm、検出面からの深さ37cmを測る。長軸方向は $N-78^{\circ}-W$ を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK160 (図版 11・15・60・67)

4Oグリッドに位置する。SB287-P2と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径69~81cm、検出面からの深さ49cmを測る。断面は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルト・黄褐色シルト・褐色シルトを主体とし、7層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK382 (図版 11・15・60)

4Oグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径1.70m、短径49cm、検出面からの深さ50cmを測る。長軸方向は $N-82^{\circ}-W$ を示す。断面形は台形状を呈する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK282 (図版 12・15・60)

5Oグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径1.43m、短径1.14m、検出面からの深さ

19cmを測る。長軸方向はN-74°-Wを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

4) 畑作溝

北前田遺跡Ⅱで検出した溝は30条あり、このうち掘立柱建物の雨落ち溝(SD109・SX55)とSD122・138・469を除く25条を調査区北東側で検出した。これらの溝群は東西方向に並行し、溝同士の間隔及び溝の幅・深さ・覆土が近似することから、畑作溝と考えられる。遺構同士の切り合い関係を見ると、SD116がSB358-P3、SD130がSB358-P2、SD131がSK327、SD342がSB383-P8、SD361がSB383-P4・SB412-P4とそれぞれ重複し、いずれもこれらを切っていることから、本遺跡の集落廃絶後にこれらの畑作溝が形成されたものと推定される。遺物はSD114から古代の須恵器(30)が出土しているほか、SD118・135・136・177・315・342を除く各溝から古代の須恵器・土師器が出土している。

4 遺物

A 概要

出土した遺物は土師器5箱、須恵器1箱(箱サイズ54×34×10cm)、灰胎陶器7点、円筒形土製品1点、土錘1点、砥石1点、刀子1点であり、いずれも古代に比定される。

以下、出土遺物の説明を行うが、土師器・須恵器・灰胎陶器に関しては分類を示した上で、遺構内出土土器、遺構外出土土器順に説明を行う。遺構内出土土器は遺構別に、遺構外出土土器は先に示した分類別に説明を行うものとする。土製品・石製品・鉄製品はそれぞれ種類別に説明を行うものとする。

B 土器の分類

分類は北前田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱから出土した古代の土器を対象に行い、各遺跡共通のものとする。分類は滝寺・大貫古窯群〔小田^{ほか}2006〕、岩ノ原遺跡〔高橋^{ほか}2008〕、北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ〔金内^{ほか}2008〕の各報告書、編年の位置付けについては〔春日1999〕及び〔笹澤2003〕等を参考にした。器種分類図(第14回)の番号は前→北前田遺跡Ⅱ、中→中田原遺跡Ⅱ、岩→岩ノ原遺跡Ⅱ出土のもので、数字はそれぞれの掲載番号である。

1) 須恵器

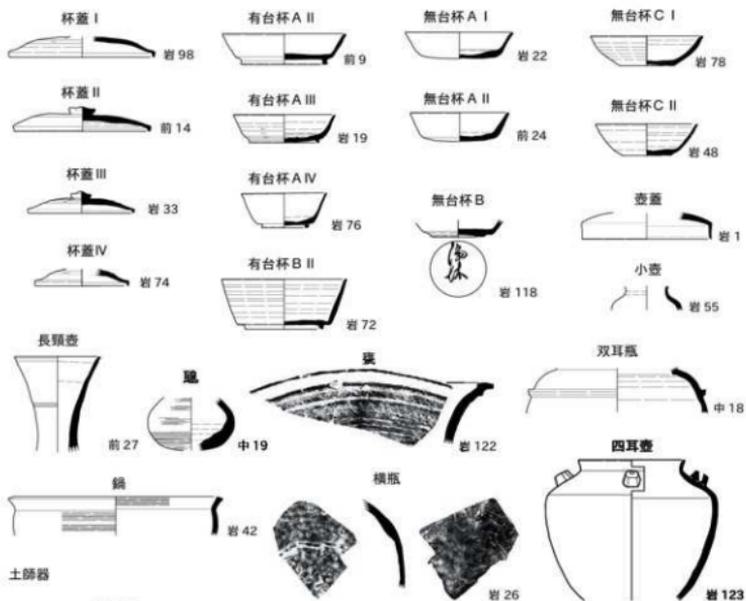
杯蓋(前14、岩33・74・98) 口端部径によりⅠ:17cm以上、Ⅱ:14~17cm、Ⅲ:12~14cm、Ⅳ:10~12cmの大きさに分類した。法量ⅡとⅢが多く、ⅠとⅣは少量である。

有台杯(前9、岩19・72・76) 器形ではA:器高5cm以下の低いものと、B:器高5cm以上の深身のものに分類した。また口径によりⅠ:16cm以上、Ⅱ:13~16cm、Ⅲ:11~13cm、Ⅳ:9~11cmの大きさに分類した。器形Aは法量ⅡとⅢが多く、ⅠとⅣは少量である。器形Bは法量Ⅱのみである。

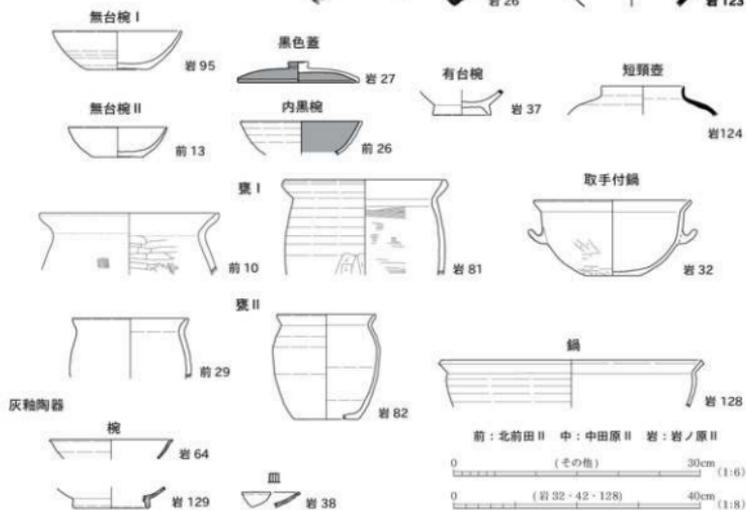
無台杯(前24、岩22・48・78・118) 器形ではA:底部の切り離しがへら切りの箱型を呈するもの、B:底部の切り離しが糸切りで底部と体部の境に稜をもち「二段底」を呈するもの、C:糸切りの腕型を呈するものに分類した。また口径によりⅠ:13cm以上、Ⅱ:11~13cmに分類した。

4 遺 物

須惠器



土師器



第 14 図 器種分類図 (古代)

このほか壺蓋(岩1)、小壺(岩55)、長頸壺(前27)、甕(中19)、甕(岩122)、双耳瓶(中18)、横瓶(岩26)、四耳壺(岩123)、鍋(岩42)、短頸壺(岩124)を検出したが、出土数が少ないことから細別を行わなかった。

2) 土 師 器

無台椀(前13、岩95) 口径によりⅠ:13cm以上、Ⅱ:11~13cmに分類した。

甕(前10・29、岩81・82) 口径によりⅠ:19cm以上、Ⅱ:15cm未満に分類した。

このほか有台椀(岩37)、内黒椀(前26)、黒色蓋(岩27)、取手付鍋(岩32)、鍋(岩128)を検出したが、出土数が少ないことから細別を行わなかった。

3) 灰 釉 陶 器

椀(岩64・129)、皿(岩38)を検出したが、出土数が少ないことから細別を行わなかった。

C 土 器

1) 遺構内出土

SE277 (図版16-1、図版68)

土師器椀(1)が出土した。法量Ⅱに属し、内外面にスガが付着する。

SE341 (図版16-2、図版68)

土師器椀(2)が出土した。法量Ⅰに属し、内面にミガキがかけられる。時期は9世紀中葉に比定される。

SE474 (図版16-3、図版68)

須恵器無台杯(3)が出土した。細別CⅠに属し、底部の切り離しは糸切りである。焼成が不十分なため、色調は橙色を呈する。時期は9世紀中葉に比定される。

SK112 (図版16-4~7、図版68)

須恵器杯蓋(4)、有台杯(5)、無台杯(6)、土師器甕(7)が出土した。4は法量Ⅱに属する。体部外面に緑色の自然釉が掛かる。時期は9世紀中葉に比定される。5は細別AⅡに属する。時期は8世紀中葉(春日編年Ⅲ-2期)に比定される。6は細別AⅡに属し、底部の切り離しはヘラ切りである。

SK189 (図版16-8~10、図版68)

須恵器杯蓋(8)、有台杯(9)、土師器甕(10)が出土した。8の摘みは低い擬宝珠形で、径は3.4cmを測る。9は細別AⅡに属し、体部外面に緑色の自然釉が掛かる。時期は8世紀中葉(春日編年Ⅲ-2~Ⅳ-1期)に比定される。10は法量Ⅰに属し、口縁端部は軽く摘み上げられる。

SK200 (図版16-11~13、図版68)

須恵器有台杯(11)、無台杯(12)、土師器椀(13)が出土した。11は細別AⅢに属し、体部下半の屈曲が明瞭である。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定される。時期は9世紀前半に比定される。12は細別AⅠに属する。胎土から小泊窯産と推定される。時期は9世紀中葉(春日編年Ⅵ-1期)に比定される。13は法量Ⅱに属し、時期は9世紀中葉(春日編年Ⅵ-1期)に比定される。

SK203 (図版16-14、図版68)

須恵器杯蓋(14)が出土した。法量Ⅱに属し、摘みは低い擬宝珠形で、径は3.1cmを測る。時期は8世紀中葉に比定される。

5 ま と め

SK207 (図版 16-15、図版 68)

土師器碗(15)が出土した。法量Ⅱに属し、底部の切り離しは糸切りである。時期は9世紀前葉～中葉(春日編年V期)に比定される。

SK251 (図版 16-16～19、17-20、図版 68・69)

須恵器有台杯(16)、土師器甕(17～20)が出土した。16は細別AⅢに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定される。時期は8世紀後葉(春日編年Ⅳ-1期)に比定される。17は法量Ⅰに属し、ロクロ成形の後内外面ハケ調整を行っている。18は法量Ⅰに属し、内外面に粗いハケ調整が施される。外面のハケ調整は横位と縦位を交互に行い、底部外面にもハケ調整を行っている。時期は8世紀後葉に比定される。20は法量Ⅰに属し、底部は丸底を呈する。時期は8世紀後葉に比定される。

SK327 (図版 17-21～24、図版 69)

須恵器杯蓋(21)、有台杯(22)、無台杯(23・24)が出土した。いずれも胎土から東頸城丘陵の窯産と推定される。21は法量Ⅱに属し、外面全体に自然釉が掛かり、焼き歪みがある。時期は8世紀中葉(春日編年Ⅳ-1期)に比定される。23・24は細別AⅡに属し、時期は8世紀末(春日編年Ⅳ-2期)に比定される。

SK389 (図版 17-25・26、図版 69)

須恵器有台杯(25)土師器内黒碗(26)が出土した。25は細別AⅡに属し、体部下半の屈曲が明瞭である。26は薄手の作りで、外面はロクロ目が目立つ。時期は9世紀中葉に比定される。

SK468 (図版 17-27・28、図版 69)

須恵器長頸壺(27)、土師器甕(28)が出土した。27は口縁部から頸部のみ残存している。外面口唇部と頸部中央に沈線が巡る。時期は8世紀に比定される。

SD109 (図版 17-29、図版 69)

土師器甕(29)が出土した。法量Ⅱに属する。

SD114 (図版 17-30、図版 69)

須恵器長頸壺(30)が出土した。体部下半の外面に浅い沈線が3条巡る。

P308 (図版 17-31、図版 69)

須恵器無台杯(31)が出土した。細別AⅡに属し、体部外面に記号と考えられる墨書がある。胎土から小泊窯産と推定される。時期は9世紀第中葉(春日編年Ⅵ-1期)に比定される。

2) 遺構外出土 (図版 17-32・33、図版 69)

須恵器長頸壺が出土した(32・33)。32は体部下半、33は頸部下半の破片である。

D 土 製 品 (図版 17-34・35、図版 69)

34は1層中から出土した土鍔片である。直径は3.6cm程と推測される。35はSB320-P3から出土した円筒形土製品である。内外面にハケによる調整痕が見られる。

E 石 製 品 (図版 17-36、図版 69)

36はSK203覆土中から出土した砥石(完形)である。長さ10.1cm、幅3.6cm、厚さ2.5cm、重さ160gを計る。石材は安山岩である。表裏面・左右側面・下側面に砥面が認められる。表面には細かい凹

凸は残るが、非常に滑らかで、線状痕はほとんど目立たない。

F 金属製品 (図版17-37、図版69)

37はSK365覆土1層から出土した刀子(破損品)である。残存長13.5cm、幅1.25cm、厚さ0.65cm、重さ15.44gを計る。茎の大半は欠損しており、目釘穴は見られない。刀身部の断面は楔形を呈する。

5 ま と め

—北前田遺跡Ⅰ(B地区)及びⅡにおける遺構の変遷—

北前田遺跡Ⅱは南側で平成19年度に調査を実施した北前田遺跡Ⅰ(B地区)[金内^{ほか}2008]と隣接する一連の集落であった。北前田遺跡Ⅰでは調査によって、古墳時代前期から古代までの間、断続的に生活が営まれていた痕跡を検出した。また遺構の存続時期を伴出する土器の年代から5期に区分しており、B地区は3～4期に限定されている[金内^{ほか}2008]。

北前田遺跡Ⅰ(B地区)及びⅡの出土土器の年代は8世紀中葉～9世紀初頭及び9世紀中葉～後葉のものがあり、遺構の存続時期もそれを基に3期(8世紀中葉～9世紀初頭)と4期(9世紀中葉～後葉)の2時期に区分できるものと考えられる。したがって、北前田遺跡Ⅰ(A地区)でのみ遺構・遺物を検出した1期(古墳時代前期)、2期(古墳時代後期)、5期(10世紀中葉～11世紀初頭)については今回記述していない。

また掘立柱建物に関しては伴出する土器の年代や遺構の切り合い関係の他にも、長軸方向によるグループ分類を行い、近接する北新田・荒町南新田遺跡[金内^{ほか}2008・2010]で検出した当該期の掘立柱建物との比較・検討を行ったうえで時期決定を行いたい。

① 伴出する土器の年代・遺構の切り合い関係からの検討

3期の土器を伴出する遺構は掘立柱建物6棟(SB381・319・358・259・287・100)、雨落ち溝2条(SD109・SX55)、土坑6基(SK468・189・327・251・203・91)がある。またSB108はSD109とSB99はSX55との関連が考えられることから、3期に属するものと考えられる。

4期の土器を伴出する遺構は井戸3基(SE378・474・341)、土坑6基(SK389・369・112・207・200・60)がある。またSB320・269の柱穴はSK112を切っており、同遺構よりも新しいと考えられること、北前田遺跡Ⅱから9世紀後葉以降の遺物が出土しないことから、4期に属するものと考えられる。

② 掘立柱建物の長軸方向からの検討

北新田・荒町南新田遺跡(以下両遺跡)で検出した古代の掘立柱建物については、長軸方向によりA～Fの6つのグループに分類した[金内^{ほか}2008・2010]。分類は以下の通りである。両遺跡では8世紀前葉～中葉及び9世紀前葉～中葉の掘立柱建物が多数検出されている。8世紀前葉～中葉のものはA・B・D・Fグループが検出でき、柱並びが整然とせず、不整長方形を呈するものが多い。9世紀前葉～中葉のものはA～Eグループが検出でき、柱間寸法や柱並びが整然としているものが多い[金内2008・2010]。

Aグループ 南北方向が0°～10°西寄りにずれ、N-0°～10°-W・N-80°～90°-Eを示すもの。

Bグループ 南北方向が0°～10°東寄りにずれ、N-0°～10°-E・N-80°～90°-Wを示すもの。

Cグループ 南北方向が11°～20°西寄りにずれ、N-11°～20°-W・N-70°～79°-Eを示すもの。

Dグループ 南北方向が21°～40°東寄りにずれ、N-21°～40°-E・N-50°～69°-Wを示すもの。



第 15 図 北船田遺跡 II における遺構の変遷

Eグループ 南北方向が $21 \sim 40^\circ$ 西寄りにずれ、 $N-21 \sim 50^\circ-W \cdot N-40 \sim 69^\circ-E$ を示すもの。

Fグループ 南北方向が $11 \sim 20^\circ$ 東寄りにずれ、 $N-11 \sim 20^\circ-E \cdot N-70 \sim 79^\circ-W$ を示すもの。

この分類を北前田遺跡Ⅱの掘立柱建物（長軸方向が明らかではないSB482は除く）に当てはめると、A・Cグループは検出できず、Bグループ7棟（SB320・319・358・259・108・287・100）、Dグループ3棟（SB383・307・258）、Eグループ1棟（SB269）、Fグループ5棟（SB381・412・288・98・99）となる。FグループはSB412・288のように柱並びが整然とせず、不整長方形を呈しているものが多いこと、両遺跡の9世紀前葉～中葉の掘立柱建物にこのグループが検出できないことから、3期に属するものと考えられる。一方D・EグループはFグループと比較して柱間寸法や柱並びが整然としていること、Eグループが両遺跡の8世紀前葉～中葉の掘立柱建物に検出できないことから、4期に属するものと考えられる。

以上の点を考慮すると北前田遺跡Ⅰ（B地区）・Ⅱにおける遺構の変遷は次のように考えられる。

3期（第15図左）

掘立柱建物11棟（SB381・412・319・358・259・108・287・288・98・99・100）、雨落ち溝3条（SD109・58・SX55）、土坑6基（SK468・189・327・251・203・91）が当該期の遺構に位置付けられる。

掘立柱建物は調査区全体で検出できる。SB288を除く全てが東西棟で、長軸方向は $N-72 \sim 85^\circ-W$ の範囲に収まる。また数棟の建物が東西方向に並び、五つの列を成していることが分かる（北側からSB381、SB412、SB319・358、SB259・108・287・288、SB98・99・100）。北側から2番目に位置するSB412を除く列同士の間隔は $15 \sim 18m$ とほぼ均一であり、計画的に集落を構成していたことが窺える。また雨落ち溝や土坑はいずれも建物の近くに位置しており、建物との関連性が想定できる。

4期（第15図右）

掘立柱建物5棟（SB383・307・320・269・258）、井戸3基（SE378・474・341）、土坑6基（SK389・369・112・207・200・60）が当該期の遺構に位置付けられる。

掘立柱建物は全てが東西棟で、長軸方向はBグループに属するSB320を除くと $N-43 \sim 64^\circ-W$ の範囲に収まる。建物は調査区北西側に集中しており、南東側では検出できなかった。そのため集落の中心は調査区の北西側に延びている可能性が考えられる。井戸や土坑の多くは建物の近くに位置しているが、SK60のように建物から $25m$ 以上離れているものも見られる。

また、調査区北東側で検出した畑作溝の一部がSB383の柱穴を切っていることから、4期の集落が廃絶した後、この地が畑として利用されていたものと考えられる。畑作溝からは明確に伴う遺物が検出できないため断定はできないが、畑作溝の長軸方向が4期の建物のそれと異なっているため、集落廃絶後ある程度の期間を経てから畑が形成されたものと想定できる。

視察表

SB08

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|-------------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 5Q22 | 隅丸方形 | 階段状 | 19.00 | 18.65 | 52 | 48 | 35 | 柱底有 | P1-P2:2.27m | 土跡器 | |
| P2 | 5Q18 | 隅丸方形 | 扁平状 | 19.02 | 18.79 | 52 | 47 | 23 | 柱底有 | P2-P3:1.93m | 土跡器 | |
| P3 | 5Q13-14-18- 19 | 隅丸方形 | 扁平状 | 19.03 | 18.66 | 52 | 49 | 37 | 柱底有 | P3-P4:2.12m | 土跡器 | |
| P4 | 5Q14 | 隅丸方形 | 階段状 | 19.02 | 18.68 | 59 | 54 | 34 | 柱底有 | | | |

SB09

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 6P22 | 円形 | U字状 | 18.98 | 18.66 | 35 | 33 | 32 | 柱底有 | P1-P2:1.68m | | |
| P2 | 6P18-23 | 円形 | 半円状 | 19.03 | 18.76 | 39 | 35 | 27 | 柱底有 | P2-P3:1.96m | 土跡器 | |
| P3 | 6P19 | 円形 | 扁平状 | 19.02 | 18.81 | 50 | 45 | 21 | 柱底有 | P3-P4:2.10m | | |
| P4 | 6P15-20 | 円形 | 階段状 | 18.97 | 18.16 | 50 | 49 | 81 | | | | |

SB100

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 7P6 | 隅丸方形 | 階段状 | 18.93 | 18.61 | 43 | 38 | 32 | 柱底有 | P1-P2:2.36m | 須置器・土跡器 | |
| P2 | 7P2-7 | 円形 | 扁平状 | 18.90 | 18.53 | 39 | 36 | 37 | 柱底有 | P2-P3:2.09m | 土跡器 | |
| P3 | 7P3 | 隅丸方形 | 台形状 | 18.86 | 18.69 | 48 | 47 | 17 | | | 土跡器 | |

SB108

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|-------------------|-------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|--------------|---------|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 3P10/4P6 | 隅丸方形 | 陥状 | 19.06 | 18.51 | 91 | 63 | 55 | 柱底有 | P1-P2:2.36m | 土跡器 | |
| P2 | 4P1-2 | 隅丸方形 | 台形状 | 19.02 | 18.49 | 73 | 63 | 53 | 柱底有 | P2-P3:2.20m | 土跡器 | |
| P3 | 4Q22-23/ 4P2-3 | 隅丸長方形 | 扁平状 | 19.05 | 18.37 | 89 | 64 | 68 | 柱底有 | P3-P4:2.19m | 須置器・土跡器 | |
| P4 | 4Q23 | 隅丸長方形 | 陥状 | 19.07 | 18.38 | 74 | 57 | 69 | 柱底有 | P4-P5:2.36m | 土跡器 | |
| P5 | 4Q24/4P4 | 隅丸方形 | 陥状 | 19.08 | 18.51 | 63 | 59 | 57 | 柱底有 | P5-P6:2.63m | 土跡器 | |
| P6 | 4P5-10 | 隅丸方形 | 陥状 | 19.08 | 18.38 | 79 | 75 | 70 | 柱底有 | P6-P7:2.19m | 土跡器 | |
| P7 | 4P9 | 隅丸方形 | 階段状 | 19.06 | 18.33 | 72 | 68 | 73 | 柱底有 | P7-P8:2.29m | 須置器・土跡器 | |
| P8 | 4P13 | 隅丸方形 | 階段状 | 19.02 | 18.59 | 76 | 73 | 43 | 柱底有 | P8-P9:2.03m | 土跡器 | |
| P9 | 4P12-17 | 円形 | 台形状 | 18.99 | 18.55 | 78 | 74 | 44 | | P9-P10:2.10m | 土跡器 | |
| P10 | 4P11 | 楕円形 | U字状 | 19.00 | 18.68 | 20 | 16 | 32 | | P10-P1:2.45m | | |

SB258

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 4Q3-8 | 楕円形 | U字状 | 18.94 | 18.56 | 48 | 36 | 38 | 柱底有 | P1-P2:1.90m | | |
| P2 | 4Q4 | 隅丸方形 | 台形状 | 18.90 | 18.66 | 29 | 29 | 24 | | P2-P3:1.77m | | |
| P3 | 4Q5 | 円形 | 台形状 | 18.89 | 18.75 | 26 | 24 | 14 | | P3-P4:0.90m | | |
| P4 | 4Q5 | 円形 | 台形状 | 18.90 | 18.69 | 32 | 27 | 21 | 柱底有 | P4-P5:2.05m | | |
| P5 | 5Q6 | 隅丸方形 | 扁平状 | 18.92 | 18.75 | 34 | 29 | 17 | 柱底有 | P5-P6:2.60m | | |
| P6 | 5Q11 | 円形 | 扁平状 | 18.90 | 18.74 | 36 | 31 | 16 | 柱底有 | P6-P7:3.41m | | |
| P7 | 4Q15 | 円形 | 台形状 | 18.92 | 18.71 | 33 | 32 | 21 | 柱底有 | P7-P8:1.93m | | |
| P8 | 4Q14-19 | 円形 | 台形状 | 18.94 | 18.84 | 36 | 36 | 10 | 柱底有 | P8-P1:4.03m | | |

SB259

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 4P16-21 | 円形 | 台形状 | 18.95 | 18.84 | 30 | 29 | 11 | | P1-P2:1.55m | | |
| P2 | 4P16 | 楕円形 | 陥状 | 18.95 | 18.81 | 36 | 28 | 14 | 柱底有 | P2-P3:1.93m | | |
| P3 | 4P17-22 | 円形 | 台形状 | 18.94 | 18.58 | 40 | 40 | 36 | 柱底有 | P3-P4:2.03m | | |
| P4 | 4P23 | 楕円形 | 陥状 | 18.92 | 18.79 | 43 | 34 | 13 | 柱底有 | P4-P5:1.46m | | |
| P5 | 4Q2 | 楕円形 | U字状 | 18.93 | 18.65 | 37 | 29 | 28 | 柱底有 | P5-P1:4.12m | 土跡器 | |

SB269

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|-------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 3N8 | 円形 | U字状 | 19.04 | 18.66 | 35 | 34 | 38 | 柱底有 | P1-P2:2.06m | | |
| P2 | 3N9 | 隅丸方形 | 扁平状 | 19.06 | 18.66 | 39 | 38 | 40 | 柱底有 | P2-P3:2.03m | 土跡器 | |
| P3 | 3N10 | 隅丸方形 | 扁平状 | 19.07 | 18.66 | 40 | 40 | 41 | 柱底有 | P3-P4:2.37m | | |
| P4 | 3N15 | 円形 | 台形状 | 19.01 | 18.61 | 39 | 37 | 40 | 柱底有 | P4-P5:2.00m | | |
| P5 | 3N20 | 円形 | 陥状 | 18.99 | 18.89 | 37 | 34 | 10 | 柱底有 | P5-P6:1.97m | | |
| P6 | 3N19-20 | 円形 | 階段状 | 18.98 | 18.67 | 48 | 42 | 31 | 柱底有 | P6-P7:2.49m | 土跡器 | SB269-P6>SK112 |
| P7 | 3N18 | 隅丸方形 | 階段状 | 18.94 | 18.62 | 28 | 28 | 32 | 柱底有 | P7-P8:2.95m | | SB269-P7>SB320-P7 |
| P8 | 3N12 | 円形 | 陥状 | 18.96 | 18.85 | 35 | 32 | 11 | | P8-P9:2.20m | 土跡器 | |
| P9 | 3N7 | 円形 | 陥状 | 18.99 | 18.92 | 25 | 24 | 7 | | P9-P1:2.00m | | |

表1 北前田遺跡Ⅱ 掘立柱建物柱六視察表(1)

SB287

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|---------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 4018-19-23-24 | 隅丸方形 | U字状 | 19.04 | 18.46 | 49 | 47 | 58 | | P1-P2:2.49m | 土師器 | |
| P2 | 4014-19-20 | 隅丸方形 | 階段状 | 19.05 | 18.38 | 55 | 56 | 67 | 柱敷有 | P2-P3:2.58m | 土師器 | SB287-P2<SK160 |
| P3 | 4015 | 円形 | 箱状 | 19.06 | 18.45 | 74 | 74 | 61 | 柱敷有 | P3-P4:2.41m | 土師器 | SB287-P3>P331 |
| P4 | 5014 | 円形 | U字状 | 19.09 | 18.54 | 37 | 32 | 55 | 柱敷有 | P4-P5:2.59m | | |
| P5 | 5017-22 | 楕円形 | 台形状 | 19.08 | 18.41 | 75 | 60 | 87 | 柱敷有 | P5-P6:2.67m | 土師器 | SB287-P5<P229 |
| P6 | 5021/3P1 | 円形 | 台形状 | 19.06 | 18.41 | 58 | 57 | 65 | 柱敷有 | P6-P7:2.69m | 土師器 | |
| P7 | 4P5 | 隅丸方形 | 台形状 | 19.08 | 18.47 | 53 | 47 | 61 | 柱敷有 | P7-P1:4.92m | 土師器 | |

SB288

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 502 | 楕円形 | 台形状 | 19.05 | 18.83 | 47 | 38 | 22 | 柱敷有 | P1-P2:1.93m | 土師器 | |
| P2 | 5N22-23 | 円形 | 箱状 | 19.06 | 18.79 | 28 | 27 | 27 | | P2-P3:1.62m | | |
| P3 | 5N23 | 長方形 | 台形状 | 19.02 | 18.73 | 60 | 41 | 29 | | P3-P4:2.61m | | |
| P4 | 504 | 円形 | 弧状 | 18.99 | 18.80 | 32 | 32 | 19 | | P4-P5:2.76m | 土師器 | |
| P5 | 5010 | 楕円形 | 扇斗状 | 19.00 | 18.44 | 49 | 41 | 56 | 柱敷有 | P5-P6:2.20m | 土師器 | |
| P6 | 5014 | 隅丸方形 | 台形状 | 18.99 | 18.80 | 39 | 34 | 19 | 柱敷有 | P6-P7:1.66m | 土師器 | |
| P7 | 5013 | 隅丸方形 | 弧状 | 19.03 | 18.75 | 45 | 44 | 38 | 柱敷有 | P7-P8:2.98m | 土師器 | |
| P8 | 507 | 円形 | U字状 | 19.05 | 18.60 | 26 | 25 | 45 | | P8-P1:2.52m | | |

SB307

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 2M19 | 円形 | 箱状 | 19.03 | 18.63 | 45 | 41 | 40 | 柱敷有 | P1-P2:1.99m | | |
| P2 | 2M20 | 円形 | 箱状 | 19.06 | 18.64 | 50 | 47 | 42 | 柱敷有 | P2-P3:1.80m | | |
| P3 | 2M20/3M16 | 円形 | 箱状 | 19.05 | 18.64 | 44 | 41 | 41 | 柱敷有 | P3-P4:1.94m | | |
| P4 | 3M11-12 | 円形 | 箱状 | 19.04 | 18.64 | 47 | 42 | 40 | 柱敷有 | P4-P5:2.13m | | |
| P5 | 3M6 | 円形 | 半円状 | 19.00 | 18.76 | 45 | 41 | 24 | 柱敷有 | | | |

SB319

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|-------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|---------------|---------|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 2N5/3N1 | 円形 | 箱状 | 18.98 | 18.66 | 41 | 40 | 32 | 柱敷有 | P1-P2:2.11m | | |
| P2 | 3N1 | 円形 | 箱状 | 19.02 | 18.65 | 44 | 44 | 37 | 柱敷有 | P2-P3:1.69m | | |
| P3 | 3M22 | 楕円形 | 箱状 | 19.04 | 18.66 | 61 | 42 | 38 | 柱敷有 | P3-P4:2.06m | 瓦器類 | |
| P4 | 3M18-23 | 円形 | 台形状 | 19.05 | 18.62 | 58 | 51 | 43 | 柱敷有 | P4-P5:1.96m | 土師器 | |
| P5 | 3M18-19 | 隅丸長方形 | 扇斗状 | 19.06 | 18.56 | 64 | 50 | 50 | 柱敷有 | P5-P6:2.44m | 土師器 | |
| P6 | 3M24-25 | 隅丸長方形 | 弧状 | 19.09 | 18.68 | 58 | 41 | 41 | 柱敷有 | P6-P7:2.67m | 瓦器類・土師器 | |
| P7 | 3N5 | 隅丸長方形 | 台形状 | 19.07 | 18.56 | 32 | 48 | 51 | 柱敷有 | P7-P8:2.87m | 土師器 | |
| P8 | 3N4-5-9-10 | 隅丸長方形 | 箱状 | 19.06 | 18.54 | 62 | 50 | 52 | 柱敷有 | P8-P9:1.84m | 土師器 | |
| P9 | 3N2 | 隅丸長方形 | 扇斗状 | 19.05 | 18.65 | 51 | 50 | 40 | 柱敷有 | P9-P10:1.93m | 瓦器類・土師器 | |
| P10 | 3N13 | 隅丸長方形 | 台形状 | 18.95 | 18.64 | 47 | 35 | 31 | 柱敷有 | P10-P11:2.14m | 土師器 | |
| P11 | 3N12-17 | 楕円形 | 階段状 | 18.96 | 18.66 | 46 | 36 | 30 | 柱敷有 | P11-P12:2.68m | | |
| P12 | 3N6-11 | 円形 | 階段状 | 18.97 | 18.67 | 40 | 34 | 30 | 柱敷有 | P12-P11:2.75m | | |
| P13 | 3M14-15 | 円形 | 扇斗状 | 19.05 | 18.71 | 59 | 50 | 34 | 柱敷有 | P13-P14:5.07m | 瓦器類・土師器 | |
| P14 | 4M21 | 円形 | 扇斗状 | 19.07 | 18.60 | 52 | 48 | 47 | 柱敷有 | P14-P7:2.14m | 土師器 | |

SB320

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|-------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|-------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 3N7 | 楕円形 | 扇斗状 | 18.98 | 18.81 | 61 | 53 | 17 | 柱敷有 | P1-P2:4.67m | | |
| P2 | 3N4 | 隅丸長方形 | 階段状 | 19.03 | 18.93 | 75 | 59 | 10 | 柱敷有 | P2-P3:2.32m | 土師器 | |
| P3 | 3N4-5-9-10 | 隅丸長方形 | 箱状 | 19.06 | 18.54 | 63 | 50 | 52 | 柱敷有 | P3-P4:2.16m | 土師器・土製品 | |
| P4 | 3N10-15 | 隅丸長方形 | 階段状 | 19.07 | 18.62 | 64 | 56 | 45 | 柱敷有 | P4-P5:1.68m | 土師器 | |
| P5 | 3N14-15 | 隅丸方形 | 箱状 | 19.08 | 18.65 | 62 | 49 | 43 | 柱敷有 | P5-P6:1.70m | 土師器 | SB320-P5<SK112 |
| P6 | 3N14-19 | 隅丸長方形 | 階段状 | 18.98 | 18.45 | 57 | 58 | 53 | 柱敷有 | P6-P7:1.50m | 土師器 | SB320-P6<SK112 |
| P7 | 3N18-19 | 隅丸方形 | 箱状 | 18.97 | 18.65 | 67 | 58 | 32 | 柱敷有 | P7-P8:2.34m | 土師器 | SB320-P7<SB269-P7 |
| P8 | 3N12-13 | 円形 | 階段状 | 18.95 | 18.64 | 66 | 61 | 31 | 柱敷有 | P8-P1:2.44m | 土師器 | SB320-P8>P310 |

SB358

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|-------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 3M20 | 円形 | U字状 | 19.05 | 18.60 | 33 | 31 | 45 | 柱敷有 | P1-P2:4.77m | 土師器 | SB358-P1>P500 |
| P2 | 4M12 | 隅丸方形 | 扇斗状 | 19.05 | 18.54 | 40 | 38 | 51 | 柱敷有 | P2-P3:2.10m | 土師器 | SB358-P2<SD130 |
| P3 | 4M13-17-18 | 楕円形 | 扇斗状 | 19.05 | 18.62 | 47 | 35 | 43 | 柱敷有 | P3-P4:2.00m | 土師器 | SB358-P3<SD116 |
| P4 | 4M18-23 | 隅丸長方形 | 階段状 | 19.02 | 18.46 | 54 | 38 | 36 | 柱敷有 | P4-P5:4.49m | 土師器 | |
| P5 | 4N1 | 楕円形 | 扇斗状 | 19.07 | 18.54 | 55 | 40 | 53 | 柱敷有 | P5-P6:2.07m | | |
| P6 | 3M25/4M21 | 楕円形 | 半円状 | 19.06 | 18.87 | 37 | 32 | 19 | 柱敷有 | P6-P1:1.94m | 土師器 | |

第2表 北前田遺跡II 掘立柱建物柱穴観察表(2)

観 察 表

SB381

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 3K10-15 | 円形 | 階段状 | 19.02 | 18.09 | 53 | 50 | 33 | 柱遺存 | P1-P2:2.56m | 土脚部 | |
| P2 | 2K15 | 円形 | U字状 | 19.04 | 18.65 | 42 | 40 | 39 | 柱遺存 | P2-P3:2.24m | | |
| P3 | 3K16-21 | 楕円形 | 階段状 | 18.98 | 18.62 | 56 | 48 | 36 | 柱遺存 | P3-P4:1.80m | 土脚部 | |
| P4 | 2K25 | 楕円長方形 | 階段状 | 18.99 | 18.60 | 82 | 47 | 39 | 柱遺存 | P4-P5:1.62m | 土脚部 | |
| P5 | 2K24-25 | 楕円長方形 | 階段状 | 19.01 | 18.66 | 55 | 47 | 35 | 柱遺存 | P5-P6:1.58m | 土脚部 | |
| P6 | 2L4 | 楕円長方形 | 階段状 | 19.00 | 18.65 | 57 | 45 | 35 | 柱遺存 | P6-P7:1.76m | 土脚部 | |
| P7 | 2L3 | 楕円長方形 | 階段状 | 19.02 | 18.65 | 48 | 45 | 37 | 柱遺存 | P7-P8:2.24m | 土脚部 | |
| P8 | 2K22-23 | 円形 | 台形状 | 18.97 | 18.74 | 32 | 28 | 23 | 柱遺存 | | | |

SB383

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|---------------|---------|----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 3L6 | 円形 | 階段状 | 19.04 | 18.53 | 47 | 42 | 51 | 柱遺存 | P1-P2:2.10m | 土脚部 | |
| P2 | 3L2-7 | 円形 | 台形状 | 19.03 | 18.58 | 48 | 47 | 45 | 柱遺存 | P2-P3:1.73m | | |
| P3 | 3L3 | 楕円形 | 弧状 | 19.03 | 18.61 | 46 | 39 | 42 | 柱遺存 | P3-P4:1.84m | 土脚部 | |
| P4 | 3L4 | 円形 | 台形状 | 19.05 | 18.56 | 53 | 50 | 49 | 柱遺存 | P4-P5:1.77m | | SB383-P4<SD361 |
| P5 | 3L5 | 円形 | 台形状 | 19.00 | 18.49 | 46 | 39 | 51 | 柱遺存 | P5-P6:2.45m | 土脚部 | |
| P6 | 3L10 | 円形 | U字状 | 19.05 | 18.57 | 55 | 49 | 48 | 柱遺存 | P6-P7:2.59m | 遺遺部・土脚部 | |
| P7 | 3L15/4L11 | 円形 | U字状 | 19.04 | 18.57 | 48 | 47 | 47 | 柱遺存 | P7-P8:1.59m | 土脚部 | |
| P8 | 3L15 | 円形 | 箱状 | 19.03 | 18.60 | 49 | 45 | 43 | 柱遺存 | P8-P9:1.94m | 土脚部 | SB383-P8<SD342 |
| P9 | 3L19 | 円形 | 階段状 | 19.04 | 18.54 | 50 | 46 | 50 | 柱遺存 | P9-P10:1.96m | 土脚部 | |
| P10 | 3L18 | 円形 | U字状 | 19.02 | 18.55 | 48 | 46 | 47 | 柱遺存 | P10-P11:1.75m | | |
| P11 | 3L17 | 円形 | 箱状 | 18.99 | 18.56 | 48 | 47 | 43 | 柱遺存 | P11-P12:2.32m | | |
| P12 | 3L12 | 楕円形 | 箱状 | 19.03 | 18.48 | 56 | 46 | 55 | 柱遺存 | P12-P1:2.57m | 土脚部 | |

SB412

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 2L10 | 円形 | 台形状 | 19.02 | 18.90 | 21 | 19 | 12 | | P1-P2:2.56m | | |
| P2 | 3L1 | 円形 | 弧状 | 19.02 | 18.84 | 30 | 27 | 18 | | P2-P3:2.53m | | |
| P3 | 3K23/3L3 | 方形 | 弧状 | 19.11 | 18.88 | 26 | 25 | 23 | | P3-P4:2.29m | | |
| P4 | 3L3-8 | 円形 | 弧状 | 19.05 | 18.85 | 36 | 33 | 20 | | P4-P5:2.18m | | SB412-P4>SD361 |
| P5 | 3L9-14 | 円形 | 台形状 | 18.98 | 18.83 | 28 | 27 | 15 | | P5-P6:2.67m | | |
| P6 | 3L13 | 円形 | U字状 | 19.04 | 18.74 | 33 | 29 | 30 | | P6-P7:2.44m | | |
| P7 | 3L16-17 | 円形 | 弧状 | 19.03 | 18.83 | 33 | 28 | 20 | | P7-P8:2.20m | | |
| P8 | 3L11 | 円形 | 弧状 | 19.03 | 18.94 | 30 | 29 | 9 | 柱遺存 | P8-P1:2.15m | | |

SB482

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 3K | 楕円形 | 弧状 | 18.93 | 18.46 | (52) | 61 | 47 | | P1-P2:2.25m | 土脚部 | 調査区外に延びる |
| P2 | 3-4K | 方形 | 弧状 | 18.97 | 18.67 | 42 | 40 | 30 | 柱遺存 | P2-P3:1.66m | | |
| P3 | 4K | 楕円形 | U字状 | 18.96 | 18.44 | (47) | 44 | 52 | 柱遺存 | | 土脚部 | 調査区外に延びる |

SA266

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 4Q25/5Q21 | 円形 | 不整形 | 18.95 | 18.81 | 42 | 38 | 15 | 柱遺存 | P1-P2:2.34m | 土脚部 | |
| P2 | 5Q17-21-22 | 円形 | 扇形状 | 19.00 | 18.74 | 39 | 38 | 25 | 柱遺存 | P2-P3:1.76m | 土脚部 | |
| P3 | 5Q17 | 楕円形 | 弧状 | 18.99 | 18.85 | 41 | 34 | 14 | 柱遺存 | | 土脚部 | |

SA486

| 柱六 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 4L1 | 円形 | U字状 | 19.00 | 18.78 | 24 | 22 | 22 | 柱遺存 | P1-P2:2.37m | | |
| P2 | 4L6-7 | 円形 | 台形状 | 19.05 | 18.78 | 27 | 22 | 27 | | P2-P3:2.11m | 土脚部 | |
| P3 | 4L12 | 円形 | 台形状 | 19.04 | 18.67 | 23 | 21 | 37 | | | 土脚部 | |

第3表 北前田遺跡II 掘立柱建物・杭立柱観察表

| 溝 番号 | 位置 (グリッド) | 断面形 | 規模 | | | 方向 | 層土 | 遺物 | 備考 |
|---------|--------------|-----|---------|-------|--------|---------|----|---------|----------------------------------|
| | | | 長さ(m) | 幅(cm) | 深さ(cm) | | | | |
| 114 | 4M-N/5M | 平均状 | 13.95以上 | 32 | 10 | N-84'-E | 単層 | 土脚部・瓦 | 調査区外に広がる |
| 115 | 5M | 平均状 | 2.71 | 29 | 10 | N-87'-E | 単層 | | |
| 116 | 4-5M | 平均状 | 10.89 | 30 | 16 | N-80'-W | 単層 | 須恵器・土脚部 | SD116>SB358-P3 |
| 117 | 5-6O | 弧状 | 2.26 | 31 | 7 | N-87'-W | 単層 | 土脚部 | |
| 118 | 5N-O | 台形状 | 1.98 | 24 | 10 | N-88'-W | 2層 | | |
| 119 | 5N | 台形状 | 1.86 | 33 | 10 | N-88'-W | 2層 | 須恵器・土脚部 | |
| 120 | 5-6N | 弧状 | 0.90 | 24 | 7 | N-81'-E | 単層 | 土脚部 | |
| 121 | 5N | 弧状 | 0.98 | 29 | 12 | N-84'-E | 単層 | 土脚部 | |
| 122 | 6N | 台形状 | 6.48 | 33 | 7 | N-24'-E | 2層 | 土脚部 | |
| 124 | 4M | 台形状 | 0.81 | 19 | 9 | N-88'-W | 単層 | | |
| 126 | 4-5M | 弧状 | 4.39 | 25 | 6 | N-76'-W | 単層 | 土脚部 | |
| 127 | 4N/5M-N | 弧状 | 5.35以上 | 27 | 6 | N-80'-W | 単層 | 土脚部 | |
| 128 | 5M-N | 弧状 | 10.17以上 | 28 | 7 | N-80'-W | 単層 | 土脚部 | 調査区外に広がる |
| 130 | 4L-M | 平均状 | 10.99 | 29 | 14 | N-84'-W | 2層 | 須恵器・土脚部 | SD130>SB358-P2・P395 |
| 131 | 4L-M | 弧状 | 11.37以上 | 28 | 12 | N-87'-W | 単層 | 土脚部 | SD131>SK327 調査区外に広がる |
| 133 | 3-4L | 弧状 | 7.76 | 28 | 6 | N-90'-W | 単層 | 須恵器 | |
| 134 | 4L | 弧状 | 5.45以上 | 23 | 7 | N-90'-W | 単層 | 土脚部 | 調査区外に広がる |
| 135 | 4L | 弧状 | 3.46 | 13 | 2 | N-90'-W | 単層 | | |
| 136 | 4-5M | 弧状 | 5.55以上 | 28 | 10 | N-87'-E | 単層 | | 調査区外に広がる |
| 138 | 3M | 弧状 | 2.88 | 45 | 3 | N-20'-E | 単層 | 須恵器・土脚部 | |
| 174 | 5N-O | 弧状 | 3.83 | 30 | 5 | N-88'-W | 単層 | 土脚部 | |
| 176 | 5M | 弧状 | 2.60以上 | 25 | 6 | N-87'-W | 3層 | 土脚部 | 調査区外に広がる |
| 177 | 5M | 平均状 | 2.82 | 26 | 7 | N-85'-W | 3層 | | |
| 201 | 4N/6M-N | 弧状 | 8.43 | 38 | 7 | N-90'-W | 単層 | 須恵器 | P202・P368<SD201<覆瓦 |
| 315 | 5O | 弧状 | 2.57 | 30 | 6 | N-86'-W | 単層 | | |
| 342 | 3-4L | 弧状 | 7.96 | 19 | 8 | N-85'-W | 単層 | | SD342>SB383-P8 |
| 361 | 3K-L | 平均状 | 7.12 | 26 | 13 | N-79'-W | 単層 | 土脚部 | SD361> SB383-P4・SB412-P4・P493 |
| 469 | 4-5N | 弧状 | 9.85 | 55 | 4 | N-0' | 単層 | 土脚部 | SD469>P380 |

第4表 北前田遺跡Ⅱ 畑作溝観察表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 器種 | 器種 | 遺存状態 | 外径 (cm) | 内径 (cm) | 重さ (g) | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|---------|------|----------|---------|--------|-----|
| 34 | 表層 | 土脚部 | 土脚 | | 破片 | 3.6 (測定) | | | 土脚質 |
| 35 | SB320-P3 | 覆土 | 土脚部 | カマドの芯材? | 破片 | | | | 土脚質 |

第5表 北前田遺跡Ⅱ 土製品観察表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 遺存状態 | 備考 |
|----------|--------------|----|----|---------|--------|---------|--------|-----|------|----|
| 36 | SK203 | | 磁石 | 10.1 | 3.6 | 2.5 | 160 | 安山岩 | | |

第6表 北前田遺跡Ⅱ 石製品観察表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 遺存状態 | 備考 |
|----------|--------------|----|----|---------|--------|---------|--------|------|----|
| 37 | SK365 | 覆土 | 刀子 | 13.5 | 1.25 | 0.65 | 15.44 | 刃先部欠 | |

第7表 北前田遺跡Ⅱ 金属製品観察表

| 掲載順 | 通称名・山名地点 | 樹種 | 樹幹・樹分 | 遺存部分・遺存率 | 口径 (cm) | 樹高 (cm) | 樹皮・色調 | 動土 | 切り直し・方向 | 課題 | 時期 | 備考 |
|-----|----------|----|-------|----------|---------|---------|-------|----|---------|----------|-----------|-------------|
| 1 | SK277 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.6 | 5.9 | 4.9 | 砂 | ロクロ子 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 2 | SK341 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 14.7 | 5.9 | 4.9 | 砂 | ロクロ子 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 3 | SK474 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 13.4 | 6.2 | 3.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 4 | SK112 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 16.0 | 8.9 | 4.2 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 5 | SK112 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 13.2 | 8.9 | 4.2 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 6 | SK112 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.3 | 8.0 | 3.4 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 7 | SK112 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 21.3 | 8.0 | 3.4 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 8 | SK189 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 15.0 | 10.6 | 3.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 9 | SK189 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 15.0 | 10.6 | 3.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 10 | SK189 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 21.9 | 11.9 | 3.2 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 11 | SK200 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 13.4 | 5.2 | 3.2 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 12 | SK200 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.0 | 6.0 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 13 | SK200 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.0 | 6.0 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 14 | SK203 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 16.3 | 3.0 | 3.0 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 15 | SK207 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.6 | 5.7 | 3.7 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 16 | SK251 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 13.0 | 9.1 | 3.7 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 17 | SK251 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 26.0 | 9.6 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 18 | SK251 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 26.0 | 9.6 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 19 | SK251 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 14.7 | 7.8 | 2.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 20 | SK251 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 22.9 | 15.1 | 3.0 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 21 | SK327 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 15.1 | 10.0 | 3.0 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 22 | SK327 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 11.7 | 6.1 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 23 | SK327 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 11.7 | 6.1 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 24 | SK327 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.0 | 5.7 | 3.5 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 25 | SK389 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 13.2 | 8.2 | 2.9 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 26 | SK389 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 14.8 | 8.2 | 2.9 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 27 | SK389 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 14.8 | 8.2 | 2.9 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 28 | SK468 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 10.5 | 10.6 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 29 | SK468 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 14.1 | 10.6 | 3.6 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 30 | SK114 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 14.1 | 7.7 | 2.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 31 | SK114 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.6 | 7.7 | 2.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 32 | 4N3 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.6 | 7.7 | 2.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |
| 33 | 3M2 | 栗上 | 上樹部 | 無存樹目 | 12.6 | 7.7 | 2.8 | 砂 | 栗上 | 栗上平口ロクロ子 | 9世紀末24年平樹 | 内外面にスス4が着する |

第8表 北前田通跡目 土器観察表

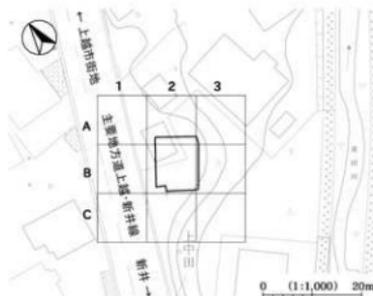
第IV章 野畔遺跡

1 グリッドの設定

グリッドは、『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』[金内ほか2008]のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標178k100m(世界測地系X=120937.0055;北緯37°05′22.73502″, Y=-23149.5914;東経138°14′22.54033″, 5J航)と同177k900m(世界測地系X=120791.299, Y=-23012.611, 25J航)を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横10m方眼を組み、大グリッドとした。

大グリッドは一辺10mで、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。野畔遺跡は、横軸大グリッド1～3、縦軸がA～Cである(第16図)。両者を組み合わせて「2B」のように表記した。

小グリッドは第17図のように北隅を起点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「2B15」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して46°46′05″東偏する。



第16図 野畔遺跡 グリッド設定図

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |

第17図 小グリッド模式図

2 基本層序 (図版18)

野畔遺跡は青田川左岸の沖積地に立地する。調査前現況標高20m前後、遺構検出面標高約19.7m前後を測る。遺構検出面は基本的に平坦である。基本層序は3層に分層した。なおI層の直上には砕石及び産業廃棄物を多量に含む盛土が約30cm堆積していた。

I層: にぶい黄褐色シルト(10YR5/3) 粘性弱、しまり中。φ5mm以下の炭化物少量含む。

II層: にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 粘性弱、しまり中。φ5mm以下の炭化物中量含む。

III層: 明黄褐色シルト(10YR6/6) 粘性弱、しまり中。φ3mm以下の炭化物少量含む(地山)。

3 遺 構

A 概 要

野畔遺跡は基本層序III層(地山)を遺構検出面として、掘立柱建物2棟、井戸1基、土坑2基、性格不

4 遺 物

明遺構2基、溝1条、ピット18基を検出した。構築時期は遺構内もしくはその周辺から出土する土器の年代からいずれも古代に比定される。

B 遺構各説

1) 掘立柱建物

SB34 (図版18・70)

2Bグリッドに位置する側柱建物である。P1がSK14と、P6がSD1とそれぞれ重複し、これらに切られている。建物の西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行2間以上(4.3m以上)、梁行2間(3.22m)の東西棟と推定される。面積は10.95㎡以上を測る。長軸方向はN-63°-Eを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱穴は東西方向に2基ずつ並んでおり、最低1回は建て替えられている。柱痕は各柱穴のいずれか1基に認められ、径約10~20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB46 (図版18・70)

2Bグリッドに位置する側柱建物である。P5がSX41と重複し、これに切られており、P3がSK11と重複し、これを切っている。南東隅の柱穴が調査区外に延びるが、桁行3間(4.33m)、梁行2間(3.48m)の長方形を呈する。面積は14.65㎡を測る。長軸方向はN-48°-Eを示し、東西棟となる。柱穴の規模はP3が長径51cmとやや大きいが、長径31~38cmに収まり、いずれも掘形を持つ。柱痕はP4・P5に認められ、径約15~20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

2) 井 戸

SE10 (図版18・19・71)

2A・Bグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径1.17~1.25m、検出面からの深さ1.67mを測る。断面は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトと褐灰色シルトを主体とし、8層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土1~3・5・6層から古代の土師器が出土している。

3) 土 坑

SK11 (図版18・19・70・71)

2Bグリッドに位置する。SB46-P3と重複し、これに切られている。平面形は隅丸長方形を呈し、長径1.92m、短径97cm、検出面からの深さ19cmを測る。長軸方向はN-2°-Eを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は明黄褐色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器が出土している。

SK14 (図版18・19・71)

2Bグリッドに位置する。SB34-P1と重複し、これを切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、長径2.73m、短径65cm、検出面からの深さ21cmを測る。長軸方向はN-7°-Eを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は明黄褐色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

4) 性格不明遺構

SX41 (図版 18・19・71)

2・3B グリッドに位置する。SB46-P5と重複し、これを切っている。東側が調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整形を呈するものと推定される。径 2.75m、検出面からの深さ 27cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトと明黄褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SX43 (図版 18・19・70・71)

2B グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 1.15m、短径 36cm、検出面からの深さ 15cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は明黄褐色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

5) 溝

SD1 (図版 18・71)

2B グリッドに位置する。SB34-P6と重複し、これを切っている。南側及び北側は調査区外に延びる。長さ 6.50m 以上、幅 1.11m、検出面からの深さ 41cm を測る。長軸方向は N-2°-W を示す。断面形は弧状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトと明黄褐色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(8世紀後半～9世紀前半)の須恵器(1～5)・土師器が出土している。

4 遺 物

A 概 要

出土した遺物は土師器 401 点、須恵器 13 点があり、その大部分は SD1 からの出土である。いずれも古代に比定される。そのほかに砥石 1 点が出土している。

B 土 器

SD1 (図版 19-1～5、図版 71)

須恵器杯蓋(1)、横瓶(2)、甕(3・4)、長頸壺(5)が出土している。1は頂部で摘みが付される。摘みは低めの凝宝珠形である。時期は8世紀後半～9世紀前半に比定される。2は横瓶の口縁部破片で、口縁端部が平坦となる。3・4は共に甕の底部破片である。5は長頸壺の底部破片である。高台部は幅広く、外端接地する。

C 石 製 品 (図版 19-6、図版 71)

6はII層から出土した砥石で、上半部を欠損する。台形状に面取りされ、砥面は下端部を含めて6面認められる。砥面には極めて明瞭な線状痕を残す。裏面には線状痕の無い所もあり、素材形成時の面取りの痕跡を残している。現存長 12.9cm、幅 3.5cm、厚さ 3.7cm、重量 187g を測る。石材はガラス質安山岩である。

5 ま と め

本遺跡は青田川の左岸、標高約 19.7 m の高田面に立地し、現況は宅地で、盛土されている。検出した遺構は古代の掘立柱建物 2 棟、井戸 1 基、土坑 2 基、溝 1 条である。遺物包含層の残りも悪く、8 世紀後半前後の遺物が若干している。須恵器の蓋・壺・長頸壺片等で、生活の基本となる器種セットは存在しない。掘立柱建物 2 棟のうち 1 棟は調査対象地外へ棟の一部が延び、柱間等は明らかではないが、同位置に新田の柱穴が検出され、建て替えが行われたことが明らかになった。2 棟の掘立柱建物は軸線が多少異なっているが、基本的には東西棟である。近接した北前田遺跡Ⅰ（B 地区）・北新田遺跡Ⅰ〔金内ほか 2008〕や平成 20 年度に実施した北前田遺跡Ⅱでも規模等は若干異なっているが該期の東西棟の掘立柱建物が検出されている。本遺跡の掘立柱建物は、相対的に小さくなり、柱穴も小型化しているのが特徴的である。

本発掘調査面積が狭小で遺構数・遺物量も少ないため、遺跡の全体像を把握することは極めて困難であるが、高田平野の古代集落の変遷については大きく 4 つの画期があるという〔笹澤 2003〕。それによれば、第 1 画期は 8 世紀中葉で、平野中央部の関川の河岸段丘上に集落が成立する。第 2 画期は 9 世紀中葉で、平野中央部の関川の河岸段丘上の集落が再編され、有力集落が出現する。第 3 画期は 10 世紀後半で、関川の河岸段丘上の集落の解体と内陸部集落が衰退する。第 4 画期は 11 世紀中葉で、直江津方面（日本海側）に新たな有力集落が成立する。これに当てると本遺跡は第 1 期に該当しよう。

本遺跡周辺における地形を詳細に観察すると、かつての青田川の流路と考えられる浅い谷状の地形が南北方向に数条残っている。北新田遺跡Ⅰ及び荒町南新田遺跡の発掘調査でも旧青田川と推定される自然流路が検出され、古代末までは流れており、中世段階では完全に埋まっていることが判明した〔金内ほか 2008・2010〕。この流路は順次東側から西側へ移動し、現青田川の流路が最終的姿を反映した結果と考えられる。仮に、北前田遺跡と野畔遺跡が同一面上にあったとすれば、一連の遺跡と考えられる。しかし、本遺跡は集落の中心域とは言えず、縁辺部として把握されよう。今回、両遺跡の発掘調査では、青田川の崖面は検出されていないが、時期不明ながら両遺跡の間を青田川が流れたものとするのが最も妥当であろう（平成 10 年上越市役所発行の 5,000 分の 1 地形図でも検出できる。また、現地の微地形観察からも明らかである）。

SB34

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|--|-----------|-------------|----|--------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長さ | 短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 2B7 | 長楕円形 | 不整形 | 19.67 | 19.12 | 47 | 26 | 51 | | 柱底有 | P1-P2:1.62m | | SB34-P1<SK14 |
| P2 | 2B2-3 | 楕円形 | U字状 | 19.62 | 19.17 | 48 | 37 | 45 | | 柱底有 | P2-P3:1.59m | | |
| P3 | 2B8 | 楕円形 | 不整形 | 19.53 | 19.13 | 47 | 34 | 55 | | 柱底有 | P3-P4:1.63m | | |
| P4 | 2B13-14 | 長楕円形 | 扇斗状 | 19.67 | 19.18 | 68 | 42 | 49 | | 柱底有 | P4-P5:1.87m | | |
| P5 | 2B13 | 長楕円形 | 杏形状 | 19.94 | 19.31 | 28 | 18 | 23 | | 柱底有 | P5-P6:2.53m | | |
| P6 | 2B12-16-17 | 円形 | 杏形状 | 19.57 | 19.28 | 29 | 26 | 29 | | 柱底有 | | | SB34-P6<SD1 |

SB46

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|--|-----------|-------------|----|--------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長さ | 短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 2B18 | 楕円形 | U字状 | 19.73 | 19.25 | 36 | 27 | 48 | | 柱底有 | P1-P2:1.27m | | |
| P2 | 2B13-14 | 楕円形 | U字状 | 19.73 | 19.17 | 33 | 24 | 56 | | 柱底有 | P2-P3:1.73m | | |
| P3 | 2B14 | 長楕円形 | 杏形状 | 19.66 | 19.09 | 51 | 33 | 56 | | 柱底有 | P3-P4:1.32m | | SB46-P3>SK11 |
| P4 | 2B10 | 楕円形 | U字状 | 19.63 | 18.96 | 37 | 32 | 68 | | 柱底有 | P4-P5:1.56m | | |
| P5 | 2B15 | 楕円形 | 半円状 | 19.43 | 19.14 | 32 | 27 | 29 | | 柱底有 | | | SB46-P5<SX41 |
| P6 | 2B20 | 円形 | U字状 | 19.59 | 18.99 | 33 | 29 | 60 | | 柱底有 | P6-P7:1.72m | | |
| P7 | 2B25 | 楕円形 | U字状 | 19.36 | 19.17 | 31 | 26 | 19 | | 柱底有 | P7-P8:1.12m | | |
| P8 | 2B24 | 円形 | U字状 | 19.55 | 19.16 | 32 | 28 | 40 | | 柱底有 | P8-P9:1.69m | | |
| P9 | 2B19 | 円形 | U字状 | 19.65 | 19.32 | 38 | 36 | 33 | | 柱底有 | P9-P1:1.74m | | |

第 9 表 野畔遺跡 掘立柱建物柱穴観察表

| 掘削 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 種類 | 部材・ 断面 | 遺存部位・ 遺存率 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 焼成・色調 | 胎土 | 調整 | 時期 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|-----------|--------------|------------|------------|---------|----|----------------|-----------------|-------|
| 1 | SD1 | 覆土3 | 須恵器 | 蓋 | 胴部～底部破片 | | | 還元炎・灰色 | 白 | 外面上半 口ケロケズリ | 8世紀後半～ 9世紀前半 | |
| 2 | SD1 | 覆土1 | 須恵器 | 横瓶 | 口縁部～底部破片 | 20.7 | | 還元炎・灰色 | 白 | | | |
| 3 | SD1 | 覆土1 | 須恵器 | 蓋 | 胴部～底部破片 | | 10.7 | 還元炎・黄灰色 | 白 | | | 内面自然蝕 |
| 4 | SD1 | 覆土1 | 須恵器 | 蓋 | 胴部～底部破片 | | | 還元炎・灰色 | 砂 | 外面下半 平行タタキ | | 内面自然蝕 |
| 5 | SD1 | 覆土1 | 須恵器 | 長頸壺 | 底部 | | 9.8 | 還元炎・灰色 | 砂 | | | |

第 10 表 野畔遺跡 土器観察表

| 掘削 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 遺存状態 | 備考 |
|----------|--------------|----|----|---------|--------|---------|--------|---------|-------|----|
| 6 | | II | 磁石 | 12.9 | 3.5 | 3.7 | 187 | ガラス質安山岩 | 上半部欠損 | |

第 11 表 野畔遺跡 石製品観察表

第V章 諏訪前遺跡

1 グリッドの設定

グリッドは、新幹線本線部分の中心座標 175k300m (世界測地系 X = 118798.3303: 北緯 37° 04' 13.50757", Y = -21343.2230: 東経 138° 15' 35.90869") と同 175k340m (世界測地系 X = 118827.7994: 北緯 37° 04' 14.46138", Y = -21370.2708: 東経 138° 15' 34.81036") を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横 10m 方眼を組み、大グリッドとした。

大グリッドは一辺 10m で、横軸方向の北西側から算用数字、縦軸方向の北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。両者を組み合わせて「1A」のように表記した。諏訪前遺跡は、横軸が大グリッド 1~2、縦軸が A~B である (第 18 図)。

小グリッドは第 19 図のように北隅を起点として、大グリッドを 2m 方眼に 25 等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「1A1」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して 42° 30' 20" 東偏する。



第 18 図 諏訪前遺跡 グリッド設定図

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |

第 19 図 小グリッド模式図

2 基本層序 (図版 20)

諏訪前遺跡は矢代川と関川の間の中積地に立地する。調査前現況標高は 19.8 m 前後、検出面標高は 18.9 m 前後を測る。遺構検出面はほぼ平坦である。

I a 層: 暗赤灰色砂質粘土 (10R3/1) 粘性弱、しまり強。炭化物を少量含む。現水田耕作土。

I b 層: 赤灰色砂質粘土 (10R5/1) 粘性弱、しまり強。水田の床土か客土と考えられる。

I c 層: 赤灰色粘土 (10R5/1) 粘性弱、しまり強。水田の床土か客土と考えられる。

II 層: 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、しまり中。調査区西側で見られる。

III a 層: 黒褐色シルト (7.5YR3/1) 粘性中、しまりやや強い。

褐灰色砂質シルト (10YR4/1) ブロックを中量含む。古代の遺物包含層である。

III a 層: 褐灰色砂質シルト (10YR4/1) 粘性中、しまりやや強い。調査区南側で部分的に見られる。

III b 層: 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性やや強、しまり中。古代の遺物包含層である。

IV 層: オリーブ黒色砂 (7.5Y3/1) 粘性なし、しまりやや強い (地山)。

3 遺 構

A 概 要

基本層序IV層(地山)を遺構検出面として、調査区の東側と西側で土坑を2基検出した。いずれの土坑からも遺物は出土していないが、田層から古代の土器が出土していることから、当該期の遺構と考えられる。

B 遺構各説

1) 土 坑

SK5 (図版 20・72)

1A・Bグリッドに位置する。試掘調査時に検出したもので、平面形は試掘トレンチで南西側の大部分を欠失しているものの、楕円形を呈すものと推定される。径87cm、検出面からの深さ19.5cmを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK11 (図版 20・72)

1・2Aグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径1.68m、短径1.21m、検出面からの深さ43cmを測る。主軸方向はN-50°-Wを示す。底面はやや凸凹があり、断面形は半円状を呈する。覆土は黒色砂質シルトと黒褐色粘土の2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

4 遺 物

A 概 要

出土した遺物は土器器71点、須恵器21点、木簡1点があり、全て遺構外出土である。包含層(Ⅲ層)から出土した土器の大多数は古代に属するが、中世の珠洲焼が1点確認されている。盛土及び攪乱からは須恵器、珠洲焼、青磁が少量出土している。木簡はその出土層位(Ⅱ層)から中世以降のものと考えられる。

B 土器・陶磁器

須恵器 (図版 20・1~4、図版 72)

1は杯蓋の体部で緑色の自然釉が掛かる。2・3は有台杯で、2は腰部に明瞭な稜を持ち、高台は外端接地する。3は底部片で、底径が9.2cmを測る大型のものである。底部にはヘラ切り痕が残る。4は無台杯の底部片である。内外面に火ダスキ痕が確認される。底部外面にはヘラ切り痕が残る。

珠洲焼 (図版 20・5、図版 72)

5は片口鉢で内面に3条の卸し目がみられるが、かなり磨耗している。時期は14世紀前半以降に比定される。

青磁 (図版 20・6、図版 72)

6は碗の体部下半である。軸は濃緑色で貫入が見られ、磁胎は明灰色である。時期は14世紀末に比定される。

C 土 製 品 (図版 20- 7、図版 72)

7は現存長4.8cm、直径5.6cmを測る土師質土製品である。形態から高坏の脚部と考えられる。高温で焼けた痕跡があることから羽口に転用された可能性もある。

D 木 製 品 (図版 20- 8、図版 72)

II層から木簡が1点出土している(8)。上下端及び左右辺ともに原状をとどめるが、中央付近で図正面から刃物を入れて切断している。図正面に「廿一神」、裏面に九口〔神カ〕と記されていることから、日蓮宗で重視された三十番神の信仰に関わる可能性がある。

5 自然科学分析

基本土層におけるイネ科草本植生の変遷及び栽培植物の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

A 試 料

試料は、調査区壁面から採取された土壌4点(第20図-試料番号1~4)である。土壌試料は、基本土層IV層(試料番号4)、III b層(試料番号3)、III a'層(試料番号2)、II層(試料番号1)から採取されており、IV層は古代の遺構検出面、III b層は古代の遺物包含層、III a'層はIII b層を被覆する砂層、II層は中~近世の堆積物とされている。

試料の観察では、IV層(試料番号4)はオリーブ黒色の細粒砂、III b層(試料番号3)は黒褐色のシルト混じり極細粒砂、III a'層(試料番号2)は褐灰色の極細粒砂、II層(試料番号1)は黒褐色の砂混じりシルトからなることが観察された。本分析では、これらの4試料を対象に植物珪酸体分析を行う。

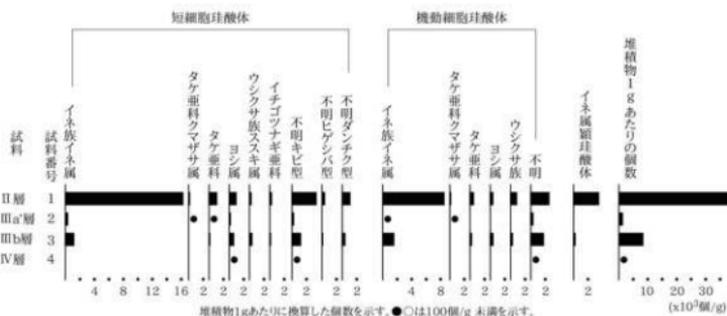
B 分析 方法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ホリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)及び葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、[近藤 2004]の分類に基づいて同定・計数する。分析の際、試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は100単位とし、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に100単位として表示する。各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化を図示する。

C 結 果

結果を第20図及び第12表に示す。基本土層の各試料から検出された植物珪酸体は、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められるなど保存状態は不良である。以下に、各試料の産状を記す。



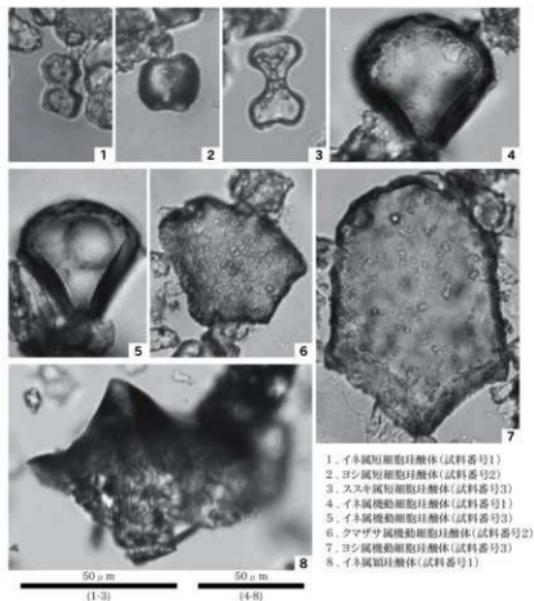
第20図 植物珪酸体含量

| 分類群 | 試料 | 1 (I層) | 2 (IIIa層) | 3 (IIIb層) | 4 (IV層) |
|--------------|----|--------|-----------|-----------|---------|
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | | | | | |
| イネ属イネ属 | | 16,200 | 300 | 1,100 | - |
| タケ亜科クマザサ属 | | 100 | <100 | - | - |
| タケ亜科 | | 1,100 | <100 | 100 | - |
| ヨシ属 | | 1,050 | 100 | 600 | <100 |
| ウシクサ属ススキ属 | | 200 | - | - | - |
| イチゴツナギ亜科 | | 200 | - | 100 | - |
| 不明キビ型 | | 3,300 | 300 | 1,200 | <100 |
| 不明ヒゲシハ型 | | 400 | - | 100 | - |
| 不明ウシクサ型 | | 1,100 | - | 400 | - |
| イネ科葉部機動細胞珪酸体 | | | | | |
| イネ属イネ属 | | 8,500 | <100 | 1,500 | - |
| タケ亜科クマザサ属 | | 100 | <100 | - | - |
| タケ亜科 | | 500 | - | 200 | - |
| ヨシ属 | | 400 | - | 400 | - |
| ウシクサ属 | | 800 | - | 300 | - |
| 本明 | | 2,500 | 300 | 1,700 | <100 |
| 非化糞質 | | | | | |
| イネ属短細胞珪酸体 | | 3,500 | - | 200 | - |
| 合 計 | | | | | |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | | 23,600 | 800 | 4,000 | 100 |
| イネ科葉部機動細胞珪酸体 | | 12,800 | 400 | 4,100 | 100 |
| 非化糞質 | | 3,500 | 0 | 200 | 0 |
| 総 計 | | 39,900 | 1,200 | 8,300 | 200 |

第12表 植物珪酸体含量

IV層(試料番号4)は、4試料中で最も植物珪酸体含量が低く、約200個/gである。検出される分類群も少なく、ヨシ属等がわずかに認められるのみである。上位のIIIb層(試料番号3)では、植物珪酸体含量は約8,300個/gである。栽培植物のイネ属の葉部や籾殻(穎)に形成される植物珪酸体を検出され、このうち珪酸体は珪化組織片が認められる。その含量は、短細胞珪酸体は約1,100個/g、機動細胞珪酸体は約1,500個/g、珪酸体は約200個/gである。この他に、タケ亜科やヨシ属、ススキ属を含むウシクサ属、イチゴツナギ亜科などが検出される。IIIa層(試料番号2)は、上・下位の試料に比べ植物珪酸体含量が低く、約1,300個/gである。イネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体を検出される。その含量は、短細胞珪酸体は約300個/g、機動細胞珪酸体は100個/g未満である。この他に、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属などが検出されるが、上・下位の試料に比べ検出される分類群は少ない。II層(試料番号1)は、試料中で植物珪酸体含量が最も高い値を示し、約4万個/gである。イネ属の葉部に形成さ

れる短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体、粉殻（穎）に形成される穎珪酸体が検出される。その含量は、短細胞珪酸体は約 1.6 万個 /g、機動細胞珪酸体は約 8,500 個 /g、穎珪酸体は約 3,500 個 /g である。また、計数していないが、イネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体を含む珪化組織片の産出も顕著である。この他に、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ属、イチゴツナギ亜科などが検出される。



第 21 図 植物珪酸体

D 考 察

古代及び中～近世と考えられる堆積物を対象とした植物珪酸体分析結果では、基本土層間で検出される分類群や含量に変化が認められ、その産状はⅡ層（試料番号 1）が最も良好であった。なお、植物珪酸体含量の値が低いⅣ層やⅡ層は、試料の観察ではいずれも砂質な堆積物であったことから、堆積速度が速かったことや植物珪酸体が蓄積し難い環境であったことが推定される。

古代の遺構検出面のⅣ層（試料番号 4）は、植物珪酸体含量は少なく、ヨシ属や不明キビ型がわずかに検出されるのみであった。ヨシ属は、河畔や湿地などの湿った環境に生育する種類であることから、周辺の河畔等に生育していた可能性がある。古代の遺物包含層のⅢ層（試料番号 3）では、栽培植物のイネ属をはじめ、ヨシ属やススキ属、イチゴツナギ亜科等が検出された。このうち、イネ属は、短細胞珪酸体が約 1,100 個 /g、機動細胞珪酸体が約 1,500 個 /g、穎珪酸体が約 200 個 /g 認められた。水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料 1g 当り 5,000 個以上の密度

で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている[杉山 2000]。このことから、本遺跡での稲作の可能性は低いとみられるが、イネの植物体の利用や集水域等で稲作が行われていた可能性がある。また、この他に検出された分類群から、周辺の河畔にはヨシ属やススキ属等が生育していた可能性がある。

Ⅲ a' 層(試料番号 2)は、Ⅳ層と同様に植物珪酸体含量が少なく、わずかにイネ属、クマザサ属、ヨシ属等が検出されるのみであった。クマザサ属には、落葉広葉樹林の林床に生育する種類が含まれる。岩ノ原遺跡や北新田遺跡で実施された花粉分析では、西側の丘陵地などにブナ属を主体とした落葉広葉樹林の存在が示唆されている[バリノ・サーヴェイ株式会社 2008a・2008b] ことから、こうした落葉広葉樹林の林床に生育していた個体由来する可能性がある。

中～近世の堆積物とされるⅡ層(試料番号 1)では、栽培植物のイネ属を主体に、タケ亜科、ヨシ属等が検出された。イネ属の機動細胞珪酸体含量が約 8,500 個/g と高い値を示すことやイネ属の葉部や穎に由来する珪化組織片の産状、上記の点を考慮すると、本土層において稲作が行われていた可能性や、イネ属に由来する植物体の供給が推定される。なお、本地点における稲作については、畦畔等の検出やこの他の稲作の可能性を示唆する資料の有無など発掘調査成果と合わせた評価が望まれる。一方、イネ属を除く分類群は、下位のⅢ a 層やⅢ b 層と類似していることや、含量におおきな変化が認められないことから、周辺には同様のイネ科草本類が生息したと考えられる。

6 ま と め

本遺跡の発掘調査では遺物包含層の残存状況が非常に悪く、古代及び中世の遺物が若干出土したのみである。遺構も土坑が 2 基検出されたものの、これに伴う遺物がないことから正確な時期決定はできない。主体となる時代は平安時代のもので、遺物総数及び器種構成から消費地遺跡としての把握は困難である。調査対象地外に中核的遺跡の存在が考えられると言いたい所であるが、この地域の該期の遺跡は相対的に関川右岸に発達した高田面上の自然堤防上の遺跡より劣っていると言えよう。

これは高田平野における段丘の形成に深く関わっていると思われる。高田平野は関川を中心に沖積地が良好に発達し、上面から高田面、関川面、最下面が関川氾濫原面の 3 面に区分されている。高田面が最も大きな比率を占め、関川面、関川氾濫原面は関川が著しく大規模に蛇行しながら上位面である高田面を開析した跡であると考えられている。本遺跡は関川左岸の高田面上に位置し、標高約 19 m である。東南 600 ~ 800 m には平成 15 年に県教委が発掘調査した台の上遺跡や峪ノ上遺跡[渡邊 *et al.* 2005]があり、段丘の東端に当たり、関川面との比高差 2 m 強を測るといふ。南側は標高 19 m で、妙高市杉明遺跡・倉田遺跡・東沖遺跡・栗原遺跡などの比較的大規模な 7 世紀代から 8 世紀の遺跡が分布している。一方、本遺跡の西側 500 m では矢代川の蛇行原が始まる。本遺跡は関川と矢代川に挟まれた高田面上にある遺跡であるが、最も北端に位置し、関川面や矢代川の氾濫原に面していたと考えられる。

植物珪酸体分析結果でも、中世から近世は珪酸体が多く、顕著で、水田耕作(稲作)がなされていたとするが、古代の遺物包含層および遺構検出面の上層はいずれも砂質な堆積物で、堆積速度が速く、珪酸体が蓄積しにくい環境で、河畔や湿地に生育するヨシ属や不明キビ型が周辺に生育していた可能性があるという。発掘調査範囲が狭く、的確なことは言えないが、古代にあっては水田耕作(稲作)には適さない地で、当時の人々も生活し得ない地域であったのであろう。

観 察 表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 種類 | 器種・ 細分 | 遺存部位・ 遺存率 | 口径 (cm) | 直径 (cm) | 焼成・ 色調 | 胎土 | 切り継し・ 方向 | 調整 | 時期 | 備考 |
|----------|--------------|----|-----|-----------|--------------|------------|------------|-------------|------------|----------------|-------|--------------------|-------|
| 1 | | Ⅱa | 須恵器 | 杯蓋皿 | 体部～底部 破片 | 13.7 | | 還元炎・ 灰色 | 黒 | 外面上半 ロクロケズリ | ロクロナデ | 8世紀末～ 9世紀初頭 | 外面白黒軸 |
| 2 | 2B6 | Ⅱa | 須恵器 | 有台杯 | 体部～底部 破片 | | | 還元炎・ 青灰色 | 石・白 | | ロクロナデ | 9世紀第2四半期～ 第3四半期 | |
| 3 | | Ⅱa | 須恵器 | 有台杯 | 体部～底部 破片 | | 9.2 | 還元炎・ 灰色 | 白・黒 | へう切り | ロクロナデ | 8世紀第2四半期～ 第3四半期 | |
| 4 | 1B10 | Ⅱb | 須恵器 | 無台杯 | 体部～底部 破片 | | 7.1 | 還元炎・ 灰色 | 白 | へう切り | ロクロナデ | 8世紀末～ 9世紀初頭 | 火ダスキ |
| 5 | | Ⅵ丸 | 珠洲焼 | 片口鉢 | 体部～底部 破片 | | | 還元炎・ 灰色 | 白・黒 | | ロクロナデ | 14世紀前半以降 | |
| 6 | 1B7 | Ⅵ丸 | 青磁 | 碗 | 体部下半 破片 | | (5.2) | 還元炎・ 濃緑色 | 磁胎・ 明灰色 | | | 14世紀末 | |

第 13 表 諏訪前遺跡土器観察表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 種類 | 器種 | 遺存状態 | 外径 (cm) | 内径 (cm) | 重さ (g) | 備考 |
|----------|--------------|----|-----|-----|-------|---------|---------|--------|---------|
| 7 | 1B5 | Ⅱa | 土師器 | 須口? | 片根端部欠 | 5.6 | 3.8 | | 高杯の軌用品? |

第 14 表 諏訪前遺跡土製品観察表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位・ 取り上げ等 | 品名 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 木取り | 備考 |
|----------|--------------|--------------|----|----|---------|--------|---------|-----|----|
| 8 | 1B13 | Ⅱ | 木簡 | | 15.1 | 2 | 0.6 | 板口 | |

第 15 表 諏訪前遺跡木製品観察表

第VI章 北新田遺跡Ⅱ

1 グリッドの設定

グリッドは、『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』[金内ほか2008]のグリッドを適用した。新幹線本線部分の中心座標 178k100m（世界測地系 X = 120937.0055：北緯 37° 05′ 22.73502″、Y = -23149.5914：東経 138° 14′ 22.54033″、5J 杭）と同 177k900m（世界測地系 X = 120791.299、Y = -23012.611、25J 杭）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横 10m 方眼を組み、大グリッドとした。

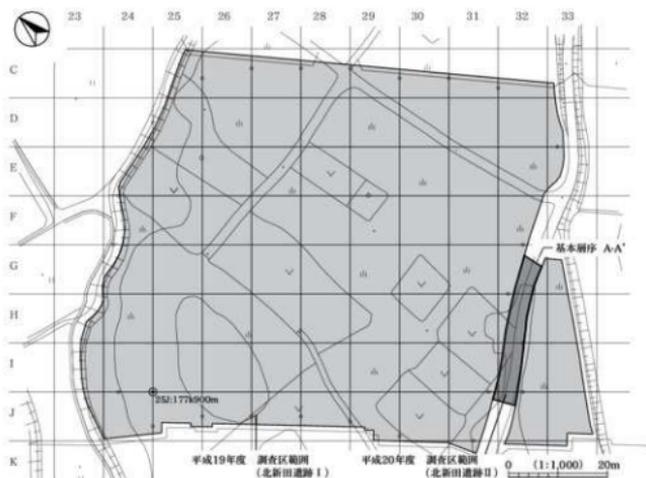
| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |

0 (1:400) 10m

第23図 小グリッド模式図

大グリッドは一辺 10m で、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。北新田遺跡Ⅱは横軸が大グリッド 31～32、縦軸が G～J である（第 22 図）。これを組み合わせて「32G」のように表記した。

小グリッドは第 23 図のように北隅を起点として、大グリッドを 2m 方眼に 25 等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「32G15」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して 46° 46′ 05″ 東偏する。



第 22 図 北新田遺跡Ⅱ グリッド設定図

2 基本層序

北新田遺跡は高田平野の西縁を流れる青田川右岸の沖積地に立地する。調査前現況標高18m前後、遺構検出面標高17.8m前後を測る。遺構検出面は基本的には平坦である。現況は農道であり、農道敷設の際、遺構の一部分が削平されていた。また調査区中央では調査区を縦断するように水道送水管が敷設され、その部分の遺構・遺物は消滅していた。基本層序は3層に分層した(第24図)。

I層：碎石を含む盛土。

II層：黒褐色シルト(10YR3/1) 粘性中、しまり中。最大10cm程度の堆積である。

III層：明黄褐色シルト(10YR6/6) 粘性中、しまり中(地山)。



第24図 北新田遺跡II 基本土層図

3 遺 構

A 概 要

北新田遺跡では基本層序III層(地山)を遺構検出面として、竪穴住居3棟、掘立柱建物1棟、土坑4基、性格不明遺構3基、溝14条、ピット27基を検出した(平成19年度の調査で検出したものも一部含める)。構築時期に関しては、出土物の年代から判断できるものを列挙すると、古墳時代前期：竪穴住居1棟、古墳時代後期：竪穴住居1棟。古代：竪穴住居1棟、土坑1基、溝2条となる。

B 遺構各説

1) 古墳時代前期の遺構

a 竪穴住居

SI1660 (図版23・25・74)

311、321・Jグリッドに位置する竪穴住居である。北側でSK1678・SD1644・1659、南側でSD1650・1658とそれぞれ重複し、これらに切られている。形態から南東側が平成19年度の調査範囲まで延びていたものと考えられるが、遺跡の遺存状況が良好でなかったこともあり、平面全体を検出することはできなかった。

平面形は隅丸方形を呈すると考えられ、規模は長軸7.64m以上、短軸4.22m以上、検出面から床面までの深さ12cm、面積は34.56㎡以上と推定される。長軸方向はN-16°-Eを示す。覆土は黒色シルトを主体とし、2層に識別される。覆土2層は褐灰色シルトと灰黄褐色シルトの混合土が厚さ4cm程度堆積しており、覆土1層に比べしまりがあることから粘床と認識した。壁面の立ち上がりは遺存状況が不良

のため、明らかにできなかった。

柱穴は北東隅に1基(SI1660-P1)検出した。掘形を持ち、規模は径38～44cm、床面からの深さ58cmを測る。柱痕が認められ、径約12cmの柱が据えられていたものと推定される。周溝は北壁際から西壁際を巡り、南壁際付近まで幅11～21cm、床面からの深さ1～17cmを測る。炉は検出できなかった。遺物は覆土から古墳時代前期の器台(6)が出土している。遺構の存続時期は出土した遺物の年代から古墳時代前期と考えられる。

2) 古墳時代後期の遺構

a 竪穴住居

SI203 (図版23・24・73・74)

31H・I、32H・Iグリッドに位置する竪穴住居である。北側は平成19年度の調査[金内ほか2008]で検出した。東側でSD1637・1638、中央部でSD1666・1667、南東側でSK1645とそれぞれ重複し、これらに切られている。

平面形は隅丸方形を呈しており、長軸6.68m、短軸6.53m、検出面から床面までの深さ28cm、面積は38.04㎡を測る。長軸方向はN-86°-Eを示す。覆土は褐灰色と灰黄褐色シルトを主体とし、2層に識別され、水平に堆積する。床面はやや凹凸があり、しまりは中で硬化面は認められない。壁面の立ち上がりは一定でない。周溝は新たに南壁際西側で検出した。規模は幅6～60cm、床面からの深さ3～12cmを測る。その一方で平成19年度の調査で認めた周溝の続きは検出できなかった。農道敷設の際に削平されたためと考えられる。

柱穴は平成19年度の調査と合わせて北東隅、北西隅、南東隅(SI203-P1)に計3基検出した。南西隅の柱穴はその位置から水道管敷設の際に削平されたものと考えられる。いずれも掘形を持ち、規模は長径55～60cm、短径45～50cm、床面からの深さ54～84cmを測る。柱痕が認められ、径約22cmの柱が据えられていたものと推定される。

カマドは東辺の南寄りに存在する。火床部は長径24cm、短径5cmを測る。火床部はわずかに掘り込まれている程度で、厚さ5cmで赤化している。袖・煙道部は残存していない。また住居中央部で地床炉を1基検出した(SX1676)。SX1676は円形ないし楕円形を呈するものと考えられ、径55～82cm以上、床面からの深さ4cmで赤化している。遺物は大部分がカマドの南側から出土しており、総重量は3.53kgを測る。須恵器杯蓋(1)・土師器甕(2～4)・甌(5)が出土している。遺構の存続時期は出土した遺物の年代から7世紀前半頃と推定される。

3) 古代の遺構

a 竪穴住居

SI847 (図版22・24・75)

32Gグリッドに位置する。北西側は平成19年度の調査[金内ほか2008]で検出した。平面形は不整長方形を呈し、長軸2.73m、短軸2.04m、検出面からの深さ13cm、面積は5.42㎡を測る。長軸方向はN-69°-Wを示す。覆土は暗青灰色シルトと褐灰色シルトの2層に識別され、水平に堆積するが、北西側では覆土1層は検出されなかった。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面は遺存状況が良くないため、その立ち上がりは不明で

4 遺 物

ある。周溝・柱穴・カマド・炉は検出できなかったものの、平面形や床面が平坦であることから、土坑ではなく竪穴住居とした。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器(7)が出土している。

b 土 坑

SK1678 (図版 23・25)

32I グリッドに位置する。SI1660 と重複し、これを切っている。形態から南東側が平成 19 年度の調査範囲まで延びていたものと考えられるが、遺跡の遺存状況が良好でなかったこともあり、全体は検出できなかった。平面形は方形を呈するものと推定され、長辺 53 ～ 61cm、検出面からの深さ 14cm を測る。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器と古代の須恵器が出土している。

c 溝

SD845 (図版 22・24)

32G グリッドに位置する。北側は平成 19 年度の調査 [金内^{ほか}2008] で検出した。長さ 9.30m 以上、幅 50 ～ 66cm、検出面からの深さ 20cm を測る。長軸方向は $N-3^{\circ}-E$ を示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗青灰色シルトを主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積するが、北側では覆土 2層は検出されなかった。遺物は覆土から土師器及び古代の須恵器が出土している。

SD846 (図版 22・24)

31・32G、32H グリッドに位置する。北側は平成 19 年度の調査 [金内^{ほか}2008] で検出した。南側で SD1612・1614 と重複し、これに切られる。長さ 10.57m、幅 25 ～ 40cm、検出面からの深さ 14cm を測る。長軸方向は $N-5^{\circ}-W$ を示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗青灰色シルトと明黄褐色シルトの 2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器が出土している。

4) 時期不明の遺構

a 掘立柱建物

SB1605 (図版 22・24・75)

32・33G グリッドに位置する側柱建物である。西側は水道送水管が敷設されているため一部の遺構が消滅しており、東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行 3間 (5.15 ～ 5.17m)、梁行 2間 (4.11 ～ 4.28m) の長方形を呈するものと考えられる。面積は、21.61㎡と推測される。長軸方向は $N-83^{\circ}-W$ を示し、東西棟となる。P2 ～ 4 は平成 19 年度の調査 [金内^{ほか}2008] で検出したものである。柱穴はいずれも掘方を持つ。柱痕は P1 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

b 土 坑

SK1619 (図版 22・24)

32G グリッドに位置する。位置関係から SK857 と重複していたものと考えられるが、新旧関係は不明である。なお SK857 は平成 19 年度の調査 [金内^{ほか}2008] では北側半分を検出したが、今回の調査ではこの続きを検出できなかった。農道敷設の際削られたためと考えられる。平面形は不整形を呈する。長径 62cm、短径 27cm、検出面からの深さ 30cm を測る。長軸方向は $N-54^{\circ}-W$ を示す。覆土は暗

赤褐色シルトと赤灰粘質シルトの混合土の単層である。遺物は出土していない。

SK1645 (図版 23・25・75)

32H グリッドに位置する。東側は平成 19 年度の調査〔金内^{ほか}2008〕で検出した。西側で SI203 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径 99cm、短径 85cm、検出面からの深さ 32cm を測る。長軸方向は $N-61^{\circ}-E$ を示す。断面形は半円状を呈する。覆土は褐色シルトを主体とし、2 層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

SK1679 (図版 23・25)

32J グリッドに位置する。平面形は東側が攪乱を受けているため明らかではないが、方形を呈するものと考えられる。長径 2.73m 以上、短径 2.04m 以上、検出面からの深さ 13cm を測る。覆土は暗青灰色シルトを主体とし、2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構

ここでは平面形が不整形を呈するもの、攪乱等でその大半を消失している遺構を性格不明遺構とした。

SX1609 (図版 22・24)

32H グリッドに位置する。平面形は南側が攪乱を受けて明らかではないが、不整形を呈するものと考えられる。径 1.64m、検出面からの深さ 10cm を測る。断面形は底面に凹凸が見られ、不整形を呈する。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が出土しているが細片のため時期を特定することはできなかった。

SX1665 (図版 23・25)

32I グリッドに位置する。平面形は西側が攪乱を受けて明らかではないが、楕円形を呈するものと考えられる。長径 51cm、短径 22cm 以上、検出面からの深さ 5cm を測る。長軸方向は $N-55^{\circ}-E$ を示す。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

d 溝

遺物が出土していない、もしくは遺物の時期が特定できないため時期不明とした溝は 12 条検出され、個別のデータは観察表にまとめた(第 11 表)。それらの位置関係や SD1650 を除くと長軸方向は東西方向を示すこと、切り合い関係から北新田遺跡 II のなかでも最も新しい段階に位置付けられることを考慮すると、平成 19 年度の調査で検出した畑作溝 II 群〔金内^{ほか}2008〕との関連が推定できる。なお畑作溝 II 群の一部は北新田遺跡 II の調査範囲まで延びているものと考えられるが、1 条を除く全てが農道敷設の際に削平されていた。

4 遺 物

A 概 要

出土遺物は古墳時代前期の土師器、後期の須恵器・土師器、古代の須恵器・土師器があり、その中でも SI203 から出土した古墳時代後期の土器が大半を占める。

B 土 器

SI203 (図版 25-1~5、図版 75)

須恵器杯蓋(1)、土師器甕(2~4)、甕(5)が出土した。1は頂部が平坦で、端部は丸く収まっている。2・3は頸部の屈曲が緩やかで、体部は長胴を呈するものと考えられる。外面には粗いハケ調整が縦位に施されている。4も体部は長胴を呈するものと考えられる。外面は縦位のハケ調整が施され、内面は平滑である。5は底部が筒抜けの甕で、頸部の屈曲はほとんどない。外面は縦位のハケ調整、内面は横位のハケ調整が施されている。いずれの土器も時期は7世紀前半に比定される。

SI1660 (図版 25-6、図版 75)

器台(6)が出土した。脚部破片で、内外面ともに風化が著しく調整方法は不明である。時期は古墳時代前期に比定される。

SI847 (図版 25-7、図版 75)

須恵器甕(7)が出土した。体部下半の破片で、外面が平行タキ、内面には同心円当て具痕がある。時期は9世紀に比定される。

遺構外出土 (図版 25-8、図版 75)

32H21 グリッドII層から須恵器無台杯(8)が出土した。体部のロクロ目が目立ち、底部の切り離しはヘラ切りである。胎土から小泊窯産と推定され、時期は9世紀中葉に比定される。

5 ま と め

—北新田遺跡IIにおける遺構の変遷—

平成19年度に調査を実施した北新田遺跡Iの遺構の変遷〔金内^{ほか}2008〕を基に、北新田遺跡IIについても遺構の存続時期を伴出する遺物の年代と遺構の形態から3時期に区分した。時期区分は『北前田遺跡I・北新田遺跡I』〔金内^{ほか}2008〕と共通のものとしたが、遺構・遺物を検出できなかった1b期(古墳時代前期後半)、3期(8世紀中葉)、5期(10世紀中葉~11世紀初頭)及び中世については記述していない。また比較対象として北新田遺跡Iや南側に隣接する荒町南新田遺跡〔金内^{ほか}2010〕の遺構の様相も併せて考えて記述した。

1a期(古墳時代前期初頭) 北新田遺跡IIで検出した竪穴住居1棟(SI1660)は古墳時代前期の器台が出土しているが、脚部破片であるため詳細な時期決定はできなかった。しかしその面積は34.56㎡と推定され、北新田遺跡Iでの1a期の竪穴住居3棟の面積(36.25~38.18㎡)とほぼ同規模である。また住居中央部に炉が検出できず、周溝も明瞭ではないこと等共通性が多く見られる。さらにSI1660は31I、32I・Jグリッドに位置しており、北新田遺跡Iでの1a期の遺構を検出した範囲内に納まる。このことからSI1660は1a期に位置付けられるものと考えられる。

2期(古墳時代後期:7世紀前葉~中葉) 当該期の遺構は竪穴住居1棟(SI203)がある。北新田遺跡I及び荒町南新田遺跡において当該期の竪穴住居22棟を検出しており、この段階では大規模な集落が営まれていたものと考えられる〔金内^{ほか}2008・2010〕。

SI203は面積が38.04㎡を測り、東辺にカマドを持ち、中央部に地床炉を有している。柱穴は攪乱により南西隅の1本を消失しているが、各コーナーに4本あったものと考えられる。周溝は壁際に断続的

に存在する。これらの特徴は北新田遺跡I及び荒町南新田遺跡における当該期の竪穴住居と比較しても際立った違いは認められない。またカマドと炉を併設する竪穴住居はSI203以外にも北新田遺跡Iで2棟、荒町南新田遺跡で3棟検出されている。カマド初期期の例では炉を併設するのが一般的で、炉が消滅しカマドのみとなるのは7世紀中葉以降とされているが〔田嶋1992〕、両遺跡におけるカマドのみの竪穴住居と比較しても出土遺物の年代に際立った違いは見出せなかった。新潟県内においては類例が少ないため、今後の資料の増加が期待される。

4期(古代:9世紀中葉) 当該期の遺構は竪穴住居1棟(SI847)、土坑1基(SK1645)、溝2条(SD845・846)がある。いずれも平成19年度の調査で検出したものの続きである。SI847は面積が5.42㎡を測る。柱穴・周溝・炉・カマドは検出できないものの、平面形や床面が平坦であることなどを考慮して土坑ではなく竪穴住居と考えておきたい。

北新田遺跡IIはその位置関係から見ても北新田遺跡Iで検出した集落の一部であり、その様相についても際立った違いは見受けられない。

SB1605

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 規模(m) | | | | 柱礎存 状況 | 柱間寸法(m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|-------|-------|----|----|-----------|---------|-------------|---------------|
| | | | | 礎面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | | | | |
| P1 | 32G19 | 円形 | 半円状 | 17.66 | 17.40 | 33 | 30 | 26 | 柱礎存 | P1-P2:1.62m | |
| P2 | 32G15 | 円形 | 半円状 | 17.69 | 17.43 | 31 | 29 | 16 | | P2-P3:1.80m | |
| P3 | 32G15 | 円形 | 半円状 | 17.37 | 17.48 | 27 | 27 | 9 | | P3-P4:1.62m | SB1605-P3>ピット |
| P4 | 32G6 | 円形 | 半円状 | 17.55 | 17.40 | 30 | 29 | 15 | | | |
| P5 | 32G8 | 円形 | 半円状 | 17.67 | 17.41 | 33 | 30 | 26 | | P5-P6:1.61m | |
| P6 | 32G8 | 円形 | 半円状 | 17.69 | 17.36 | 35 | 34 | 33 | | | |

第16表 北新田遺跡II 掘立柱建物柱穴観察表

| 溝 番号 | 位置 (グリッド) | 断面形 | 規模(m) | | | 方向 | 覆土 | 遺物 | 備考 |
|---------|-----------------|-----|-------|-------|-------|---------|----|-----------------|--------------------------|
| | | | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | | | | |
| 312 | 31H10 | 半円状 | 0.32 | 23 | 14 | N-77°-E | 草層 | | |
| 1612 | 32H3 | 弧状 | 1.24 | 15 | 7 | N-82°-E | 草層 | 復元>SD1612>SD846 | |
| 1614 | 32H3-4-8 | 半円状 | 3.25 | 10 | 5 | N-81°-E | 草層 | SD1614>SD846 | |
| 1635 | 32H12 | 弧状 | 0.75 | 15 | 4 | N-80°-E | 草層 | SD1635<復元 | |
| 1637 | 32H13-17-18-22 | 弧状 | 4.72 | 16 | 5 | N-81°-E | 草層 | 土器類 | SI203<SD1637=SD1638<復元 |
| 1638 | 32H13-17-18 | 半円状 | 1.67 | 16 | 7 | N-81°-W | 草層 | 土器類 | SI203<SD1638=SD1637 |
| 1644 | 32F-11-12-16-17 | 半円状 | 3.88 | 12 | 4 | N-69°-E | 草層 | 土器類 | SD1644>SI1660-P1662 |
| 1650 | 32I22/32I2 | 半円状 | 0.48 | 36 | 11 | N-10°-W | 草層 | | SD1650>SI1660 調査区外に伸びる |
| 1658 | 32I22 | 弧状 | 0.64 | 17 | 5 | N-86°-E | 草層 | | SD1658>SI1660 |
| 1659 | 32I16-17 | 不明 | 0.60 | 26 | 6 | N-71°-E | 草層 | | SD1659>SI1660 |
| 1666 | 32H21 | 不明 | 0.60 | 26 | 1 | N-69°-W | 草層 | | 復元>SD1666>SI203 調査区外に伸びる |
| 1667 | 32H21 | 不明 | 0.52 | 27 | 1 | N-60°-W | 草層 | | 復元>SD1667>SI203 調査区外に伸びる |

第17表 北新田遺跡II 溝観察表

| 検出 番号 | 遺構の 出土地点 | 層位 | 種類 | 器種・ 継分 | 遺存部位・ 遺存率 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 焼成 色調 | 胎土 | 切り離し 方向 | 調整 | 時期 | 備考 |
|----------|-------------|------|-----|-----------|---------------|------------|------------|------------|--------------|-----------|---------------|----------------------------|-------|-------|
| 1 | SI203 | 覆土I | 須恵器 | 蓋材 | ほぼ完形 | 13.4 | | 4.4 | 還元炎・ 浅黄褐色 | 白 | 外へ切り 左 | 外面上平 口ロケズリ。 内面口ロケズリ | | |
| 2 | SI203 | 覆土I | 土師器 | 甕 | 口縁部～ 体部破片 | 16.5 | | | 酸化炎・ 黄褐色 | 白 | | 外面ハケメ・ 内面子ナ | 7世紀前半 | |
| 3 | SI203 | 覆土I | 土師器 | 甕 | 口縁部～ 体部1/3 | 16.0 | | | 酸化炎・ 浅黄褐色 | 赤・黒・ 緑 | | 内外面ハケメ | | 風化激しい |
| 4 | SI203 | 覆土I | 土師器 | 甕 | 体部～ 底部1/3 | | 5.4 | | 酸化炎・ 浅黄褐色 | 黒・緑 | | 外面ハケメ・ 内面子ナ・ 内面底部ハケメ | 7世紀前半 | 風化激しい |
| 5 | SI203 | 覆土I | 土師器 | 甕 | 口縁部～ 底部3/4 | 15.6 | 4.3 | 18.2 | 酸化炎・ 浅黄褐色 | 赤・黒・ 緑 | | 内外面ハケメ | 7世紀前半 | 風化激しい |
| 6 | SI1660 | 覆土I | 土師器 | 器台 | 器部破片 | | | | 酸化炎・ 浅黄褐色 | 赤・緑 | | | | 風化激しい |
| 7 | SI847 | 覆土II | 須恵器 | 甕 | 体部破片 | | | | 還元炎・ 褐色 | 白 | | 体部外面平行 タタキ。 内面同心円当て具 | 9世紀 | |
| 8 | 32H21 | II | 須恵器 | 飯甗 | 口縁部～ 底部破片 | 12.6 | 8.7 | 3.3 | 還元炎・ 灰褐色 | 白 | 外へ切り 口ロケズリ | | 9世紀中葉 | 小迫須産 |

第18表 北新田遺跡II 土器観察表

第Ⅶ章 中田原遺跡Ⅱ

1 グリッドの設定

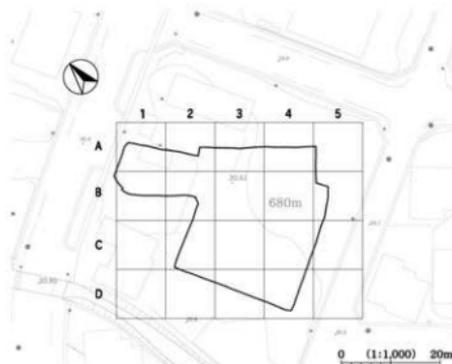
グリッドは、『岩ノ原遺跡』[高橋ほか2008]のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標 179k300m (世界測地系のX座標 = 121745.8335: 北緯 37° 05′ 48.894182″、Y座標 = -24035.7343: 東経 138° 13′ 46.562452″) と同 179k200m (世界測地系のX座標 = 121679.3848: 北緯 37° 05′ 46.745386″、Y座標 = -23961.0044: 東経 138° 13′ 49.596589″) を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦軸 10m 方眼を組み、大グリッドとした。

大グリッドは一辺 10m で、横軸方向は北西側から算用数字 (1~5)、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベット (A~D) を昇順に付した (第 25 図)。両者を組み合わせて「1A」のように表記した。

小グリッドは第 26 図のように北隅を起点として、大グリッドを 2m 方眼に 25 等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「1A15」のように表記した。グリッド横軸は真北から 48° 21′ 25″ 西偏する。



第26図 小グリッド模式図

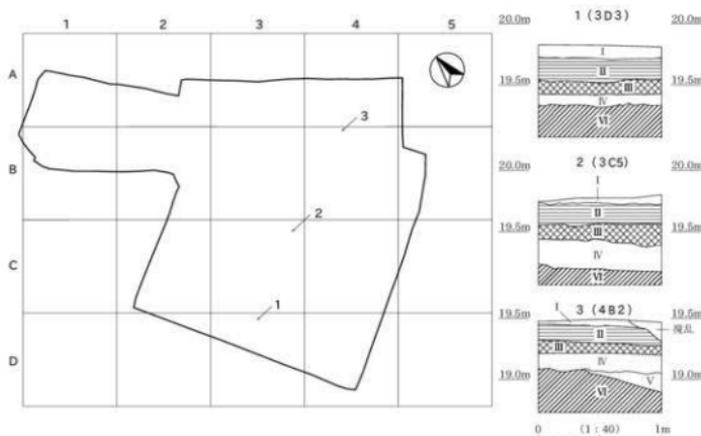


第 25 図 中田原遺跡Ⅱ グリッド設定図

2 基本層序

中田原遺跡は、青田川と儀明川に挟まれた洪積台地と沖積地の境界付近に立地する。現況は宅地・車庫・駐車場跡であり、約 1m の盛土が堆積していた。調査前現況標高 20.5 m 前後、遺構検出面標高 18.8 ~ 19.4 m 前後を測る。西側から東側に向かって傾斜しており、比高差約 60cm を測る。基本層序は 6 層に分類した (第 27 図)。

- I層：暗褐色粘土（10YR3/3）粘性中、しまり中。炭化物を少量含む。旧水田耕作土。
 II層：明黄褐色粘土（10YR7/6）粘性中、しまり中。炭化物を少量含む。
 III層：褐灰色粘土（10YR4/1）粘性強、しまり中。炭化物を少量含む。
 IV層：黒色粘土（10YR2/1）粘性強、しまり中。炭化物を中量含む。
 V層：褐灰色粘土（10YR4/1）粘性強、しまり中。炭化物を中量含む。植物遺体を多量に含む（遺物包含層）。
 VI層：灰白色粘土（10YR7/1）粘性強、しまり中（地山）。
 I～IV層は遺跡の全域で見られる。V層は南側で部分的に見られる。



第27図 中田原遺跡Ⅱ 基本土層図

3 遺 構

A 概 要

中田原遺跡では基本層序VI層（地山）を遺構検出面として、縄文時代の陥穴8基、古代の井戸2基、土坑4基、性格不明遺構3基、道状遺構1条、動物の足跡等を検出した。遺構は標高の高い調査区北側から西側にかけて多くみられ、東側から南側は低湿地状をなしていることもあり、数は少ない。

B 遺構各説

1) 縄文時代の遺構

a 陥 穴

調査区北側の1～3A、1～2Bグリッドで、平面形が細い長方形を呈する5基と楕円形を呈する1基、南側の4B・Cグリッドで、細い長方形を呈する2基を検出した。平面が細い長方形を呈するものは底面が丸みを帯び、壁面は底面からほぼ垂直に立ちあがるという共通性がある。形状から縄文時代のものと考えられる。

TP14 (図版 27・30・76)

1A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.37m、短辺 20cm、検出面からの深さ 81cm を測る。長軸方向は $N-46^{\circ}-E$ を示す。断面は U 字状を呈する。覆土は黒褐色粘土の単層である。遺物は出土していない。

TP18 (図版 27・30・78)

1A グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 1.38m、短径 93cm、検出面からの深さ 1.28m を測る。長軸方向は $N-11^{\circ}-E$ を示す。底面は丸みを帯び、中央に径 19cm、深さ 29cm の小ピットがある。壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がり、断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色粘土の単層である。遺物は覆土から土師器が出土しているが、後世の混入と考えられる。

TP20 (図版 27・30・77)

1A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.49m、短辺 21cm、検出面からの深さ 80cm を測る。長軸方向は $N-36^{\circ}-E$ を示す。断面形は U 字状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、2層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

TP23 (図版 27・30・77)

2A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.69m、短辺 22cm、検出面からの深さ 1.03m を測る。長軸方向は $N-37^{\circ}-E$ を示す。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP24 (図版 28・30・77)

2A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 2.91m、短辺 20cm、検出面からの深さ 85cm を測る。長軸方向は $N-29^{\circ}-E$ を示す。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP26 (図版 28・30・77)

3A グリッドに位置する。北側が調査区外へ延びるため明らかではないが、平面形は細い長方形を呈すと考えられ、長辺 1.44m 以上、短辺 18cm、検出面からの深さ 79cm を測る。長軸方向は $N-23^{\circ}-E$ を示す。断面は U 字状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP37 (図版 29・30・78)

4B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.01m、短辺 23cm、検出面からの深さ 63cm を測る。長軸方向は $N-68^{\circ}-E$ を示す。底面は丸みを帯び、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP41 (図版 29・30・78)

4C グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 2.74m、短辺 27cm、検出面からの深さ 86cm を測る。長軸方向は $N-54^{\circ}-E$ を示す。底面は丸みを帯び、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面は U 字状を呈する。覆土は黒褐色粘土と褐色シルトの 2層に識別され水平に堆積する。遺物は出土していない。

2) 古代の遺構

a 井 戸

SE13 (図版 28・30・78)

2Cグリッドに位置する。SX40と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は不整形円形を呈し、長径1.43m、短径1.22m、検出面からの深さ1.22mを測る。断面形は階段状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉~後半)の須恵器(1・2)、土師器(3・4)の他、用途不明の竹製品(22)、曲物(23)が出土している。

SE15 (図版 28・30・79)

3Cグリッドに位置する。SX40と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈し、長径1.67m、短径1.31m、検出面からの深さ92cmを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒色粘土・黒褐色粘土を主体とし、6層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉~後半)の須恵器(5)・土師器(6~9)のほか、曲物の底板(24)、側板(25)、用途不明の木製品(26)、有孔木製品(27)が出土している。

b 土 坑

SK32 (図版 28・30・79)

2D、3C・Dグリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、一辺1.45~1.49m、検出面からの深さ17cmを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黄褐色粘土ブロックを多量に含む黒色粘土の単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK38 (図版 28・30・79)

3Dグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径1.32m、短径1.03m、検出面からの深さ34cmを測る。長軸方向はN-23°-Wを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は黒色粘土を主体とし、3層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器(10)・土師器が出土している。

c 性格不明遺構

SX12 (図版 28・30・79)

2Cグリッドに位置する。SX40と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は不整形楕円形を呈し、長径2.13m、短径1.89m、検出面からの深さ13cmを測る。長軸方向はN-29°-Wを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒色シルトを主体とし、9層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器のほか、少量の炭化米が出土している。

SX31 (図版 28・30・79)

2・3A、3Bグリッドに位置する。平面形は不整形楕円形を呈し、長径3.13m、短径2.41m、検出面からの深さ25cmを測る。長軸方向はN-31°-Eを示す。底面は凹凸を持ち、断面形は不整形を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器のほか、曲物(28)が出土している。

4 遺物

3) 時期不明の遺構

a 土坑

SK42 (図版 29・30・79)

4Bグリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈し、長径1.66m、短径1.09m、検出面からの深さ22cmを測る。長軸方向はN-2°-Eを示す。底面は凹凸を持ち、断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色粘土・灰黄褐色粘土を主体とし、5層に識別され、斜位に堆積する。遺物は出土していない。

SK44 (図版 29・30・79)

3・4Bグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径1.73m、短径72cm、検出面からの深さ14cmを測る。長軸方向はN-20°-Wを示す。底面は丸みを帯び、断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

b 道状遺構

SX40 (図版 28・30・80)

2B・C、3B・C・Dグリッドに位置する。SE13・15、SX12と重複しているが、新旧関係は不明である。南北に延びる1条と東西に延びる1条が交差し、十字状を呈する。赤褐色粘土が厚さ約5cm盛られているが一部削平を受けており、東西に延びる道の東側は3Bグリッド付近で消滅し、2条の道が交差する付近と南北に延びる道の北側で一部消失する。南側、西側は調査区外に延びる。規模は南北方向で長さ25.8m以上、幅1.97m、東西方向で長さ10.31m以上、幅1.97mを測る。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構

SX39 (図版 29・30・80)

4A・Bグリッドに位置する。東側が調査区外に延びるため全容は明らかではない。長径7.76m以上、短径4.42m以上、検出面からの深さ72cmを測る。覆土は黒褐色粘土と褐灰色粘土を主体とし、4層に識別される。遺物は覆土から板材(29~31)・割材(32~34)・樫状木製品(35)・杭(36・39)・丸木弓の未成品(37・38)・棒状木製品(40)のほか、多量の杭、角材、板材、自然木が出土している。時期は遺構がV層の下から掘りこまれていることから古代以前と推定される。

d 動物の足跡 (図版 80)

3・4Bグリッドで有蹄類の足跡を検出した。イノシシ、シカ、ウマなどの足跡と推定される。検出できた足跡は少数で単発的であったため、動物の歩行パターンを把握することはできなかった。

4 遺物

A 概要

出土した遺物は土器・陶磁器2箱、石器・石製品0.5箱(箱サイズ64×34×10cm)、木製品・竹製品2箱(箱サイズ190×90×15cm)がある。土器・陶磁器を時期別に大別すると、古代及び中世のものに分けられる。古代の土器は土師器、須恵器、灰軸陶器があり、須恵器を除くと9世紀前半～後半に限定される。中世

の土器は珠洲焼、陶磁器は瀬戸美濃焼が出土しているが、出土量は少ない。

石器・石製品は不定形石器、石皿等が出土している。木製品は曲物、丸木弓、櫛状木製品、杭、割材、板材等があり、針状の竹製品も出土している。

以下、出土遺物の説明を行うが、古代の土器に関しては第Ⅲ章4Bの分類に基づき遺構内出土土器、遺構外出土土器の順に説明を行う。遺構内出土土器は遺構別に、遺構外出土土器は分類別に説明を行うものとする。石器・石製品は種類別、木製品・竹製品は遺構別に説明する。

B 土器・陶磁器

1) 遺構内出土

SE13 (図版31-1~4、図版81)

須恵器杯蓋(1)、長頸壺(2)、土師器無台椀(3・4)が出土している。1は頂部で、摘みが付される。摘みは低めの擬宝珠形である。時期は9世紀前半(春日編年V期)に比定される。2は頸部から体部下半の破片で、肩部外面に緑色の自然釉が掛かる。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀前半に比定される。3は法量Ⅰに属し、底部切り離しは糸切りである。4は法量Ⅱに属し、内面はミガキが施され、平滑である。口縁部の一部にススが付着している。体部外面に墨書で縦位の直線が2本記されている。時期は9世紀後半(春日編年VI期)に比定される。

SE15 (図版31-5~8、図版81)

須恵器有台杯(5)、土師器無台椀(6~9)が出土している。5は底部破片である。胎土は精良で調整も丹念である。底部外面には「大歳」の墨書が記されている。時期は9世紀前半に比定される。6は法量Ⅱに属し、内外面が燻されたように黒いが全面ではない。内面はミガキが施され、平滑である。体部外面の下半から底部にかけて墨書が対角線上に垂下するよう記されている。7は法量Ⅰに属し、胎土は精良で、内外面に横位のミガキが施される。体部外面に墨書で縦位の直線が2本1組で記されている。時期は9世紀後半に比定される。8は口径が20.6cmを測る大型の椀で、外面はややロクロ目が目立ち、上半に横位のミガキが施される。内面は平滑で横位の粗いミガキが施される。体部外面に墨書で縦位の直線が2本1組で記されている。時期は9世紀後半に比定される。

SK38 (図版31-10、図版81)

須恵器杯蓋(10)が出土している。法量Ⅲに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀前半に比定される。

P28 (図版31-11、図版81)

珠洲焼(11)が出土している。口縁は肥厚して外反し、肩部はナデ肩である。外面は平行タキである。時期は14世紀後葉~15世紀前半(珠洲V期)に比定される。

2) 遺構外出土

須恵器 (図版31-13・15~19、図版81)

13は壘の頸部から体部上半の破片である。15・16は有台杯で、16は細別BⅡに属する。胎土から滝寺窯産と推定され、時期は9世紀第1四半期に比定される。17は無台杯で、細別AⅡに属する。底部外面にヘラ記号1条が刻まれている。時期は9世紀前半に比定できる。18は双耳壺の体部破片で、肩部下に1条の凸帯が巡る。時期は9世紀に比定される。19は壘の体部破片で、内面はロクロ目が目立ち、外

面にカキメが見られる。時期は古墳時代後期と考えられる。

灰釉陶器 (図版31-14、図版81)

14は碗の底部片で、内面の施釉はハケ掛けと推定される。

珠洲焼 (図版31-12・20、図版81)

12は片口鉢の底部片で、幅3cmで9条の卸し目がある。20は甕の底部片で外面に右上がりの条線状タタキ目がある。

瀬戸美濃焼 (図版31-21、図版81)

21は片口鉢の口縁部片である。内外面叩き締め後に鉄釉を施す。

C 石器・石製品

石器・石製品はSE13から出土した45を除くと、いずれも遺構外(4A～Cグリッド)からの出土である。時期は縄文時代と推定されるが、陥穴との関連については不明である。

不定形石器 (図版34-42～45、図版84)

42は幅広い剥片を素材とし、右側縁では下半部に主要剥離面側から、上半部に背面側からの急斜度な調整加工が、左側縁下半部には主要剥離面側からの調整加工が認められる。石材はガラス質安山岩である。

43は微細剥離痕を有する剥片である。礫の表皮を表面に残す横長剥片を素材とする。剥片には鋭い縁辺が残され、全周するように微細剥離痕を残す。これは使用痕の可能性がある。石材は頁岩である。44は調整打面を有する縦長剥片で、背面には主要剥離面と同方向の剥離面が残されており、同規格の剥片を連続的に生産していたことが窺える。石材はガラス質安山岩である。45は背面には主要剥離面と同方向の剥離面が残されており、同規格の剥片を連続的に生産していたことが窺える。石材はガラス質安山岩である。

石皿 (図版34-49、図版84)

49は上半部が欠損する。表裏面両方に磨面が形成され、わずかに凹状に窪んでいる。表面上半には線状痕も残されている。石材は砂岩である。

器種不明の石器 (図版34-41、図版84)

41は欠損しており全体形状は不明である。平面形状は石鏃に似ているが、尖頭部を形成していない。残存する形態から、石匙のつまみ部か異形石器の可能性が考えられる。本石器は摩耗あるいは風化が著しく剥離面が明瞭ではない。石材はガラス質安山岩である。

石核 (図版34-46～48、図版84)

46は打面形成が作業面側から行われ、その打面から2回以上の剥片剥離を行っている。石材はチャートである。47は打面転移を頻繁に行い、幅広い剥片を連続的に生産している。石材はガラス質安山岩である。48は下半部が欠損する。上部に見られる平坦面を打面とし、3回以上の縦長剥片を剥離している。石材はガラス質安山岩である。

D 木製品・竹製品

SE13 (図版31-22・23、図版81)

22は用途不明の針状竹製品である。現長12.6cm、幅0.6cmを測る。上部が太く、下部は細くなる。下部先端は欠損しているが尖ると思われる。23は曲物の蓋または底と考えられる。側板の接合部には樹

皮の縦じ組が2か所認められる。底板はしゃくり底になり側板の当たる部分に水平に段差が設けられ、裏面には刃物痕が4か所認められる。側板と底板の接合部に樹皮の縦じ組が4か所認められ、そのうち1か所は側板の接合を兼ねている。

SE15 (図版 32-24 ~ 27, 図版 82)

24は曲物の底板である。木取りは柾目板材になる。25は曲物の側板である。木取りは柾目板材になる。摩耗が著しくケビキ痕等は確認できない。26は用途不明の串状木製品である。下部が尖るように加工されている。27は用途不明の串状木製品である。上部2か所に穿孔し、上端は圭頭状に加工される。

SX31 (図版 32-28, 図版 82)

28は曲物の側板である。木取りは板目板材になる。裏面の両端にケビキ痕が認められる。

SX39 (図版 32-29 ~ 35, 図版 33-36 ~ 40, 図版 82・83)

29・31は溝に沿って割って得られた板材と推定できる。30はミカン割りの板材である。樹種は30・31がトネリコである。32~34は芯去りミカン割り材である。楔を打ち込んで付けたような溝がある。溝に沿って割り、板材を取っている可能性がある。35は瘤状木製品で、柄の上部が欠損している未成品と考えられる。樹種はコナラ属コナラ亜属コナラ節である。36は芯持ち丸木材の杭で先端部は尖るように両面加工されている。樹種はトネリコである。37・38は粗製の丸木弓の未成品である。筈が削り出されていないが、弦の力が均等にかかるように枝材の先と枝元の太さを均一に調整加工しようとする意図が見えるので弓の未成品と考えられる。弓幹から枝元まで2~3cm幅の平坦が作り出されている。樹種はカヤである。39は両端部を丸く取めた丸木材の杭で、全面的に樹皮が残る。上部から30cmの位置に長径2cm、短径1.5cm、深さは2.7cmの孔が開いているが貫通はしていない。40は用途不明の棒状木製品である。全面に0.2~0.7cm幅の削出し加工が施され、真っすぐに加工しようという意図が見られる。両端は面取りが施される。樹種はスギである。

5 自然科学分析

中田原遺跡から出土した木製品を対象に樹種同定を実施し、木製品の樹種や木材利用を検討する。試料はSX39から出土した木製品6点(30・31・35・37・38・40)である。試料の詳細は結果とともに第19表に示す。

A 分析方法

各木製品の木取りを観察した後、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラル(抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレバートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。木材組織の名称や特徴は、[島地・伊東1982]、[Wheeler ほか1998]、[Richter ほか2006]を、日本産木材の組織配列は、[林1991]や[伊東1995・1996・1997・1998・1999]を参考にする。

B 結 果

結果を第19表に示す。木製品は、針葉樹2分類群(スギ・カヤ)と広葉樹2分類群(コナラ属コナラ亜属コナラ節・トネリコ属)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~10細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には2本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型~ヒノキ型で、1分野に1~4個。放射組織は単列、1~10細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のもと複合放射組織とがある。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1~3細胞幅、1~30細胞高。

C 考 察

丸木弓、樺状木製品、杭、板材、棒状木製品等の木製品6点からは、針葉樹のスギとカヤ、広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節とトネリコ属の計4分類群が認められた。

弓2点(37-38)は、いずれも丸木弓(兼木弓)で長さは約2mを測る。木取りはいずれも芯持丸木であり、針葉樹のカヤに同定される。カヤは、本来、暖温帯に分布する高木であり、新潟県には分布していないが、多雪地域に適応した変種であるチャボガヤが分布する。このことから、これらの丸木弓は、いずれもチャボガヤを利用している可能性がある。カヤ・チャボガヤは共に強靱で耐水性の高い材質を有していることから、丸木弓として折れにくく靱性のある木材を選択利用していたことが推定される。

上越市域では、下割遺跡の古墳時代前~中期の弓あるいは柄と考えられる木製品にイヌガヤ [バリノ・サーヴェイ株式会社 2004]、一之口遺跡から出土した平安時代とされる丸木弓に針葉樹のスギが認められている [バリノ・サーヴェイ株式会社 1994]。新潟県内のこのほかの地域では、青田遺跡(新発田市)の縄文時代後~晩期の丸木弓と弥生時代前期の丸木弓にイヌガヤ、縄文時代後~晩期の飾り弓にニシキギ属 [鈴木^{ほか} 2004]、桃川遺跡群(村上市)の古代とされる丸木弓にイヌガヤ [バリノ・サーヴェイ株式会社 2003]、平田遺跡(佐渡市)の弥生時代中期とされる丸木弓にイヌガヤ [松葉 2000]、千種遺跡(佐渡市)の弥生時代後期~古墳時代前期とされる丸木弓にハイイヌガヤ [亘理・山内 1953] 等が検出されており、イヌガヤの利用が目立つ。カヤについては、野中土手付遺跡(新発田市)の弓の可能性があるとされた資

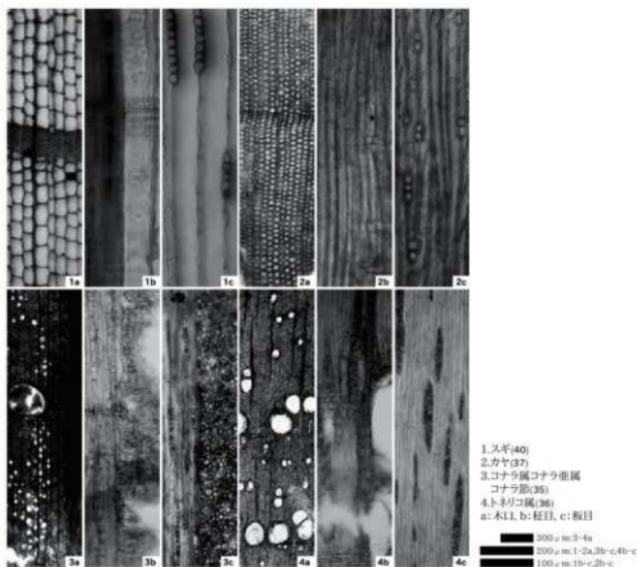
料に2例検出されているのみである [バリノ・サーヴェイ株式会社 2006a]。

榺状木製品 (35) は、身と柄を一本で作っており、身の部分が榺目板状、柄の部分が削出丸木となる木取である。樹種は、広葉樹のコナラ節であったことから、重硬で強度の高い木材が利用されたと推定される。新潟県内における榺の樹種を明らかにした事例は、青田遺跡の縄文時代後・晩期の6例 (スギ2、クリ4) と、千種遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の1例 (スギ) の計7例ある [亙理・山内 1953; 鈴木ほか 2004]。古墳時代の調査事例はないため、木材利用の傾向は明らかとならないが、今回の分析結果からコナラ節が利用されていたことが窺われる。

板材2点 (30・31) は、いずれも榺目板であったが、板材 (30) は断面が三角形となるミカン割りの榺目板であった。樹種はいずれも広葉樹のトネリコ属に同定された。トネリコ属の木材は、重硬で強度の高い材質を有しており、上越市域では三角田遺跡の古代とされる柱根や下割遺跡の古墳時代前～中期とされる杭等に検出されている [バリノ・サーヴェイ株式会社 2004・2006]。板材の検出事例は知られていないが、トネリコ属の材質を考慮すると強度を要する用途が推定される。

| 遺構名 | 掲載番号 | 器種 | 木取り | 樹種 |
|------|------|-------|---------------|---------------|
| SX39 | 30 | 板材 | 榺目 (ミカン割) | トネリコ属 |
| | 31 | 板材 | 榺目 | トネリコ属 |
| | 35 | 榺状木製品 | 身: 榺目、柄: 削出丸木 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 |
| | 36 | 杭 | 芯持丸木 | トネリコ属 |
| | 37 | 丸木弓 | 芯持丸木 | カヤ |
| | 38 | 丸木弓 | 芯持丸木 | カヤ |
| | 40 | 棒状木製品 | 削出丸木 | スギ |

第19表 樹種同定結果



第28図 樹種同定結果

棒状木製品(40)は、丸木状を呈するが、断面に認められた年輪はほぼ平行に入る状況が観察された。したがって、比較的径の大きな木材が利用されたと考えられる。また、樹種は針葉樹のスギであったことから、割裂性が高く加工が容易な材質を利用したと考えられる。上越市域では細田遺跡の時代・時期不明の棒状木製品にスギの削出丸木が認められている〔株式会社古環境研究所 2005〕。

本地域の古植生の検討結果によれば、周辺の山地・丘陵にはブナ属を主体とする落葉広葉樹林が存在し、低地部ではハンノキ属、サワグルミ属、クルミ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属、ヤナギ属等が河畔林・湿地林を形成し、スギが扇状地斜面や扇端部等に部分的に生育していた可能性が指摘されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2008a・2008b〕。また、本遺跡北西の岩ノ原遺跡ではオニグルミ、ヤマグワ、フジキ属、トチノキ、トネリコ属の立木も検出されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社 2008a〕。今回検出された樹種は、周辺の古植生調査で生育が推定されている種類や、現植生との比較から生育していたと考えられる種類であることから、いずれも本遺跡周辺から入手可能であったと考えられる。

6 ま と め

本遺跡の所在する中田原集落には洪積台地の一つである灰塚面が分布している。洪積台地は西頸城丘陵の山麓部に形成され、灰塚集落にかけての極く限られた範囲に分布している。標高は25～30mで、東に向って傾き、先端部は沖積面(高田面)に移行している。中田原集落は平成18年に発掘調査を行った岩ノ原遺跡の南東200mの位置にあり、比高差約3m下位の標高20m前後を測る。岩ノ原遺跡は横明川の右岸に営まれた8世紀から9世紀中葉の荘園関連遺跡である。8世紀中葉に上越地方で成立した「東大寺領石井荘」の荘園遺跡で、荘所と指定される建物も検出されている〔高橋³⁾2008〕。出土した墨書土器から荘園の所在地がより明確になった。

本遺跡では古代及び縄文期と思われる遺構が発見されている。古代の遺構は建物が発見されていないが、井戸・土坑があり、生活域の外郭部に当たるものと考えられる。注目される遺物として「大歳」と記された墨書土器が井戸から出土している。「大歳」とは木星の異名で、大歳神は陰陽家で祭る八将神の一つであるという。また平成20年度に発掘調査を行った岩ノ原遺跡Ⅱでも「大歳」という墨書土器がSK483から出土している。これらの出土状況からその意味を充分知り尽くした人が当地に居住していた可能性が極めて強いと考えるべきであろう。遺構全体についてもこれら三遺跡を連続したものとして考えるべきであろう。荘所、そしてそこに働く人々の生活領域(空間)と把握すれば当該地はその外郭と位置付けることが可能であろう。

縄文期と思われる陥穴については2つの形態があり、総計8基検出されている。上越地方の関川流域で、高田平野西側の西頸城丘陵の緩斜面上には現在10か所の陥穴を検出した遺跡が知られている。一番古いのは大堀遺跡(妙高市関川)で、縄文草創期後半から早期前葉のものと考えられている。本遺跡の陥穴からの出土遺物はなく、詳細な時期は不明である。本遺跡に近接した下馬場遺跡(上越市下馬場)、黒田遺跡(上越市黒田)、蛇谷遺跡(上越市向橋)、大塚遺跡(上越市灰塚)でも陥穴が検出され、平面形は楕円形・長狭形をしたものが多く、本遺跡の陥穴と基本的に同じである。これらは丘陵上や山地にあって、標高が高い地域に位置している。しかし、分布から言えば本遺跡の陥穴は標高が一番低く、沖積面に面していることが特筆されよう。

| 遺構名・ 出土地点 | 単位 | 種類 | 母形・部分 | 遺存状態 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 高さ (cm) | 形状・色調 | 胎土 | 切り廻し・ 方向 | 調査 | 時期 | 備考 |
|-------------------------|--------|-----|-------|-----------|------------|------------|------------|----------------------------|-------|-------------|-----------------------|-------------------|------------------------------------|
| SE13 | 覆土・覆土2 | 須臾器 | 須臾器 | 須臾器～須臾破片 | | | | 還元赤灰色 外周に赤い赤褐色、 内面灰色 | 白・赤 | | 外面上半口が口ケズリ | 9世紀末2前半期 | |
| SE13 | 覆土 | 須臾器 | 須臾器 | 須臾器～須臾破片 | 13.5 | 6.8 | 3.0 | 還元赤灰色 | 白・黒 | | 口ケロナ子 | 9世紀末2後半期 | 須臾器無軸、東丘産産 |
| SE13 | 覆土 | 土師器 | 甗台輪Ⅱ | 口輪部～底部破片 | 12.4 | 5.6 | 3.8 | 還元赤～灰褐色 | 赤 | 糸切り | 口ケロナ子・内周にガキ | 9世紀後半 | 須臾器・底部外周「人」 西丘産産 |
| SE15 | 覆土1 | 須臾器 | 有台杯 | 杯部～底部1/3 | 8.5 | | | 還元赤灰色 | 灰 | | 口ケロナ子 | 9世紀末2前半期 | 須臾器・底部外周「人」 西丘産産 |
| SE15 | 覆土1 | 土師器 | 甗台輪Ⅱ | 口輪部～底部1/3 | 12.6 | 5.9 | 3.6 | 還元赤～黒色 | 砂 | 糸切り・右 | 口ケロナ子・内外面ともガキ | 9世紀後半 | 須臾器・底部外周「口」 須臾器・底部外周「人」 西丘産産 |
| SE15 | 覆土2 | 土師器 | 甗台輪Ⅱ | 口輪部～底部2/3 | 15.0 | 5.7 | 4.9 | 還元赤～赤い黒褐色 | 砂 | 糸切り・右 | 口ケロナ子・内外面ともガキ | 9世紀後半 | 須臾器・底部外周「人」 西丘産産 |
| SE15 | 覆土2 | 土師器 | 甗台輪Ⅱ | 口輪部～底部3/4 | 20.6 | 8.1 | 6.0 | 還元赤～赤い赤褐色 | 砂 | 糸切り・右 | 口ケロナ子・ミガキ | 9世紀後半 | 須臾器・底部外周「人」 西丘産産 |
| SE15 | 覆土2 | 土師器 | 甗台輪Ⅱ | 口輪部～底部破片 | 12.9 | 5.4 | 4.2 | 還元赤～黄褐色 | 赤 | 糸切り・右 | 口ケロナ子 | 9世紀後半 | 須臾器・底部外周「人」 西丘産産 |
| SK38 | 覆土1 | 須臾器 | 杯蓋Ⅲ | 蓋部～蓋面破片 | 12.2 | | 3.1 | 還元赤灰色 | 白・黄 | | 外面上半口が口ケズリ | 9世紀末2前半期 | 還元赤しい |
| P28 | 覆土1 | 須臾器 | 甗 | 口輪部～底部破片 | | | | 還元赤灰色 | 白 | | 外面平行タガキ | 14世紀前半～ 15世紀前半 | 東丘産産 |
| 4B11 | IV層 | 須臾器 | 片口鉢 | 底部破片 | | | | 還元赤～黄褐色 | 白・黒 | | | | 須臾器Ⅱ? |
| 1A23 | IV層 | 須臾器 | 甗 | 杯部～杯面破片 | | | | 還元赤灰色 | 白・黒 | | 口ケロナ子・胎子多タ | | 須臾器Ⅱ? |
| 4B11 | IV層 | 須臾器 | 甗 | 底部破片 | 7.2 | | | 還元赤灰色 | 白・黒 | | | | |
| 4B11 | V層 | 須臾器 | 有台杯 | 杯部～蓋面破片 | 9.7 | | | 還元赤灰色 | 白 | へう切り | 口ケロナ子 | 9世紀末2前半期 | |
| 4A23/ 4B9/ 4C7・12 | V層 | 須臾器 | 有台杯ⅡⅢ | 口輪部～底部1/4 | 14.2 | 9.6 | 6.5 | 還元赤灰色 | 白・赤 | へう切り | 口ケロナ子 | 9世紀末1前半期 | 須臾器・人直産 |
| 4B19 | V層 | 須臾器 | 甗台輪ⅡⅢ | 口輪部～底部破片 | 12.2 | 8.7 | 2.8 | 還元赤～灰色 | 石・白 | へう切り | 口ケロナ子 | 9世紀末2前半期 | へう器号：東丘外周 |
| 4C21 | V層 | 須臾器 | 双耳壺 | 杯部破片 | | | | 還元赤灰色 | 白 | | 口ケロナ子 | 9世紀 | 赤崎原山以高? |
| 一節 | V層 | 須臾器 | 甗 | 杯部破片 | | | | 還元赤灰色 | 石・黒 | | 外面上半口が口ケズリ、 下部胎子多タ | 古墳時代後期 | |
| 1A23 | V層 | 須臾器 | 大甗 | 底部破片 | | | | 還元赤灰色 | 石・白・黒 | | 外面多タタ | | 砂産 |
| 一節 | V層 | 須臾器 | 片口鉢 | 口輪部破片 | | | | 還元赤～赤白黒褐色 | 白・黒 | | タタキタタ | | |

第20表 中田原遺跡Ⅱ 土器観察表

観 察 表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 種類 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 遺存状態 | 備考 |
|----------|--------------|----|----|---------|--------|---------|--------|---------|-------|----|
| 41 | 4C21 | V層 | 不明 | 3.2 | 2.9 | 0.8 | 5.77 | ワラス貫安山岩 | 一部欠損 | |
| 42 | 4C22 | V層 | 石槌 | 3.2 | 6.5 | 2.4 | 30.64 | ワラス貫安山岩 | 上半部欠損 | |
| 43 | 4B13 | V層 | 石槌 | 4.3 | 4.5 | 3.2 | 64.25 | ワラス貫安山岩 | 上半部欠損 | |
| 44 | 4C22 | V層 | 石槌 | 3.3 | 4.3 | 3 | 44.74 | サヤート | | |
| 45 | SE13 | 覆土 | 銅片 | 7.7 | 3.6 | 2.6 | 64.43 | ワラス貫安山岩 | | |
| 46 | 4A24 | V層 | 銅片 | 10.2 | 2.5 | 2.1 | 44.4 | ワラス貫安山岩 | 上半部欠損 | |
| 47 | 4C12 | V層 | 銅片 | 6.5 | 10.2 | 1.6 | 77.04 | 灰岩 | 一部欠損 | |
| 48 | 4B7 | V層 | 銅片 | 4.4 | 2.3 | 0.5 | 6.41 | ワラス貫安山岩 | | |
| 49 | 4C21 | V層 | 石皿 | 17.5 | 14.1 | 5.3 | 2460 | 砂岩 | 上半部欠損 | |

第 21 表 中田原遺跡Ⅱ 石器・石製品観察表

| 掲載 番号 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 品名 | 種類 | 長さ(m) | 幅(m) | 厚さ(m) | 木取り | 備考 |
|----------|--------------|----|-------------|------|--------|------|-------|------------------|-------|
| 22 | SE13 | 覆土 | 針状竹製品 | 竹 | 12.6 | 0.6 | 0.4 | | |
| 23 | SE13 | 覆土 | 曲物(蓋?, 新敷?) | | 17.5 | 17.1 | 0.9 | 板目 | しやくり底 |
| 24 | SE15 | 覆土 | 曲物(底板) | | 15.8 | 13.5 | 0.7 | 板目 | |
| 25 | SE15 | 覆土 | 曲物(側板) | | 59.9 | 21.6 | 1.2 | 板目 | |
| 26 | SE15 | 覆土 | 半状木製品 | | 38.6 | 2 | 1 | 板目 | |
| 27 | SE15 | 覆土 | 半状木製品 | | 38 | 3.2 | 1.2 | 板目 | 穿孔2か所 |
| 28 | SX31 | 覆土 | 曲物(側板) | | 33.2 | 3.8 | 0.7 | 板目 | |
| 29 | SX39 | 覆土 | 板材 | | 41.9 | 15.7 | 1.6 | 板目 | |
| 30 | SX39 | 覆土 | 板材 | トネリコ | 37.6 | 8.3 | 2.9 | 板目(ミカン割り) | |
| 31 | SX39 | 覆土 | 板材 | トネリコ | 34.3 | 13 | 2.7 | 板目 | |
| 32 | SX39 | 覆土 | 割材 | | 122.8 | 13.6 | 4.1 | 板目(ミカン割り) | |
| 33 | SX39 | 覆土 | 割材 | | 80.5 | 14 | 8.8 | 板目(ミカン割り) | |
| 34 | SX39 | 覆土 | 割材 | | 73.2 | 14.8 | 9 | 板目(ミカン割り) | |
| 35 | SX39 | 覆土 | 楕状木製品 | コナラ | (52.3) | 12.6 | 4.8 | 身+板目, 柄: 側山丸木 | 未成品 |
| 36 | SX39 | 覆土 | 柱 | トネリコ | 58.7 | 6 | 6.3 | | 芯持丸木 |
| 37 | SX39 | 覆土 | 丸木弓 | カヤ | 174.6 | 3.5 | | | 芯持丸木 |
| 38 | SX39 | 覆土 | 丸木弓 | カヤ | 186.9 | 4.1 | | | 芯持丸木 |
| 39 | SX39 | 覆土 | 柱 | | 207.3 | 11.3 | 8.2 | | 芯持丸木 |
| 40 | SX39 | 覆土 | 楕状木製品 | スギ | 67.9 | 1.5 | 1.5 | | 側山丸木 |

第 22 表 中田原遺跡Ⅱ 木製品観察表

第Ⅷ章 岩ノ原遺跡Ⅱ

1 グリッドの設定

グリッドは、『岩ノ原遺跡』[高橋ほか2008]のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標179k300m(世界測地系のX座標=121745.8335;北緯37°05′48.894182″、Y座標=-24035.7343;東経138°13′46.562452″)と同179k200m(世界測地系のX座標=121679.3848;北緯37°05′46.745386″、Y座標=-23961.0044;東経138°13′49.596589″)を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦軸10m方眼を組み、大グリッドとした。

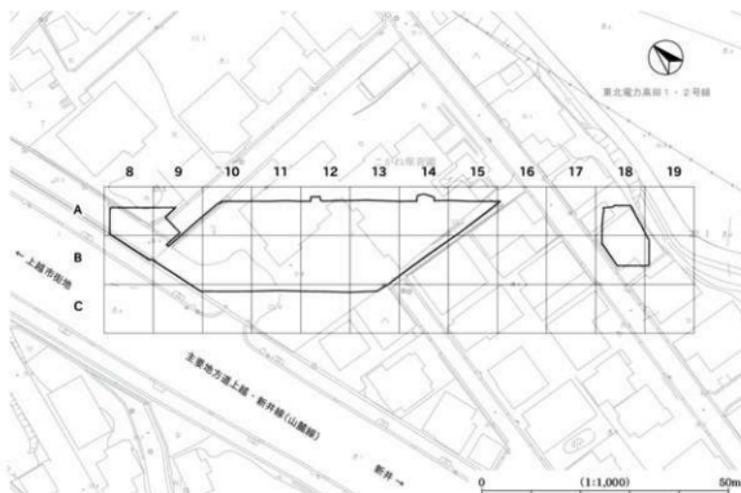
大グリッドは一辺10mで、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。岩ノ原遺跡Ⅱは横軸が大グリッド8～19、縦軸がA～Cである(第29図)。両者を組み合わせて「8A」のように表記した。

小グリッドは第30図のように北隅を起点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「8A15」のように表記した。グリッド横軸は真北から48°21′25″西偏する。

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |

0 (1:400) 10m

第30図 小グリッド模式図



第29図 岩ノ原遺跡Ⅱ グリッド設定図

2 基本層序

岩ノ原遺跡は高田平野西縁の丘陵裾部、青田川と儀明川に挟まれた洪積地（灰塚面）に立地する。調査前現況標高 22.5m 前後、遺構検出面標高 21 ~ 22.5 m 前後を測る。調査区北西側から南東側にかけて比高差 1.5m 程の傾斜がある。基本層序は 4 層に分層した（第 31 図）。

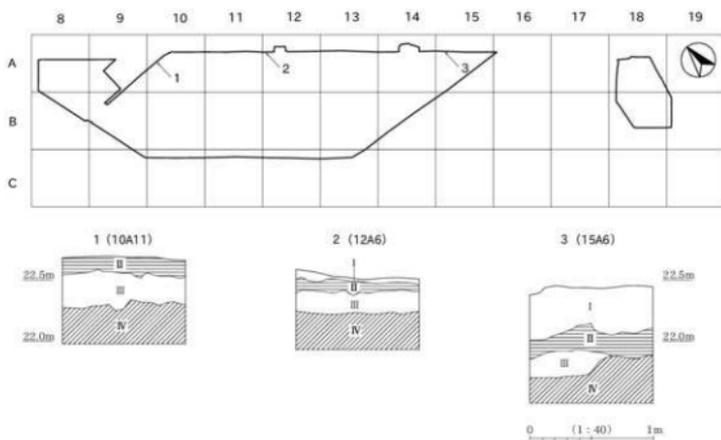
I 層：碎石を含む盛土。

II 層：黒褐色シルト（10YR3/1）粘性弱、しまり中。φ 3 ~ 10mm の炭化物中量、12・13A グリッド付近に φ 3 ~ 5 mm の焼土少量含む。奈良・平安時代の遺物包含層。

III 層：黒褐色シルト（10YR3/1）と明黄褐色シルト（10YR7/6）の混合土。粘性弱、しまり中。

II 層と IV 層との漸移層。

IV 層：明黄褐色シルト（10YR7/6）粘性弱、しまり中（地山）。



第 31 図 岩ノ原遺跡 II 基本土層図

3 遺 構

A 概 要

岩ノ原遺跡では基本層序 III 及び IV 層（地山）を遺構検出面として、竪穴住居 3 棟・掘立柱建物 36 棟（柱穴 238 基）、掘立柱建物の目隠し扉と推定される杭列 5 基、井戸 19 基、土坑 15 基、溝 4 条、その他ピットを多数検出した。構築時期は出土遺物等から古代及び中世に比定される。

古代の遺構は竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑等がある。竪穴住居は調査区中央部（12A・13B グリッド）で検出され、これらの遺構群の中で最も古い段階（8 世紀後半～9 世紀初頭）に位置付けられる。SI1312 からは「庄」と墨書された須恵器が出土しており、東大寺領石井荘との関係が想定できる遺物の中では最

も古いものである。また調査区中央に位置する掘立柱建物の中には、出土土器の年代などから9世紀中葉～後葉に位置付けられるものが見られる。これは石井荘の荘所と推定される岩ノ原遺跡南東部の掘立柱建物〔高橋ほか2008〕の所属時期とほぼ同じである。

中世の遺構は掘立柱建物・井戸・土坑がある。掘立柱建物は調査区南東側(18A・Bグリッド)に限定されるのに対し、井戸は調査区全域で検出される。出土遺物の年代から13世紀～15世紀前半にかけて存続し、14世紀に集落の規模が大きくなるものと推定される。

B 遺構各説

1) 古代の遺構

a 竪穴住居

竪穴住居は3棟検出し、いずれも古代に位置付けられる。調査区中央部の東端に1棟及び西側に2棟が重複して位置する。規模は3棟ともほぼ均一である。

SI1312 (図版41・42・86・87)

12Aグリッドに位置する。南東側でSE1221・1139と重複し、これらに切られる。北東側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸は3.73m以上、短軸3.30～4.42m、検出面から床面までの深さ12～15cm、面積は11.51㎡以上を測る。長軸方向はN-122°-Eを示す。覆土は暗褐色シルト・黒褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。

南東壁から北西側約1m先から数cm程度の段が見られる。この部分に黒褐色シルトブロックと明黄褐色シルトブロックの混合土が堆積していた。覆土に比べしまりがあることから貼床と認識した。貼床内から出土した遺物はない。壁面の立ち上がりは比較的緩傾斜に立ち上がる。

柱穴は住居中央部に2基検出した。いずれも掘形を持ち、規模は長径21～32cm、短径19～25cm、床面からの深さ7～11cmを測る。カマドは南東辺の北寄りに存在する。遺構の重複が著しく、袖や煙道は検出できなかった。

遺物は覆土から古代(8世紀後半)の須恵器(5～26)・土師器(27～32)が出土している。

SI1311 (図版44・45・86)

13Bグリッドに位置する。西側でSI1344と重複し、これを切っている。南西側でSK1345と重複し、これに切られる。また上面は攪乱によって破壊されていた。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸4.45m、短軸3.08m、検出面から床面までの深さ12cm、面積は13.25㎡を測る。長軸方向はN-3°-Wを示す。覆土は暗褐色シルトの単層である。

中央部西寄りに方形の掘り込みを検出した。床面から高いところで10cmほどの低い段となる。この部分に明黄褐色シルトと褐灰色シルトの混合土が堆積していた。覆土に比べしまりがあることから貼床と認識した。北側の壁面の立ち上がりは急傾斜であるが、南側及び東側は緩傾斜に立ち上がる。

柱穴は北西隅と南西隅に2基検出した。いずれも掘形を持ち、規模は長径45～51cm、短径34～38cm、床面からの深さ16～25cmを測る。柱痕はP1に認められ、径約15cmの柱が据えられていたと推定される。カマド・周溝は検出できなかった。

遺物は覆土から古代(8世紀末～9世紀初頭)の須恵器(1～4)・土師器が出土している。

SI1344 (図版 44・45・87)

13B グリッドに位置する。東側で SI1311、中央部で SK1345・1554、西側で SB1525-P1 とそれぞれ重複し、これらに切られる。平面形は隅丸長方形を呈していたものと推定される。長軸 4.22m、短軸 3.41 m、検出面から床面までの深さ 23cm、面積は 7.58m²以上を測る。長軸方向は N-48°-W を示す。覆土は攪乱により遺存していない。床面は黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土で、貼床と考えられる。

南西壁際から東壁隅付近で幅 15 ~ 20cm、深さ 6 ~ 8 cm の周溝を検出した。北東側の壁面の立ち上がりは急傾斜だが、南及び南東側は緩傾斜に立ち上がる。柱穴は南西隅に 1 基検出した。柱穴は掘形を持ち、規模は長径 49cm、短径 44cm、床面からの深さ 21cm を測る。柱痕が認められ、径約 25cm の柱が据えられていたものと推定される。カマドは検出できなかった。

遺物は覆土から古代（8世紀末～9世紀初頭）の須恵器（33～35）・土師器（36・37）が出土している。

b 掘立柱建物

古代の掘立柱建物を 17 棟検出した。調査区東側の 12～15 グリッド列に集中して存在する。11 列グリッドは遺構数が比較的希薄で、これより西側は SB1504 の 1 棟が存在するだけである。検出した遺構はすべて側柱建物で、面積は 5.59m²から 55.83m²まで幅がある。面積が 35m²を超える 3 棟（SB1519・1520・1522）には、目隠し塀が伴う。桁行と梁行の間数は、3×2 間が 5 棟と最も多く存在する。次いで 3×1 間が 3 棟存在し、桁行 3 間の建物がほぼ半数を占める。

SB1504 (図版 36・37・90)

9・10B グリッドに位置する側柱建物である。桁行 3 間（5.52～5.75m）、梁行 2 間（3.19～3.20m）で、西側桁行中央の柱穴が若干外側に張り出す不整長方形を呈する。面積は 17.88m²を測る。長軸方向は N-3°-E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P4・P6・P8 に認められ、径約 10～20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P7 から古代の土師器が出土している。

SB1518 (図版 39・40・92)

11・12A グリッドに位置する側柱建物である。西側は攪乱を受け柱穴が検出できないものの、桁行 4 間（7.16m）、梁行 3 間（4.65m）の長方形を呈するものと推定される。面積は 32.55m²を測る。長軸方向は N-60°-W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1～P5・P9・P10 に認められ、径約 20～30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P3・P8 から古代の土師器が出土している。

SB1505 (図版 41・42・90・91)

12B グリッドに位置する側柱建物である。桁行 3 間（5.15～5.28m）、梁行 2 間（3.60～4.04m）の不整長方形を呈する。面積は 19.97m²を測る。長軸方向は N-0°-E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1～P4・P8～P10 に認められ、径約 15～20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P4・P8 から古代の土師器・須恵器が出土している。

SB1511 (図版 41・42・91)

12A・B、13B グリッドに位置する側柱建物である。桁行 3 間（4.83～5.15m）、梁行 2 間（4.44～4.53m）の不整長方形を呈する。面積 22.27m²を測る。長軸方向は N-2°-E を示し、南北棟となる。柱穴の規

模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP3を除く全ての柱穴に認められ、径約20～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2・P4・P5・P8から古代の須恵器・土師器が出土している。

SB1512 (図版41・42・91)

12A・B、13A・Bグリッドに位置する側柱建物である。P2がSB1515-P1と重複し、これを切っている。桁行2間(4.34～4.40m)、梁行2間(3.57～3.81m)の長方形を呈する。面積は15.99㎡を測る。長軸方向はN-21°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P2・P5に認められ、径約20～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1から古代の土師器・灰軸陶器(38)が、P2・P6から土師器が出土している。

SB1514 (図版41・43・91・92)

12A・B、13A・Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間(2.73～2.87m)、梁行2間(2.55～2.66m)の方形を呈する。面積は7.13㎡を測る。長軸方向はN-3°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP3～P5から古代の須恵器・土師器が出土している。

SB1515 (図版41・43・91・92)

13A・Bグリッドに位置する側柱建物である。P1がSB1512-P2と重複し、これに切られている。桁行2間(4.46～4.70m)、梁行1間(3.14～3.40m)で、東側桁行中央の柱穴が若干外側に張り出すため不整形を呈する。面積は15.12㎡を測る。長軸方向はN-25°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、径約15～20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1・P3から古代の須恵器・土師器が出土している。

SB1516 (図版41・43・92)

12A・B、13A・Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間(4.12～4.16m)、梁行1間(3.60～3.74m)の方形を呈する。面積は15.12㎡を測る。長軸方向はN-79°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P4に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1・P4から古代の土師器が出土している。

SB1517 (図版41・43・92)

13Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間(2.70～2.83m)、梁行1間(1.98～2.09m)の長方形を呈する。面積は5.59㎡を測る。長軸方向はN-36°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物はP4から古代の土師器が出土している。

SB1519 (図版44・45・46・93・103)

SB1519は13A・B、14A・Bグリッドに位置する側柱建物である。P1はSB1523-P3、P2はSB1523-P4、P3はSB1523-P5、P4はSB1523-P6、P5はSB1523-P7、P7はSA1524-P5、P12はSK1500とそれぞれ重複し、これらを切っている。またP3はSE488・SK483、P4はSK483、P10はSB1520-P8とそれぞれ重複し、これらに切られる。さらにSB1525とは直接の切り合い関係がないもののP9がP522を切っており、SB1525-P5はP522に切られているため、本遺構はSB1525より新しい建物である。桁行4間(8.44～8.73m)、梁行2間(6.30～6.31m)の長方形を呈する。面積は55.83㎡を測る。長軸方向はN-64°-Wを示し、東西棟となる。

柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径73～121cm、短径39～106cm、検出

面からの深さ 34～67cm を測る。規模にばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。全ての柱穴に柱痕を検出し、柱痕の規模は長径 21～46cm、短径 13～34cm を測る。遺物は P1・P2・P4～P11 から古代の須恵器 (39～42)・土師器 (43～46) が出土している。また P8・P11 から珠洲焼が出土しているが、その出土状況や遺構の切り合い関係から後世の混入である可能性が高い。

SA1524 は 13・14B グリッドに位置する杭列である。P3 は SB1520-P7、P5 は SB1519-P7・SB1520-P6 とそれぞれ重複し、これらに切られる。東西方向に 4 間 (5本) 検出した。長さ 6.62m、柱間寸法は 1.24～1.89m を測る。長軸方向は $N-64^{\circ}-W$ を示す。柱穴の規模は SB1519・1520 のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P3 に認められ、径約 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P4 から古代 (8世紀末～9世紀初頭) の須恵器が出土している。SB1519・1520 の南側に近接し、長軸方向が近似することから、両遺構いずれかの目隠し扉と推定される。

SB1520 (図版 44・46・93・96)

SB1520 は 13A・B、14A・B グリッドに位置する側柱建物である。P4 は SB1523-P8、P6 は SA1524-P5、P7 は SA1524-P3、P8 は SB1519-P10 とそれぞれ重複し、これらを切っている。桁行 3 間 (7.77～7.78m)、梁行 1 間 (5.26～5.62m) の長方形を呈する。面積は 41.59㎡ を測る。長軸方向は $N-64^{\circ}-W$ を示し、東西棟となる。

柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径 79～101cm、短径 45～79cm、検出面からの深さ 26～57cm を測る。規模にばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。全ての柱穴に柱痕が認められ、柱痕の規模は長径 14～42cm、短径 12～37cm を測る。遺物は全ての柱穴から古代の須恵器・土師器が出土している。

SA1530 は 13A グリッドに位置する杭列である。P2 は SE488、P3 は SK483 とそれぞれ重複し、これらに切られる。東西方向に 2 間 (3本) 検出した。長さ 3.68m、柱間寸法 1.78m を測る。長軸方向は $N-64^{\circ}-W$ を示す。柱穴の規模は SB1520 のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P3 に認められ、径約 10～20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P3 から古代の土師器が出土している。SB1520 の北側約 1m 先に位置し、長軸方向が近似することから同遺構の目隠し扉と推定される。

SB1523 (図版 44・46・94)

13・14A グリッドに位置する側柱建物である。P3 は SB1519-P1、P4 は SB1519-P2、P5 は SB1519-P3・SE488・SK483、P6 は SB1519-P4、P7 は SB1519-P5、P8 は SB1520-P4 とそれぞれ重複し、これらに切られる。東側が調査区外に延びるため明確ではないが、桁行 5 間 (10.25m)、梁行 2 間 (3.6m) で、平面形は六角形を呈するものと考えられる。面積は 25.12㎡以上を測る。長軸方向は $N-62^{\circ}-W$ を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P3・P6 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P6 から古代の須恵器が出土している。

SB1525 (図版 44・46・94)

13・14B グリッドに位置する側柱建物である。P1 が SI1344 と重複し、これを切っている。SB1519 とは直接の切り合い関係にないものの、P5 は P522 に切られており、SB1519-P9 が P522 を切っていることから、本遺構は SB1519 よりも古い建物である。桁行 3 間 (6.2～6.47m)、梁行 2 間 (4.08～4.15m) の長方形で、面積は 26.00㎡ を測る。長軸方向は $N-68^{\circ}-W$ を示し、東西棟となる。柱穴の規模はば

らつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P3・P5～P7に認められ、径約20～30cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1から古代の土師器が出土している。

SB1522 (図版48・49・94・96)

SB1522は14・15Aグリッドに位置する側柱建物である。P5はSB1527-P4と重複し、これに切られる。北東側は調査区外へ延びるため明らかではないが、柱並びから桁行3間(6.86m)、梁行2間(5.92m)の長方形と推定される。面積は35.86㎡を測る。長軸方向はN-65°-Wを示し、東西棟と推定される。

柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径78～116cm、短径47～90cm、検出面からの深さ26～55cmを測る。規模にばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。P7を除く全ての柱穴に柱痕が認められ、柱痕の規模は長径21～41cm、短径14～35cmを測る。遺物はP1～P5から古代(9世紀中葉)の須恵器・土師器が出土している。

SA1531は14A・B、15Aグリッドに位置する杭列である。東西方向に5間(6本)検出した。長さ7.11m、柱間寸法0.89～1.76mを測る。長軸方向はN-69°-Wを示す。柱穴の規模はSB1522のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2・P3に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1～P3から古代(9世紀中葉)の須恵器・土師器が出土している。SB1522の南西側約1.5～2.0m先に位置し、長軸方向が近似することから、同遺構の目隠し堀と推定される。

SA1532は14A・B、15Aグリッドに位置する杭列である。P11はSB1527-P2と重複し、これに切られる。東西方向に8間(9本)検出し、15A21グリッドからほぼ直角に屈曲し南北方向に2間検出し、L字形を呈する。長さ10.94m、柱間寸法0.43～1.68mを測る。長軸方向はN-67°-W、短軸方向はN-25°-Eを示す。柱穴の規模はSB1522のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕はP3～P5・P7・P11に認められ、径約10～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2・P3・P5・P10・P11から古代の須恵器(49)・土師器が出土している。またP5から珠洲焼が出土しているが、その出土状況から後世の混入である可能性が高い。SB1522の南西側約1.0～2.0m先に位置し、長軸方向が近似することから、同遺構の目隠し堀と推定される。

SB1526 (図版48・49・94)

15Aグリッドに位置する側柱建物である。東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行3間(4.39m)、梁行1間以上(2.64m以上)の長方形を呈すると推定される。面積は7.73㎡以上を測る。長軸方向はN-18°-Wを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、太さ20～25cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2～P4から古代(9世紀中葉～末葉)の須恵器・土師器・灰釉陶器(47)が出土している。

SB1527 (図版48・49・95)

14A・B、15Aグリッドに位置する側柱建物である。P2はSA1532-P11、P4はSB1522-P5と重複し、これらを切っている。南東側の柱穴は検出できなかったが、桁行3間(5.18m)、梁行1間(3.1m)の長方形を呈する。面積は16.47㎡を測る。長軸方向はN-73°-Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2・P5に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は全ての柱穴から古代(9世紀中葉)の須恵器・土師器が出土している。

SB1528 (図版48・49・95)

14Aグリッドに位置する側柱建物である。桁行2間(3.12～3.24m)、梁行1間(1.89～2.26m)の長

3 遺 構

方形を呈する。面積は6.59㎡を測る。長軸方向はN-21°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP3～P6に認められ、径約15～20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP5から古代（9世紀中葉）の須恵器（48）・土師器が出土している。

c 井 戸

古代の井戸を6基検出した。全て素掘りの井戸で、建物の近くに位置する。覆土の堆積状況は、レンズ状に堆積するもの・水平に堆積するもの・単層のものがある。SE1405と堆積状況が不明なSE1493以外の井戸は、遺構の約3分の2ないしそれ以上まで短期的に埋め戻されている。

SE337 (図版36・38・97・98)

10Bグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径92～99cm、検出面からの深さ1.97mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、2層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SE609 (図版36・38・98)

10Bグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径1.08～1.13m、検出面からの深さ2.18mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は極暗褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器・灰軸陶器が出土している。

SE826 (図版39・40・99)

12Aグリッドに位置する。平面形は方形を呈し、径1.11～1.19m、検出面からの深さ2.21mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SE1139 (図版41・43・99・100)

12・13Aグリッドに位置する。SI1312と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径1.03～1.13m、検出面からの深さ1.42mを測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は暗褐色シルトと黒褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（8世紀中葉）の須恵器（57）・土師器が出土している。

SE1493 (図版44・47・101)

13Bグリッドに位置する。平面形は不整形円形を呈し、径1.06～1.09m、検出面からの深さ1.23mを測る。断面形は箱状を呈する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SE1405 (図版48・50・100・101)

14Aグリッドに位置する。南西側でSK1399と重複し、これを切っている。平面形は不整形方形を呈し、径1.44～1.50m、検出面からの深さ1.44mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、7層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（61・62）・土師器（63）・灰軸陶器（64・65）が出土している。

d 土 坑

古代の土坑を8基検出した。調査区東側の13～15グリッド列に存在し、掘立柱建物の分布状況に類似する傾向があることから、比較的限定された範囲に遺構が展開していることが窺える。遺物が出土している土坑は、須恵器片・土師器片が散在的に出土する傾向があることから、その多くは廃棄土坑であると

考える。中でも、SK477・483・1087からは黒書土器が出土していることから、廃棄儀礼のひとつと考える。

SK1345 (図版44・45・102・103)

13Bグリッドに位置する。SI1311・1344・SK1554と重複し、これらを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径1.51m、短径1.23m、検出面からの深さ55cmを測る。断面は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器(94)・土師器(95・96)が出土している。

SK476 (図版44・47・102)

14Aグリッドに位置する。SK477と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径87～96cm、検出面からの深さ34cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SK477 (図版44・47・102)

14Aグリッドに位置する。SK476と重複し、これに切られる。平面は楕円形を呈し、長径95cm、短径75cm、検出面からの深さ25cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと暗褐色シルトの混合土の単層である。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器(70～72)・土師器が出土している。

SK483 (図版44・47・102)

13Aグリッドに位置する。SB1519-P3・SB1519-P4・SB1523-P5・SA1530-P3とそれぞれ重複し、これらを切っている。またSE488と重複し、これに切られる。平面は長楕円形を呈し、長径2.45m、短径1.40m、検出面からの深さ49cmを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルト・明黄褐色シルトブロック・黒色シルト・暗赤灰色シルトを主体とし、6層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器(73～78)・土師器(79～83)が出土している。

SK1500 (図版44・47・103)

13Aグリッドに位置する。SB1519-P12と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈するものと推定され、径78cm、検出面からの深さ35cmを測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。遺構の切り合い関係から存続時期は古代と推定される。

SK1554 (図版44・47)

13Bグリッドに位置する。SI1344と重複し、これを切っている。またSK1345と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈するものと推定され、短径1.04m、検出面からの深さ13cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。遺構の切り合い関係から存続時期は古代と推定される。

SK1087 (図版48・50・102)

14Bグリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、長径2.62m、短径2.04m、検出面からの深さ16cmを測る。断面は弧状を呈する。覆土は褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(9世紀中葉)の須恵器(84～91)・土師器(92・93)が出土している。

SK1399 (図版48・50・103)

14Aグリッドに位置する。北東側でSE1405と重複し、これに切られる。平面は円形を呈し、径1.67～1.85m、検出面からの深さ10cmを測る。断面は皿状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

2) 中世の遺構

a 掘立柱建物

中世の掘立柱建物を5棟検出した。調査区東側の18グリッド列に存在する。検出した遺構はすべて側柱建物である。桁行と梁行の間数は、 2×1 間が3棟で最も多く、 4×2 間と 2×2 間が1棟ずつ存在する。面積は、調査区外に延びて明らかでないものを除き、16.82～24.09㎡で当遺跡の中では小～中規模な建物である。また、SB276・288は相対する柱間数が異なる。

SB276 (図版51・52・88・89)

18A・Bグリッドに位置する側柱建物である。P7はSK187、P10はSK183と重複し、これらを切っている。桁行4間(6.02～6.45m)、梁行2間(3.79～3.93m)の不整長方形を呈する。面積は24.09㎡を測る。長軸方向は $N-7^{\circ}-E$ を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P7・P9に認められ、径約15cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2・P6・P7から土師器もしくは土師質土器、P6から須恵器、P7から珠洲焼が出土している。

SB288 (図版51・52・88・89)

18A・Bグリッドに位置する側柱建物である。P1はSK183、P4はSD106とそれぞれ重複し、これらを切っている。P6はSK184と重複し、これに切られる。桁行2間(4.45～4.71m)、梁行2間(3.71～4.06m)の不整長方形を呈する。面積は18.10㎡を測る。長軸方向は $N-11^{\circ}-E$ を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1～P4・P7に認められ、径約15～20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1から須恵器、P2・P4から珠洲焼・土師器もしくは土師質土器が出土している。

SB289 (図版51・52・88・89・101)

18Bグリッドに位置する側柱建物である。P1はSB290-P1・SK182、P2はSE200・SK206、P4はSK187、P8はSK61とそれぞれ重複し、これらを切っている。桁行2間(4.43～5.2m)、梁行1間(3.35～3.39m)の六角形を呈する。面積は16.82㎡を測る。長軸方向は $N-32^{\circ}-W$ を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2・P3・P7・P8に認められ、径約20～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2・P3・P6～P8から土師器もしくは土師質土器、P1・P4・P7・P8から須恵器、P3から珠洲焼が出土している。

SB292 (図版51・52・88・89)

18Bグリッドに位置する側柱建物である。P1・P2はSK4と重複し、これを切っている。南西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行2間(2.88m)、梁行1間以上(0.92m以上)の南北棟と推定される。面積は2.05㎡以上を測る。長軸方向は $N-26^{\circ}-W$ を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP3・P4に認められ、径約15～20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1から須恵器・珠洲焼、P3から須恵器が出土している。

SB294 (図版51・53・88)

18Aグリッドに位置する側柱建物である。南東側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行2間以上(2.08m以上)・梁行1間以上(0.82m以上)の南北棟と推定される。面積は1.93㎡以上を測る。長軸方向は $N-23^{\circ}-W$ を示す。柱穴の規模はばらつきが見られる。遺物はP1から須恵器、P3から珠洲焼・土師器もしくは土師質土器が出土している。

b 井 戸

中世の井戸を9基検出した。全て素掘りの井戸で、建物の近くに位置する。覆土の堆積状況は、レンズ状に堆積するものと単層のものがある。SE143・488・1155以外は、遺構の約半分ないしそれ以上まで短期的に埋め戻されている。

SE760 (図版36・38・98)

10・11Bグリッドに位置する。南側は攪乱を受けているが、平面形は円形を呈し、径94cm、検出面からの深さ2.11mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は極暗褐色シルトと黒褐色粘土の2層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器・土師器のほか珠洲焼が出土している。

SE788 (図版39・40・98)

11Bグリッドに位置する。平面形は方形を呈し、長辺1.15m、短辺1.13m、検出面からの深さ1.90mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトと灰白色粘土+黒褐色粘土の混合土を主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器(55)のほか珠洲焼(56)・石臼(143)が出土している。

SE834 (図版39・40・99)

12Aグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径1.04～1.10m、検出面からの深さ2.11mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、3層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器・土師器のほか珠洲焼が出土している。

SE1565 (図版39・40・101)

12Aグリッドに位置する。平面形は方形を呈し、長辺1.57m、短辺1.37m、検出面からの深さ2.40mを測る。断面は箱状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から須恵器のほか珠洲焼(66)が出土している。

SE1221 (図版41・43・100)

12Aグリッドに位置する。SI1312と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径89～92cm、検出面からの深さ1.83mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器・土師器のほか珠洲焼(60)が出土している。

SE488 (図版44・47・98)

13Aグリッドに位置する。SB1519-P3・SB1523-P5・SA1530-P2・SK483と重複し、これらを切っている。平面形は円形を呈し、径1.16～1.26m、検出面からの深さ2.17mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は黒褐色シルト・黒色シルトを主体とし、13層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器・土師器(53)のほか珠洲焼(54)が出土している。

SE1155 (図版44・47・100)

13Aグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径1.13～1.19m、検出面からの深さ1.80mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、11層に識別され、レンズ状に堆積する。側壁には、検出面からの深さ1.0m・1.3m・1.5mの位置に、長径35～50cm、短径24～30cm、奥行き19～21cmの穴が穿かれていた。井戸浚いの際に使用したものであろうか、井戸の出入りのための「足掛け穴」と考えられる。「足掛け穴」は、相対する位置には存在しない。遺物は覆土から須恵器・土師器のほか珠洲焼(58・59)が出土している。

3 遺 構

SE143 (図版 51・53・97)

18A グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.07～1.19m、検出面からの深さ 1.86m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色シルトを主体とし、9層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼 (50)、覆土 9層底面から漆器碗 (147) が出土している。

SE203 (図版 51・53)

18A グリッドに位置する。北側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。検出面からの深さ 1.54m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から珠洲焼 (51・52) が出土している。

c 土 坑

SK183 (図版 51・53・101)

18A グリッドに位置する。SB276-P10・SB288-P1 と重複し、これらに切られる。平面形は楕円形を呈し、長径 1.26m、短径 0.88m、検出面からの深さ 12cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から珠洲焼 (67・68) が出土している。

3) 時期不明の遺構

a 掘立柱建物

SB1501 (図版 36・37・89・90)

9A・B グリッドに位置する側柱建物である。建物の北東側は調査区外へ延びるが、柱並びから桁行 2 間 (3.65m) 以上、梁行 2 間 (2.84m) の東西棟と推定される。面積 17.7m²以上を測る。長軸方向は N-41°-E を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3・P5 に認められ、径約 15～20cm の柱が据えられていたものと推測される。遺物は出土していない。

SB1502 (図版 36・37・90)

9B・C、10B・C グリッドに位置する側柱建物である。桁行 3 間 (7.27～7.39m)、梁行 3 間 (4.27～4.55m) の長方形を呈すが、梁行南側中央の柱は検出できなかった。面積 32.79m²を測る。長軸方向は N-0°-E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P3・P5・P7 に認められ、太さ 20～25cm 程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P5 から土師器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB1503 (図版 36・37・90)

9・10B グリッドに位置する側柱建物である。P2 が SB1533-P8 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行 2 間 (4.95～5.06m)、梁行 2 間 (4.79～4.98m) の方形を呈するが、梁行中央の柱穴は検出できなかった。面積は 24.40m²を測る。長軸方向は N-3°-E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P3～P5・P7 に認められ、径約 15～20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から土師器・須恵器と珠洲焼が、P3 から土師器が出土しているが、いずれも細片であり明確な時期を特定することはできなかった。

SB1533 (図版 36・38・95)

10A・B グリッドに位置する側柱建物である。P1 が SB1534-P1、P3 が SB1534-P2、P4 が SB1534-P3、P5 が SB1534-P4、P6 が SB1534-P5、P7 が SB1534-P6 とそれぞれ重複し、これらを切つ

ている。P8がSB1503・P2と重複するが、新旧関係は不明である。桁行2間(4.65～4.77m)、梁行2間(3.67～3.69m)の長方形を呈する。面積は17.75㎡を測る。長軸方向はN-32°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1～P7に認められ、径約10～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP8から土師器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB1534 (図版36・38・96)

10A・Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行2間(4.73～5.16m)、梁行2間(3.38～3.48m)の長方形を呈するが、北側中央の柱穴は検出できなかった。面積は17.22㎡を測る。長軸方向はN-33°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1～P3・P7に認められ、径約10～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB1533と検出位置がほぼ重なっており、建物の規模や長軸方向も近似している。柱穴の切り合い関係からSB1534の後にSB1533を建て替えたものである。

SB1508 (図版39・40・91)

10A・B、11A・Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行3間(4.38～4.75m)、梁行2間(3.95～4.12m)で、南側梁行中央の柱穴が内側に寄るため不整形を呈する。面積は17.70㎡を測る。長軸方向はN-1°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP4～P6・P8に認められ、径約10～20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2から須恵器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB1521 (図版39・40・93)

SB1521は11B・C、12Bグリッドに位置する側柱建物である。南西側は調査区外に延びているため、桁行・梁行は不明である。長軸方向はN-73°-Wを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P2に認められ、径約15cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SA1510は12B・Cグリッドに位置する杭列である。南北方向に1間検出し、長さ2.02mを測る。長軸方向はN-21°-Eを示す。柱痕はP1・P2に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。SB1521の東側約2.50m先に位置し、軸方向が近似することから、同遺構の目隠し扉と推定される。

SB1513 (図版41・43・91)

12Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行3間(4.50～4.76m)、梁行2間(4.22～4.36m)で、桁行中央の柱穴が若干外側に張り出すため不整形を呈する。面積は21.58㎡を測る。長軸方向はN-11°-Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2・P4・P5・P9に認められ、径約10cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB1529 (図版44・46・95)

13・14Aグリッドに位置する側柱建物である。北東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行2間以上(4.13m以上)、梁行2間(3.69m)の六角形を呈するものと考えられる。面積は8.59㎡以上を測る。長軸方向はN-3°-Wを示し、南北棟となるものと考えられる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2～P5に認められ、径約20～30cmの柱が据えられ

3 遺 構

ていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB1576 (図版 44・46・96)

13・14B グリッドに位置する側柱建物である。南側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行 2 間以上 (4.47m 以上)、梁行 1 間以上 (1.48m 以上) の長方形を呈するものと考えられる。面積 6.84m² 以上を測る。長軸方向は N - 58° - W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。

SB290 (図版 51・52・88・89)

18B グリッドに位置する側柱建物である。P1 は SK182・SB289-P1 と重複し、前者を切っており、後者に切られている。SB289 と重複し、これに切られることから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。南西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行 2 間以上 (3.63m)、梁行 2 間 (2.69m) の南北棟と推定される。面積は 7.93m² 以上を測る。長軸方向は N - 12° - E を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3 に認められ、径約 15 ~ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から須恵器、P3 から土師器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB291 (図版 51・52・88・89)

18B グリッドに位置する側柱建物である。P3 は SK61 と重複し、これを切っている。南西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行 2 間 (2.83m)、梁行 1 間以上 (1.34m) の南北棟と推定される。面積は 4.14m² 以上を測る。長軸方向は N - 14° - E を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3 に認められ、径約 15 ~ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から須恵器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB293 (図版 51・53・88)

18A グリッドに位置する。東側は調査区外に延びるため明らかではないが、既存値で桁行 2 間以上 (3.59m 以上) の柱穴が直線に並んでおり、方形ないし長方形を呈するものと考えられる。長軸方向は N - 22° - W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。

SB295 (図版 51・53・88・89)

18・19B グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びるため、桁行・梁行・長軸方向は不明である。柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径 109 ~ 81cm、短径 78 ~ 82cm、検出面からの深さ 43 ~ 56cm を測る。いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P2 に認められ、長径 30 ~ 40cm、短径 25 ~ 30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から土師器・須恵器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

b 井 戸

SE830 (図版 39・40・99)

12A グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.21 ~ 1.26m、検出面からの深さ 2.64m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE200 (図版 51・53・97)

18B グリッドに位置する。SB289-P2 と重複し、これに切られる。このことから、構築時期は中世以

前と推定されるが、詳細は不明である。また、SK206と重複し、これを切っている。平面形は不整形円形を呈し、長径1.22m、短径99cm、検出面からの深さ1.19mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、4層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE201 (図版51・53・97)

18Bグリッドに位置する。SK206と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径84～88cm、検出面からの深さ1.62mを測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色シルトを主体とし、7層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE202 (図版51・53)

18Aグリッドに位置する。北西側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は円形を呈するものと推定される。径71cm、検出面からの深さ1.82mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

c 土 坑

SK 4 (図版51・53・101)

18Bグリッドに位置する。SB292-P1・SB292-P2とそれぞれ重複し、これらに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。西側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は円形ないしは楕円形を呈するものと推定される。径1.67m、検出面からの深さ24cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK61 (図版51・53・101)

18Bグリッドに位置する。SB289-P8・SB291-P3とそれぞれ重複し、これらに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。平面形は不整形を呈し、長径1.31m、短径73cm、検出面からの深さ27cmを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK132 (図版51・53・101)

18Bグリッドに位置する。北東側は攪乱を受けている。平面形は円形を呈し、径約76cm、検出面からの深さ18cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK182 (図版51・53・101)

18Bグリッドに位置する。SB289-P1・SB290-P1とそれぞれ重複し、これらに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。西側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は円形を呈するものと推定される。径1.05m、検出面からの深さ28cmを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK187 (図版51・53・102)

18A・Bグリッドに位置する。SB276-P7・SB289-P4とそれぞれ重複し、これらに切られている。平面形は円形を呈し、径1.19～1.42m、検出面からの深さ13cmを測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から須恵器(69)が出土しているが、後世の混入と考えられる。

SK206 (図版51・53)

18Bグリッドに位置する。SB289-P2・SE200・201とそれぞれ重複し、これらに切られる。SB289と重複することから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。平面形は不整形円形を呈し、

4 遺物

径 91 ~ 104cm、検出面からの深さ 35cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒色シルトと黒褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

d 溝

SD1265 (図版 36・38・103)

10A グリッドに位置する。長さ 1.13m、幅 23cm、検出面からの深さ 35cm を測る。長軸方向は N - 83° - W を示す。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD724 (図版 48・50・103)

15A グリッドに位置する。南側に調査区外に延びるため明らかではないが、長さ 88cm 以上、幅 56cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向は N - 1° - E を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒色シルトと黒褐色シルトの 2 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SD190 (図版 51・53・103)

18A グリッドに位置する。長さ 94cm、幅 19cm、検出面からの深さ 5cm を測る。長軸方向は N - 61° - E を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD106 (図版 51・53・103)

18A グリッドに位置する。SB288-P4 と重複し、これに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。長さ 2.05m 以上、幅 21cm、検出面からの深さ 4cm を測る。長軸方向は N - 5° - W を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

4 遺物

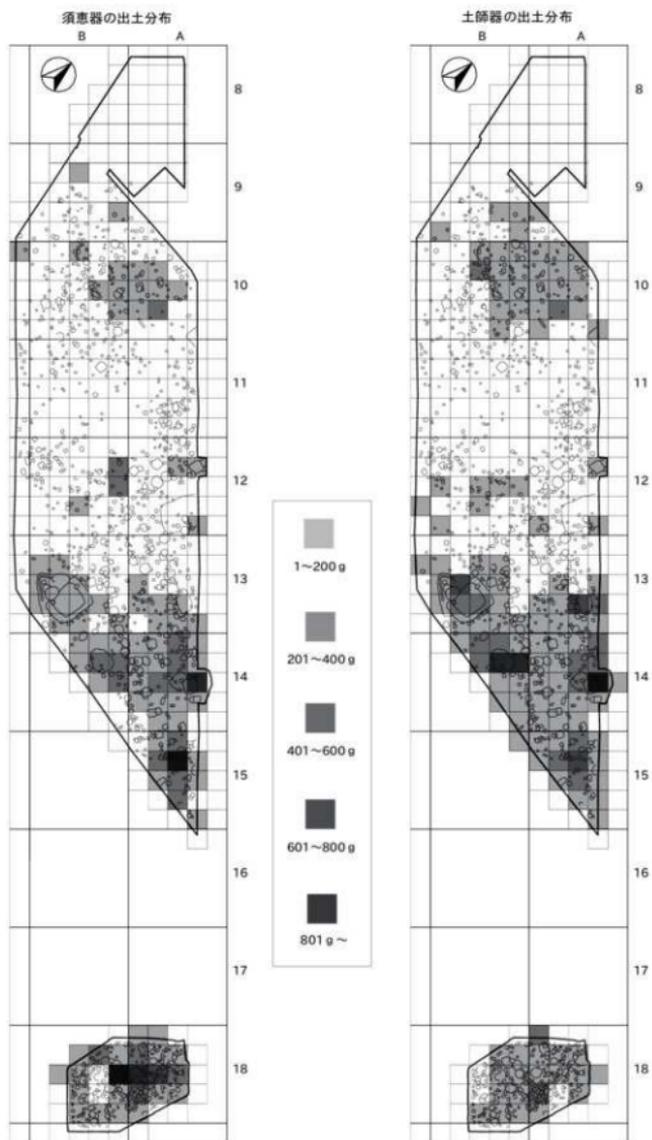
A 概要

出土遺物を大別すると、土器・陶磁器、土製品、石製品、銭貨、木製品がある。土器・陶磁器を時代別に大別すると、古代及び中世に分けられる。古代の土器は土師器 26 箱、須恵器 20 箱（箱サイズ 54 × 34 × 10cm）、灰軸陶器があり、8 世紀中葉～9 世紀末までのものが出土している。中世の土器は珠洲焼が 1 箱あり、13 世紀～14 世紀中葉までのものが出土している。土製品は鞆の羽口があり、共存する土器の年代から古代に位置付けられる。

遺構検出面直上には遺物包含層が存在し、古代の土器が多く出土していることから、小グリッドを単位として須恵器と土師器の重量分布図を作成した（第 32 図）。なお 11B グリッド付近は攪乱によって包含層が存在していなかった。そのためこの付近は空白となっている。須恵器と土師器は近似した分布傾向を示し、掘立柱建物群が存在する 10A・B、13A・B、14A・B、15A グリッドで多く見られる。また 18A・B グリッドでも多く見られるが、珠洲焼と混在して出土している。

石製品は砥石と石臼が出土した。銭貨は北宋銭に限定される。木製品は井戸から出土した漆器椀がある。

以下、出土遺物の説明を行うが、古代の土器に関しては第 3 章 4B の分類、珠洲焼の器種分類・編年に関しては〔吉岡 1994〕を参考にした上で記述した。遺構内出土土器、遺構外出土土器の順に説明を行う。遺構内出土土器は遺構別に、遺構外出土土器は分類別に説明を行うものとする。土製品、石製品、銭貨、木製品はそれぞれ種類別に説明を行うものとする。



第 32 図 岩ノ原遺跡Ⅱ 出土土器分布図

B 土器・陶磁器

1) 遺構内出土

SI1311 (図版 54-1～4, 図版 104)

須臾器壺蓋(1)、杯蓋(2・3)、無台杯(4)が出土している。1の胎土は緻密で、胎土から西頸城丘陵の窯産と考えられる。2は法量Ⅱに属する。外面の天井部は回転ヘラケズリ痕が明瞭に残る。4は底部破片で外面に「大山」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と考えられる。2・3・4の時期は8世紀末～9世紀初頭(春日編年Ⅳ-2～3期)に比定される。

SI1312 (図版 54-5～29・図版 55-30～32, 図版 104・105)

須臾器杯蓋(5～14)、有台杯(15～21)、無台杯(22～25)、横瓶(26)、土師器黒色蓋(27)、甕(28～30)、把手付鍋(31・32)が出土している。

5は法量Ⅱに属する。厚手の作りで、胎土には1mm大の黒色粒が多量に混入している。天井部にヘラ切り痕が明瞭に残る。摘みはボタン形を呈する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀第3四半期(春日編年Ⅳ-1期)に比定される。6は法量Ⅱに属し、外面に自然軸が掛かる。端部がわずかに反外する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀後半～9世紀初頭に比定される。7は法量Ⅱに属し、摘みは低いかげの大きな擬宝珠形で作りがシャープである。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀第3四半期に比定される。8～10・12～14はいずれも法量Ⅱに属し、器高が浅い。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8・9・14が8世紀後半～9世紀初頭、10～13が8世紀第3四半期に比定される。

15は細別AⅢに属する。高台は内端接地で内端の突出が顕著である。外面全体に黄緑色の自然軸が掛かる。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定される。16は細別AⅡに属する。色調は濃い灰色で全体にやや厚手の作りである。高台は内端接地で腰部にはっきりした稜を持たない。底部外面に「庄」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀中葉に比定される。17は細別AⅡに属し、底部外面に「×」のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀第3四半期(春日編年Ⅳ-1期)に比定される。18・19は共に細別AⅢに属する。胎土は砂質で、西頸城丘陵の窯産と推定される。時期は8世紀末(春日編年Ⅳ-2期)に比定される。21は細別AⅡに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀後半に比定される。

22は細別AⅠに属し、内外面に火ダスキ痕が見られる。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀第3四半期(春日編年Ⅳ-1期)に比定される。23は細別AⅠに属する。器厚は底部が厚く、口縁部が薄い。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀第3四半期に比定される。24は内外面に火ダスキ痕が見られる。底部外面に「十」の墨書がある。25は細別AⅡに属し、底部外面に「福」の墨書がある。口縁部内外面にスス痕が見られる。24・25は胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀末(春日編年Ⅳ-2期)に比定される。

26は横瓶の閉塞部付近の破片である。外面に自然軸が掛かる。時期は8世紀第3四半期に比定される。27は内外面を黒色処理した土師器蓋である。外面は黒色処理後、丁寧な横位のミガキが施されている。時期は9世紀第1四半期に比定される。28は法量Ⅱに属する。全体に薄い作りで、内面の輪積み痕が顕著に残る。外面全体と口縁部内面にスス痕が見られる。31は口縁部が短く、頸部の屈曲が明瞭である。

32は体部が半円形に立ち上がり、明瞭な屈曲を持って口縁部に至るものである。内外面とも風化が著しい。

SI1344 (図版 55-33 ~ 37, 図版 105)

須恵器杯蓋 (33)、有台杯 (34)、無台杯 (35)、土師器無台椀 (36)、有台椀 (37) が出土している。33 は法量Ⅲに属する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は 8 世紀末～9 世紀初頭に比定される。34 は細別 B II に属する。高台は内端接地する。胎土は砂質である。時期は 9 世紀第 1 四半期 (春日編年 IV-3 期) に比定される。35 は細別 C I に属する。色調は灰色で胎土は硬くしまっている。36 は法量 I に属する。底部切り離しは糸切りである。37 は脚足の長い高台を持つ椀で、全体に風化が著しい。出土状況から後世の混入と考えられる。

SB1512 (図版 55-38, 図版 105)

灰釉陶器皿 (38) が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は美濃系と推定され、光ヶ丘 1 号窯式併行と考えられる。時期は 9 世紀後半に比定される。

SB1519 (図版 55-39 ~ 46, 図版 105)

須恵器有台杯 (39～41)、鍋 (42) 土師器甕 (43～46) が出土している。39 は細別 A III に属する。体部の立ち上がり急で、高台は内端接地する。底部外面はヘラ切り痕が明瞭に残る。時期は 8 世紀末～9 世紀初頭 (春日編年 IV-2～3 期) に比定される。40 は底部外面に「大山」の墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は 8 世紀末～9 世紀初頭に比定される。41 は細別 A III に属する。底面の切り離しは糸切りで、底部外半部を回転ヘラケズリ調整している。底部外面に「東」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は 9 世紀中葉 (春日編年 V-2 期) に比定される。42 の色調は灰白色を呈する。外面にカキメ痕がある。43～45 は法量 II に属する。全体に薄い作りである。46 は法量 I に属する。ロク口成形で、内面と外面上半はカキメ調整で外面下半は縄巻工具による平行タタキ痕が見られる。

SB1526 (図版 55-47, 図版 105)

灰釉陶器椀 (47) が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され、黒笹 90 号窯式併行と考えられる。時期は 9 世紀後半に比定される。

SB1528 (図版 55-48, 図版 105)

須恵器無台椀 (48) が出土している。細別 C II に属する。底部外面に読解不可能な墨書がある。胎土から西頸城丘陵の滝寺窯産と推定され、時期は 9 世紀中葉に比定される。

SA1532 (図版 55-49, 図版 105)

須恵器長頸壺 (49) が出土している。頸部片である。

SE143 (図版 55-50, 図版 105)

珠洲焼甕 (50) が出土している。底部片で、時期は 14 世紀前葉～中葉 (珠洲Ⅳ期) に比定される。

SE203 (図版 55-51・52, 図版 105)

珠洲焼片口鉢 (51)、甕 (52) が出土している。51 は口縁端部が平坦で内傾している。時期は 14 世紀前葉～中葉 (珠洲Ⅳ期) に比定される。52 は口縁端部が丸く、頸部の屈曲が明瞭で肩部が張っている。時期は 13 世紀前半 (珠洲Ⅱ期) に比定される。

SE488 (図版 55-53・54, 図版 105)

土師器 (53)、珠洲焼片口鉢 (54) が出土している。53 は深皿状の体部を持ち脚が付くと考えられるが、

器種は不明である。54は口縁端部が平坦で内傾している。時期は14世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。

SE788（図版56-55・56、図版105）

須恵器小壺（55）、珠洲焼片口鉢（56）が出土している。55は頸部片で、肩部に灰色の自然釉が掛かる。56は口縁部片である。胎土は砂質である。時期は14世紀後葉～15世紀前半（珠洲Ⅴ期）に比定される。

SE1139（図版56-57、図版105）

須恵器有台杯（57）が出土している。細別AⅡに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀中葉に比定される。

SE1155（図版56-58・59、図版105）

珠洲焼片口鉢（58・59）が出土している。58は口縁部片で内面に6条の卸し目がある。時期は14世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。59は体部下半片で内面に14条の卸し目がある。時期は14世紀（珠洲Ⅳ期以降）に比定される。

SE1211（図版56-60、図版105）

珠洲焼片口鉢（60）が出土している。内面に22条の卸し目がある。時期は13世紀後半（珠洲Ⅲ期）に比定される。

SE1405（図版56-61～65、図版105・106）

須恵器杯蓋（61・62）、土師器椀（63）、灰釉陶器椀（64・65）が出土している。61は法量Ⅲに属する。胎土は砂質である。内面中央に「一」のヘラ記号が刻まれている。時期は8世紀末～9世紀初頭（春日編年Ⅳ・2～3期）に比定される。62は法量Ⅱに属する。天井部が平坦である。外面に「□」（菜カ）の墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀後半に比定される。63は法量Ⅰに属する。底部は小さく突出し体部は内湾して上部で緩やかに外反する。時期は9世紀中葉（春日編年Ⅴ・2期）に比定される。64は口縁端部が小さく丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けである。胎土から産地は美濃系と推定され、光ヶ丘Ⅰ号窯式併行と考えられる。時期は9世紀後半に比定される。65は口縁端部が外反丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され、黒笹90号窯式併行と考えられる。時期は9世紀後半に比定される。

SE1565（図版56-66、図版106）

珠洲焼片口鉢（66）が出土している。内外面共に風化が著しい。時期は14世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。底面の切り離しは静止系切りである。

SK183（図版56-67・68、図版106）

珠洲焼片口鉢（67・68）が出土している。67は口縁部片で端部がやや丸味をなしている。時期は13世紀（珠洲Ⅱ～Ⅲ期）に比定される。68は口縁端部が平坦で内傾している。内面に卸し目が5条確認できる。時期は14世紀中葉（珠洲Ⅳ期後半）に比定される。

SK187（図版56-69、図版106）

須恵器横瓶（69）が出土している。口縁部片で、端部がやや平坦をなしている。

SK477（図版56-70～72、図版106）

須恵器杯蓋（70）、有台杯（71・72）が出土している。70は外面に読解不可能な墨書がある。71は細別AⅢに属し、底部外面に「大口」（山カ）の墨書がある。胎土から滝寺窯産と推定され、時期は9世紀初頭（春日編年Ⅳ・3期）に比定される。72は細別BⅡに属する。底部は平坦で腰部の屈曲が明瞭である。

底部外面に「□」〔物カ〕の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産で、時期は9世紀第1四半期に比定される。

SK483 (図版 56-73 ~ 80, 図版 57-81 ~ 83, 図版 106)

須恵器杯蓋 (73 ~ 75)、有台杯 (76)、無台杯 (77-78)、土師器椀 (79-80)、甕 (81 ~ 83) が出土している。73 は胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀前半 (春日編年Ⅴ期) に比定される。74 は法量Ⅳに属する。時期は8世紀末 ~ 9世紀初頭 (春日編年Ⅳ・2 ~ 3期) に比定される。75 は体部外面に「大歳」の墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀前半に比定される。

76 は細別 AⅣに属し、胎土に長石を多く含む。時期は9世紀中葉に比定される。77 は細別 CⅡに属する。体部が内湾して端部は細くなる。時期は8世紀末 ~ 9世紀初頭に比定される。78 は細別 CⅠに属する。時期は9世紀前半に比定される。

79 は法量Ⅱに属する。底部は糸切り無調整である。時期は9世紀第1四半期に比定される。81 は法量Ⅰに属し、ロクロ成形である。82 は法量Ⅱに属し、ロクロ成形で内外面にスガが付着している。83 は法量Ⅰに属し、ロクロ成形で外面のカキメが明瞭である。

SK1087 (図版 57-84 ~ 93, 図版 106・107)

須恵器杯蓋 (84 ~ 86)、有台杯 (87 ~ 89)、無台杯 (90-91)、土師器黒色蓋 (92)、椀 (93) が出土している。84・85 は法量Ⅲに属する。積みは低めの擬宝珠形を呈する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀第2四半期 (春日編年Ⅴ期) に比定される。86 は体部片で外面に墨書がある。

87 は細別 AⅢに属する。腰部の稜は弱く、高台は外端接地する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定される。88 は底部破片で高台は外端接地する。外面に墨書が確認できる。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀第2四半期に比定される。89 は細別 BⅡに属し、体部内外面はロクロ目が目立つ。時期は9世紀第2四半期に比定される。90 は底部がへら切りで、胎土から佐渡小泊窯産と推定される。時期は9世紀第2四半期に比定される。91 は底部破片で糸切り無調整である。外面に墨書がある。

92 は内外面に黒色処理した土師器蓋である。内外面は黒色処理の後、丁寧な横位のミガキが施されている。時期は9世紀前半に比定される。93 は法量Ⅰに属する。全体に風化が激しい。

SK1345 (図版 57-94 ~ 96, 図版 107)

須恵器無台杯 (94)、土師器椀 (95・96) が出土している。94 は細別 AⅠに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀第2四半期 (春日編年Ⅴ期) に比定される。95 は法量Ⅰに属する。時期は9世紀第2四半期に比定される。96 は底部が糸切り無調整で、外面に「十」の墨書がある。

P198 (図版 57-97, 図版 107)

珠洲焼片口鉢(97)が出土している。口縁端部が平坦で内傾している。内面に3条・13条の押し目がある。時期は14世紀前葉 ~ 中葉 (珠洲Ⅳ期) に比定される。

P470 (図版 57-98 ~ 100, 図版 107)

須恵器杯蓋 (98)、有台杯 (99)、無台杯 (100) が出土している。98 は法量Ⅰに属し、外面に「十」の墨書がある。時期は8世紀後半 ~ 9世紀初頭 (春日編年Ⅳ期) と考えられる。99 は細別 AⅢに属する。腰部の稜が明確で、底部は糸切りで周囲を回転ヘラケズリ調整している。胎土から西頸城丘陵の窯産で、時期は9世紀中葉 (春日編年Ⅴ・2期) に比定される。100 は細別 CⅡに属する。底部は糸切り無調整で、底部外面に「W」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀第2四半期に比定される。

4 遺物

P474 (図版 57-101, 図版 107)

須恵器無台杯(101)が出土している。細別 A I に属し、底部外面に墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀末～9世紀初頭(春日編年Ⅳ・2～3期)に比定される。

P744 (図版 57-102, 図版 107)

灰軸陶器椀(102)が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施軸はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され黒笹 90 号窯式併行と考えられる。時期は9世紀後半に比定される。

P745 (図版 57-103, 図版 107)

灰軸陶器椀(103)が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施軸はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は美濃系と推定され光ヶ丘 1 号窯式併行と考えられる。時期は9世紀後半に比定される。

P1200 (図版 57-104, 図版 107)

須恵器壺(104)が出土している。体部片で、貼付文がある。

P1291 (図版 57-105, 図版 107)

須恵器長頸壺(105)が出土している。口縁部片である。

P1328 (図版 57-106, 図版 107)

土師器椀(106)が出土している。底部の切り離しは糸切りで、底部外面に「後」の墨書がある。

P1365 (図版 57-107, 図版 107)

須恵器壺(107)の肩部片が出土している。胎土から佐波小泊窯産と推定され、時期は9世紀第2四半期(春日編年Ⅴ期)以降と考えられる。

P1441 (図版 58-108・109, 図版 107)

須恵器無台杯(108)、珠洲焼片口鉢(109)が出土している。108は細別 A II に属し、底部外面に「×」のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀末(春日編年Ⅳ・2期)に比定される。109は内面に卸し目が3条確認できる。時期は14世紀前葉～中葉(珠洲Ⅳ期)に比定される。

P1564 (図版 58-110, 図版 107)

灰軸陶器椀(110)が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施軸はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され黒笹 90 号窯式併行と考えられる。時期は9世紀後半に比定される。

2) 遺構外出土

須恵器杯蓋 (図版 58-111～114, 図版 107)

111は法量Ⅲに属し、内面に「一」のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀第2四半期(春日編年Ⅴ期)に比定される。112は天井部片で、外面に「東」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀末～9世紀初頭(春日編年Ⅳ・2～3期)に比定される。113は法量Ⅱに属する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀第2四半期に比定される。114は法量Ⅲに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀末～9世紀初頭に比定される。

須恵器有台杯 (図版 58-115～117, 図版 107)

115は細別AⅢに属する。底部外面に「十」の墨書がある。また「一」状のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀末(春日編年Ⅳ-2期)に比定される。116は細別AⅣに属する。115と比べて器壁が薄く、腰部の稜が明瞭で体部は直線的である。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は9世紀中葉(春日編年Ⅴ-2期)に比定される。117は細別BⅠに属する。体部下半が欠損するが、器形から有台杯と考えられる。体部は丸みを持ち、口縁部で外反する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は8世紀末～9世紀前半に比定される。

須恵器無台杯 (図版 58-118～120, 図版 107・108)

118は細別Bに属する。いわゆる「二段底」で、底部切り離しは糸切りである。底部外面に「浄坏」の墨書がある。時期は8世紀後半(春日編年Ⅳ期)に比定される。119は底部外面に「大□」の墨書がある。120は細別AⅡに属する。胎土から佐渡小泊窯産と推定され、時期は9世紀第3四半期(春日編年Ⅵ-1期)に比定される。

須恵器凸帯付四耳壺 (図版 58-121, 図版 108)

121は体部片である。凸帯及び耳部の断面は台形を呈する。凸帯の上面から直径3mm、耳部の上面から直径1.8mmの穿孔が施されているが、いずれも貫通していない。時期は8世紀後半～9世紀前半に比定される。

須恵器壺 (図版 58-122, 図版 108)

122は口縁部片である。外面に一条の凸帯と2条の櫛描波状文及び沈線がある。

須恵器四耳壺 (図版 58-123, 図版 108)

123は口縁部から体部下半までの破片である。体部は肩に稜線があり耳部が付されている。耳部の形状は胴張長方形で、中央に1か所穿孔が施されている。時期は9世紀に比定される。

須恵器短頸壺 (図版 58-124, 図版 108)

124は口縁部から体部の破片である。体部の肩上半に稜線があり、自然軸が見られる。

須恵器横瓶 (図版 58-125, 図版 108)

125は横瓶の閉塞部付近の破片である。時期は8世紀第3四半期に比定される。

土師器黒色蓋 (図版 58-126, 図版 108)

126は体部片である。内外面は黒色処理した後、ミガキを施す。

土師器有台椀 (図版 58-127, 図版 108)

127は底部片である。内外面は黒色処理した後、ミガキを施す。

土師器鍋 (図版 59-128, 図版 108)

128は口縁部片である。頸部の屈曲は明瞭で口縁部は直線的である。端部は平坦である。

灰陶陶器椀 (図版 59-129～131, 図版 108)

129～131は底部片である。高台径からみて大型の椀と考えられる。高台端部はヘラで面取りする。施軸方法は129が不明、130・131はツケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定される。

珠洲焼片口鉢 (図版 59-132～137, 図版 108)

133は口縁部片である。口縁端部はやや丸みを帯びる。内面に4条・7条の卸し目がある。時期は13世紀後半(珠洲Ⅲ期)に比定される。134は口縁部破片である。口縁端部が平坦で内傾している。時期は14世紀前葉～中葉(珠洲Ⅳ期)に比定される。135は口縁部片である。口縁端部が平坦で内傾している。

内面に3条・5条の卸し目がある。時期は13世紀後半(珠洲Ⅲ期)に比定される。136は底部片である。内面に7条・14条の卸し目がある。時期は14世紀中葉(珠洲Ⅳ期)以降に比定される。137は底部片である。残存する内面全体に卸し目が施されている。時期は13世紀後半～14世紀中葉(珠洲Ⅲ～Ⅳ期)に比定される。

C 土 製 品 (図版 59-138、図版 108)

138はSI1312の覆土から出土した轆の羽口である。外径は6.1cmと推測される。鉄滓等の付着物は見られない。共存する土器の年代から8世紀後半～9世紀初頭に比定される。

D 石 製 品 (図版 59-139～144、図版 108)

139はSE143の覆土から出土した砥石である。上半部を欠損する。砥面は表裏面、両側縁に認められる。表面の砥面は中央部で左右二単位に別れており、幅広くやや深い線条痕が横位に連続して認められる。長さ8.4cm、幅5.2cm、厚さ4.1cm、重量190gを計り、石材は凝灰岩である。

140はP502の覆土から出土した砥石である。上半部を欠損する。やや扁平な角柱状を呈し、下端部に最大幅・最大厚を有する。砥面は下端部を含み5単位認められる。長さ9.0cm、幅3.8cm、厚さ3.0cm、重量136gを計り、石材は凝灰岩である。

141はP591の覆土から出土した砥石である。上半部を欠損する。断面形は角柱状を呈し、下端部を含み5単位の砥面が形成される。長さ5.4cm、幅2.6cm、厚さ2.5cm、重量51gを計り、石材は凝灰岩である。

142はP893の覆土から出土した砥石である。断面形は角柱状を呈し、表裏、両側面、上下両端部に砥面が形成される。表裏両側面の砥面は平坦であるが、上下両端部には丸みを持つ砥面が形成される。長さ7.3cm、幅2.7cm、厚さ2.3cm、重量99gを計り、石材は凝灰岩である。

143はSE788の覆土1層から出土した。石臼の下臼部分に相当する。4分の1程度残存する。本来の大きさは直径30cm程度と推定される。摺目は比較的明瞭に残っており、中央部には、軸穴がある。石材は安山岩で、残存する重量は3,200gを量る。

144はP623の覆土から出土した。石臼の下臼部分に相当する。欠損しているが、本来の大きさは直径30cm程度と推定される。長期間の使用のためか摺目は全く残っておらず、光沢のある滑らかな平坦面が形成される。石材は安山岩で、残存する重量は4,200gを量る。

E 銭 貨 (図版 59-145・146、図版 108)

P1591の覆土から銭貨2枚が密着した状態で出土した(145・146)。145は1094年に初鑄された「紹聖元寶」で、直径2.4cm、厚さ1.4mm、重さ2.58gを量る。146は1078年に初鑄された「元豐通寶」で、直径2.4cm、厚さ1.5mm、重さ1.96gを量る。いずれも北宋銭である。

F 木 製 品 (図版 59-147、図版 108)

147はSE143の覆土9層底面から出土した総黒色の漆器櫛である。低い高台が付くが欠落している。口径13cm、残存する器高4.4cm、底径7.3cmを測る。

5 ま と め

A 岩ノ原遺跡における遺構の変遷

今回の調査で岩ノ原遺跡Ⅱ（以下Ⅱ地区）からは古代及び中世の遺構・遺物を検出した。特に古代に關しては出土した墨書土器の内容（第Ⅶ章5Bで後述）から、平成18年度に調査を実施した岩ノ原遺跡Ⅰ〔高橋^{ほか}2008〕（以下Ⅰ地区）と同様に「東大寺領石井荘」の荘園遺跡と推定される。ここでは両地区を対象として、遺構の存続時期を伴出する遺物の年代などから3時期に区分して、それらの変遷を記述する（第33図）。

岩ノ原Ⅰ期（古代：8世紀中葉～9世紀初頭）

Ⅰ地区では北西部から8世紀中葉～後葉（春日編年Ⅳ・1期）に比定される須恵器¹⁾が出土しており、後述する南東部の遺構群及びその周辺からはこの時期に比定される土器は見つかっていない。そのため北西部で検出した掘立柱建物3棟（SB2・3・6）、杭列1基（SA9）、土坑3基（SK1・7・8）、性格不明遺構1基（SX4）が当該期の遺構に位置付けられるものと考えられる。掘立柱建物は一部を除き、柱穴に掘形を持たない打ち込み柱である。その形態や規模から住居ではなく倉庫もしくは小屋と推定され、儀明川に近いという立地から物資の搬入のためのものと想定される〔高橋^{ほか}2008〕。

Ⅱ地区では出土遺物の年代から竪穴住居3棟（SI1311・1312・1344）、井戸1基（SE1139）、土坑1基（SK1399）が当該期の遺構に位置付けられる。また掘立柱建物1棟（SB1523）は平面形がSB2・6と同様に六角形を呈すること、柱穴が岩ノ原Ⅱ期の遺構（SB1519・SK483）に切られていることから、当該期に位置付けられる可能性を持つ。

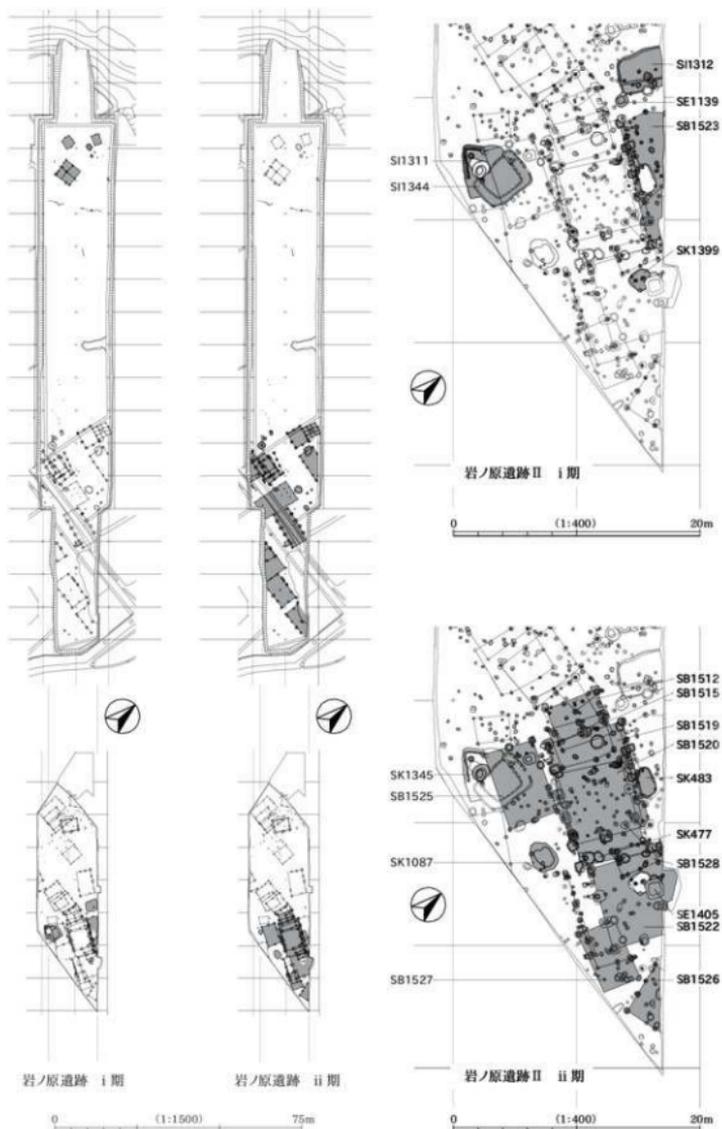
SI1312からは「庄」の墨書が書かれた8世紀中葉に比定される須恵器有台杯（16）が出土した。Ⅰ地区の調査成果〔高橋^{ほか}2008〕と合わせて考慮すると、両地区における当該期の遺構は「東大寺領石井荘」に關する可能性が高い。遺構・遺物の検出状況から、Ⅱ地区が荘所、Ⅰ地区北西部が石井荘の物資の搬入の場所として機能していたものと推定できる。しかし両者は直線距離にして約250m離れている。両者の間がどのように利用されていたかについては、現時点では不明である。

岩ノ原Ⅱ期（古代：9世紀中葉～後葉）

Ⅰ地区では南東部に位置する遺構及びその周辺から9世紀中葉に比定される土器が多量に出土しており、土器の中には「石井庄」「石庄」「庄」と墨書したものが多く認められる。そのため南東部で検出した掘立柱建物13棟、井戸1基、土坑8基、性格不明遺構7基、溝1条、畑作溝80条が当該期の遺構に位置付けられ、この地が石井荘の荘所として機能していたものと考えられる。掘立柱建物は地形に直行する形で3列に分布し、配置に強い規則性が認められた。また畑作溝は掘立柱建物等を切っており、建物が廃絶した後、あまり時を経ずに畑を構築したものと推定される〔高橋^{ほか}2008〕。

Ⅱ地区では出土遺物の年代及び遺構の切り合い関係から掘立柱建物9棟（SB1512・1515・1519・1520・1522・1525・1526・1527・1528）、井戸1基（SE1405）、土坑4基（SK477・483・1087・1345）が当該期の遺構に位置付けられる。9世紀中葉に比定される出土土器の中には「石井庄」「石庄」と

1) 岩ノ原遺跡Ⅰの報告書ではこれらの土器の年代を8世紀末葉（管沢編年Ⅳ・2期）とした〔金内2008〕が、後日、春日真実氏から他遺跡での一括資料との比較から8世紀中葉～後葉に位置付けられるとの指摘を受けたため、本稿ではその指摘に基づいた記述を行うものとする。



第 33 図 岩ノ原遺跡における遺構の変遷

墨書したものは認められなかったが、建物（群）に方角を冠して示したものと推定できる「東」（41）や、豊作を祈念する祭祀に関連するものと考えられる「大歳」（75）と墨書したものが確認できる。そのことから一般の集落とは考えられず、石井荘の荘所であった可能性が高い。またⅡ地区ではⅠ地区で確認できなかった灰軸陶器が一定量出土している。頸城郡において灰軸陶器の搬入が本格化するのには9世紀中葉～末葉と考えられており〔笹澤 2003〕、Ⅰ地区南東部の建物群が廃絶した後もしばらくの間、Ⅱ地区において荘所が営まれていた可能性がある。

またⅠ地区とⅡ地区の掘立柱建物の長軸方向を比較すると、Ⅰ地区の南北棟長軸は $N-5^{\circ}-17^{\circ}-E$ 、東西棟長軸は $N-72^{\circ}-79^{\circ}-W$ 及び $N-83^{\circ}-86^{\circ}-W$ の範囲に取まる〔高橋³³ 2008〕。これに対してⅡ地区の南北棟長軸は $N-18^{\circ}-W$ 及び $N-21^{\circ}-25^{\circ}-E$ 、東西棟長軸は $N-64^{\circ}-73^{\circ}-W$ の範囲に取まり、地区によって異なっていることがわかる。また建物の面積を比較してもⅠ地区は15.90～75.44㎡の範囲に取まるのに対し、Ⅱ地区は6.59～55.83㎡と一回り小さい。このことから両地区の建物の役割が異なっていた可能性も考えられる。

岩ノ原Ⅲ期（中世：13世紀～15世紀前半）

Ⅰ地区では当該期の遺構は検出できず、遺物包含層上面から珠洲焼（珠洲Ⅳ期・14世紀）が数点出土したのみである〔高橋³³ 2008〕。

Ⅱ地区では珠洲焼等中世の遺物が出土することから、掘立柱建物5棟（SB276・288・289・292・294）、井戸9基（SE760・788・834・1565・1221・488・1155・143・203）、土坑Ⅰ基（SK183）が当該期の遺構に位置付けられる。掘立柱建物は南東側（18A・Bグリッド）に限定されるのに対して、井戸はⅡ地区全域（10・11B、12・13・18Aグリッド）に渡って検出された。したがって岩ノ原Ⅲ期における集落の中心はⅡ地区南東側にあったものと考えられるが、調査区域が限定されているため、その様相を判断することは困難である。出土遺物の大半は珠洲焼で、珠洲Ⅱ期（13世紀前半）～Ⅴ期（14世紀後半～15世紀前半）に比定されるものが確認できるが、Ⅳ期に比定されるものが多い。このため集落の中心となる時期は14世紀頃と推定できる。

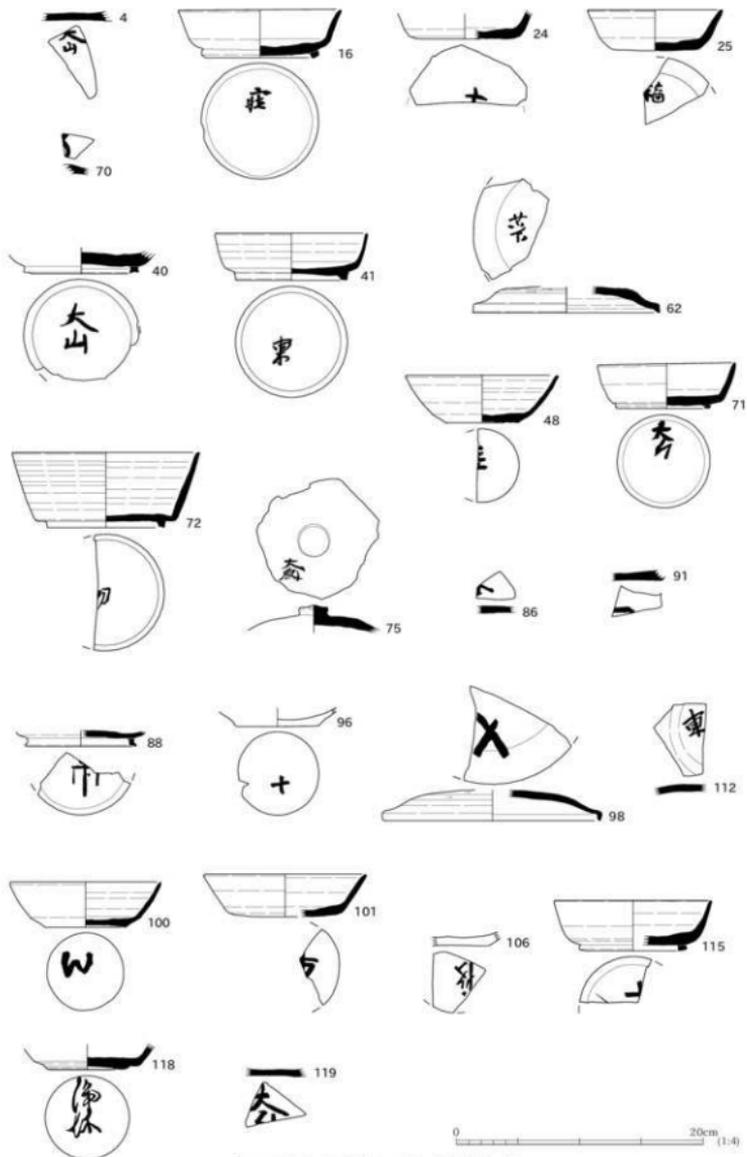
B 岩ノ原遺跡Ⅱ出土の墨書土器について

1) 概要

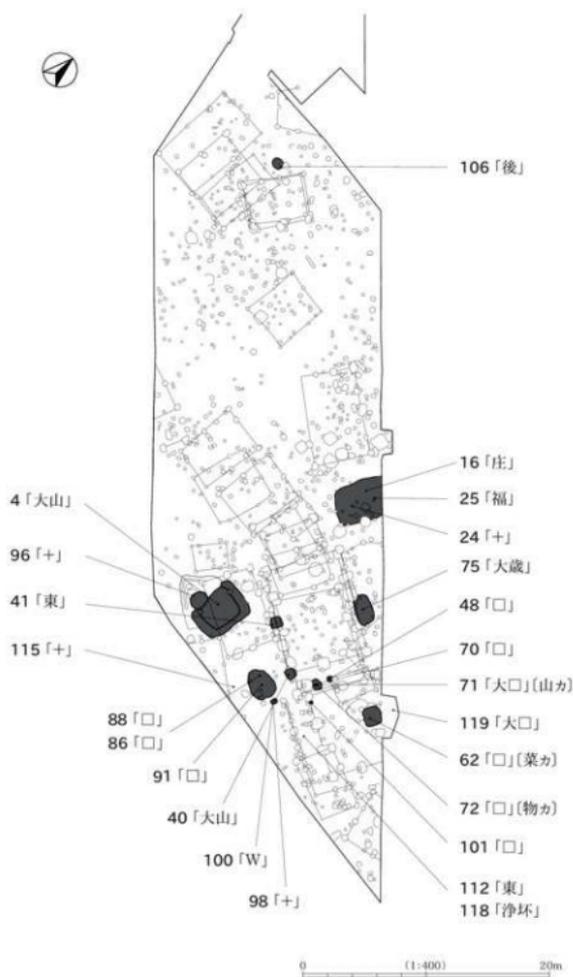
岩ノ原遺跡Ⅱの発掘調査では24点の墨書土器が出土した（第34・35図）。ほとんどが調査区東側の竪穴住居や掘立柱建物、土坑等の遺構が密集する範囲から出土しており、調査区西側からの出土は106の1点だけである。墨書土器の出土遺構には、竪穴住居や掘立柱建物の柱穴、土坑、井戸、ビツがある。SI1312から3点、SB1519の柱穴から2点、SK477から3点、SK1087から3点と同一遺構から複数点出土しているが、特定の文字が集中する傾向は見られない。墨書土器24点の内訳は、須恵器が22点、土師器が2点であり、器種は須恵器が無台杯・有台杯・杯蓋、土師器が無台碗で、すべて食膳具である。

2) 主な文字の検討

墨書土器24点の内、文字を判読できたものは18点（推定によるものを含む）である。以下、主な文字について述べる。「浄环」は須恵器無台杯(118)の底部外面にやや大きく記されている。偏は連続的に記し、旁はややくずして記している。「浄环」の例は管見の限り見出すことができなかったが、「○+环」の例として「酒杯」（宮城県山王遺跡、石川県浄水寺跡ほか）や「寺环」（千葉県圓通台遺跡、熊本県洗心遺跡ほか）など



第34図 岩ノ原遺跡II 出土の墨書土器一覽



第 35 図 岩ノ原遺跡Ⅱの墨書土器出土地点

がある¹⁾。「浄坏」は文字通り「清浄な坏」を意味すると考えられる。胎土や作り方など、土器そのものは決して特別なものとは考えられないが、「浄坏」という文字を記すことによって特別な器であることが示され、祭祀などの場で使用されたのであろう。

「大山」は須恵器有台坏(40)の底部外面にやや大きく記されている。須恵器無台坏(4)にも「大山」と書かれているが、こちらは底部外面に小さく記している。71は二文字目の墨痕が薄く読みきることができないが、「大□(山カ)」と同じ文字を記している可能性がある。「大山」の意味は不明である。

「東」は須恵器有台坏(41)の底部外面に記されている。須恵器坏蓋(112)の外面にも「東」と書かれている。41と112は文字の大きさや字形が類似している。古代の初期荘園の荘所とされる遺跡からは「北館」(上越市榎井A遺跡)、「東庄」(石川県金沢市上荒原遺跡)など、方角を冠する語句が記された墨書土器が出土している。これらは複数の建物(群)から構成される施設において、それぞれの建物(群)に方角を冠して示したものと考えられる。また、天平神護2(766)年の「越前国足羽郡道守村開田地図」²⁾によれば、荘所と思われる建物群が2か所に描かれており、荘所が複数の建物群から構成されていることが分かる。41と112には「館」「家」など建物を表す語句が書かれていないが、これらの例からすれば、複数の建物(群)から構成される施設において、特定の建物(群)に方角呼称を用いて示している可能性があるであろう。

「大歳」は須恵器坏蓋(75)の外面にやや小さく書かれている。「歳」はかなりくずしている。本遺跡の南側に隣接する中田原遺跡Ⅱの調査でも「大歳」と記された須恵器有台坏が出土しているが、字形は異なる。「大歳」は「大歳神」のことであろう。大歳(年)神は『古事記』に須佐之男命と神大市比売の間に生まれた神としてみえ、年穀を掌る穀物神とされている³⁾。また、『古事記』によれば大歳神の子として御年(歳)神がおり、同様の神格とされている。『古語拾遺』には、御歳神の祟りによって大地主神の田の苗が枯れそうになったので、白猪・白馬・白鷄などを供えたところ苗が再び茂ったという説話がある⁴⁾。さらに千葉県山武郡芝山町庄作遺跡からは「×秋人歳神奉進 上総×」と書かれた墨書土器が出土しており、上総国○○郡○○郷某秋人が歳神を招き入れるために、土器にご馳走を盛り奉進したものと考えられている⁵⁾。これらの例からすれば、本遺跡出土の「大歳」と書かれた墨書土器は、穀物の豊作を祈念する祭祀において、大歳神に対するお供えに用いられたものと考えられよう。

「庄」は須恵器有台坏(16)の底部外面のやや上寄りに小振りに記されている。「庄」の墨書土器は北側に位置する岩ノ原遺跡Ⅰでも出土している。岩ノ原遺跡Ⅰの調査では「庄」のほかに、「石井庄」「石庄」など「庄」の文字を含む墨書土器が28点出土しているが、字形はいずれも16とは異なる。16はまだれの左側に点が付く字形であり、石川県金沢市上荒原遺跡出土の墨書土器などにも見られる字形である。県内では岩ノ原遺跡の他に、上越市(旧頸城村)の榎井A遺跡からも「庄」と書かれた墨書土器が出土している。また、北蒲原郡聖籠町山三賀Ⅱ遺跡からは「□[庄カ]」、加茂市馬越遺跡からは「妙越□[庄カ]」と判読される墨書土器が出土している。

1) 墨書土器の出土例の検索にあたっては、「出土文字資料データベース-墨書・刻書土器編-」(平成11~13年度科学研究費補助金 基礎研究B2)「古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究」(研究代表者 吉村武彦、2002年)、小林昌二編『新潟県内出土古代文字資料集成』(新潟墨書土器検討会、2004年)、『青森県史 資料編古代2出土文字資料』(2008年)などを用いた。

2) 『大日本古文字書 家わけ第18 東大寺文書4』(東京大学出版会、1966年)

3) 倉野憲司校注『古事記』(岩波書店、1963年)

4) 西宮一民校注『古語拾遺』(岩波書店、1985年)

5) 平川南「古代人の死」と墨書土器『墨書土器の研究』(吉川弘文館、2000年)

「福」は須恵器無台坏(25)の底部外面に小さく記されている。「福」は事物の良好な状態を表す吉祥的な文字であり、県内では新潟市山木戸遺跡で「福」、新潟市(旧潟東村)土手内遺跡で「善福」と記された墨書土器が出土している。

3) ま と め

岩ノ原遺跡Ⅱの調査では、岩ノ原遺跡Ⅰの調査と共通する「庄」(16)の墨書土器が出土した。このことから、本遺跡が8世紀中頃に成立した「東大寺領石井荘」の荘所であり、さらに土器の年代から成立直後にはこの地に荘所が営まれていたものと考えられる。また、「東」(41・112)の墨書土器からは、荘所の施設が複数の建物(群)から構成されていたことが推測される。荘所は、春と夏の出挙や収穫後の稲の収納など、初期荘園における農業経営の拠点として機能していたことは勿論のこと、「大歳」(75)の墨書土器に見られるような、豊作を祈念する祭祀が行なわれており、そのような祭祀の場では「浄坏」(118)と記された特別な器が使用されていたのである。

観 察 表

SB276

| 柱穴 番号 | 位置 (ブリード) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規格 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|---------------|---------|-------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 18A16-17 | 円形 | U字状 | 21.25 | 20.83 | 37 | 32 | 42 | 柱根有 | P1-P2:3.82m | | |
| P2 | 18A13 | 長楕円形 | 台形状 | 21.19 | 20.93 | 28 | 16 | 26 | | P2-P3:1.77m | | 調査区外に延びる |
| P3 | 18A13-14 | 楕円形 | U字状 | 21.17 | 20.89 | 30 | 33 | 28 | | P3-P4:1.65m | 土師器 | SB276-P3<P94 |
| P4 | 18A19 | 円形 | 台形状 | 21.22 | 21.01 | 23 | 23 | 21 | | P4-P5:1.29m | | |
| P5 | 18A24 | 楕円形 | 木彫型 | 21.19 | 20.87 | 33 | 29 | 31 | | P5-P6:1.67m | | SB276-P6>P103 |
| P6 | 18A25 | 円形 | U字状 | 21.13 | 20.77 | 25 | 22 | 37 | | P6-P7:1.78m | 須恵器-土師器 | SB276-P6>P90 |
| P7 | 18B4 | 円形 | 台形状 | 21.25 | 20.87 | 42 | 38 | 38 | 柱根有 | P7-P8:2.01m | 土師器-珠洲焼 | SK187-SB276-P7<P116-168 |
| P8 | 18B3 | 円形 | U字状 | 21.34 | 20.63 | 33 | 30 | 70 | | P8-P9:1.37m | | |
| P9 | 18A22 | 円形 | U字状 | 21.27 | 20.89 | 24 | 22 | 39 | 柱根有 | P9-P10:1.27m | | |
| P10 | 18A17-22 | 楕円形 | 台形状 | 21.27 | 20.83 | 52 | 45 | 44 | | P10-P11:1.54m | | SB276-P10>SK183-P192 |
| P11 | 18A18 | 円形 | U字状 | 21.24 | 20.75 | 35 | 31 | 50 | | P11-P3:1.96m | | |

SB288

| 柱穴 番号 | 位置 (ブリード) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規格 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|---------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 18A21-22 | 円形 | U字状 | 21.25 | 20.60 | 52 | 45 | 65 | 柱根有 | P1-P2:2.04m | 須恵器 | SB288-P1>SK183-P191 |
| P2 | 18A17 | 楕円形 | U字状 | 21.26 | 20.94 | 85 | 62 | 33 | 柱根有 | P2-P3:2.14m | 土師器-珠洲焼 | |
| P3 | 18A18 | 楕円形 | U字状 | 21.16 | 20.73 | 44 | 30 | 44 | 柱根有 | P3-P4:2.34m | | SB288-P3<P153 |
| P4 | 18A19-24 | 円形 | 筒状 | 21.16 | 20.78 | 62 | 57 | 38 | 柱根有 | P4-P5:2.23m | 土師器-珠洲焼 | SB288-P4>SD106 |
| P5 | 18B4 | 楕円形 | U字状 | 21.22 | 21.08 | 47 | 40 | 13 | | P5-P6:1.68m | | SB288-P5>P116 |
| P6 | 18B4 | 長楕円形 | U字状 | 21.08 | 20.94 | 37 | 22 | 14 | | P6-P7:0.24m | | SB288-P6<SK184 |
| P7 | 18B8 | 楕円形 | 木彫型 | 21.41 | 20.91 | 44 | 34 | 50 | 柱根有 | P7-P7:4.67m | | |

SB289

| 柱穴 番号 | 位置 (ブリード) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規格 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|-------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 18B7 | 楕円形 | U字状 | 21.53 | 21.10 | 37 | 30 | 43 | | P1-P2:1.97m | 須恵器 | SB289-P1>SB290-P1-SK182 |
| P2 | 18B2 | 楕円形 | 木彫型 | 21.29 | 20.80 | 55 | 43 | 49 | 柱根有 | P2-P3:1.51m | | SB289-P2<SF200-P205 |
| P3 | 18B3 | 楕円形 | 台形状 | 21.28 | 20.68 | 64 | 54 | 59 | 柱根有 | P3-P4:2.19m | 土師器-珠洲焼 | |
| P4 | 18B4 | 楕円形 | 台形状 | | 20.81 | 50 | 38 | 47 | | P4-P5:2.22m | 須恵器 | SK187-SB289-P4<P168 |
| P5 | 18B5 | 円形 | 台形状 | 21.23 | 20.94 | 28 | 27 | 30 | | P5-P6:1.90m | | |
| P6 | 18B10 | 円形 | 筒状 | 21.35 | 20.62 | 23 | 18 | 73 | | P6-P7:1.52m | 土師器 | |
| P7 | 18B14-15 | 長楕円形 | 台形状 | 21.43 | 21.01 | 74 | 42 | 42 | 柱根有 | P7-P8:2.17m | 須恵器-土師器 | SB289-P7<P27 |
| P8 | 18B13 | 楕円形 | 台形状 | 21.44 | 20.92 | 33 | 27 | 52 | 柱根有 | P8-P1:2.41m | 須恵器-土師器 | SB289-P8<SK61 |

SB290

| 柱穴 番号 | 位置 (ブリード) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規格 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|-------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 18B7 | 楕円形 | 台形状 | 21.52 | 21.10 | 29 | 22 | 43 | | P1-P2:1.48m | 須恵器 | SK182-SB290-P1<SB289-P1 |
| P2 | 18B8 | 楕円形 | 階段状 | 21.43 | 20.77 | 50 | 36 | 67 | 柱根有 | P2-P3:1.19m | | SB290-P2>P149 |
| P3 | 18B8 | 楕円形 | 木彫型 | 21.29 | 20.84 | 42 | 34 | 45 | 柱根有 | P3-P4:1.63m | 土師器 | SB290-P3>P129 |
| P4 | 18B9-14 | 円形 | 台形状 | 21.43 | 21.17 | 27 | 25 | 26 | | P4-P5:1.59m | | |
| P5 | 18B14 | 楕円形 | 台形状 | 21.52 | 21.37 | 33 | 23 | 15 | | | | |

SB291

| 柱穴 番号 | 位置 (ブリード) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規格 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|---------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 18B7 | 楕円形 | U字状 | 21.47 | 20.53 | 36 | 25 | 95 | | P1-P2:1.21m | 須恵器 | 調査区外に延びる |
| P2 | 18B8-13 | 楕円形 | U字状 | 21.49 | 21.07 | 33 | 27 | 42 | 柱根有 | P2-P3:1.62m | | |
| P3 | 18B14 | 円形 | 台形状 | 21.45 | 21.10 | 32 | 29 | 35 | 柱根有 | P3-P4:1.28m | | SB291-P3<SK61 |
| P4 | 18B13 | 楕円形 | U字状 | 21.47 | 21.07 | 42 | 34 | 39 | | | | 調査区外に延びる |

SB292

| 柱穴 番号 | 位置 (ブリード) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規格 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|--------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 18B13 | 長楕円形 | 木彫型 | 21.54 | 21.20 | 41 | 23 | 34 | | P1-P2:0.87m | 須恵器-珠洲焼 | SB292-P1>SK4 調査区外に延びる |
| P2 | 18B13 | 円形 | 半円状 | 21.45 | 21.23 | 29 | 29 | 22 | | P2-P3:1.32m | | SB292-P2>SK4 |
| P3 | 18B13-14 | 円形 | 台形状 | 21.52 | 21.32 | 39 | 39 | 20 | 柱根有 | P3-P4:1.56m | 須恵器 | |
| P4 | 18B14 | 円形 | 筒状 | 21.52 | 21.37 | 34 | 23 | 15 | 柱根有 | | | 調査区外に延びる |

第 23 表 岩ノ原遺跡Ⅱ独立柱建物柱穴観察表 (1)

観 察 表

SB1505

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周長 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|--------------|---------|-----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 12B11 | 楕円形 | 台形状 | 22.40 | 21.93 | 50 | 42 | 46 | 柱痕有 | P1-P2:1.08m | 直垂器・土師器 | |
| P2 | 12B11 | 楕円形 | 木彫形 | 22.48 | 21.99 | 53 | 36 | 42 | 柱痕有 | P2-P3:3.00m | | |
| P3 | 12B7 | 楕円形 | 半円状 | 22.44 | 22.17 | 46 | 37 | 26 | 柱痕有 | P3-P4:1.28m | | SB1505-P3<P805 |
| P4 | 12B7-8-12-13 | 円形 | U字状 | 22.45 | 22.03 | 43 | 39 | 42 | 柱痕有 | P4-P5:1.53m | 直垂器 | |
| P5 | 12B13 | 長楕円形 | 半円状 | 22.47 | 22.36 | 48 | 28 | 11 | 柱痕有 | P5-P6:2.55m | | |
| P6 | 12B19 | 円形 | 半円状 | 22.55 | 22.47 | 23 | 21 | 7 | 柱痕有 | P6-P7:2.70m | | |
| P7 | 12B23 | 円形 | 台形状 | 22.62 | 22.42 | 34 | 31 | 20 | 柱痕有 | P7-P8:0.88m | | SB1505-P7<P1040 |
| P8 | 12B22 | 楕円形 | U字状 | 22.67 | 22.12 | 39 | 33 | 55 | 柱痕有 | P8-P9:2.66m | 土師器 | |
| P9 | 12B16-17 | 円形 | U字状 | 22.48 | 22.07 | 43 | 38 | 41 | 柱痕有 | P9-P10:1.18m | | |
| P10 | 12B16 | 円形 | U字状 | 22.46 | 22.11 | 40 | 36 | 34 | 柱痕有 | P10-P1:1.45m | | |

SB1508

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周長 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 11O55 | 楕円形 | 台形状 | 22.40 | 22.26 | 31 | 21 | 14 | 柱痕有 | P1-P2:1.57m | | SB1508-P1<P922 |
| P2 | 11A21 | 円形 | 台形状 | 22.32 | 22.20 | 29 | 26 | 12 | 柱痕有 | P2-P3:2.41m | 直垂器 | |
| P3 | 11A17 | 円形 | 台形状 | 22.29 | 22.25 | 17 | 16 | 4 | 柱痕有 | P3-P4:1.44m | | |
| P4 | 11A22 | 円形 | 半円状 | 22.31 | 22.10 | 26 | 24 | 21 | 柱痕有 | P4-P5:1.89m | | |
| P5 | 11B3 | 楕円形 | 台形状 | 22.35 | 22.20 | 23 | 18 | 15 | 柱痕有 | P5-P6:1.04m | | |
| P6 | 11B3 | 楕円形 | 台形状 | 22.28 | 22.10 | 28 | 22 | 18 | 柱痕有 | P6-P7:1.86m | | |
| P7 | 11B7 | 円形 | U字状 | 22.39 | 22.07 | 30 | 29 | 33 | 柱痕有 | P7-P8:2.29m | | |
| P8 | 11B6-7 | 円形 | 半円状 | 22.37 | 22.22 | 30 | 27 | 22 | 柱痕有 | P8-P9:2.69m | | |
| P9 | 11B1 | 円形 | 半円状 | 22.41 | 22.27 | 18 | 17 | 14 | 柱痕有 | P9-P1:2.07m | | |

SB1511

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周長 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 12B2-3-7-8 | 楕円形 | U字状 | 22.47 | 21.89 | 43 | 32 | 57 | 柱痕有 | P1-P2:2.18m | | |
| P2 | 12B3-4 | 楕円形 | U字状 | 22.37 | 21.90 | 47 | 34 | 47 | 柱痕有 | P2-P3:2.35m | 土師器 | |
| P3 | 12A24 | 楕円形 | 台形状 | 22.43 | 22.16 | 36 | 27 | 27 | 柱痕有 | P3-P4:1.38m | | |
| P4 | 12B5 | 楕円形 | 木彫形 | 22.44 | 22.04 | 40 | 32 | 40 | 柱痕有 | P4-P5:1.38m | 直垂器 | |
| P5 | 12B5 | 楕円形 | U字状 | 22.43 | 21.85 | 48 | 37 | 58 | 柱痕有 | P5-P6:2.07m | 直垂器・土師器 | |
| P6 | 12B6 | 楕円形 | U字状 | 22.44 | 21.65 | 46 | 35 | 79 | 柱痕有 | P6-P7:4.33m | | |
| P7 | 12B14-19 | 楕円形 | 半円状 | 22.51 | 22.07 | 52 | 39 | 44 | 柱痕有 | P7-P8:2.53m | | |
| P8 | 12B8-13 | 円形 | 半円状 | 22.47 | 22.10 | 46 | 41 | 37 | 柱痕有 | P8-P9:1.68m | | |
| P9 | 12B8 | 長楕円形 | 半円状 | 22.46 | 22.19 | 45 | 29 | 27 | 柱痕有 | P9-P1:0.94m | | |

SB1512

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周長 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|--------------|---------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 12A25 | 楕円形 | 台形状 | 22.50 | 22.21 | 91 | 74 | 29 | 柱痕有 | P1-P2:2.23m | 土師器・ 瓦輪陶器 | |
| P2 | 13A16 | 楕円形 | 扁斗状 | 22.24 | 21.58 | 57 | 49 | 66 | 柱痕有 | P2-P3:1.48m | | SB1512-P2>SB1515-P1 |
| P3 | 13A17 | 円形 | 台形状 | 22.19 | 21.88 | 42 | 42 | 31 | 柱痕有 | P3-P4:4.34m | | |
| P4 | 12B2-3 | 長楕円形 | U字状 | 22.44 | 22.06 | 35 | 23 | 38 | 柱痕有 | P4-P5:3.57m | | |
| P5 | 13B6 | 長楕円形 | 半円状 | 22.39 | 22.07 | 71 | 47 | 32 | 柱痕有 | P5-P6:1.50m | | |
| P6 | 13B1 | 長楕円形 | 半円状 | 22.44 | 22.34 | 40 | 25 | 10 | 柱痕有 | P6-P1:2.90m | 土師器 | |

SB1513

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周長 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|--------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 12B7-12 | 円形 | U字状 | 22.45 | 22.03 | 32 | 30 | 42 | 柱痕有 | P1-P2:2.72m | | |
| P2 | 12B8-9 | 円形 | U字状 | 22.45 | 22.06 | 28 | 28 | 39 | 柱痕有 | P2-P3:1.64m | | |
| P3 | 12B4-9 | 楕円形 | 扁斗状 | 22.39 | 21.74 | 41 | 33 | 65 | 柱痕有 | P3-P4:1.42m | | |
| P4 | 12B10 | 楕円形 | 半円状 | 22.42 | 22.32 | 27 | 20 | 10 | 柱痕有 | P4-P5:2.65m | | |
| P5 | 12B15 | 楕円形 | U字状 | 22.52 | 22.32 | 30 | 22 | 20 | 柱痕有 | P5-P6:0.80m | | |
| P6 | 12B15-10 | 円形 | 半円状 | 22.51 | 22.41 | 21 | 20 | 10 | 柱痕有 | P6-P7:4.22m | | |
| P7 | 12B23-24 | 楕円形 | 扁斗状 | 22.64 | 22.29 | 33 | 27 | 35 | 柱痕有 | P7-P8:1.45m | | |
| P8 | 12B18 | 長楕円形 | 半円状 | 22.54 | 22.39 | 40 | 27 | 14 | 柱痕有 | P8-P9:1.97m | | |
| P9 | 12B12-13 | 円形 | 半円状 | 22.47 | 22.33 | 31 | 28 | 13 | 柱痕有 | P9-P1:1.36m | | SB1513-P9<覆瓦 |

SB1514

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周長 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|-----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 12A24 | 楕円形 | 扁斗状 | 22.41 | 21.77 | 46 | 37 | 64 | 柱痕有 | P1-P2:1.19m | | |
| P2 | 12A25 | 円形 | 半円状 | 22.44 | 22.25 | 36 | 32 | 19 | 柱痕有 | P2-P3:1.38m | | SB1514-P2<P1136 |
| P3 | 12A20-25 | 楕円形 | 半円状 | 22.39 | 22.26 | 36 | 29 | 13 | 柱痕有 | P3-P4:2.73m | 直垂器・土師器 | |
| P4 | 13A21/13B1 | 円形 | U字状 | 22.37 | 21.92 | 43 | 41 | 46 | 柱痕有 | P4-P5:2.55m | 土師器 | |
| P5 | 12B5 | 楕円形 | 半円状 | 22.41 | 22.30 | 26 | 23 | 11 | 柱痕有 | P5-P1:2.87m | 土師器 | |

第 25 表 岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表 (3)

SB1515

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|----|---------|----|-----|-------------|--------------|-------------------------------|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 13A16-21 | 円形 | 台形状 | 22.31 | 21.55 | 67 | 65 | 76 | 柱底有 | P1-P2:3.14m | 瓦葺部・土脚部 | SB1516-P1< SB1512-P2-P1544 | |
| P2 | 13A17-18 | 楕円形 | 台形状 | 22.22 | 22.02 | 49 | 36 | 21 | 柱底有 | P2-P3:1.60m | | | |
| P3 | 13A23 | 円形 | U字状 | 22.26 | 21.56 | 43 | 39 | 70 | 柱底有 | P3-P4:2.86m | 土脚部・ 彩色土器 | | |
| P4 | 13B3 | 円形 | 台形状 | 22.37 | 22.04 | 40 | 38 | 33 | 柱底有 | P4-P5:3.34m | | | |
| P5 | 13B7 | 長楕円形 | U字状 | 22.47 | 21.76 | 58 | 40 | 71 | 柱底有 | P5-P6:2.59m | | | |
| P6 | 13A21/13B1 | 楕円形 | 半円状 | 22.36 | 22.15 | 54 | 40 | 22 | 柱底有 | P6-P1:2.10m | | | |

SB1516

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|---------------------|-----|-----|--------|-------|----|---------|----|-----|-------------|----------|----------------|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 12A34-25/ 12B4-5 | 楕円形 | U字状 | 22.41 | 21.96 | 72 | 62 | 45 | 柱底有 | P1-P2:4.12m | 土脚部 | | |
| P2 | 13A16-21 | 円形 | 台形状 | 22.17 | 21.98 | 44 | 42 | 30 | | P2-P3:3.60m | | | |
| P3 | 13B2 | 楕円形 | U字状 | 22.42 | 21.84 | 42 | 31 | 58 | | P3-P4:4.16m | | | |
| P4 | 12B10/13B6 | 楕円形 | 台形状 | 22.41 | 22.19 | 61 | 46 | 22 | 柱底有 | P4-P1:3.74m | 土脚部 | SB1516-P4>P941 | |

SB1517

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|----|---------|----|--|-------------|----------|----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 13B11 | 円形 | 半円状 | 22.53 | 22.36 | 25 | 24 | 18 | | P1-P2:1.98m | | | |
| P2 | 13B12 | 長楕円形 | U字状 | 22.56 | 22.28 | 31 | 21 | 28 | | P2-P3:2.70m | | | |
| P3 | 13B17-22 | 楕円形 | 半円状 | 22.55 | 22.36 | 30 | 23 | 19 | | P3-P4:2.09m | | | |
| P4 | 13B21 | 円形 | 半円状 | 22.63 | 22.55 | 19 | 17 | 8 | | P4-P1:2.83m | 土脚部 | | |

SB1518

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|-----|---------|----|-----|--------------|----------|-------------------------|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 11A24 | 楕円形 | 台形状 | 22.30 | 22.15 | 48 | 41 | 15 | 柱底有 | P1-P2:1.43m | | | |
| P2 | 11A19 | 円形 | 漏斗状 | 22.38 | 21.82 | 65 | 62 | 56 | 柱底有 | P2-P3:1.71m | | | |
| P3 | 11A14 | 楕円形 | 台形状 | 22.33 | 21.93 | 93 | 65 | 40 | 柱底有 | P3-P4:2.09m | 土脚部 | SB1518-P3<P867-1388 | |
| P4 | 11A15 | 円形 | 不整形 | 22.41 | 22.22 | 58 | 57 | 22 | 柱底有 | P4-P5:1.65m | | P821<SB1518-P4< P822 | |
| P5 | 11A15/12A11 | 長楕円形 | 半円状 | 22.39 | 21.84 | 102 | 68 | 55 | 柱底有 | P5-P6:2.14m | | SB1518-P5>P824 | |
| P6 | 12A12 | 長楕円形 | 不整形 | 22.30 | 21.83 | 49 | 31 | 47 | | P6-P7:1.36m | | | |
| P7 | 12A7-8-12-13 | 円形 | 半円状 | 22.26 | 21.82 | 51 | 49 | 44 | | P7-P8:1.52m | | SB1518-P7>P1059 | |
| P8 | 12A12-13 | 楕円形 | 漏斗状 | 22.31 | 21.54 | 59 | 48 | 77 | | P8-P9:3.08m | 土脚部 | | |
| P9 | 12A23 | 円形 | U字状 | 22.35 | 21.84 | 67 | 59 | 52 | 柱底有 | P9-P10:1.85m | | | |
| P10 | 12A22 | 円形 | 台形状 | 22.44 | 22.04 | 58 | 54 | 40 | 柱底有 | | | SB1518-P10<礎石 | |

SB1519

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|----------------------|------|-----|--------|-------|-----|---------|----|-----|---------------|-----------------|---|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | |
| P1 | 13A11-16-17 | 円形 | 半円状 | 22.07 | 21.73 | 73 | 70 | 34 | 柱底有 | P1-P2:2.42m | 瓦葺部 | SB1519-P1>SB1523-P3 | |
| P2 | 13A12-13-17- 18 | 楕円形 | 半円状 | 22.21 | 21.69 | 93 | 77 | 51 | 柱底有 | P2-P3:2.06m | 瓦葺部・土脚部 | SB1519-P2>SB1523-P4 | |
| P3 | 13A13-14 | 長楕円形 | 台形状 | 22.15 | 22.28 | 91 | 39 | 47 | 柱底有 | P3-P4:1.86m | | SB1523-P5< SB1519-P3< 5E488-SK483 | |
| P4 | 13A14-15 | 楕円形 | 台形状 | 22.05 | 21.68 | 86 | 69 | 37 | 柱底有 | P4-P5:2.43m | 土脚部 | SB1523-P6< SB1519-P4<SK483 | |
| P5 | 13A10-15/ 14A6-11 | 円形 | 台形状 | 22.14 | 21.62 | 89 | 85 | 51 | 柱底有 | P5-P6:4.00m | 瓦葺部・土脚部 | SB1519-P5>SB1523-P7 | |
| P6 | 14A16-21 | 楕円形 | 台形状 | 22.29 | 21.83 | 121 | 99 | 46 | 柱底有 | P6-P7:2.68m | 瓦葺部・土脚部 | SB1519-P6< P1310-1315 | |
| P7 | 14A21-22/ 14B1-2 | 楕円形 | 台形状 | 22.18 | 21.76 | 100 | 82 | 42 | 柱底有 | P7-P8:2.27m | 瓦葺部・土脚部 | SB1519-P7> SA1524-P5-P1309 | |
| P8 | 13B5/14B1 | 楕円形 | 台形状 | 22.33 | 21.75 | 114 | 87 | 50 | 柱底有 | P8-P9:1.87m | 瓦葺部・ 土脚部・残礎石 | | |
| P9 | 13A4-5 | 円形 | 台形状 | 22.35 | 21.72 | 114 | 106 | 62 | 柱底有 | P9-P10:2.04m | 瓦葺部・土脚部 | SB1519-P9>P522 SB1519-P10< | |
| P10 | 13B3-4-8-9 | 楕円形 | 台形状 | 22.26 | 21.78 | 103 | 88 | 48 | 柱底有 | P10-P11:2.30m | 瓦葺部 | SB1520-P8 SB1520-P9 | |
| P11 | 13B2-7-8 | 楕円形 | 台形状 | 22.50 | 21.83 | 102 | 76 | 67 | 柱底有 | P11-P12:2.93m | 瓦葺部・残礎石 | SB1519-P11<P492-493 SK1500< | |
| P12 | 13A22 | 楕円形 | 台形状 | 22.27 | 21.77 | 92 | 80 | 51 | 柱底有 | P12-P1:3.36m | | SB1519-P12<P1129 | |

第 26 表 岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表 (4)

観 察 表

SB1520

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|-------------------|------|-----|--------|-------|-----|---------|----|-----|-------------|----------|-------------------------------|----|
| | | | | 確認面 | 前面 | 後面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 13A18 | 円形 | 台形状 | 22.25 | 21.80 | 77 | 70 | 45 | 柱底有 | P1-P2:2.44m | 土師器 | P504・1361< SB1520-P1<P1362 | |
| P2 | 13A14・19 | 円形 | 台形状 | 22.30 | 21.73 | 87 | 79 | 57 | 柱底有 | P2-P3:2.39m | 土師器 | | |
| P3 | 13A15 | 楕円形 | 台形状 | 22.18 | 21.92 | 86 | 73 | 26 | 柱底有 | P3-P4:2.95m | 土師器 | P1280<SB1520-P3< P1279 | |
| P4 | 14A12 | 楕円形 | 台形状 | 21.96 | 21.49 | 70 | 58 | 47 | 柱底有 | P4-P5:5.44m | 土師器 | SB1520-P4>SB1523-P8 | |
| P5 | 14A22-23/ 14B2 | 楕円形 | 竈状 | 22.09 | 21.73 | 92 | 68 | 36 | 柱底有 | P5-P6:2.71m | 須恵器・土師器 | SB1520-P5<P530・1420 | |
| P6 | 14A21/14B1 | 楕円形 | 竈状 | 22.27 | 21.83 | 101 | 76 | 45 | 柱底有 | P6-P7:2.44m | 土師器 | SB1520-P6>SA1524-P5 | |
| P7 | 13B5 | 楕円形 | 竈状 | 22.35 | 21.94 | 79 | 57 | 41 | 柱底有 | P7-P8:2.65m | 須恵器・土師器 | SB1520-P7>SA1523-P3 | |
| P8 | 13B3・4 | 長楕円形 | 竈状 | 22.36 | 21.96 | 82 | 46 | 39 | 柱底有 | P8-P1:5.26m | 須恵器・土師器 | SB1520-P8> SB1519-P10 | |

SB1521

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|----|---------|----|-----|-------------|----------|----|----|
| | | | | 確認面 | 前面 | 後面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 11C4・5 | 円形 | 台形状 | 22.58 | 22.37 | 46 | 44 | 21 | 柱底有 | P1-P2:2.25m | | | |
| P2 | 11B25/12B21 | 楕円形 | 台形状 | 22.66 | 22.36 | 54 | 47 | 30 | 柱底有 | | | | |

SB1522

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------------|------|-----|--------|-------|-----|---------|----|-----|-------------|----------|---|----|
| | | | | 確認面 | 前面 | 後面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 14A6・7 | 長楕円形 | 台形状 | 21.91 | 21.65 | 78 | 47 | 26 | 柱底有 | P1-P2:2.97m | 土師器 | SB1522-P1>P506 | |
| P2 | 14A12-17 | 楕円形 | 竈状 | 22.10 | 21.81 | 83 | 71 | 30 | 柱底有 | P2-P3:2.92m | 土師器 | SB1522-P2<P1543 P474<SB1522-P3< P1589 | |
| P3 | 14A22-23 | 楕円形 | 台形状 | 22.02 | 21.63 | 80 | 64 | 40 | 柱底有 | P3-P4:2.34m | 須恵器・土師器 | P1418>SB1522-P4> P473・1582 | |
| P4 | 14A18・19・23・ 24 | 楕円形 | 不整形 | 22.07 | 21.52 | 108 | 90 | 55 | 柱底有 | P4-P5:2.29m | 須恵器・土師器 | SB1522-P5<SB1527-P4 | |
| P5 | 14A19・20・24・ 25 | 長楕円形 | 不整形 | 21.90 | 21.45 | 116 | 74 | 46 | 柱底有 | P5-P6:2.21m | 須恵器・土師器 | SB1522-P6<P1254 | |
| P6 | 15A16/14A20 | 楕円形 | 台形状 | 21.86 | 21.47 | 90 | 75 | 39 | 柱底有 | P6-P7:2.60m | | SB1522-P7< P734・1255 | |
| P7 | 14A15/15A11 | 楕円形 | 不整形 | 21.88 | 21.58 | 97 | 72 | 29 | | | | | |

SB1523

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|----|---------|----|-----|-------------|----------|--|----|
| | | | | 確認面 | 前面 | 後面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 13A6 | (円形) | 半円状 | 22.35 | 22.05 | 46 | 21 | 30 | | P1-P2:1.53m | | 調査区外に属する | |
| P2 | 13A11 | 円形 | U字状 | 22.14 | 21.74 | 42 | 39 | 40 | | P2-P3:2.34m | | | |
| P3 | 13A16-17 | 楕円形 | 台形状 | 22.19 | 21.87 | 83 | 62 | 32 | 柱底有 | P3-P4:1.95m | | SB1523-P3<SB1519-P1 | |
| P4 | 13A13-17-18 | 楕円形 | 竈状 | 22.23 | 22.00 | 85 | 70 | 23 | | P4-P5:2.29m | | SB1523-P4<SB1519-P2 SB1523-P5<SB1519-P3 ・SE488・SK483 | |
| P5 | 13A13-14 | 長楕円形 | 竈状 | 22.21 | 21.75 | 86 | 31 | 46 | | P5-P6:1.81m | | SB1523-P6< SB1519-P4・P1487 | |
| P6 | 13A14・15 | 楕円形 | 台形状 | 22.18 | 21.97 | 69 | 52 | 21 | 柱底有 | P6-P7:2.01m | 須恵器 | SB1523-P7< SB1519-P5・P486 | |
| P7 | | 長楕円形 | 不整形 | 22.25 | 21.89 | 80 | 39 | 36 | | P7-P8:2.02m | | SB1523-P8< SB1520-P4・P506 | |
| P8 | 14A6・7・11-12 | 長楕円形 | 台形状 | 21.96 | 21.66 | 89 | 45 | 30 | | | | | |

SB1525

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|------|--------|-------|----|---------|----|-----|-------------|----------|------------------|----|
| | | | | 確認面 | 前面 | 後面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 13B18 | 長楕円形 | 残り悪い | 22.42 | 22.31 | 49 | 28 | 11 | 柱底有 | P1-P2:2.10m | 土師器 | SB1525-P1>SB1344 | |
| P2 | 13B12-13 | 円形 | 竈状 | 22.54 | 22.26 | 70 | 65 | 28 | | P2-P3:1.99m | | | |
| P3 | 13B7 | 楕円形 | 台形状 | 22.52 | 22.20 | 68 | 52 | 32 | 柱底有 | P3-P4:2.09m | | SB1525-P3<覆土 | |
| P4 | 13B8 | 円形 | 台形状 | 22.48 | 22.33 | 64 | 57 | 15 | | P4-P5:1.97m | | | |
| P5 | 13B4・9 | 楕円形 | 台形状 | 22.42 | 22.01 | 60 | 47 | 41 | 柱底有 | P5-P6:2.06m | | SB1525-P5<P522 | |
| P6 | 13B5 | 円形 | 台形状 | 22.32 | 22.03 | 53 | 47 | 29 | 柱底有 | P6-P7:2.00m | | | |
| P7 | 13B10/14B6 | 楕円形 | 不整形 | 22.31 | 22.21 | 66 | 46 | 10 | 柱底有 | P7-P8:2.18m | | | |
| P8 | 14B11 | 楕円形 | 竈状 | 22.18 | 22.12 | 37 | 29 | 6 | | P8-P1:6.49m | | | |

第 27 表 岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表 (5)

SB1526

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|------------------|-----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 15A6 | 楕円形 | 台形状 | 21.74 | 21.53 | 40 | 34 | 21 | 柱遺存 | P1-P2:1.53m | | SB1526-P1>P1413 |
| P2 | 15A12 | 円形 | 扇形状 | 21.79 | 21.31 | 34 | 31 | 47 | 柱遺存 | P2-P3:1.31m | 土師器 | |
| P3 | 15A12-13 | 円形 | 扇形状 | 21.71 | 21.44 | 50 | 48 | 27 | 柱遺存 | P3-P4:1.55m | 瓦器類・土師器 | |
| P4 | 15A13-18 | 円形 | 台形状 | 21.69 | 21.51 | 55 | 53 | 18 | 柱遺存 | P4-P5:2.64m | 瓦器類・土師器 ・灰釉陶器 | |
| P5 | 15A9 | 楕円形 | 台形状 | 21.69 | 21.40 | 38 | 29 | 30 | 柱遺存 | | | SB1526-P5<P1253 |

SB1527

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|--------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 15A12 | 長楕円形 | 台形状 | 21.80 | 21.59 | 52 | 33 | 21 | | P1-P2:1.77m | 瓦器類・土師器 | |
| P2 | 15A11 | 楕円形 | 台形状 | 21.77 | 21.48 | 64 | 48 | 28 | 柱遺存 | P2-P3:1.64m | 瓦器類 | SB1527-P2> SA1532-P11 |
| P3 | 14A15-20 | 円形 | 不整形 | 21.82 | 21.68 | 64 | 58 | 13 | | P3-P4:1.76m | 瓦器類・土師器 | |
| P4 | 14A19-20 | 円形 | 台形状 | 21.84 | 21.40 | 71 | 64 | 44 | | P4-P5:3.18m | 瓦器類・土師器 | SB1527-P4>SB1527-P5 |
| P5 | 14A25/14B5 | 円形 | 台形状 | 22.01 | 21.70 | 65 | 60 | 30 | 柱遺存 | P5-P6:1.94m | 土師器 | |
| P6 | 15A21 | 円形 | 台形状 | 21.92 | 21.48 | 45 | 39 | 43 | | P6-P7:1.61m | 土師器 | SB1527-P6> P1482-1483 |
| P7 | 15A22 | 楕円形 | U字状 | 21.88 | 21.79 | 26 | 22 | 8 | | | 瓦器類・土師器 | |

SB1528

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 14A6-11 | 楕円形 | 半円状 | 22.09 | 22.01 | 23 | 19 | 8 | | P1-P2:1.54m | | |
| P2 | 14A11 | 楕円形 | 半円状 | 22.13 | 22.04 | 28 | 25 | 10 | | P2-P3:1.72m | | |
| P3 | 14A17 | 円形 | 台形状 | 22.16 | 21.83 | 52 | 50 | 33 | 柱遺存 | P3-P4:2.27m | | SB1528-P3<P532 |
| P4 | 14A18 | 楕円形 | 台形状 | 22.12 | 21.90 | 43 | 36 | 22 | 柱遺存 | P4-P5:1.55m | | |
| P5 | 14A12 | 円形 | 台形状 | 22.07 | 21.90 | 30 | 28 | 18 | 柱遺存 | P5-P6:1.56m | 瓦器類・土師器 | |
| P6 | 14A7 | 円形 | 台形状 | 22.07 | 21.90 | 30 | 28 | 18 | 柱遺存 | P6-P1:1.89m | | |

SB1529

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|-----------------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 13A9 | 円形 | 台形状 | 22.01 | 21.90 | 30 | 27 | 11 | | P1-P2:1.83m | | |
| P2 | 13A15 | 楕円形 | 台形状 | 22.18 | 21.73 | 57 | 41 | 46 | 柱遺存 | P2-P3:2.30m | | |
| P3 | 13A15-20/ 14A11-16 | 楕円形 | 台形状 | 22.20 | 21.87 | 67 | 56 | 32 | 柱遺存 | P3-P4:1.99m | | |
| P4 | 14A11 | 楕円形 | 台形状 | 22.19 | 21.78 | 60 | 44 | 42 | 柱遺存 | P4-P5:1.70m | | |
| P5 | 14A7 | 円形 | U字状 | 22.07 | 21.54 | 39 | 36 | 52 | 柱遺存 | | | |

SB1533

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|-------------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 10A21 | 楕円形 | 台形状 | 22.28 | 22.15 | 33 | 25 | 14 | 柱遺存 | P1-P2:2.46m | | SB1533-P1>SB1534-P1 |
| P2 | 10A22 | 長楕円形 | 竈状 | 22.33 | 22.26 | 34 | 22 | 7 | 柱遺存 | P2-P3:1.21m | | |
| P3 | 10A23 | 楕円形 | 半円状 | 22.32 | 21.94 | 70 | 49 | 38 | 柱遺存 | P3-P4:2.32m | | SB1533-P3>SB1534-P2 |
| P4 | 10B3 | 楕円形 | 半円状 | 22.38 | 22.07 | 86 | 67 | 31 | 柱遺存 | P4-P5:2.34m | | SB1534-P3< SB1533-P4<P387 |
| P5 | 10B8 | 楕円形 | 半円状 | 22.27 | 21.75 | 83 | 68 | 52 | 柱遺存 | P5-P6:1.81m | | SB1534-P4< SB1533-P5<P1498 |
| P6 | 10B7-8 | 長楕円形 | 半円状 | 22.36 | 22.24 | 47 | 26 | 12 | 柱遺存 | P6-P7:2.29m | | SB1533-P6> SB1534-P5-P1357 |
| P7 | 10B6-7-11-12 | 楕円形 | 半円状 | 22.44 | 22.13 | 78 | 67 | 31 | 柱遺存 | P7-P8:1.51m | | SB1533-P7>SB1534-P6 |
| P8 | 10B6 | 円形 | 台形状 | 22.35 | 21.97 | 47 | 45 | 38 | | P8-P1:3.25m | 土師器 | SB1533-P8=SB1503-P2 |

SB1534

| 柱穴番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 規模 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|--|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 10A21 | 楕円形 | 台形状 | 22.29 | 22.13 | 45 | 38 | 17 | 柱遺存 | P1-P2:3.42m | | SB1534-P1<SB1533-P1 |
| P2 | 10A23 | 長楕円形 | 半円状 | 22.30 | 22.07 | 80 | 55 | 23 | 柱遺存 | P2-P3:2.24m | | SB1534-P2<SB1533-P3 P1475<SB1534-P3< SB1533-P4 |
| P3 | 10B3 | 長楕円形 | 半円状 | 22.31 | 22.14 | 76 | 46 | 17 | 柱遺存 | P3-P4:2.52m | | |
| P4 | 10B8 | 長楕円形 | 半円状 | 22.33 | 22.18 | 90 | 57 | 16 | | P4-P5:1.29m | | P451<SB1534-P4< SB1533-P5-P1266-1498 |
| P5 | 10B7-8-12-13 | 長楕円形 | 半円状 | 22.36 | 22.36 | 41 | 24 | 15 | | P5-P6:1.89m | | SB1534-P5<SB1533-P6 |
| P6 | 10B11 | 長楕円形 | 半円状 | 22.43 | 22.25 | 49 | 19 | 18 | | P6-P7:3.18m | | SB1534-P6<SB1533-P7 |
| P7 | 10B1 | 楕円形 | 台形状 | 22.31 | 21.79 | 45 | 34 | 52 | 柱遺存 | P7-P1:1.99m | | |

第 28 表 岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表 (6)

観 察 表

SB1576

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周径 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|----|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 13B20 | 円形 | 半円状 | 22.37 | 22.25 | 37 | 35 | 12 | | P1-P2:1.47m | | |
| P2 | 13B15-20 | 円形 | 半円状 | 22.35 | 22.14 | 36 | 32 | 21 | | P2-P3:2.20m | | |
| P3 | 14B11 | 円形 | 半円状 | 22.26 | 22.01 | 30 | 27 | 25 | | P3-P4:2.26m | | |
| P4 | 14B12 | 楕円形 | 半円状 | 22.05 | 21.96 | 24 | 21 | 9 | | | | |

SA1510

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周径 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|----|-----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 12B22 | 楕円形 | 台形状 | 22.67 | 22.42 | 78 | 57 | 25 | 柱原有 | P1-P2:2.02m | | SA1510-P1<P1021 |
| P2 | 12C2 | 楕円形 | 台形状 | 22.65 | 22.49 | 66 | 47 | 16 | 柱原有 | | | |

SA1524

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周径 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|-----------------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 13B3-8 | 楕円形 | 半円状 | 22.43 | 22.14 | 72 | 50 | 30 | 柱原有 | P1-P2:1.68m | | |
| P2 | 13B4-9 | 円形 | 半円状 | 22.34 | 21.97 | 53 | 51 | 38 | | P2-P3:1.88m | | |
| P3 | 13B5 | 楕円形 | 半円状 | 22.34 | 21.80 | 54 | 46 | 55 | 柱原有 | P3-P4:1.89m | | SA1524-P3<SB1520-P7 |
| P4 | 14B1 | 円形 | 半円状 | 22.28 | 22.03 | 42 | 41 | 25 | | P4-P5:1.24m | 土師器 | |
| P5 | 14B1 | 長楕円形 | 台形状 | 22.19 | 22.07 | 52 | 20 | 12 | | | | SA1524-P5< SB1519-P7-SB1520-P6 |

SA1530

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周径 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|-----|---------------------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 13A12-17 | 楕円形 | 半円状 | 22.10 | 21.93 | 49 | 39 | 17 | 柱原有 | P1-P2:1.78m | | |
| P2 | 13A13 | 長楕円形 | 台形状 | 22.13 | 21.94 | 45 | 22 | 20 | | P2-P3:1.78m | | P1570<SA1530-P2< SE4B8 |
| P3 | 13A14 | 長楕円形 | 本形状 | 22.20 | 21.87 | 48 | 14 | 33 | 柱原有 | | 土師器 | SA1530-P3<SK483 |

SA1531

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周径 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|------|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|-------------|---------|----------------|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 14B2-3 | 円形 | 半円状 | 22.18 | 21.96 | 54 | 48 | 22 | | P1-P2:1.71m | 直線部・土師器 | SA1531-P1>P717 |
| P2 | 14B3 | 楕円形 | 漏斗状 | 22.09 | 21.74 | 42 | 35 | 35 | 柱原有 | P2-P3:1.76m | 土師器 | |
| P3 | 14A24 | 円形 | 本形状 | 21.96 | 21.78 | 36 | 32 | 18 | 柱原有 | P3-P4:1.33m | 土師器 | |
| P4 | 14A25 | 楕円形 | 半円状 | 21.99 | 21.92 | 29 | 20 | 6 | | P4-P5:0.89m | | |
| P5 | 14A25 | 長楕円形 | 半円状 | 21.97 | 21.68 | 48 | 29 | 29 | | P5-P6:1.38m | | |
| P6 | 15A21 | 楕円形 | 半円状 | 21.91 | 21.81 | 32 | 24 | 10 | | | | |

SA1532

| 柱穴 番号 | 位置 (グリッド) | 平面形 | 断面形 | 標高 (m) | | 周径 (cm) | | | 柱遺存 状況 | 柱間寸法 (m) | 遺物 | 備考 |
|----------|--------------|-----|-----|--------|-------|---------|----|----|-----------|---------------|------------------|--|
| | | | | 確認面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | |
| P1 | 14B3 | 楕円形 | 台形状 | 22.13 | 22.04 | 31 | 24 | 9 | | P1-P2:0.86m | | |
| P2 | 14B3 | 楕円形 | 台形状 | 22.13 | 22.06 | 26 | 20 | 7 | | P2-P3:1.39m | 直線部 | |
| P3 | 14A24/14B4 | 円形 | 本形状 | 22.10 | 21.81 | 77 | 70 | 29 | 柱原有 | P3-P4:1.38m | 直線部 | |
| P4 | 14A24-25 | 円形 | 階段状 | 22.01 | 21.80 | 48 | 46 | 21 | 柱原有 | P4-P5:0.53m | | |
| P5 | 14A25/14B5 | 楕円形 | 半円状 | 22.01 | 21.76 | 39 | 34 | 25 | 柱原有 | P5-P6:0.43m | 土師器・珠貫珠 | SA1532-P5<P1271 |
| P6 | 14A25 | 円形 | 台形状 | 21.99 | 21.64 | 32 | 30 | 35 | | P6-P7:0.87m | | |
| P7 | 14A25 | 楕円形 | 本形状 | 21.92 | 21.61 | 44 | 36 | 31 | 柱原有 | P7-P8:0.99m | | |
| P8 | 15A21 | 円形 | 半円状 | 21.85 | 21.60 | 21 | 19 | 26 | | P8-P9:1.29m | | SA1532-P8>P742 |
| P9 | 15A21 | 楕円形 | 台形状 | 21.90 | 21.78 | 28 | 23 | 12 | | P9-P10:1.68m | | |
| P10 | 15A16 | 楕円形 | 漏斗状 | 21.82 | 21.64 | 39 | 33 | 19 | | P10-P11:1.52m | | |
| P11 | 15A11 | 楕円形 | 半円状 | 21.75 | 21.24 | 35 | 30 | 51 | 柱原有 | | 直線部・土師器 ・黒色土器 | SA1532-P10>P1585 SA1532-P11< SB1527-P2 |

第 29 表 岩 / 原遺跡Ⅱ掘立柱建物・杭立柱穴観察表

| 調査名・ 番号 | 調査名・ 出上地点 | 層位 | 種類 | 副体・層分 | 遺存部分・ 遺存体 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 高さ (cm) | 底(底)色調 | 胎土 | 切り廻し・ 方向 | 調査 | 時期 | 備考 |
|------------|--------------|------|-----|-------|----------------|------------|------------|------------|---------|-------|---------------------------------|------------------|--------------------------|----|
| 1 | SI1311 | 甕土 | 甕蓋部 | 巻蓋部 | 体部-巻蓋部 | 15.7 | | | 還元赤・灰色 | 黒 | 口外ノナ子 | 8世紀後半-9世紀初頭 | 西風風土層の底産 | |
| 2 | SI1311 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-林蓋部 | 14.2 | 3.6 | | 還元赤・灰色 | 白 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀後半-9世紀初頭 | 西風風土層の底産 | |
| 3 | SI1311 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-体部1/3 | | | | 還元赤・灰色 | 白 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀後半-9世紀初頭 | 西風風土層の底産 | |
| 4 | SI1311 | 甕土 | 甕蓋部 | 無台枠 | 体部破片 | | | | 還元赤・灰色 | 白 | 表切り | 8世紀初頭半-9世紀初頭 | 西風風土層の底産 備考：底産外周「A」口。 | |
| 5 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部1/4 | 16.2 | 3.7 | | 還元赤・灰色 | 黒 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 6 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部1/2 | 14.1 | 3.1 | | 還元赤・灰色 | 黒 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 7 | SI1312-13A9 | 甕土-1 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部1/4 | 14 | 2.9 | | 還元赤・灰色 | 白 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 8 | SI1312 | 甕土-1 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部1/2 | 14.7 | 2.5 | | 還元赤・灰色 | 白 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 9 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部 | 3.4 | 2.1 | | 還元赤・灰色 | 黒 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 10 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部1/4 | 14.2 | 3.1 | | 還元赤・灰色 | 黒 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 11 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部破片 | 13.8 | | | 還元赤・灰色 | 黒 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 12 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部破片 | 14.8 | | | 還元赤・灰色 | 黒 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 13 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部破片 | 14.9 | | | 還元赤・灰色 | 黒 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 14 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 林蓋部 | 体部-巻蓋部破片 | 15.1 | | | 還元赤・灰色 | 黒 | 外周上平口ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 15 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 有台枠A部 | 口縁部-底産部 口縁部 | 11.1 | 7.6 | 3.8 | 還元赤・灰色 | 白・黒 | 口外ノナ子 | 8世紀後半-9世紀初頭 | 西風風土層の底産 | |
| 16 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 有台枠A部 | 口縁部 | 13.3 | 9.5 | 3.9 | 還元赤・灰色 | 白 | 口外ノナ子 | 750年後または時期 不明 | 西風風土層の底産 備考：底産外周「B」。 | |
| 17 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 有台枠A部 | 口縁部-底産部2/3 | 13.2 | 8.8 | 3.7 | 還元赤・灰色 | 長・白 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 備考：底産外周「C」。 | |
| 18 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 有台枠A部 | 口縁部-底産部1/3 | 12.6 | 8 | 3.4 | 還元赤・灰色 | 白 | 外周上平口ノナ子・ 下層にハタケナ子・ 内周ノナ子 | 8世紀後半-9世紀初頭 | 西風風土層の底産 | |
| 19 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 有台枠A部 | 口縁部 | 12.4 | 8.5 | 3.4 | 還元赤・灰色 | 長・砂 | 口外ノナ子・ 外周下層にハタケナ子 | 8世紀後半-9世紀初頭 | 西風風土層の底産 | |
| 20 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 有台枠A部 | 口縁部-底産部1/2 | 12.9 | 8.2 | 3.7 | 還元赤・灰色 | 長 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 21 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 有台枠A部 | 口縁部-底産部1/3 | 13.1 | | | 還元赤・灰色 | 白 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 22 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 無台枠A1 | 口縁部 | 13.1 | 8.1 | 3.2 | 還元赤・青灰色 | 白・黒 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 内外部式土本産。 | |
| 23 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 無台枠A1 | 口縁部-底産部破片 | 13.5 | 9 | 3 | 還元赤・灰色 | 白 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 24 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 無台枠 | 体部-底産部破片 | 13.5 | 9 | | 還元赤・灰色 | 白・白 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 備考：底産外周「D」。 | |
| 25 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 無台枠A部 | 体部-底産部破片 | 11 | 6.9 | 3.3 | 還元赤・灰色 | 白・黒 | 口外ノナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 備考：底産外周「E」。 | |
| 26 | SI1312 | 甕土 | 甕蓋部 | 巻蓋部 | 体部破片 | | | | 還元赤・灰色 | 黒 | 同ナ子 | 8世紀初頭半 | 西風風土層の底産 | |
| 27 | SI1312 | 甕土 | 土師部 | 土師部 | 体部-底産部1/3 | 14.6 | 2.6 | | 還元赤・灰色 | 白 | 外周上平口ノナ子 | 9世紀初頭半 | 内外部式土本産 | |
| 28 | SI1312 | 甕土 | 土師部 | 巻口 | 口縁部-底産部2/3 | 13.9 | 7.1 | 13.8 | 還元赤・青灰色 | 石・白・赤 | 外周ヘラケナ子・ 内周ハタケ | 9世紀初頭半 | 内外部式土本産 内周輪軸小皿 | |
| 29 | SI1312 | 甕土 | 土師部 | 巻口 | 口縁部-底産部破片 | 13.1 | | | 還元赤・灰色 | 赤・砂 | 外周ヘラケナ子 | | 底産土質 | |
| 30 | SI1312 | 甕土 | 土師部 | 巻口 | 口縁部-体部破片 | 25.1 | | | 還元赤・灰色 | 石・白 | 外周ヘラケナ子 | | 底産土質 | |
| 31 | SI1312 | 甕土 | 土師部 | 巻口 | 口縁部-体部破片 | 22.6 | | | 還元赤・灰色 | 白・青 | 内周ハタケ・ナ子 | | 底産土質 | |

第30表 岩ノ所遺跡II土器・陶器調査表(1)

| 編號 | 遺構名・出土地点 | 層位 | 種類 | 器種・器名 | 遺存部位・遺存様 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 高さ (cm) | 底成色調 | 胎土 | 切り廻し・方向 | 調査 | 時期 | 備考 |
|----|------------|----|-----|-------|----------|---------|---------|---------|------------|-------|---------|------------------------|-------------|---------------------------|
| 32 | SI1312 | Ⅲ上 | 土師器 | 肥土付鉢 | 口縁部・底面部分 | 25.7 | 8.7 | 12.3 | 酸化赤・褐色 | 白・黒・赤 | ヘラ切り | 外面上半部口方より | 8世紀後半～9世紀前期 | 酸化赤い 内面酸化褐色の須恵 |
| 33 | SI1344 | Ⅲ上 | 土師器 | 林蓋皿 | 口縁部・底面部分 | 12.7 | 9 | 2.6 | 酸化赤・褐色 | 右・黄 | ヘラ切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 外面白磁 |
| 34 | SI1344 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 15.2 | 9 | 6.3 | 還元赤・灰色 | 白・黒・赤 | ヘラ切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 酸化赤い |
| 35 | SI1344 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 15.8 | 7.1 | 3.5 | 還元赤・灰色 | 白 | 糸切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 酸化赤い |
| 36 | SI1344 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 14 | 5.9 | 3.9 | 酸化赤・褐色 | 赤・砂 | 糸切り・右 | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 酸化赤い |
| 37 | SI1344 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 13.4 | 5.9 | 3.9 | 酸化赤・褐色 | 赤・砂 | 糸切り・右 | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 酸化赤い |
| 38 | SI1312-P1 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 11.1 | 8.9 | 4 | 還元赤・灰色 | 白・黒 | ヘラ切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「A」山・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 39 | SI1519-P7 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 11.1 | 9.3 | 4 | 還元赤・灰色 | 白・黄 | ヘラ切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 内面酸化褐色の須恵 |
| 40 | SI1519-P7 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 12.4 | 9.1 | 3.8 | 還元赤・青褐色 | 長 | 糸切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 内面酸化褐色の須恵 |
| 41 | SI1519-P9 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 12.4 | 9.1 | 3.8 | 還元赤・青褐色 | 長 | 糸切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 内面酸化褐色の須恵 |
| 42 | SI1519-P11 | Ⅲ上 | 土師器 | 鉢 | 口縁部・底面部分 | 34.9 | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | | 外面同輪、ハツメ・ 内面同輪、ナズ | 9世紀 | 酸化赤い 内外赤文、酸化赤い |
| 43 | SI1519-P6 | Ⅲ上 | 土師器 | 鉢 | 口縁部・底面部分 | 14.1 | | | 酸化赤・仁赤・黄褐色 | 砂 | | | 9世紀 | 酸化赤い |
| 44 | SI1519-P6 | Ⅲ上 | 土師器 | 鉢 | 口縁部・底面部分 | 11.8 | | | 酸化赤・仁赤・黄褐色 | 砂 | | | 9世紀 | 内外赤文、酸化赤い |
| 45 | SI1519-P8 | Ⅲ上 | 土師器 | 鉢 | 口縁部・底面部分 | 12.1 | | | 酸化赤・仁赤・黄褐色 | 砂 | | | 9世紀 | 内外赤文、酸化赤い |
| 46 | SI1519-P8 | Ⅲ上 | 土師器 | 鉢 | 口縁部・底面部分 | 19.9 | | | 酸化赤・褐色 | 右・白・黄 | | 外面同輪、方々メのみ 内面同輪、方々メ | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 47 | SI1520-P4 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 15.1 | | | 還元赤・灰色 | 黒 | | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 48 | SI1528-P2 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 12.4 | 6 | 3.9 | 還元赤・灰色 | 白 | 糸切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 49 | SI1522-P1 | Ⅲ上 | 土師器 | 長頸瓶 | 口縁部・底面部分 | | | | 還元赤・灰色 | 白 | | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 50 | SI152 | Ⅲ上 | 土師器 | 人蓋 | 底面部分 | | | | 還元赤・灰色 | 白・黒・黄 | | ナズ・浅緑タタキ | 14世紀前半～中葉 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 51 | SI203 | Ⅲ上 | 土師器 | 片口鉢 | 口縁部・底面部分 | | | | 還元赤・灰色 | 長 | | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 52 | SI203 | Ⅲ上 | 土師器 | 片口鉢 | 口縁部・底面部分 | 12 | | | 還元赤・褐色 | 白・砂 | | 外面平行タタキ | 13世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 53 | SI488 | Ⅲ上 | 土師器 | 不明 | 口縁部・底面部分 | 27.1 | | | 還元赤・褐色 | 白・砂 | | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 54 | SI488 | Ⅲ上 | 土師器 | 不明 | 口縁部・底面部分 | 27.1 | | | 還元赤・褐色 | 白 | | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 55 | SI788 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 27.1 | | | 還元赤・褐色 | 白 | | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 56 | SI788 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 15.3 | 10 | 4.1 | 還元赤・褐色 | 赤 | ヘラ切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 57 | SI1319 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 15.3 | 10 | 4.1 | 還元赤・褐色 | 赤 | ヘラ切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 58 | SI1315 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | | | | 還元赤・灰色 | 白・黒・黄 | | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 59 | SI1315 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | | | | 還元赤・灰色 | 白・黒・黄 | | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 60 | SI1221 | Ⅲ上 | 土師器 | 片口鉢 | 口縁部・底面部分 | | | | 還元赤・灰色 | 白・黄 | | 口方ロノ字 | 13世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 61 | SI1405 | Ⅲ上 | 土師器 | 林蓋皿 | 口縁部・底面部分 | 12.1 | | | 還元赤・灰色 | 白・黄 | | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 62 | SI1405 | Ⅲ上 | 土師器 | 林蓋皿 | 口縁部・底面部分 | 15.1 | | | 還元赤・灰色 | 白・黄 | | 外面上半部口方より | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 63 | SI1405 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 13.3 | 4.8 | 3.7 | 還元赤・褐色 | 砂 | 糸切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 64 | SI1405 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | 15 | | | 還元赤・褐色 | 砂 | 糸切り | 口方ロノ字 | 9世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 65 | SI1405 | Ⅲ上 | 土師器 | 有台付鉢 | 口縁部・底面部分 | | | | 還元赤・褐色 | 長・白 | | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |
| 66 | SI1265 | Ⅲ上 | 土師器 | 片口鉢 | 口縁部・底面部分 | | | | 還元赤・褐色 | 長・白 | 静止糸切り | 口方ロノ字 | 14世紀前半 | 胎土：底面外周「B」・ 裏面酸化褐色の須恵 |

第31表 岩戸原遺跡Ⅱ土器・陶器品観察表(2)

| 編號 | 遺構名・出土地点 | 層位 | 種類 | 部位・部分 | 遺存部分・遺存体 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 高さ (cm) | 底・色・調 | 胎土 | 切り廻し・方向 | 調査 | 時期 | 備考 |
|-----|-----------|------|-----|-------|----------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|------------|------------|--|
| 67 | SK183 | Ⅲ上 | 珠洲器 | 外口縁 | 口縁部・口縁部片 | | | | 還元赤・灰色 | 黒・黒 | | ロクロナ子 | 13世紀 | 珠洲器口縁部片 |
| 68 | SK183 | Ⅲ上 | 珠洲器 | 口内縁 | 口縁部・口縁部片 | | | | 還元赤・灰色 | 白 | | ロクロナ子 | 14世紀前半 | 珠洲器口縁部片 |
| 69 | SK187 | Ⅲ上 | 瓦器 | 縁部 | 口縁部・口縁部片 | 11.1 | | | 還元赤・灰色 | 白・黒 | | ロクロナ子 | 8世紀末9世紀前半 | |
| 70 | SK477 | Ⅲ上 | 瓦器 | 口縁部 | 口縁部片 | | | | 還元赤・灰色 | 白 | | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 71 | SK477 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体A | 口縁部・口縁部片 | 11.3 | 7.7 | 3.7 | 還元赤・褐色 | 石・白・砂 | へう切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 72 | SK477 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体B | 口縁部・口縁部片 | 15.2 | 9.4 | 6.1 | 還元赤・灰色 | 白 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 73 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | | | | 還元赤・灰色 | 石・白 | | 外周上半部ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 74 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 11.2 | | | 還元赤・褐色 | 白 | | 外周上半部ロクロナ子 | 8世紀末～9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 75 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | | | | 還元赤・褐色 | 白・黒 | へう切り | 外周上半部ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 76 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体A | 口縁部・口縁部片 | 30.4 | 5.8 | 4.2 | 還元赤・灰色 | 黒 | へう切り・石 | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 77 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体B | 口縁部・口縁部片 | 31.9 | 7.3 | 3.3 | 還元赤・褐色 | 白・黒 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 78 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体C1 | 口縁部・口縁部片 | 13.7 | 6.6 | 3.6 | 還元赤・褐色 | 石・白 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 79 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体C2 | 口縁部・口縁部片 | 12.9 | 6 | 3.7 | 還元赤・褐色 | 砂 | 赤切り・石 | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 80 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体D | 口縁部・口縁部片 | 13 | 6.6 | 4 | 還元赤・褐色 | 砂 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 81 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 20.2 | | | 還元赤・褐色 | 白・黒 | | 外周上半部ロクロナ子 | | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 82 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 12.1 | 7.7 | 12.9 | 還元赤・褐色 | 白 | 赤切り | ロクロナ子 | | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 83 | SK483 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 21.2 | | | 還元赤・褐色 | 石・白・赤・砂 | | 外周上半部ロクロナ子 | | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 84 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 15.6 | | 2.9 | 還元赤・褐色 | 黒 | | 外周上半部ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 85 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 14 | | 2.8 | 還元赤・褐色 | 黒 | | 外周上半部ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 86 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | | | | 還元赤・褐色 | 白 | へう切り | ロクロナ子 | | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 87 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体A | 口縁部・口縁部片 | 11.4 | 11.3 | 8.2 | 3.4 | 還元赤・褐色 | 白 | へう切り | ロクロナ子 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 88 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体B | 口縁部・口縁部片 | | 9.1 | | 還元赤・褐色 | 白 | へう切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 89 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体C | 口縁部・口縁部片 | 15.8 | 10.3 | 6.7 | 還元赤・褐色 | 白 | へう切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 90 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体D | 口縁部・口縁部片 | | 7.4 | | 還元赤・褐色 | 黒 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 91 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体E | 口縁部・口縁部片 | | | | 還元赤・褐色 | 白・黒 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 92 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 13.4 | | | 還元赤・褐色 | 白・黒 | | 内外面ミナ | 9世紀後半 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 93 | SK1087 | Ⅲ上 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 12.1 | 5.7 | 3.4 | 還元赤・褐色 | 砂 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀後半 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 94 | SK1345 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体A1 | 口縁部・口縁部片 | 13.2 | 8 | 3.4 | 還元赤・褐色 | 砂 | へう切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 95 | SK1345 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体B1 | 口縁部・口縁部片 | 15.8 | 7.5 | 4.7 | 還元赤・褐色 | 石・白・砂 | へう切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 96 | SK1345 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体C1 | 口縁部・口縁部片 | | 6.7 | | 還元赤・褐色 | 赤・黒 | 赤切り | ロクロナ子 | 14世紀前半 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 97 | P198 | Ⅲ上 | 珠洲器 | 口内縁 | 口縁部・口縁部片 | 25.5 | | | 還元赤・褐色 | 白・黒 | | 外周上半部ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 98 | P470・1483 | Ⅲ上-1 | 瓦器 | 杯蓋 | 口縁部・口縁部片 | 17.5 | 8.9 | 4.1 | 還元赤・褐色 | 石 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 99 | P470 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体C | 口縁部・口縁部片 | 11.7 | | | 還元赤・褐色 | 石 | 赤切り | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 100 | P470・1483 | Ⅲ上-1 | 瓦器 | 有台体D | 口縁部・口縁部片 | 12.3 | 6.5 | 3.7 | 還元赤・褐色 | 石・白・黒 | 赤切り・石 | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 101 | P474 | Ⅲ上 | 瓦器 | 有台体A1 | 口縁部・口縁部片 | 13.2 | 8.2 | 3.5 | 還元赤・褐色 | 白・黒 | へう切り | ロクロナ子 | 9世紀末～9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |
| 102 | P744 | Ⅲ上 | 瓦器 | 口縁部 | 口縁部片 | | | | 還元赤・褐色 | | | ロクロナ子 | 9世紀初頭 | 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 胎土：灰部外周「口」 |

第32表 岩ノ原遺跡出土器・陶磁器類表(3)

| 編號 | 遺構名・ 出土地点 | 層位 | 種類 | 形状・部分・ 遺存体 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 高さ (cm) | 底(或)色調 | 胎土 | 切り廻し・ 方向 | 調査 | 時期 | 備考 |
|-----|--------------|----|---------|---------------|------------|------------|------------|------------|----|-------------|----------------------|--------|---------------------------|
| 103 | P745 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | ハナ掛け、瓦蓋類 |
| 104 | P1200 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 外周縁が深い、自然釉 |
| 105 | P1291 | Ⅲ上 | 灰磁器 長頸甕 | 口縁部破片 | 7 | | | 還元赤・灰白色 | 白 | 赤切り・右 | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」 |
| 106 | P1328 | Ⅲ上 | 土師器 甕 | 口縁部破片 | | | | 酸化赤・土色・黄褐色 | 白 | | 外周縁子々々々、 内周同心円状で具 | 9世紀前半 | 外周自然釉、小治部産 |
| 107 | P1365 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 胴部・体部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 白 | へう切り | カクナ子 | 9世紀前半 | へう切り：灰部外周「黒」、 東風山古墳の産物 |
| 108 | P1441 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部破片 | 12.6 | 9 | 3.3 | 還元赤・灰白色 | 長 | へう切り | カクナ子 | 9世紀前半 | へう切り：内周「黒」、 東風山古墳の産物 |
| 109 | P1443 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部破片 | 10.2 | | 10.2 | 還元赤・灰白色 | 長 | | カクナ子 | 9世紀前半 | へう切り：内周「黒」、 東風山古墳の産物 |
| 110 | P1564 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 長 | | カクナ子 | 9世紀前半 | へう切り：内周「黒」、 東風山古墳の産物 |
| 111 | 14013 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部1/3 | 12.4 | | 2.4 | 還元赤・灰白色 | 長 | へう切り | カクナ子 | 9世紀前半 | へう切り：内周「黒」、 東風山古墳の産物 |
| 112 | 試掘T | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 体部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 113 | 14A7 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部1/3 | 16 | | | 還元赤・灰白色 | 長 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 114 | 試掘T | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部1/3 | 12.7 | | 3 | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 115 | 14012 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | 12.8 | | 8.8 | 還元赤・灰白色 | 白 | へう切り | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 116 | 14012 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部1/4 | 11.8 | | 8.4 | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 117 | 14A9 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | 17.5 | | | 還元赤・灰白色 | 長 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 118 | 試掘T | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | 6.7 | | | 還元赤・灰白色 | 白 | 赤切り | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 119 | 14A3 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | 17.5 | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | 赤切り | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 120 | 14A3 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部1/2 | 11.6 | | 6.8 | 還元赤・灰白色 | 長 | へう切り・左 | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 121 | | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 長 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 122 | 10C1 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 123 | 14B12 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | 13 | | | 還元赤・灰白色 | 長 | | カクナ子 | 9世紀 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 124 | 10A19 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | 10 | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 125 | 14A11 | Ⅲ上 | 灰磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | 12 | | | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 126 | 18A22 | Ⅲ上 | 土師器 甕 | 口縁部破片 | 9 | | | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 127 | 14A8 | Ⅲ上 | 土師器 甕 | 口縁部・体部破片 | 4.3 | | 9.5 | 還元赤・灰白色 | 砂 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 129 | 15A11 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 131 | 10A22 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 132 | 18A23 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 133 | 14A12 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 134 | 18A23 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部・体部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 砂 | | カクナ子 | 9世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 135 | 11B25 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部破片 | 12 | | 12 | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 13世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 136 | 11B25 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部破片 | 10.8 | | 10.8 | 還元赤・灰白色 | 白 | | カクナ子 | 13世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |
| 137 | 12C5 | Ⅲ上 | 灰陶磁器 甕 | 口縁部破片 | | | | 還元赤・灰白色 | 白 | 静止赤切り | カクナ子 | 13世紀前半 | 胎土：灰部外周「黒」、 西風山古墳の産物 |

第33表 岩ノ原遺跡Ⅱ土器・陶磁器調査表(4)

| 掲載番号 | 遺構名・出土地点 | 層位 | 種類 | 器種 | 遺存状態 | 外径 (cm) | 内径 (cm) | 重さ (g) | 備考 |
|------|----------|----|-----|----|------|----------|---------|--------|----|
| 138 | SI1312 | 覆土 | 土師器 | 碗口 | 破片 | 6.1 (推定) | | | |

第 34 表 岩ノ原遺跡Ⅱ土製品観察表

| 掲載番号 | 遺構名・出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 遺存状態 | 備考 |
|------|----------|-----|----|---------|--------|---------|--------|-----|-------|----|
| 139 | SE143 | 覆土 | 砥石 | 8.4 | 5.2 | 4.1 | 190 | 凝灰岩 | 上半部欠損 | |
| 140 | P502 | 覆土 | 砥石 | 9 | 3.8 | 3 | 136 | 凝灰岩 | 上半部欠損 | |
| 141 | P591 | 覆土 | 砥石 | 5.4 | 2.6 | 2.5 | 51 | 凝灰岩 | 上半部欠損 | |
| 142 | P893 | 覆土 | 砥石 | 7.3 | 2.7 | 2.3 | 99 | 凝灰岩 | | |
| 143 | SE788 | 覆土1 | 石臼 | 30 (推定) | | | 3200 | 安山岩 | 4分の1 | 下臼 |
| 144 | P623 | 覆土 | 石臼 | 30 (推定) | | | 4200 | 安山岩 | 6分の1 | 下臼 |

第 35 表 岩ノ原遺跡Ⅱ石製品観察表

| 掲載番号 | 遺構名・出土地点 | 層位 | 銭名 | 直径 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (cm) | 備考 |
|------|----------|----|------|---------|---------|---------|----|
| 145 | P1591 | 覆土 | 紀伊元寶 | 2.4 | 0.14 | 2.58 | |
| 146 | P1591 | 覆土 | 元豊通寶 | 2.4 | 0.15 | 1.96 | |

第 36 表 岩ノ原遺跡Ⅱ銭貨観察表

| 掲載番号 | 遺構名・出土地点 | 層位・取り上げ%等 | 品名 | 樹種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 木取り | 備考 |
|------|----------|-----------|----|----|---------|----------|---------|-----|----|
| 147 | SE143 | 覆土1分 (店前) | 漆器 | | 13 | 4.4 (残存) | 7.3 | | |

第 37 表 岩ノ原遺跡Ⅱ木製品観察表

要 約

北前田遺跡Ⅱ

- 1 北前田遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字上中田字北前田471番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川右岸の沖積地に立地し、標高は約19mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成20年4月17日～6月25日まで実施した。調査面積は2,100㎡である。調査の結果、古代の遺構・遺物を検出した。
- 3 遺構は掘立柱建物17棟、杭列2基、井戸5基、土坑36基、溝30条である。出土遺物の年代から判断すると、8世紀中葉～9世紀初頭のもの、9世紀中葉～後葉のものである。
- 4 遺物は土師器、須恵器、円筒形土製品、土鏝、砥石、刀子である。
- 5 古代における集落跡で、数棟の建物が東西方向に並び、ほぼ均等な間隔で複数の列を成していることが確認できた。計画的に集落を形成していたものと考えられる。

野畔遺跡

- 1 野畔遺跡は、新潟県上越市大字上中田字野畔1085番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川左岸の沖積地に立地し、標高は約19.7mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成20年6月16日～7月14日まで実施した。調査面積は160㎡である。調査の結果、古代の遺構・遺物を検出した。
- 3 遺構は掘立柱建物2棟、井戸1基、土坑2基、性格不明遺構2基、溝1条である。出土遺物の年代から判断すると、8世紀中葉～9世紀初頭と考えられる。
- 4 遺物は土師器、須恵器があり、大部分が溝からの出土である。ほかにも砥石が1点出土している。
- 5 古代における集落跡で、北前田遺跡Ⅱに近接し、所属時期もほぼ同時期と考えられることから、両遺跡は同一の集落であった可能性が高い。

諏訪前遺跡

- 1 諏訪前遺跡は、新潟県上越市大字寺町字諏訪前1365番地ほかに所在する。矢代川と関川の間の沖積地に立地し、標高は約18.9mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成20年6月17日～7月17日まで実施した。調査面積は230㎡である。調査の結果、古代と推定される遺構、古代及び中世の遺物を検出した。
- 3 遺構は土坑2基である。
- 4 遺物は全て遺構外からの出土で、土師器、須恵器、珠洲焼、青磁、木簡である。木簡は「廿一神」などと書かれていたことから、日蓮宗で重視された三十番神の信仰に関わる可能性がある。
- 5 関川面や矢代川の氾濫原に面していたと考えられる。古代においては稲作には適さない地で、当時の人々も生活し得ない地域であったものと推定される。

北新田遺跡Ⅱ

- 1 北新田遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字荒町字南新田に所在する。高田平野の西縁部、青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約17.8mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成20年6月23日～8月8日まで実施した。調査面積は250㎡である。調査の結果、古墳時代及び古代の遺構・遺物を検出した。
- 3 古墳時代の遺構は竪穴住居2棟であり、前期と後期に分けられる。古代の遺構は竪穴住居1棟、土坑1基、溝2条である。
- 4 遺物は土師器、須恵器であり、大部分が古墳時代後期の竪穴住居から出土したものである。
- 5 平成19年度に調査を行った北新田遺跡Ⅰの集落の一部分である。

中田原遺跡Ⅱ

- 1 中田原遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字上中田字中田原81番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川と儀明川に挟まれた洪積台地と沖積地の境界付近に立地し、標高は約18.8～19.4mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成20年7月10日～9月30日まで実施した。調査面積は830㎡である。調査の結果、縄文時代及び古代の遺構、古代及び中世の遺物を検出した。
- 3 縄文時代の遺構は陥穴8基である。古代の遺構は井戸2基、土坑2基、性格不明遺構2基であり、出土遺物の年代から判断すると9世紀中葉と考えられる。
- 4 遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、珠洲焼、瀬戸美濃焼、石器・石製品のほか、曲物、丸木弓、板材などの木製品が出土している。
- 5 縄文時代には狩猟場として利用されていたものと考えられる。古代では建物が発見されないこと、北側に近接する岩ノ原遺跡Ⅱでも確認した「大蔵」と記した墨書土器が出土していることから、「東大寺領石井荘」の外郭に位置付けられるものと考えられる。

岩ノ原遺跡Ⅱ

- 1 岩ノ原遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字向橋字岩ノ原162番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川と儀明川に挟まれた洪積地（灰塚面）に立地し、標高は約22mを測る。
- 2 調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成20年9月16日～11月27日まで実施した。調査面積は1,250㎡である。調査の結果、古代及び中世の遺構・遺物を検出した。
- 3 古代の遺構は竪穴住居3棟、掘立柱建物17棟、井戸6基、土坑8基である。出土遺物の年代から判断すると、8世紀中葉～9世紀初頭のもの、9世紀中葉～後葉のものである。
- 4 中世の遺構は掘立柱建物5棟、井戸9基、土坑1基である。出土遺物の年代から判断すると、14世紀が中心となるものと考えられる。
- 5 遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、珠洲焼のほか、籾の羽口、砥石、石臼、銭貨、漆器椀である。
- 6 古代では出土した墨書土器の内容や掘立柱建物の形状から「東大寺領石井荘」の荘園遺跡と考えられる。また、時間的に断続はあるものの、中世には集落が形成されていた。

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 2008 『青森県史 資料編古代2 出土文字資料』
- 浅香山木^{はら} 1978 『古代の地方史 第4巻 東海・東山・北陸編』朝倉書店
- 網野善彦^{あや} 1993 『講座日本荘園史6 北陸地方の荘園 近畿地方の荘園I』吉川弘文館
- 荒川隆史・加藤 学 1999 『和泉A遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川県松江市教育委員会 1996 『東大寺領横江庄遺跡II』松江市教育委員会
- 市澤 哲 2004 『第3部 古代 第4章 越後古代荘園と説話世界 第1節 11世紀以前の石井荘』
『上越市史 通史編1 自然・原始・古代』新潟県上越市
- 伊東隆夫 1995 『日本産広葉樹材の解剖学的記載I』『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1996 『日本産広葉樹材の解剖学的記載II』『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1997 『日本産広葉樹材の解剖学的記載III』『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1998 『日本産広葉樹材の解剖学的記載IV』『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載V』『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所
- 井上慶隆 1973 『越後の条里制と石井荘の位置』『かみくひむし』11 かみくひむしの会
- 宇野隆夫 2001 『荘園の考古学』青木書店
- 荻野正博 1986 『第5章 律令制下の越後・佐渡国 第6節 初期荘園の成立と推移』『新潟県史 通史編1 原始・古代』
- 小田由美子^{おだ} 2006 『滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 『第4章 古代 第2節 土器編年と地域性』『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 加藤 学^{かた} 2006 『用言寺遺跡I』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学^{かた} 2007 『用言寺遺跡II』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金内 元^{かね} 2007 『中田原遺跡』『平成18年度 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』
- 金内 元^{かね} 2008 『北前田遺跡I・北新田遺跡I』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金内 元^{かね} 2010 『荒町南新田遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金田章裕 1985 『条里と村落の歴史地理学研究』大明堂
- 株式会社古環境研究所 2005 『細田遺跡出土木製品の樹種同定』『下馬場遺跡・細田遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 木村宗文 1984 『第II章 今池遺跡部の位置と環境 3文献からみた古代・中世の頸城地方』『今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
- 倉野恵司校柱 1963 『古事記』岩波書店
- 小口雅史 1991 『律令国家と荘園』『講座日本荘園史2 荘園の成立と領有』吉川弘文館
- 小口雅史 1999 『論考編 第2章 律令制下寺院経済の管理統制機構 一東大寺領北陸初期荘園分析の一視角として一 論考編 第3章 初期荘園の展開』『デジタル古文書集 日本古代土地経営関係史料集成 一東大寺領・北陸編一』
- 小林昌二^{こばやし} 2004 『新潟県内出土古代文字資料集成』新潟県書土器検討会
- 近藤謙三 2004 『植物ケイ酸体研究』『ペドロジスト』48
- 坂井秀弥 1993 『上越市今池遺跡国府説・本長者原庵寺園分寺説の現状』『新潟考古学談話会会報』11 新潟考古学談話会
- 笹澤正史 2003 『第5章 古代 第1節 時代概説』『上越市史 資料編2 考古』新潟県上越市
- 鳥地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』地球社
- 杉山真二 2000 『植物珪酸体(プラント・オパール)』『考古学と自然科学3 考古学と植物学』同成社
- 鈴木俊成^{すずき} 1994 『一之口遺跡東地区』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木三男・小川とみ・能城修一 2004 『青田遺跡出土木材の樹種』『青田遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 高田平野団体研究グループ 1981 「高田平野の第四系とその形成史—新潟県の第四系・そのXXIV—」『研究紀要』第25号 新潟大学教育学部高田分校
- 高野武男 2004 『第1部 自然 第1章 大地の生い立ち 第4節 原始・古代・中世の地形と環境の変化』『上越市史 通史編1 自然・原始・古代』新潟県上越市
- 高橋 勉 1984 『東原遺跡 第7次・第8次発掘調査報告書』新潟県新井市教育委員会
- 高橋保雄³³⁾ 2008 『岩ノ原遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 竹内理三 1999 『第3篇 荘園発生の期 東大寺領 第1章 寺領の成立と分布 第3節 寺領の成立と分布2』『竹内理三著作集 第二巻 日本上代寺院経済史の研究』角川書店
- 田嶋明人 1992 『北陸の電とその周辺 3北陸の電』『第32回 埋蔵文化財研究集会 古墳時代の電を考える 第三分冊 追加資料・発表要旨』和歌山県文化財センター
- 東京大学出版会 1966 『大日本古文書 家わけ第18 東大寺文書4』
- 田海義正 1999 『第2章 縄文時代 第4節 生業 第2項 狩猟』『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 富山県教育委員会 1974 『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 井波町高瀬遺跡 入善町じょうべのま遺跡 発掘調査報告書』
- 中川清隆・横山宏太郎 2002 『第2章 気候』『上越市史 資料編1 自然』新潟県上越市
- 西宮一民校柱 1985 『古語拾遺』岩波書店
- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
- パリオ・サーヴェイ株式会社 1994 『一之口遺跡東地区から出土した木質遺物および種実遺体の同定』『一之口遺跡東地区』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- パリオ・サーヴェイ株式会社 2003 『桃川遺跡群の自然化学分析』『桃川遺跡群 石川遺跡・草田遺跡・桃川板碑・堤下瓦窯跡』新潟県神林村教育委員会
- パリオ・サーヴェイ株式会社 2004 『木製品の樹種同定』『下割遺跡Ⅱ』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- パリオ・サーヴェイ株式会社 2006a 『自然科学分析』『野中土手付遺跡・砂山中道下遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- パリオ・サーヴェイ株式会社 2006b 『自然科学分析』『三角田遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- パリオ・サーヴェイ株式会社 2008a 『古植生と木材利用』『岩ノ原遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- パリオ・サーヴェイ株式会社 2008b 『自然科学分析』『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 平川 南 2000 『“古代人の死”と墨書土器』『墨書土器の研究』吉川弘文館
- 藤井一二 1986 『第3章 東大寺領荘園の形成と支配 第3節 荘地の一門的支配』『初期荘園史の研究』塙書房
- 松葉礼子 2000 『平田遺跡出土木製品の樹種同定』『平田遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 森田 梯 1975 『古代の村落について 一東大寺北陸庄園を素材に—』『日本海域研究所報告』6・7 金沢大学日本海域研究所
- 吉岡康暢 1983 『東大寺領横江庄遺跡』松江市教育委員会・石川考古学研究会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉川町教育委員会 1994 『樋詰遺跡発掘調査報告書』
- 吉田 孝³⁴⁾ 1995 『岩波講座 日本通史 第5巻』岩波書店
- 吉村武彦³⁵⁾ 2002 『古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究』
- 渡邊裕之³²⁾ 2005 『台の上遺跡・蛭ノ上遺跡・五反田遺跡』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 亘理俊次・山内 文 1953 『千種出土の樹種』『千種』新潟県教育委員会 77-81p.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』海青社
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』海青社

図 版

凡 例

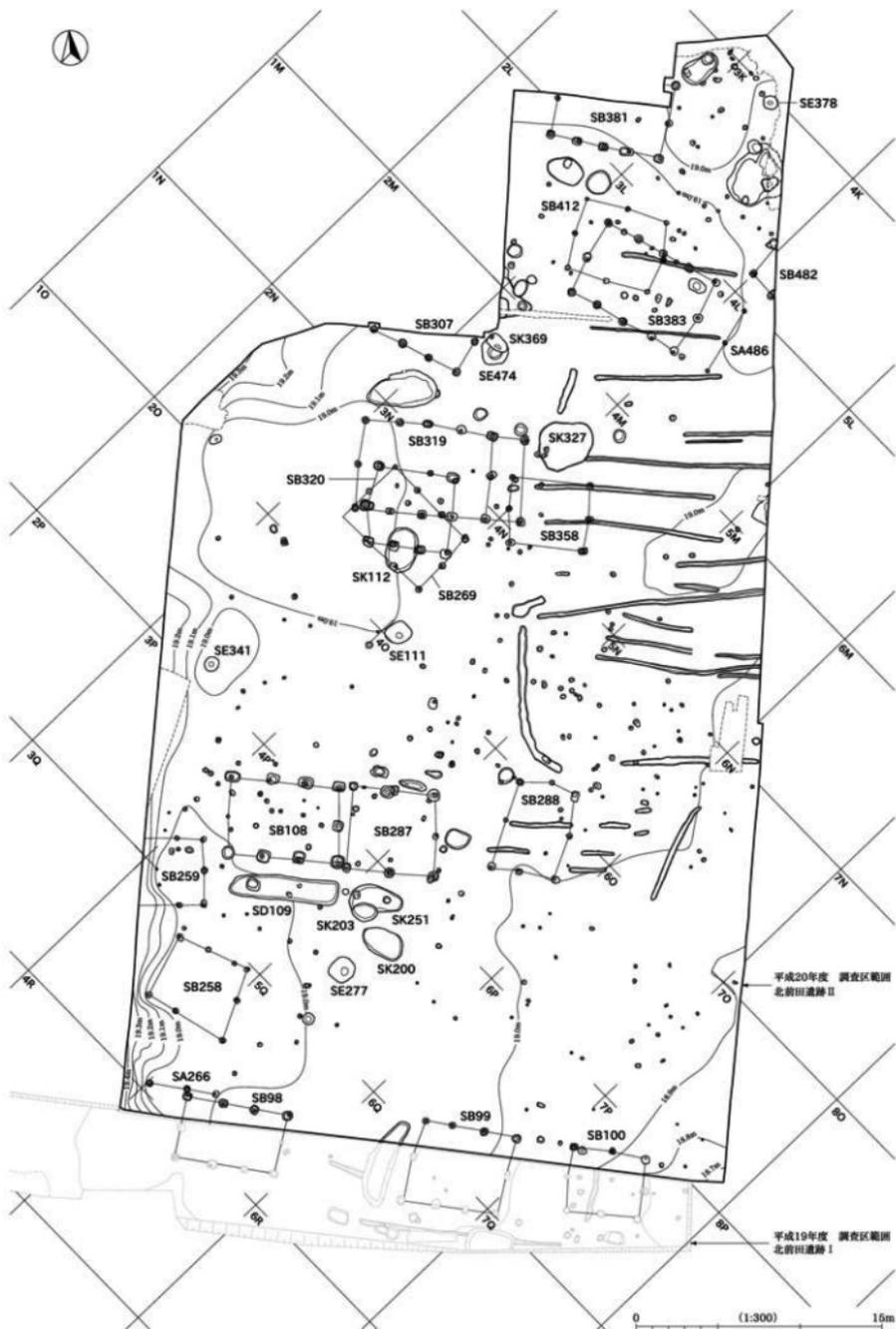
図版に用いるトーンは以下の通りである。

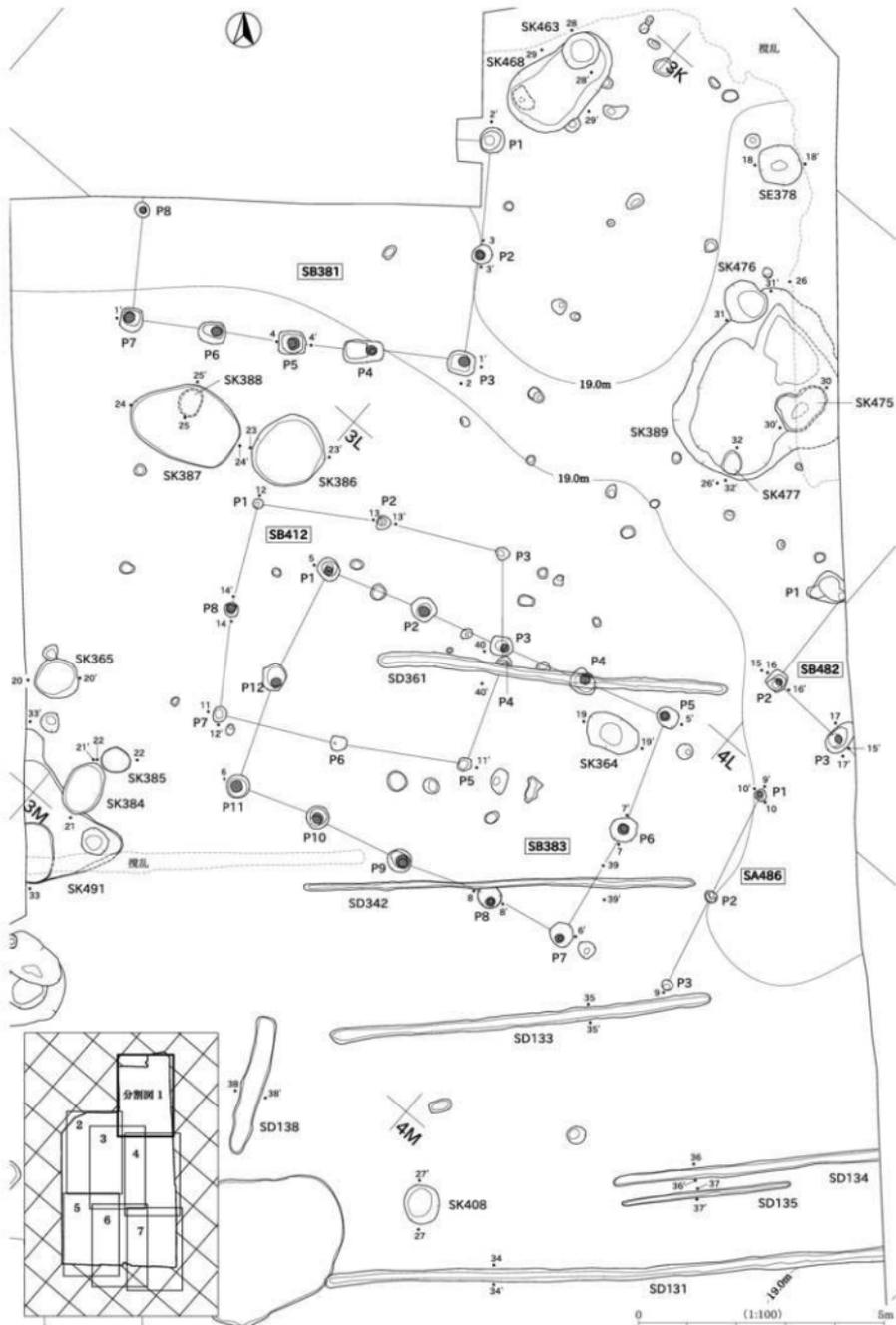
1 遺構実測図

| | |
|---------|---|
| 柱 痕 |  |
| 焼 土 範 囲 |  |

2 遺物実測図

| | |
|---------|---|
| 須 恵 器 |  |
| 土 師 器 |  |
| 土師器黒色処理 |  |
| 灰 輪 陶 器 |  |
| 漆 椀 |  |





SB381



SB381-P2

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm以下のに黄褐色シルトブロック少量含む。

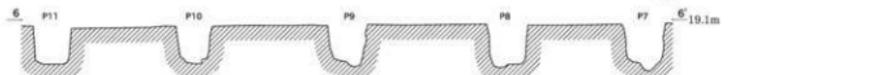
2 におい黄褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 3mm以下の暗黄褐色シルト少量含む。

SB381-P5

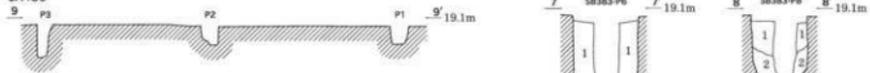
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm以下のに黄褐色シルトブロック少量含む。

2 におい黄褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 5mm前後の黒褐色シルト少量含む。

SB383



SA486



SA486-P1

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。

SB383-P6

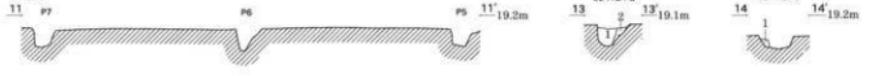
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm前後のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

SB383-P8

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10~30mmのにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

2 におい黄褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm以下の暗黄褐色シルトブロック少量含む。

SB412



SB412-P2

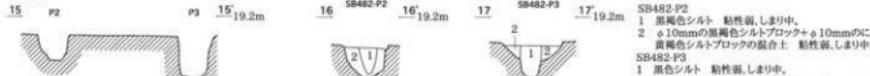
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり弱, ϕ 10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

2 におい黄褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm以下の暗褐色シルトブロック少量含む。

SB412-P8

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 1~30mmのにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

SB482



SB482-P2

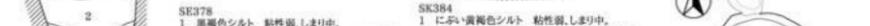
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。

2 ϕ 10mmの黒褐色シルトブロック+ ϕ 10mmのにおい黄褐色シルトブロックの混合土 粘性弱, しまり中。

SB482-P3

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。

2 ϕ 10mmの黒褐色シルトブロック+ ϕ 10mmのにおい黄褐色シルトブロックの混合土 粘性弱, しまり中。



SE378

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm以下の黄褐色シルトブロック少量含む。

2 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10~30mmの黄褐色シルトブロック少量含む。

3 黒褐色シルト 粘性弱, しまり弱。

4 におい黄褐色シルト 粘性中, しまり弱。



SK384

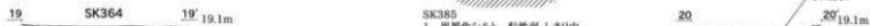
SK384

1 におい黄褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm以下の灰黄褐色シルトブロック少量, ϕ 3mm以下の灰化物少量含む。

SK385

SK385

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 1~3mm灰黄褐色シルトブロック少量, ϕ 3mm以下の灰化物少量含む。



SK364

SK364

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mmのにおい黄褐色シルトブロック少量, ϕ 3~6mmの灰化物少量, ϕ 3mm以下の機土少量含む。

2 におい黄褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10~30mmの黒褐色シルトブロック少量含む。

3 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10~30mmのにおい黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1mm以下の灰化物少量含む。

4 におい黄褐色シルト地山ブロック 粘性中, しまり中。

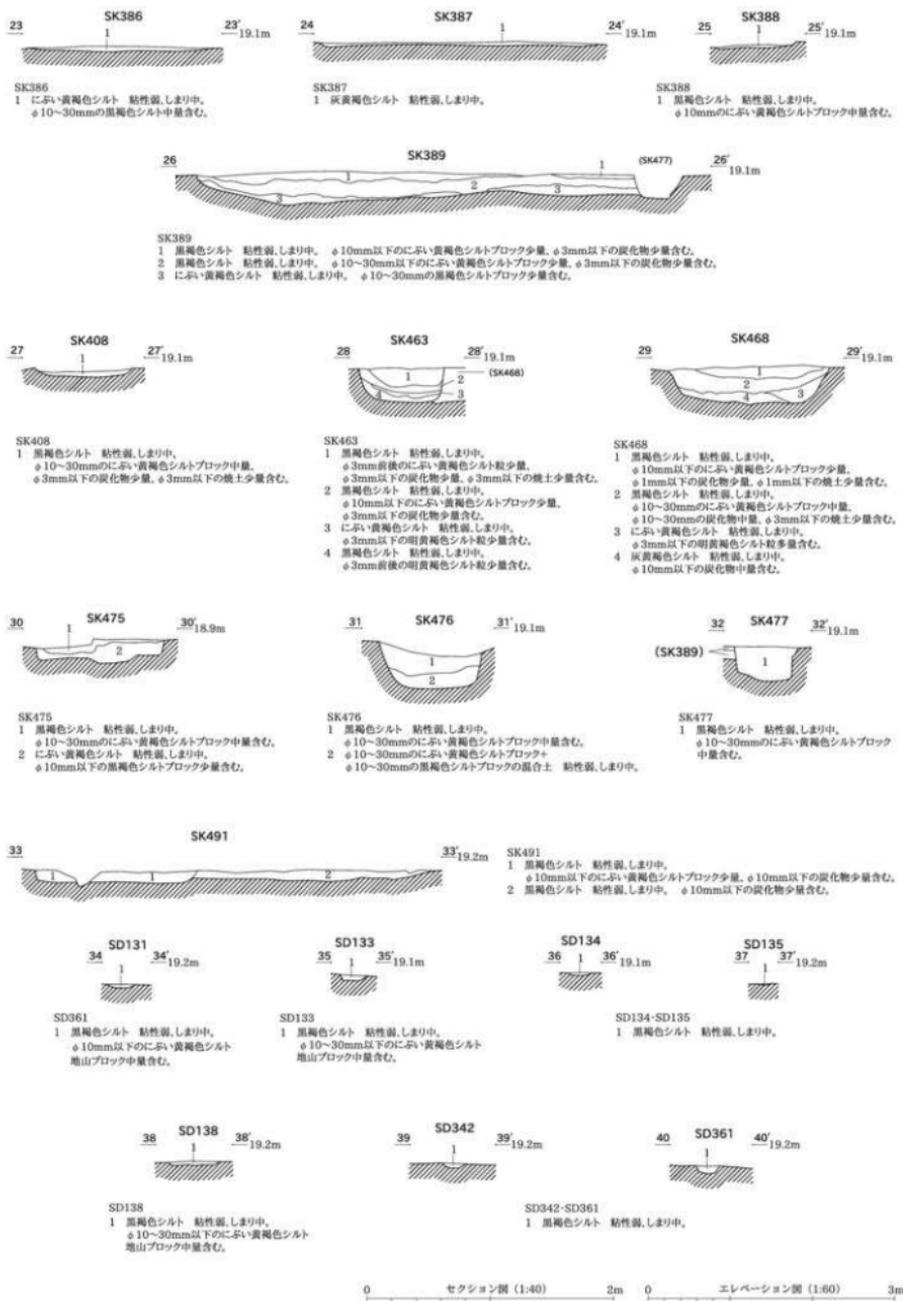


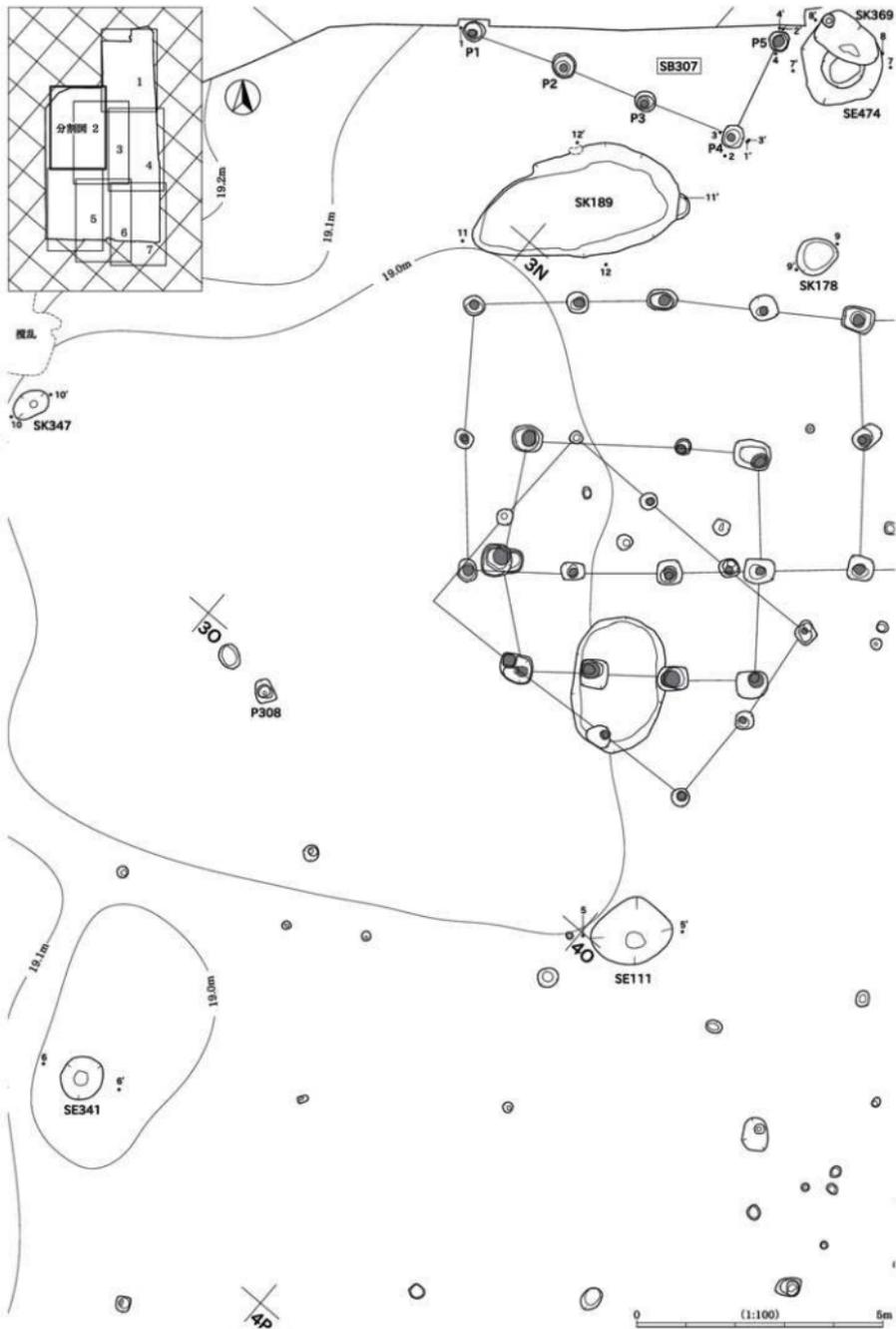
SK365

SK365

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 3mm以下の灰化物, ϕ 3mm以下の機土少量含む。

2 におい黄褐色シルト 粘性弱, しまり中, ϕ 10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。



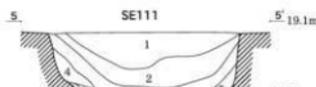


SB307

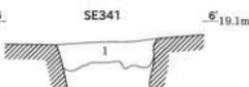


SB307-P4
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ10mm以下の灰黄褐色シルトブロック少量含む。
2 灰黄褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。

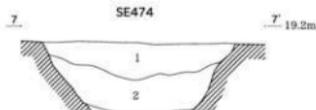
SB307-P5
1 φ10mmの以下の灰黄褐色シルトブロック+
φ10mmの黒褐色シルトブロックの混合土
粘性弱、しりり中。



SE111
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
2 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
3 明褐色シルト 粘性弱、しりり弱。
φ30mmの暗黄褐色シルト地山ブロック多量含む。
4 灰黄褐色シルト 粘性中、しりり弱。
φ1mmの以下の灰黄褐色シルトブロック少量含む。
5 灰黄褐色シルト 粘性中、しりり弱。
φ30mmの明黄褐色シルト地山ブロック中量含む。
6 灰黄褐色シルト 粘性弱、しりり弱。
φ50mmの明黄褐色シルト地山ブロック中量含む。
7 灰黄褐色シルト地山ブロック 粘性強、しりり弱。



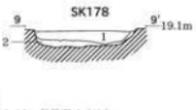
SE341
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ3mm以下の炭化物少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性中、しりり中や弱。
φ10mm以下の炭化物中量含む。



SE474
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ10~30mmの以下の灰黄褐色シルトブロック中量。
φ3mm以下の炭化物少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ10mm以下の以下の灰黄褐色シルトブロック少量。
φ3mm以下の炭化物少量含む。
3 黒褐色シルト 粘性弱、しりり弱。



SK369
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ1mm以下の炭化物少量含む。

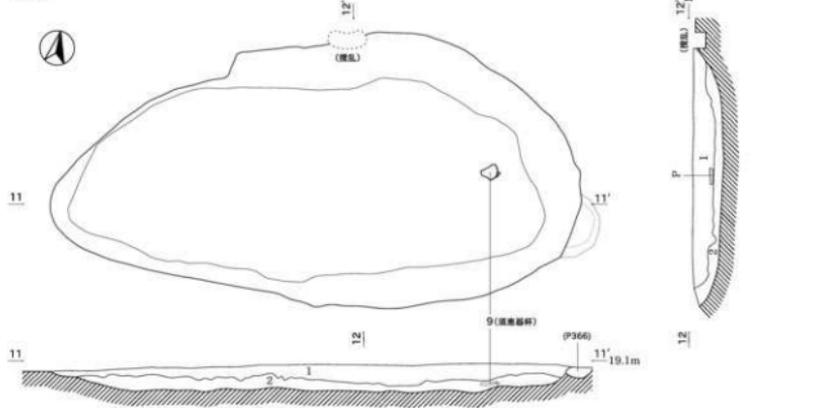


SK178
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ10mm以下の以下の灰黄褐色シルトブロック少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ10mm以下の以下の灰黄褐色シルトブロック少量含む。

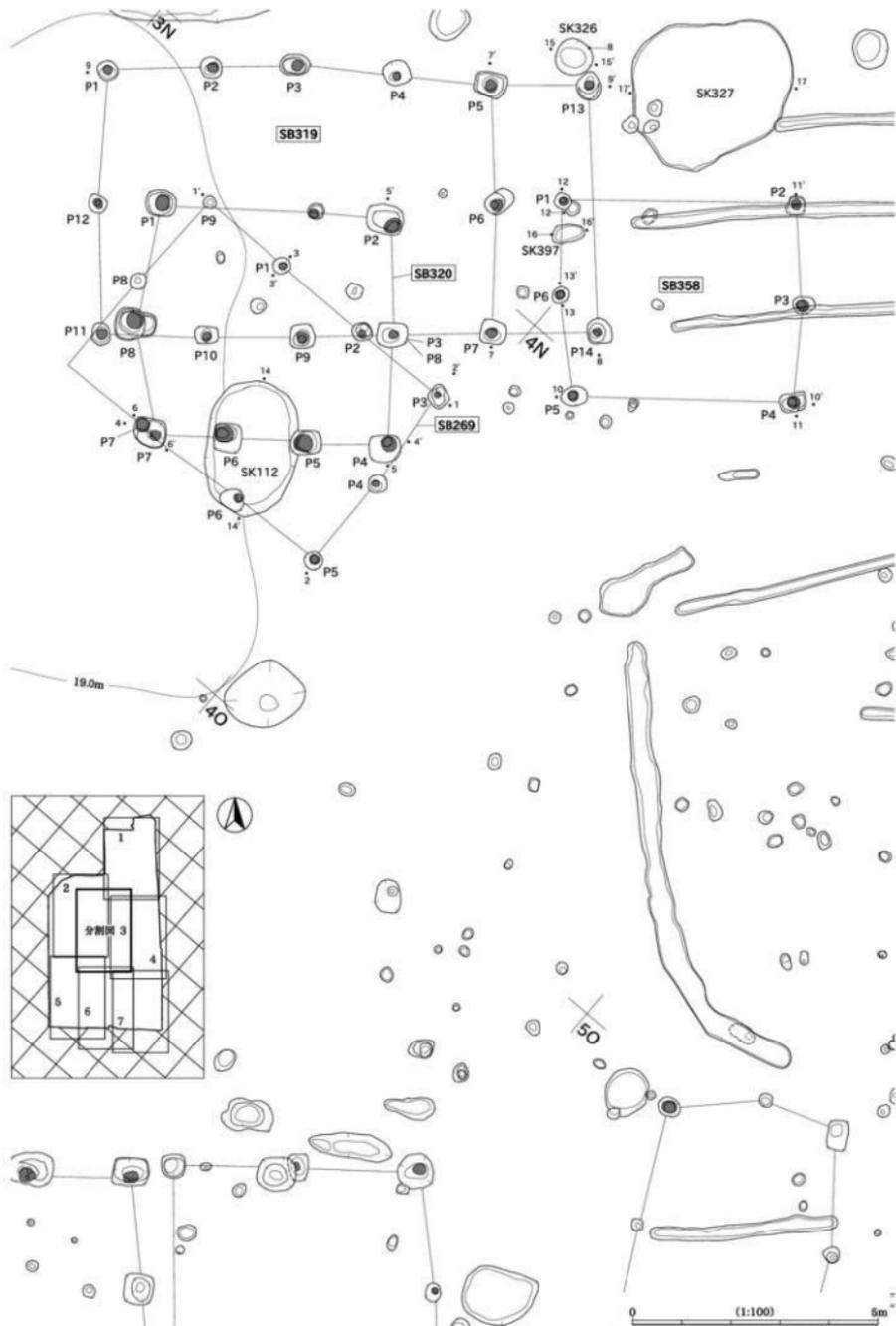


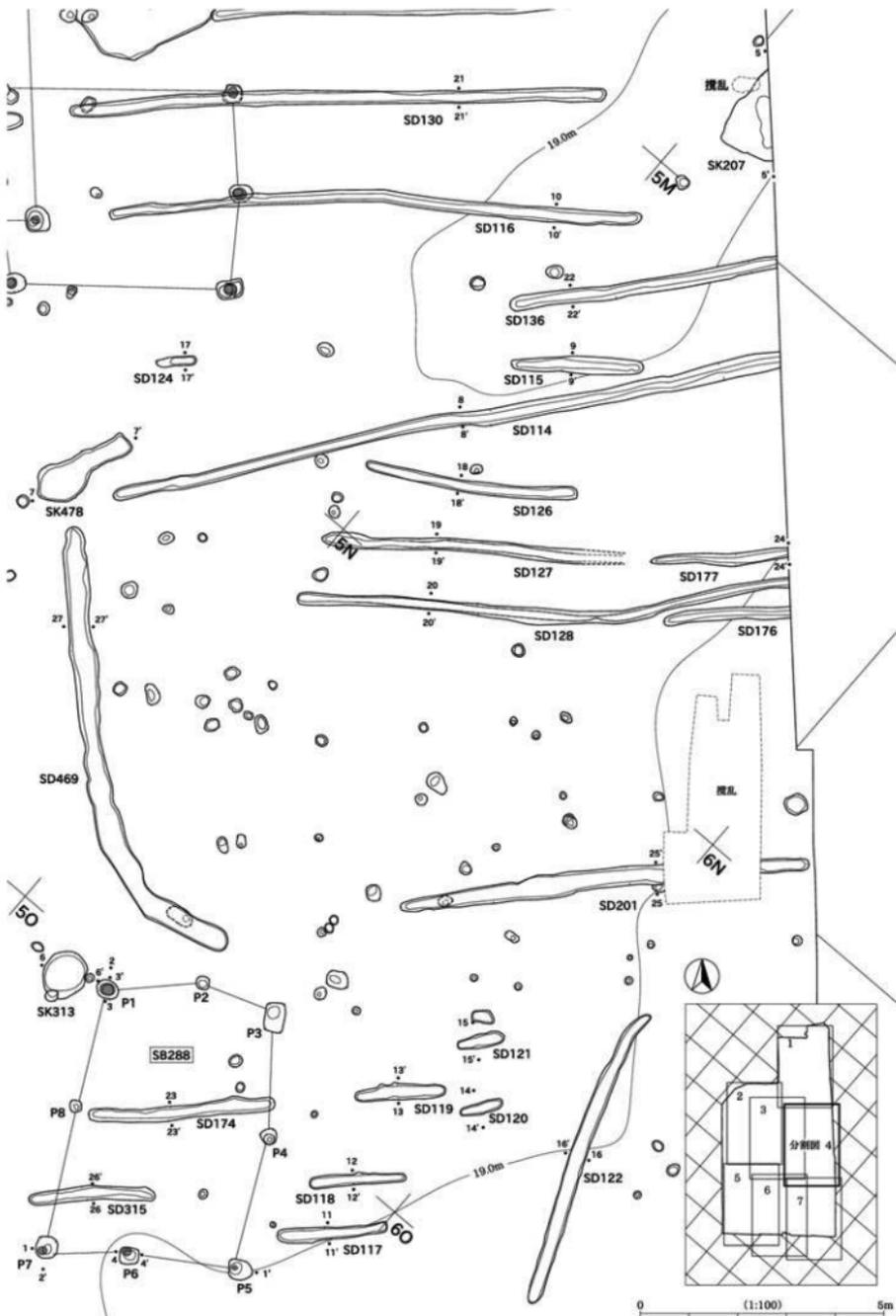
SK347
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
φ10mm以下の以下の灰黄褐色シルトブロック少量含む。

SK189



SK189
1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。 φ1mm以下の灰白色粘土粒子微量、φ1mm以下の炭化物少量、φ1mm以下の焼土少量含む。
2 黒色粘質シルト 粘性強、しりり中。





遺構別図3

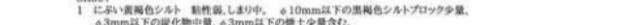
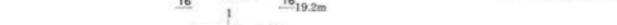
SB269



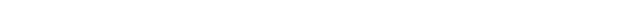
SB319



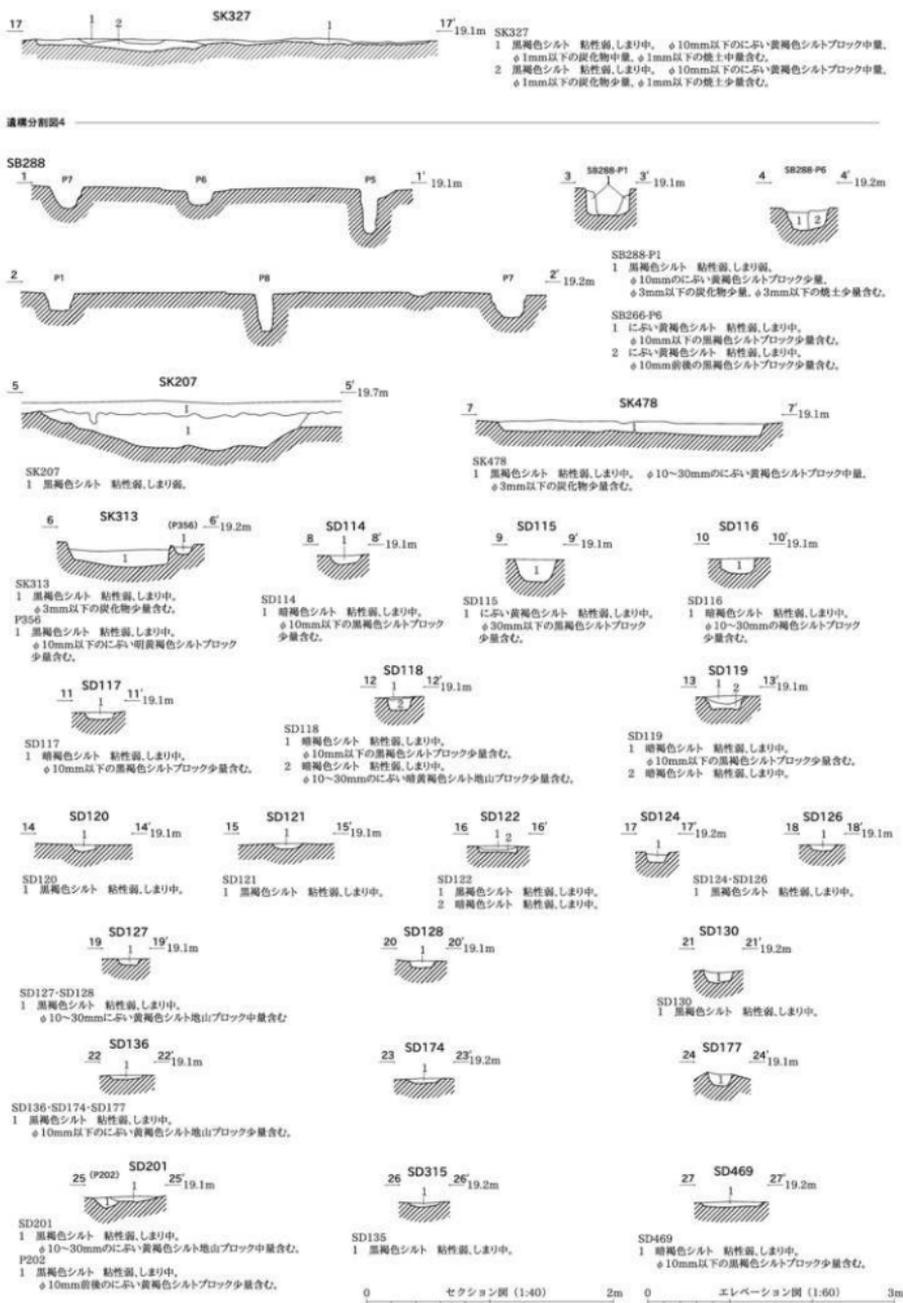
SB320

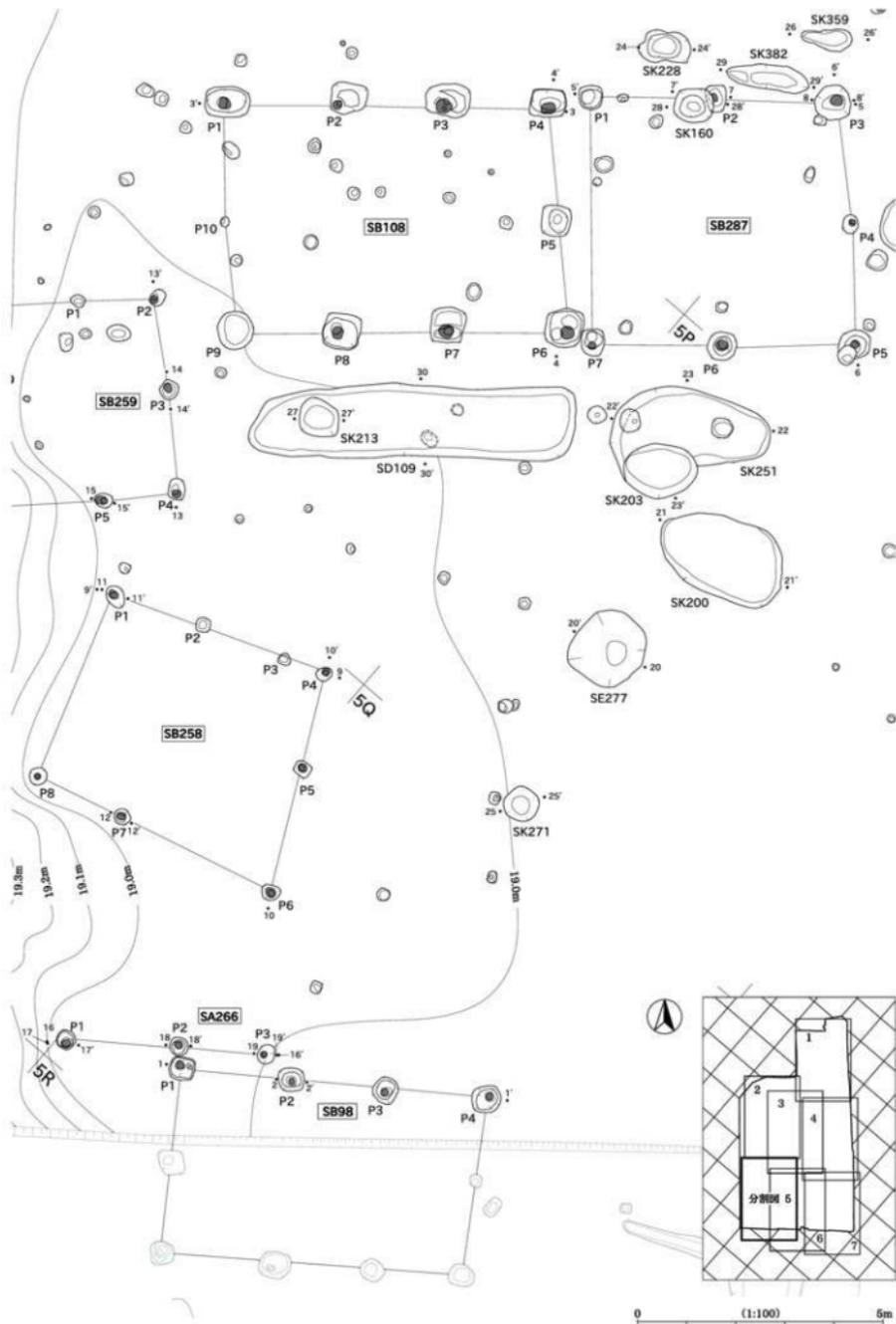


SK112

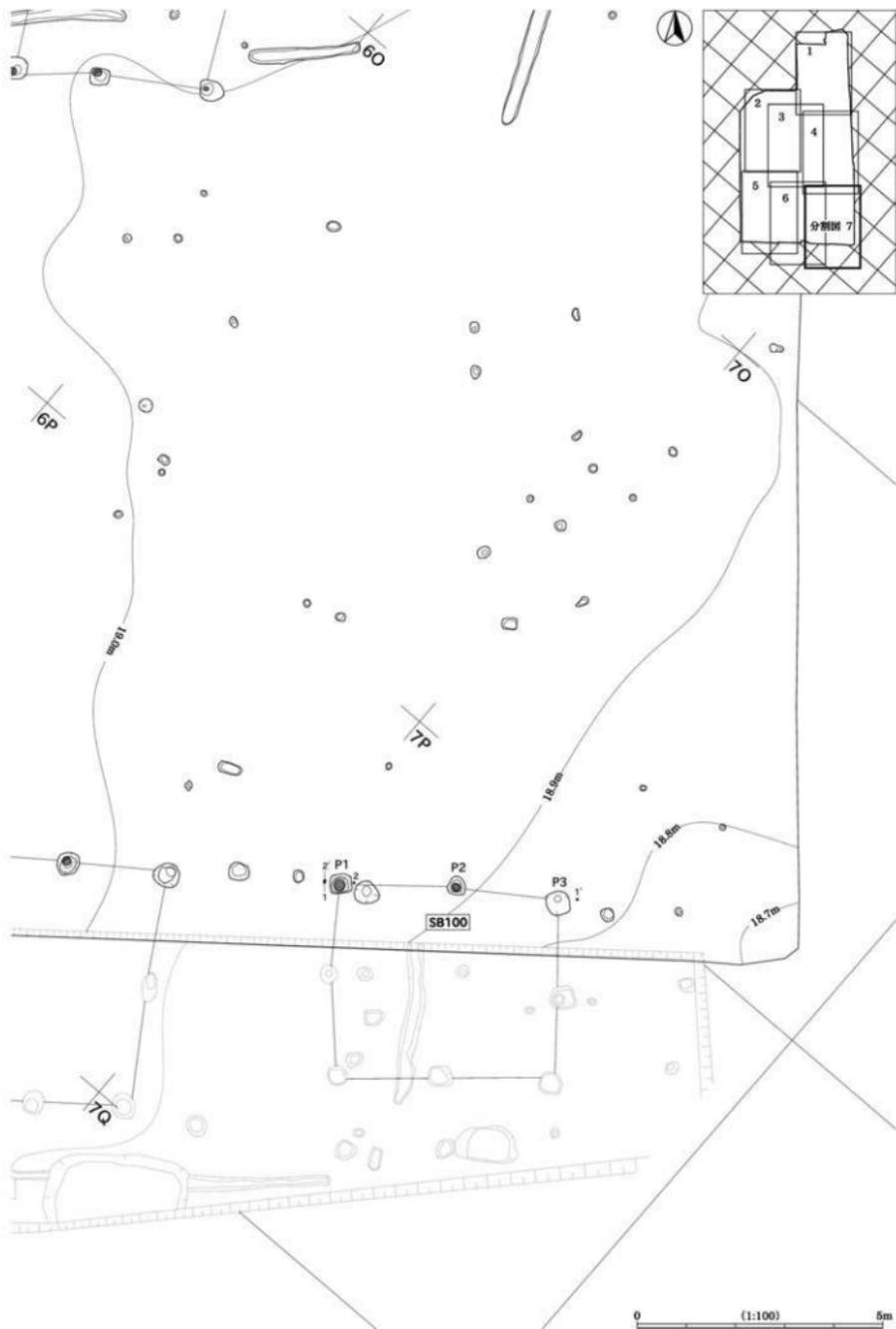


SK326



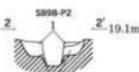






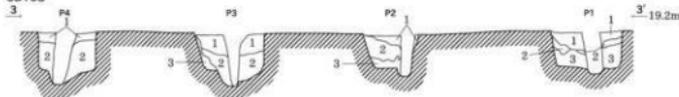
遺構別図 5

SB98



SB98-P2
1 黄褐色シルト 粘性弱, しまり中。φ10mm以下の暗褐色シルトブロック少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。φ10mm以下に黄褐色シルトブロック少量含む。

SB108



SB108-P4
1 黒色シルト 粘性中, しまり中。
2 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ5~10mmのこぶ状黄褐色シルトブロック中量。
φ1mm以下の炭化物少量含む。

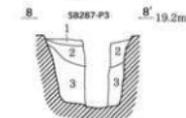
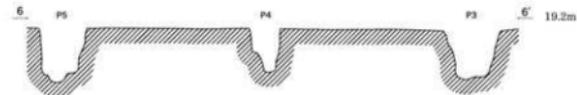
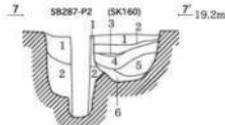
SB108-P3
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり弱。
2 黒褐色シルト 粘性弱, しまり弱。
3 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10mmの明黄褐色シルトブロック少量含む。

SB108-P1
1 φ5mmの黒褐色シルトブロック+φ5mm以下のこぶ状黄褐色シルトブロックの混合土 粘性弱, しまり中。
2 φ5~10mmの黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。黄褐色シルトブロック少量含む。
3 明黄褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10mm前後の黒色シルトブロック少量含む。

SB108-P2
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10mm以下のこぶ状黄褐色シルトブロック少量含む。
3 黄褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック中量含む。



SB287



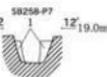
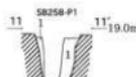
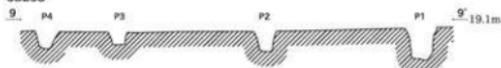
SK160

1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。φ5mm以下のこぶ状黄褐色シルト少量。
2 φ5mm以下の炭化物中量含む。
3 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。φ3mm以下の炭化物少量含む。
4 黒褐色シルト 粘性中, しまり弱。
5 黄褐色シルト 粘性強, しまり弱。
6 黒灰色シルト 粘性強, しまり弱。
φ30mm前後のこぶ状黄褐色シルトブロック少量含む。

SB287-P2
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり弱。
φ5mm以下のこぶ状黄褐色シルト中量含む。
2 こぶ状黄褐色シルト 粘性弱, しまり弱。
φ10~20mmの黒褐色シルトブロック少量含む。

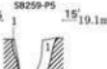
SB287-P3
1 黄褐色シルト 粘性弱, しまり弱。
φ10mm以下の炭化物少量。
2 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10~30mmのこぶ状黄褐色シルトブロック少量含む。
3 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10mm以下のこぶ状黄褐色シルトブロック少量含む。

SB258



SB258-P1
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
SB258-P7
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ10~20mmのこぶ状黄褐色シルトブロック少量含む。

SB259



SB259-P3
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。φ10mmの明黄褐色シルトブロック中量含む。
SB259-P5
1 黒褐色シルト 粘性弱, しまり中。φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。

SA266



SA266-P1



SA266-P2



SA266-P3



SA266-P1-SA266-P2

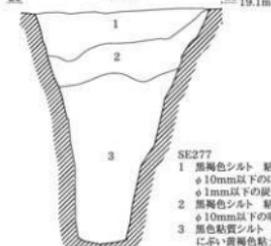
1 におい黄褐色シルト 粘性弱,しまり中。

SA266-P3

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。
φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

2 におい黄褐色シルト 粘性弱,しまり中。

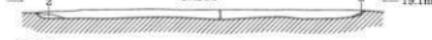
20 SE277



SE277

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。
φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量。
φ1mm以下の炭化物少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性中,しまり弱。
φ10mm以下の明黄褐色粘土ブロック少量含む。
3 黒色粘質シルト 粘性中,しまり弱。
におい黄褐色粘土含む。

21 2 SK200



SK200

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量。
φ10mm以下の灰黄褐色シルトブロック少量含む。

2 明黄褐色シルト地山ブロック 粘性中,しまり中。

24 SK228



SK228

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 明黄褐色シルトブロック少量。
φ1mm以下の炭化物少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ1mmのにおい黄褐色シルトブロック中量含む。
3 黒褐色シルト 粘性中,しまり弱。
4 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5-10mmのにおい黄褐色シルトブロック中量含む。

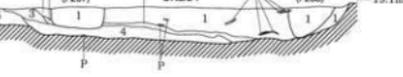
25 SK271



SK271

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。
φ5-10mmのにおい黄褐色シルトブロック中量含む。
2 におい黄褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。
3 におい黄褐色シルト 粘性弱,しまり中。 明黄褐色シルトブロック多量含む。

22 6 12 (P267) 2 SK251



23 SK251 SK203 P



P267

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ1mm以下の焼土少量含む。

P268

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

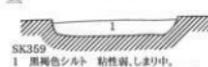
SK203

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10-30mmの灰黄褐色シルトブロック少量。
φ1mm以下の炭化物少量。 φ1mm以下の焼土少量含む。

SK251

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5mmの明黄褐色シルトブロック少量。
φ1mm以下の炭化物少量。 φ1mm以下の焼土少量含む。
2 暗褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ3mm以下の明黄褐色シルトブロック中量含む。
3 明黄褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5-10mm以下の焼土ブロック多量含む。
4 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック中量。
φ5mm以下の炭化物少量。 φ5mm以下の焼土少量含む。
5 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。
6 におい黄褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5-10mmの黒褐色シルトブロック少量含む。

26 SK359



SK359

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

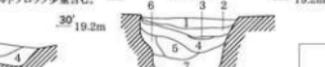
27 SK213



SK213

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。
φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量。 φ1mm以下の炭化物少量含む。

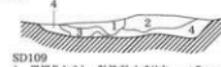
28 SK160



SK160

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。
3 暗褐色シルト 粘性弱,しまり弱。 灰黄褐色シルトブロック少量含む。
4 におい黄褐色シルト地山ブロック 粘性中,しまり中。

30 SD109



SD109

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5mm以下の炭化物多量。 φ5mm以下の焼土多量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5mm以下の焼土少量含む。
3 暗褐色シルト 粘性弱,しまり弱。 φ5mm以下の炭化物中量。

SK160

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ5mm以下のにおい黄褐色シルト現状に少量。
φ5mm以下の炭化物少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ3mm以下の炭化物少量含む。
3 黒褐色シルト 粘性中,しまり弱。
4 黄褐色シルト 粘性強,しまり弱。
5 陶灰色シルト 粘性強,しまり弱。
6 陶灰色シルト 粘性強,しまり弱。 φ30mm前後のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。
7 陶灰色シルト 粘性強,しまり弱。

遺構分断図6

SB99



遺構分断図7

SB100



SB100-P1

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。
2 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量。 φ3mm以下の炭化物少量。

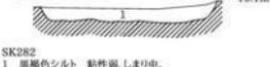
2. SB99-P4



SB99-P4

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。
φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。
2 明黄褐色シルト 粘性弱,しまり中。

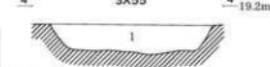
3 SK282



SK282

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。
φ10-20mmのにおい黄褐色シルトブロック少量。
φ5mm以下の炭化物少量含む。

4. SX55



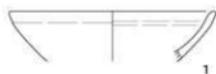
SX55

1 黒褐色シルト 粘性弱,しまり中。
φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。

0 セクション図 (1:40) 2m

0 エレベーション図 (1:60) 3m

SE277



1

SE341



2

SE474



3

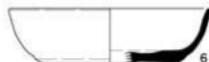
SK112



4



5



6

SK189



8

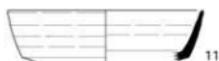


9

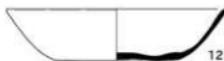


7

SK200



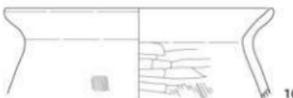
11



12



13



10

SK203



14

SK207



15

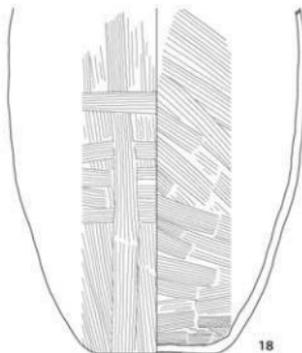
SK251



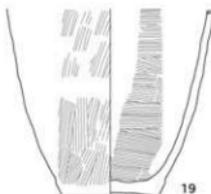
16



17



18

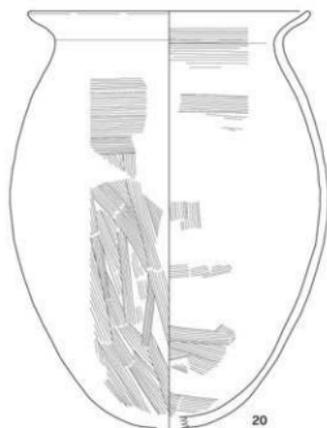


19

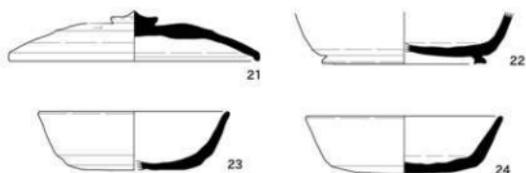
0 (1~6・8・9・11~16) 15cm (1:3)

0 (7・10・17~19) 20cm (1:4)

SK251



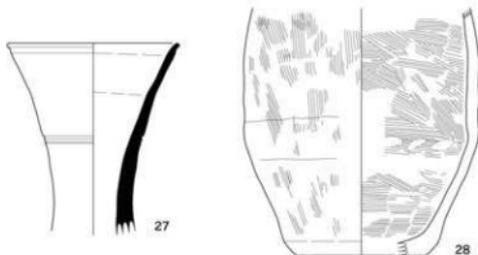
SK327



SK389



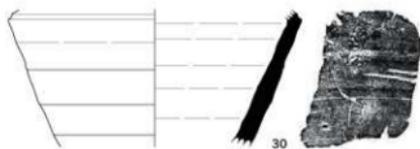
SK468



SD109



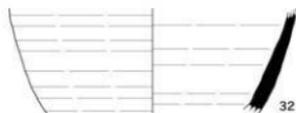
SD114



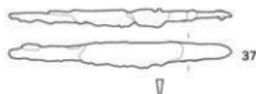
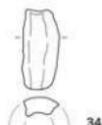
P308



Ⅱ層



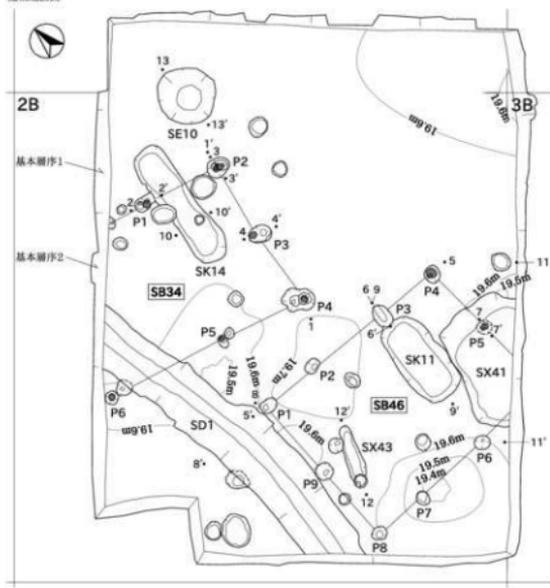
土製品・石製品・金属製品



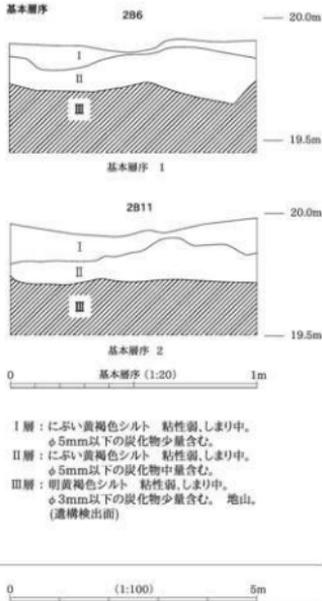
0 (21~27・29~34・36・37) 20cm (1:3)

0 (20・28・35) 15cm (1:4)

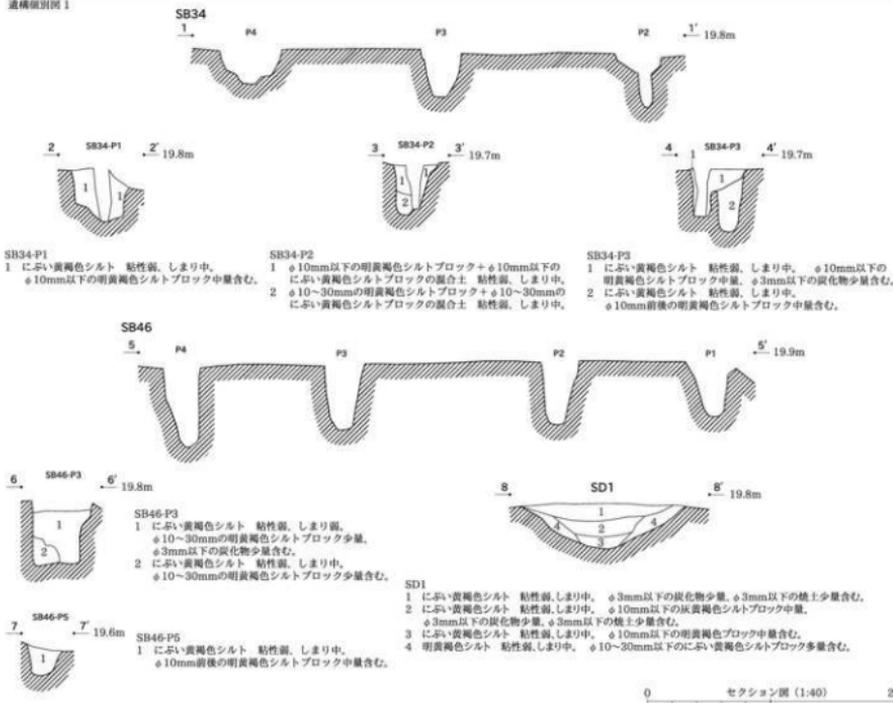
遺構配置図



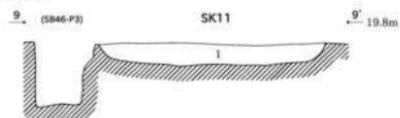
基本層序



遺構個別図 1

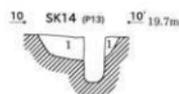


遺構個別図 2



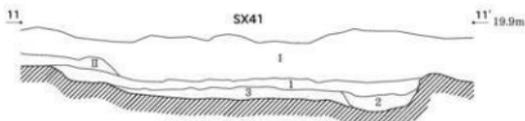
SK11

1 におい黄褐色シルト 粘性弱、しまり中。
 φ10~30mmの明黄褐色シルトブロック中量、φ3mm以下の炭化物少量含む。



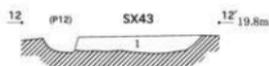
SK14

1 におい黄褐色シルト 粘性弱、しまり中。
 φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。



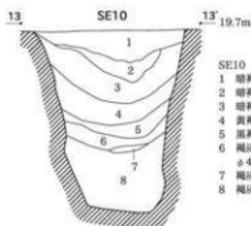
SX41

1 におい黄褐色シルト 粘性弱、しまり中。 φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。
 2 明黄褐色シルト 粘性弱、しまり弱。 φ10mm以下のにおい黄褐色シルトブロック少量含む。
 3 φ10~30mmの明黄褐色シルトブロック+φ10~30mmのにおい黄褐色シルトブロックの混合土 粘性弱、しまり中。



SX43

1 におい黄褐色シルト 粘性弱、しまり中。
 φ10mm前後の明黄褐色シルトブロック中量含む。

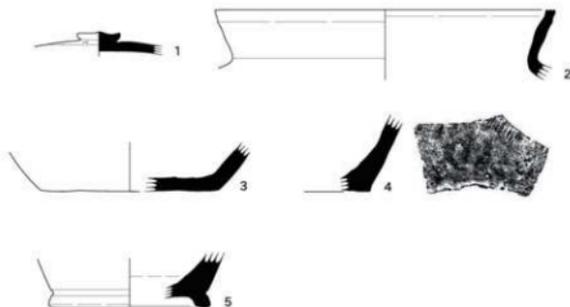


SE10

1 暗褐色シルト 粘性弱、しまり強。 φ5~25mmの黄褐色シルトブロック少量、φ3mm以下の炭化物少量含む。
 2 暗褐色シルト 粘性中、しまり中。 φ1~25mmの黄褐色シルトブロック塊状に中量、φ8mm以下の炭化物中量含む。
 3 暗褐色シルト 粘性中、しまり中。 φ3~22mmの黄褐色シルトブロック少量、φ6mm以下の炭化物少量含む。
 4 黄褐色シルト 粘性中、しまり弱。 明黄褐色シルトブロックと褐色シルトブロックの混合土、φ5mm以下の炭化物少量含む。
 5 厚褐色シルト 粘性中、しまり強。 φ7~27mmの明黄褐色シルトブロック塊状に少量、φ5mm以下の炭化物少量含む。
 6 褐色シルト+黄褐色シルトの混合土 粘性強、しまり中。
 7 褐色シルト 粘性強、しまり中。 φ4~17mmの黄褐色シルトブロック少量、φ16mm以下の炭化物少量含む。
 8 褐色シルト 粘性強、しまり中。 φ5~38mmの炭褐色シルトブロック含む、φ8mm以下の炭化物少量含む。

0 セクション図 (1:40) 2m

SD1

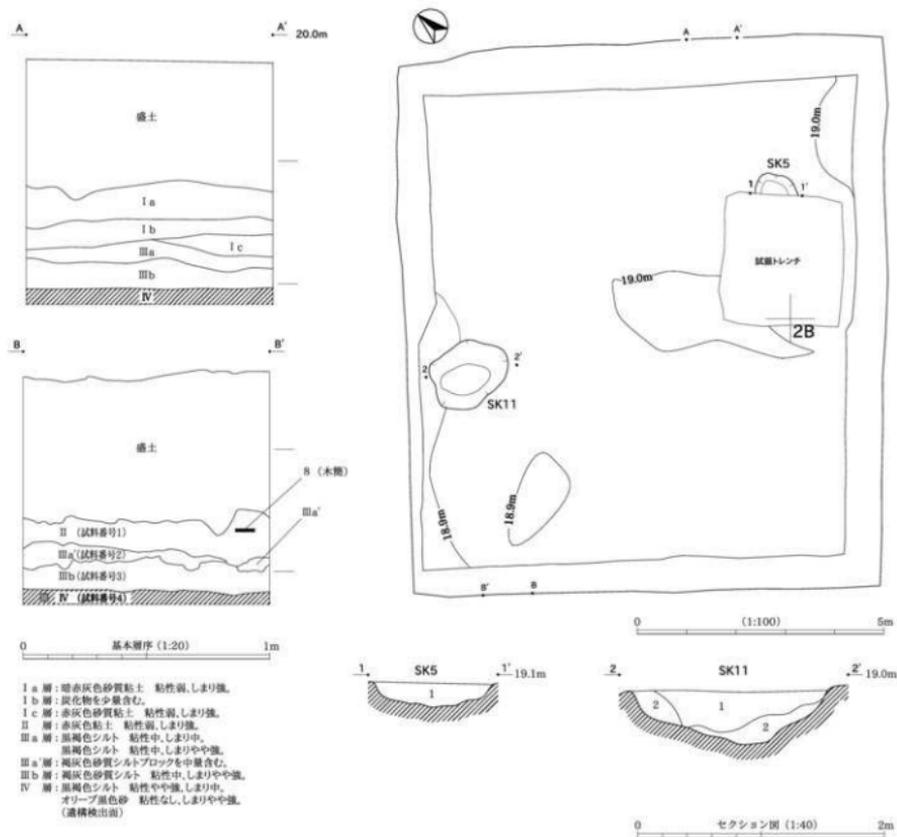


石製品



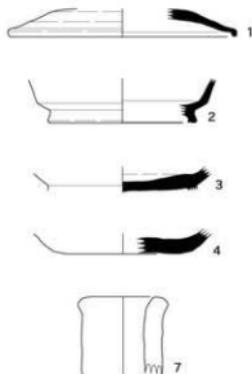
0 (1~5) 15cm (1:3)

0 (6) 20cm (1:4)



- I a 層: 暗赤灰色砂質粘土 粘性弱、しまり強。
- I b 層: 炭化物を少量含む。
- I c 層: 赤灰色砂質粘土 粘性弱、しまり強。
- II 層: 赤灰色粘土 粘性弱、しまり強。
- III a 層: 黒褐色シルト 粘性中、しまりやや強。
黒褐色シルト 粘性中、しまりやや強。
- III a' 層: 褐色砂質シルトブロックを中量含む。
- III b 層: 褐色砂質シルト 粘性中、しまりやや強。
- IV 層: 黒褐色シルト 粘性やや強、しまり中。
オリーブ褐色砂 粘性なし、しまりやや強。
(遺構検出面)

III a 層



攪乱

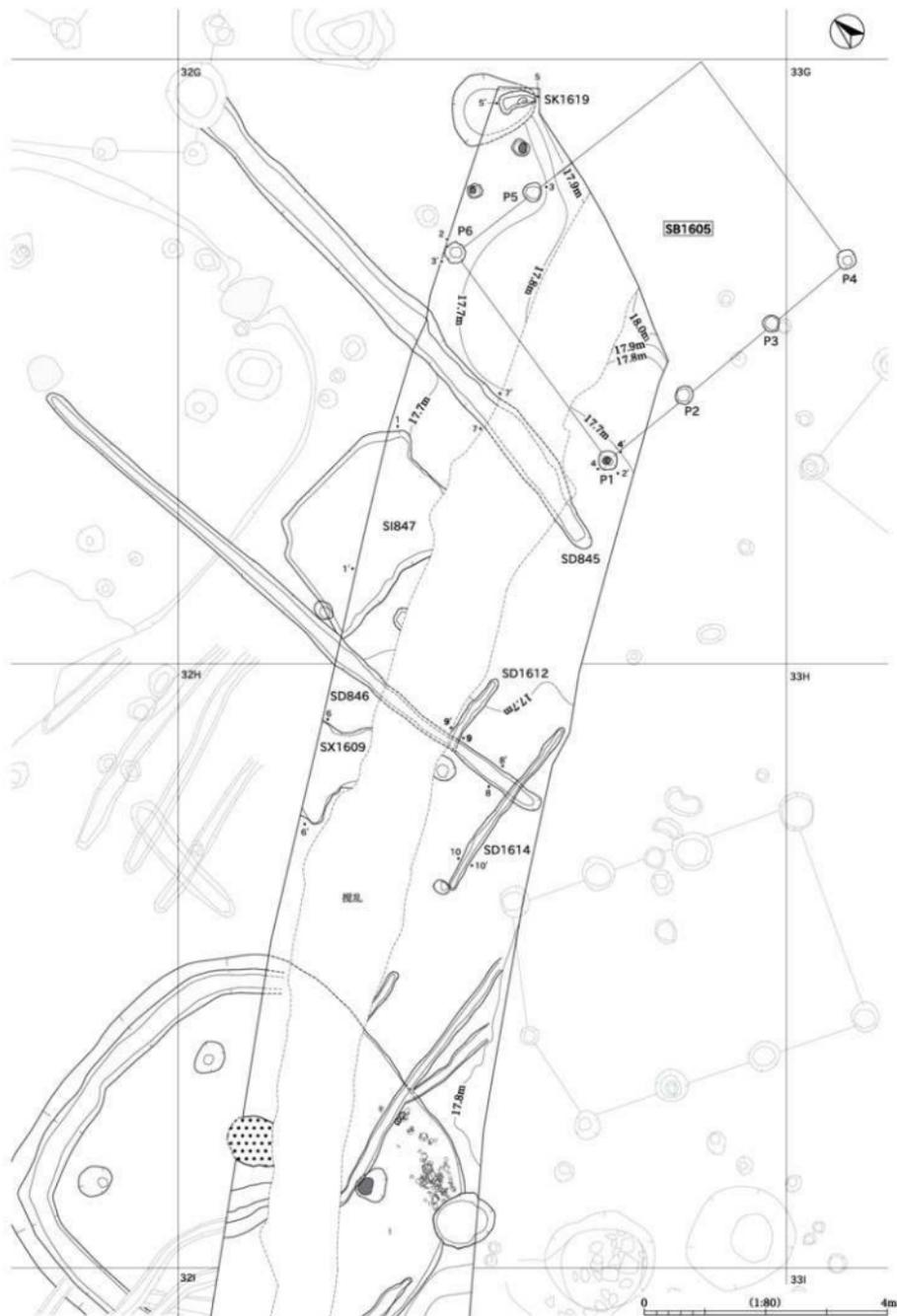


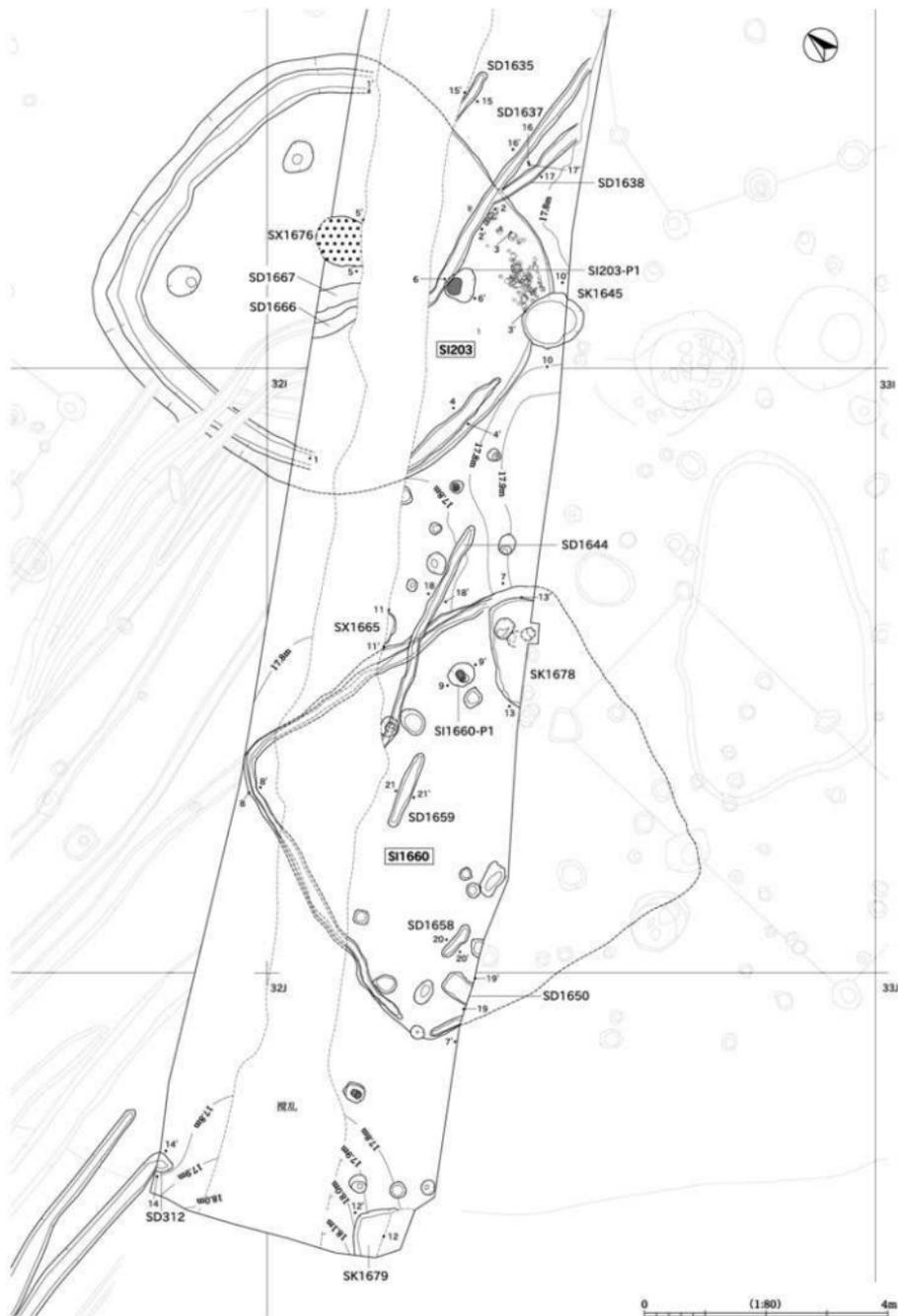
0 (1~7) 15cm (1:3)
0 (8) 10cm (1:2)

木製品

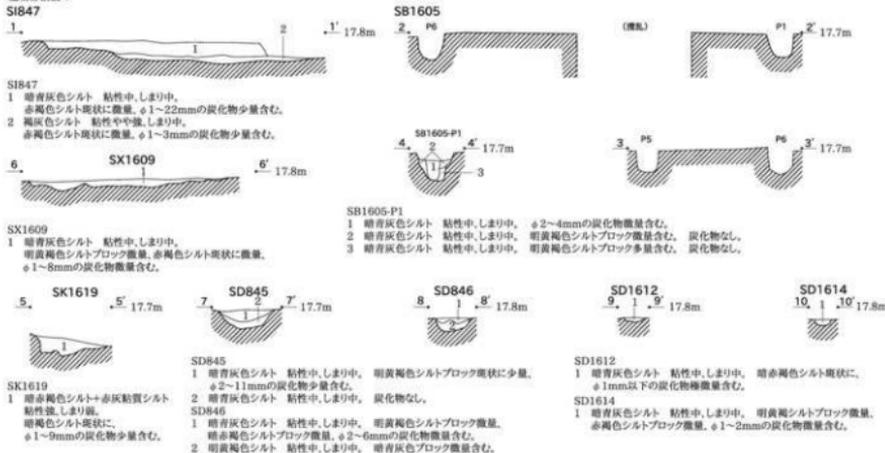




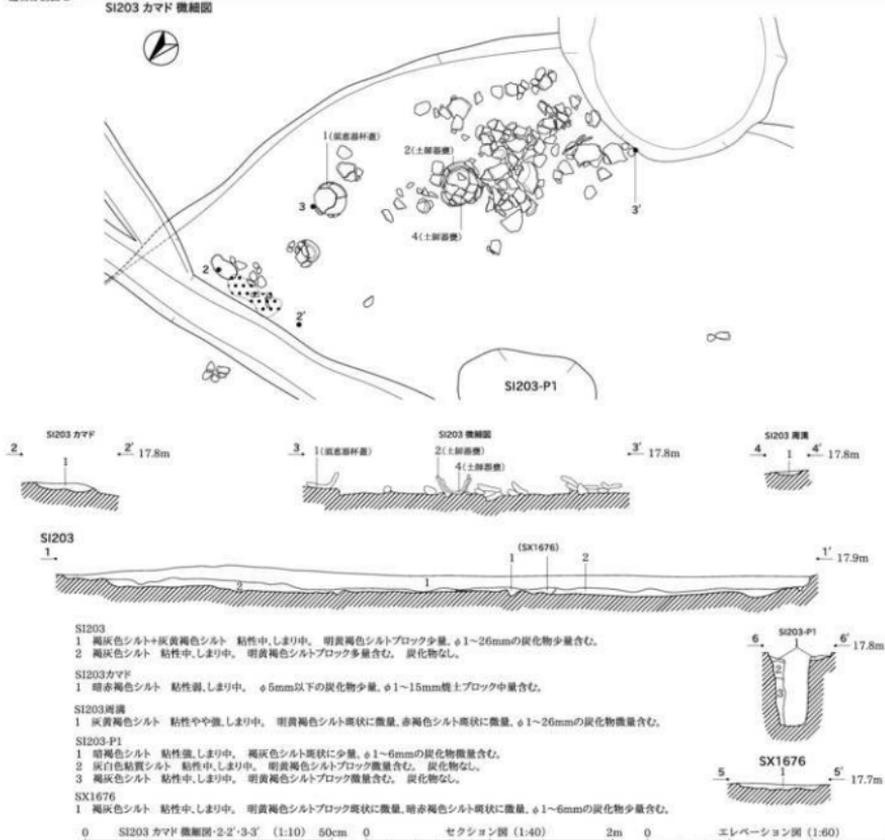




遺構分割図 1



遺構分割図 2



SI1660



SI1660

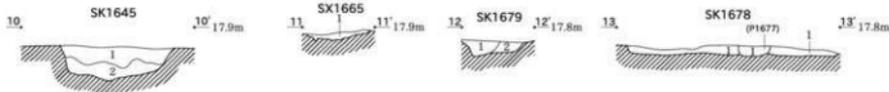
- 1 褐色シルト 粘性中,しまり中。φ1~17mmの炭化物少量含む。明黄褐色シルトブロック微量含む。
2 褐色シルト+灰黄褐色シルト 粘性中,しまり中。炭化物なし。

SI1660埋溝

- 1 褐色シルト 粘性中,しまり中。

SI1660-P1

- 1 褐色シルト 粘性中,しまり中。褐色シルトブロック少量。φ1~3mmの炭化物微量含む。



SK1645

- 1 褐色シルト 粘性中,しまり中。φ1~6mmの炭化物少量含む。
2 褐色シルト+明黄褐色シルト 粘性中,しまり中。φ1~3mmの炭化物少量含む。

SX1665

- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。
明黄褐色シルトブロック少量。φ1mm以下の炭化物少量含む。

SK1679

- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。φ1~15mm以下の炭化物少量含む。
2 暗青灰色シルト+明黄褐色シルト 粘性中,しまり中。φ1~3mmの炭化物微量含む。

SK1678

- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。φ2~30mmの炭化物微量含む。

P1677

- 1 暗青灰色シルト+褐色シルト 粘性中,しまり中。φ1mm以下の炭化物微量含む。

SD312

14' 17.9m



SD312

- 1 褐色シルト 粘性中,しまり中。

SD1638

17' 17.8m



SD1644

18' 17.9m



SD1650

19' 17.8m



SD1658

20' 17.8m



SD1659

21' 17.8m



SD1635

15' 17.8m



SD1637

16' 17.8m



SD1635

- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。
明黄褐色シルト塊状に,にがい黄褐色シルト塊状に含む。

SD1637-SD1638

- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。

SD1644

- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。φ1mm以下の炭化物微量含む。
明黄褐色シルトブロック少量,にがい黄褐色が塊状に微量混入。

SD1650

- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。炭化物なし。
明黄褐色シルトブロック少量,にがい黄褐色が塊状に微量混入。

SD1658

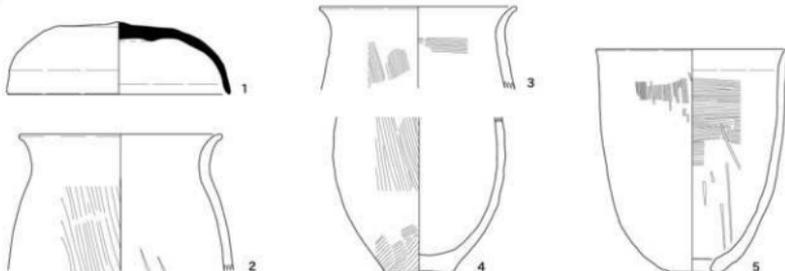
- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。
φ1~3mmの炭化物微量含む。

SD1659

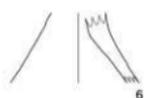
- 1 暗青灰色シルト 粘性中,しまり中。
明黄褐色シルトブロック少量,暗青灰色シルト塊状に少量。
φ4×6mm角の炭化物少量含む。

0 セクション図 (1:40) 2m 0 7.7' (1:60) 3m

SI203



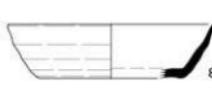
SI1660

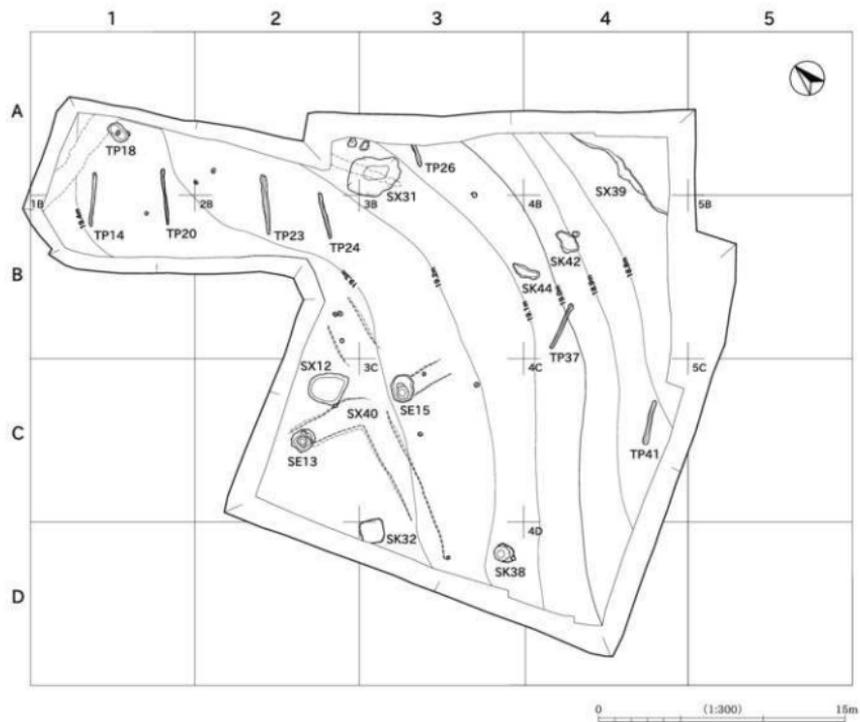


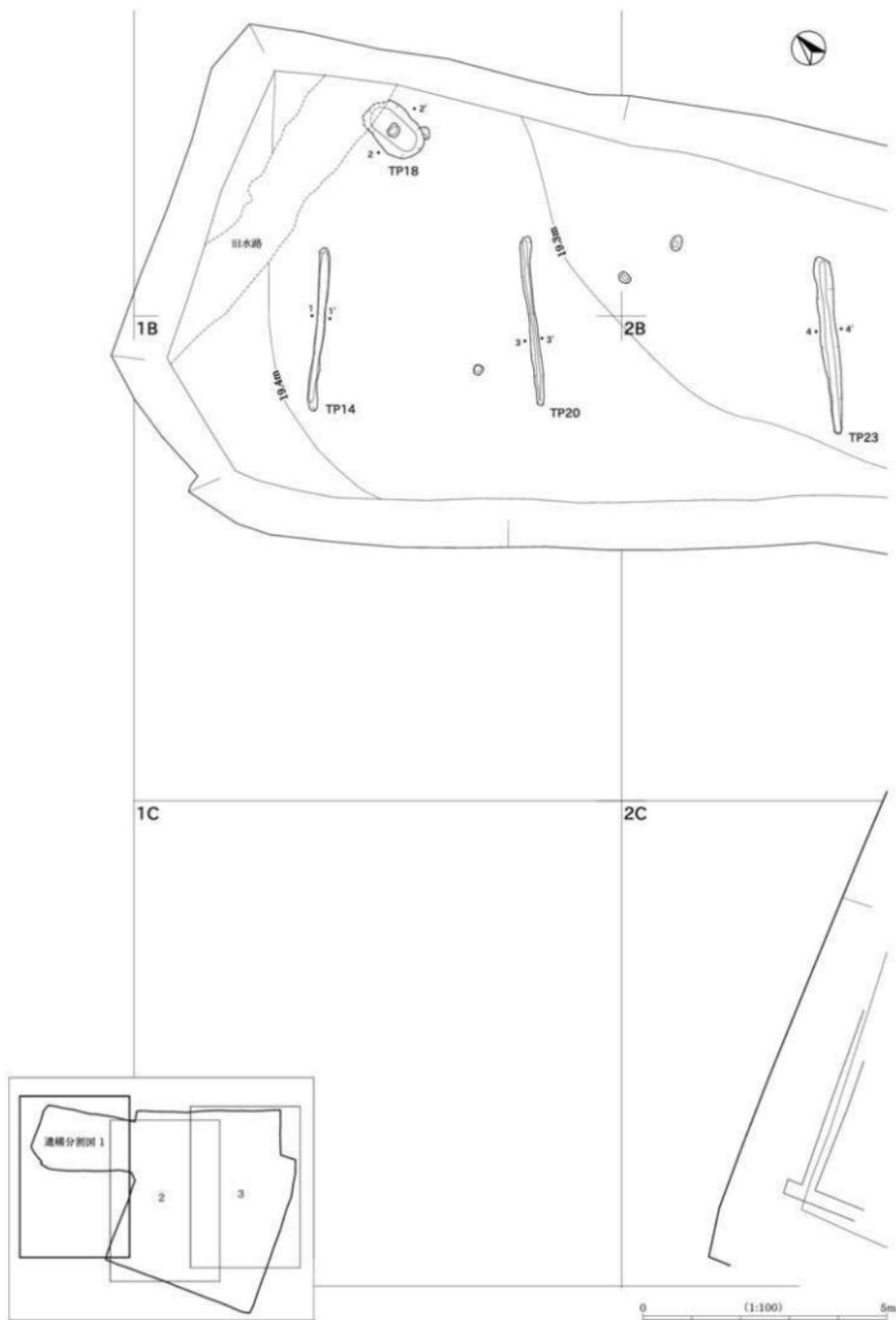
SI847

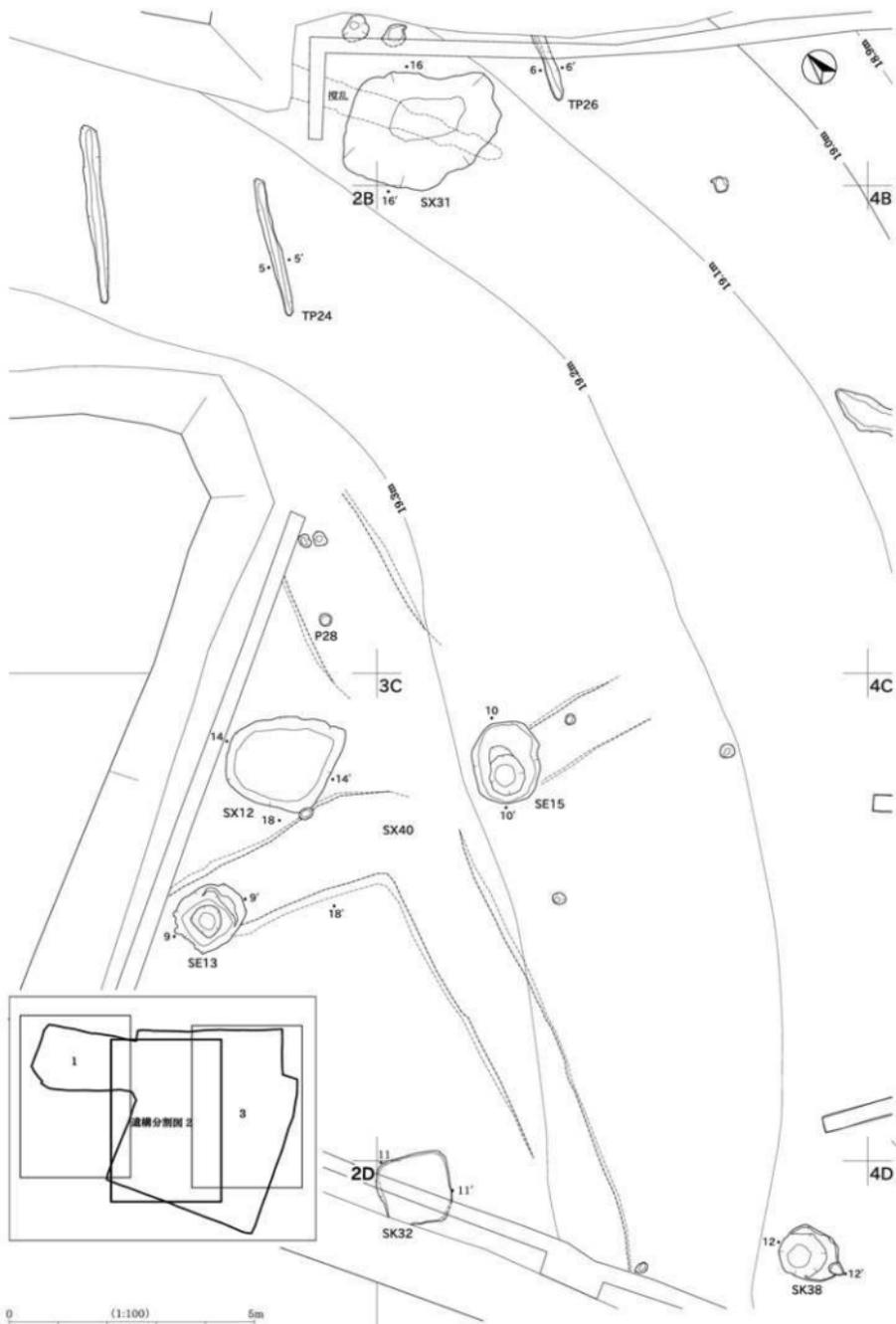


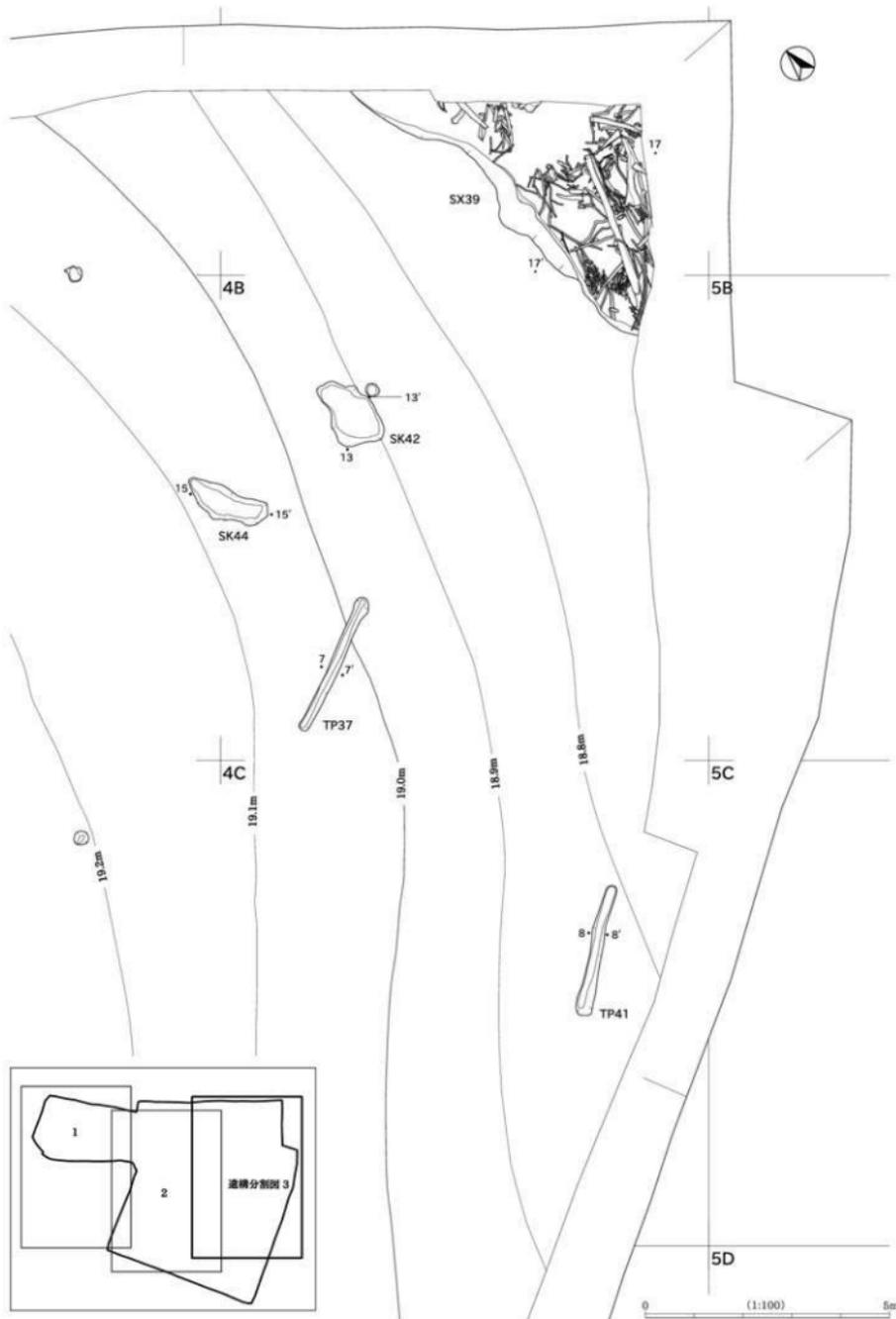
II層

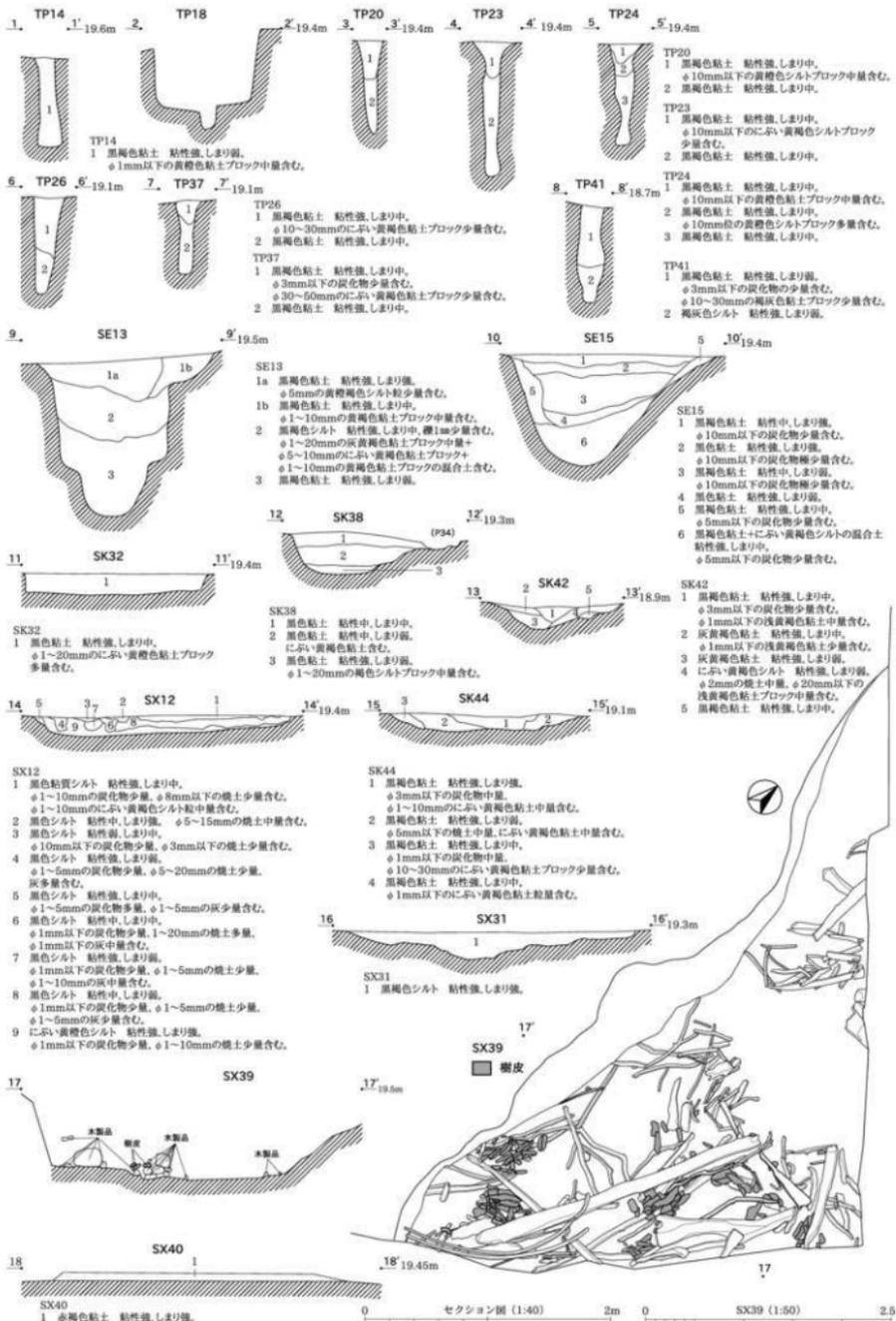
0 (1・6~8) 15cm (1:3)
0 (2~5) 20cm (1:4)



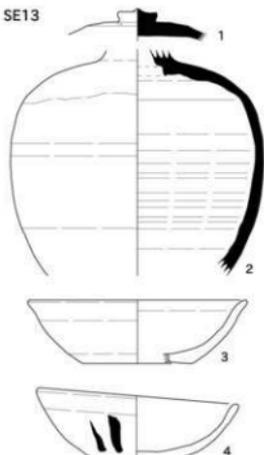




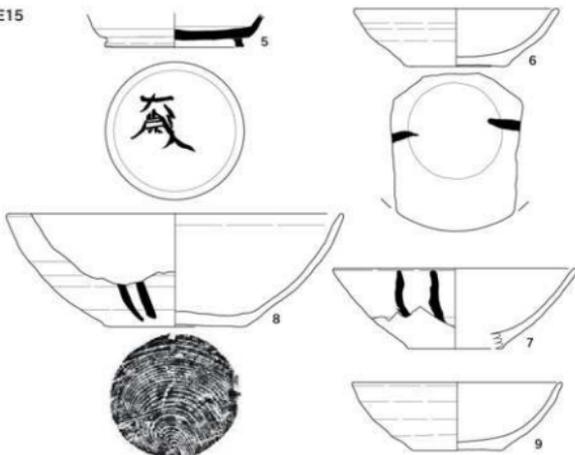




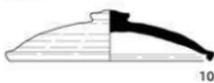
SE13



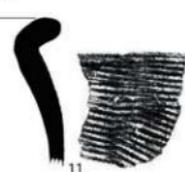
SE15



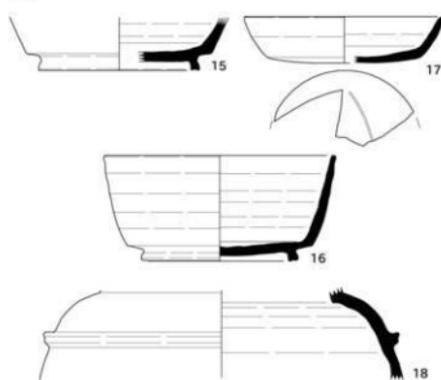
SK38



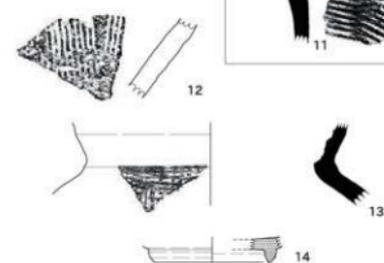
P28



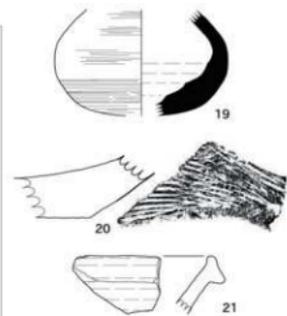
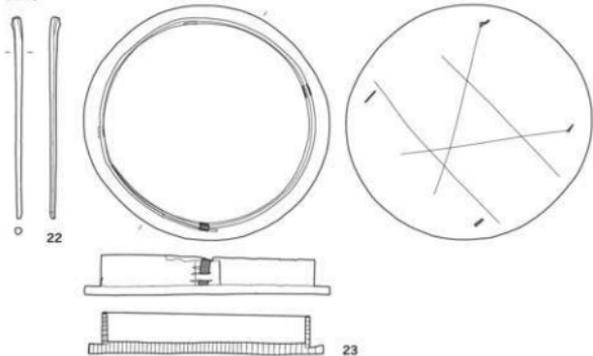
V層



IV層

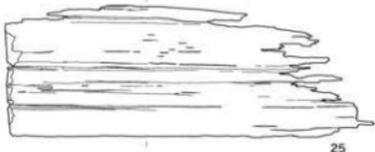


SE13



0 (1~22) 15cm (1:3)
0 (23) 30cm (1:6)

SE15



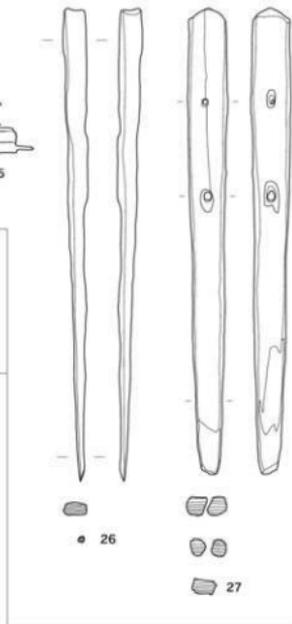
25

SX31



28

24



● 26

27

SX39



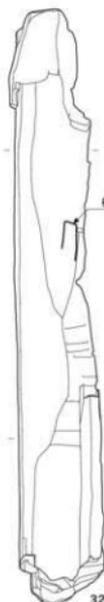
29



30



31



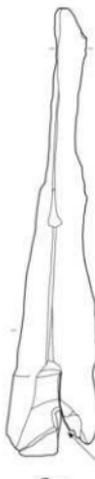
32

横に上る溝

横に上る溝



33

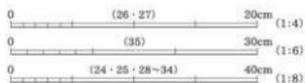


34

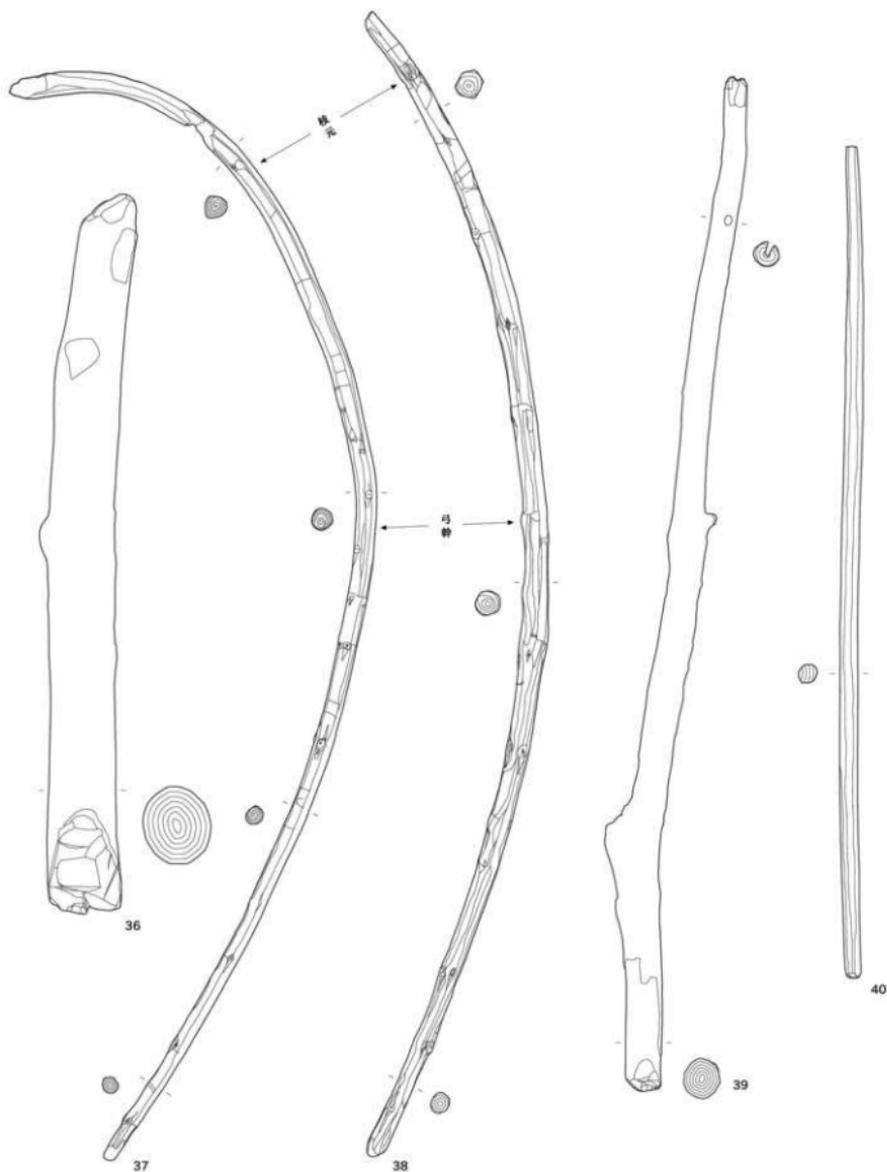
横に上る溝



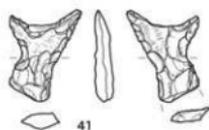
35



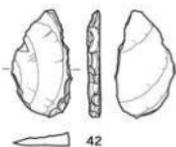
SX39



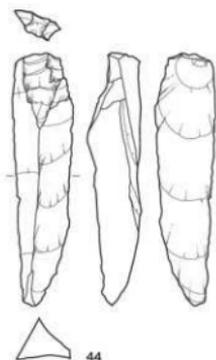
0 (36・40) 40cm (1:8)
 0 (37~39) 50cm (1:10)



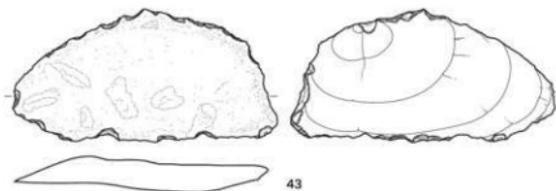
41



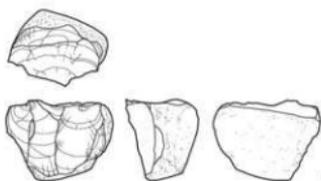
42



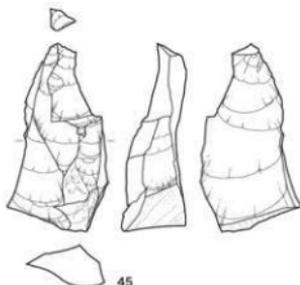
44



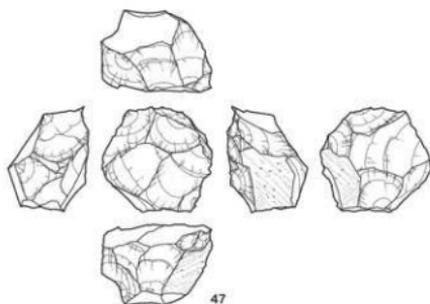
43



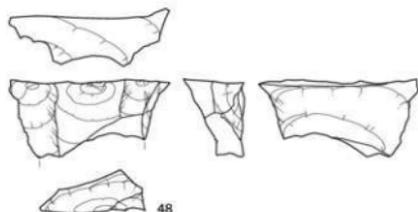
46



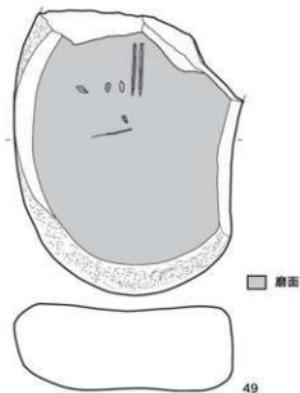
45



47



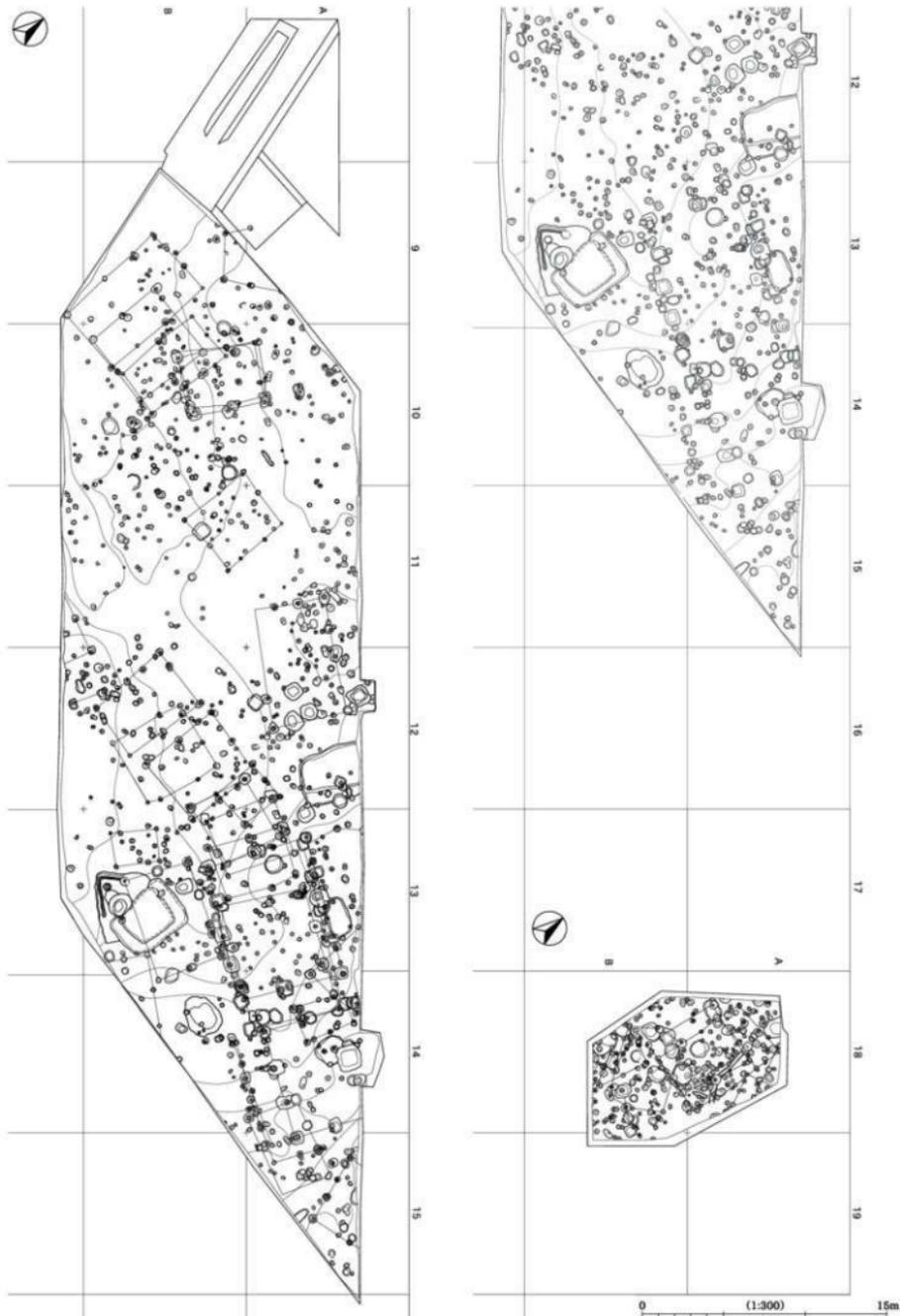
48



磨面

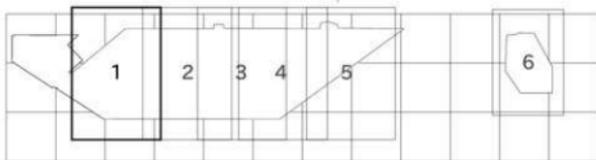
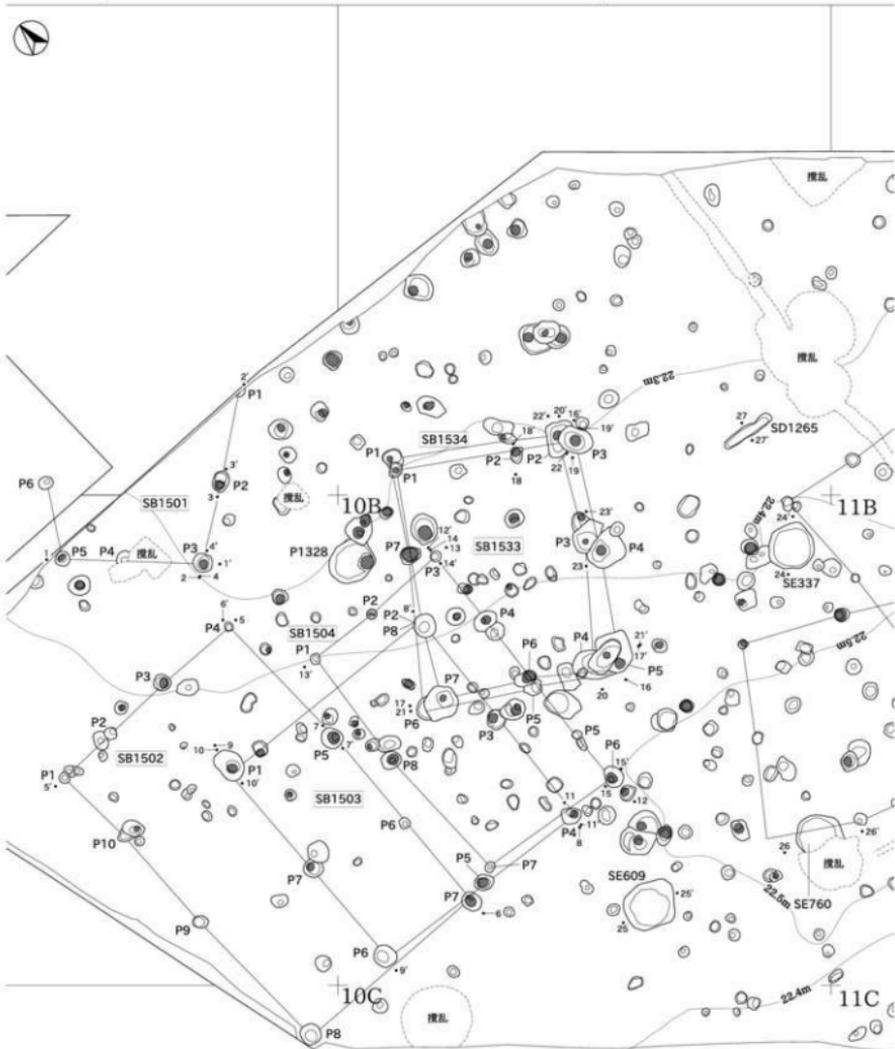
49

0 (41~48) 10cm (1:2)
0 (49) 20cm (1:4)



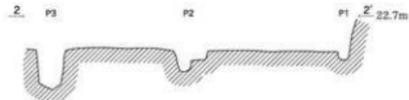
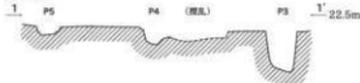
9

10



0 (1:100) 5m

SB1501



3 SB1501-P2 3' 22.4m

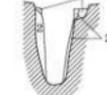


4 SB1501-P3 4' 22.4m



SB1501-P2
1 褐色シルト 粘性強、しまり強。黒褐色シルトブロック含む。
SB1501-P3
1 黒褐色シルト 粘性強、しまり強。

7 SB1502-P5 7' 22.5m



SB1502



SB1502-P5
1 明褐色シルト 粘性中、しまり強。
φ1~10mmの褐色シルトブロック中量。φ1mm以下の炭化物少量含む。
2 明褐色シルト 粘性中、しまり強。φ1mm以下の炭化物少量含む。



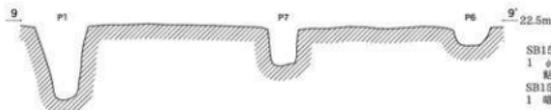
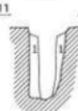
SB1503



10 SB1503-P1 10' 22.5m



11 SB1503-P4 11' 22.6m



SB1503-P1
1 φ1~30mmの黒褐色シルトブロック+粗黄褐色シルトブロックの混合土
粘性強、しまり強。
SB1503-P4
1 明褐色シルト+黄褐色シルトの混合土 粘性強、しまり中。

SB1504



14 SB1504-P3 14' 22.6m



SB1504-P3
1 黒褐色シルト 粘性強、しまり強。

13 P3 P2 P1 13' 22.6m



15 SB1504-P6 15' 22.6m



SB1504-P6
1 褐色シルト+黄褐色シルトの混合土
粘性強、しまり強。φ1mm以下の炭化物少量含む。

SB1533 16 P5 P4 (SB1534-P3) P3 16' 22.6m



17 (SB1534-P6) P7 P6 (SB1534-P4) P5 17' 22.6m



SB1534

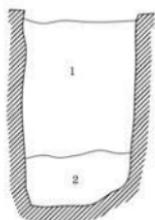
20 P4 P3 (P1475) P2 20' 22.5m



21 P6 (SB1533-P7) P5 P4 (SB1533-P5) 21' 22.5m

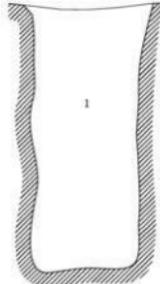


SE337 24 24' 22.6m



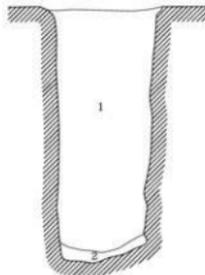
- SE337
- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり強。
φ5~20mmの褐色シルトブロック中量含む。
 - 2 黒褐色シルト 粘性中、しまり強。
φ5mm以下の礫少量。
φ30~50mmの明褐色シルトブロック中量含む。

SE609 25 25' 22.6m



- SE609
- 1 緑暗褐色シルト 粘性弱、しまり強。
φ3mm以下の炭化物少量含む。
φ5~70mmの明黄褐色ブロック少量、軽子中量含む。

SE760 26 26' 22.7m

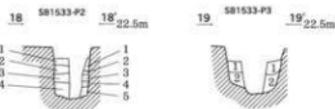


- SE760
- 1 緑暗褐色シルト 粘性弱、しまり強。
φ5~70mmの明黄褐色シルトブロック少量、軽子中量。
φ3mm以下の炭化物少量含む。
 - 2 黒褐色粘土 粘性強、しまり強。
φ10~70mmの明黄褐色粘土ブロック少量含む。

SD1265 27 22.6m



- SD1265
- 1 暗褐色シルト 粘性中、しまり強。



- SB1533-P2
- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
 - 2 暗褐色シルト 粘性中、しまり中。 φ1~5mmの暗灰黄褐色シルト粒少量含む。
 - 3 暗灰褐色シルト 粘性中、しまり中。 φ10~50mmの暗黄褐色粘土ブロック中量含む。
 - 4 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
 - 5 暗褐色シルト 粘性中、しまり中。

- SB1533-P3
- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。 φ1~20mmの暗黄褐色シルトブロック少量含む。
 - 2 暗褐色シルト+暗灰黄褐色シルトの混合土 粘性中、しまり強。

SB1534-P2 22 22' 22.4m

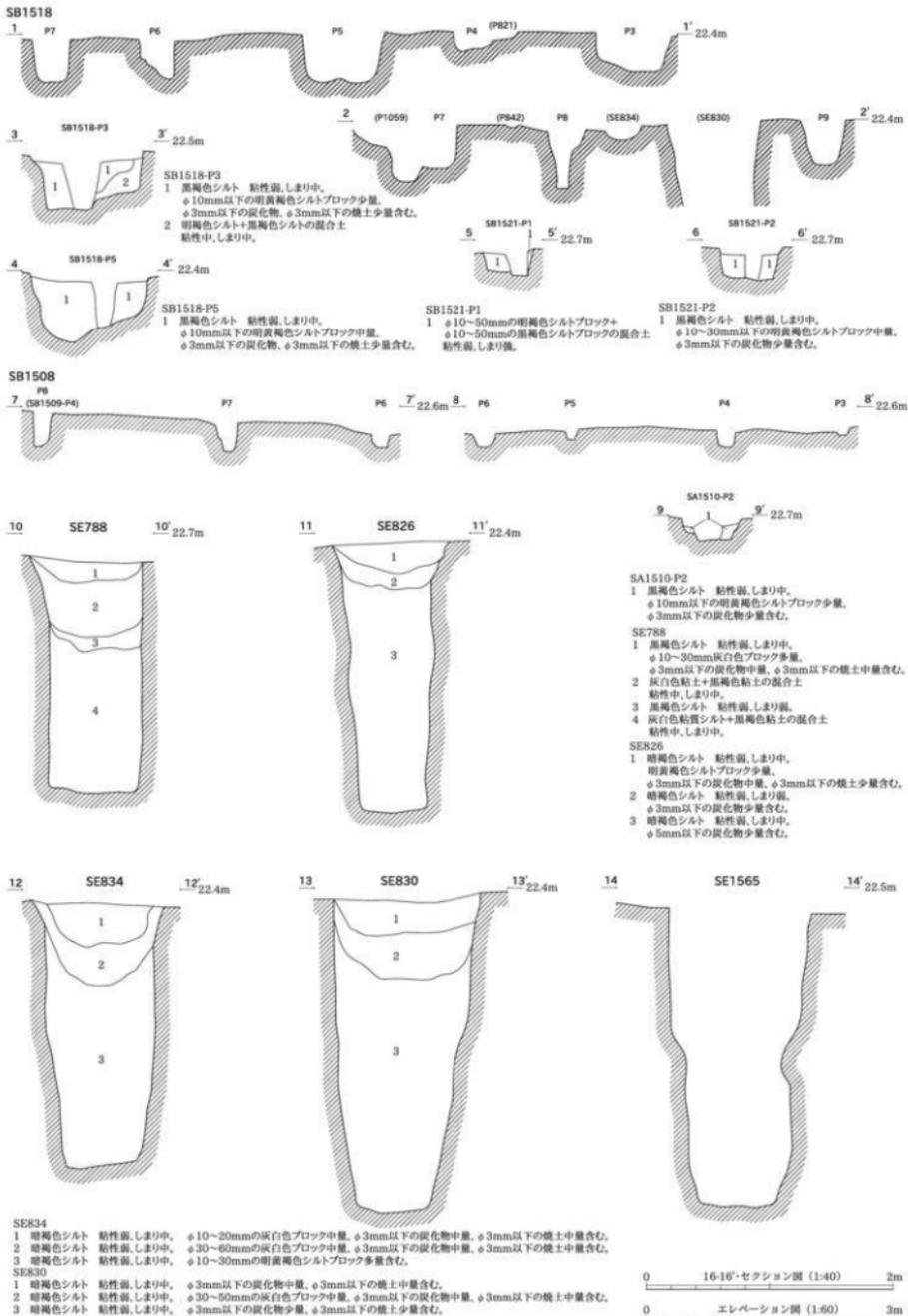


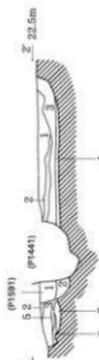
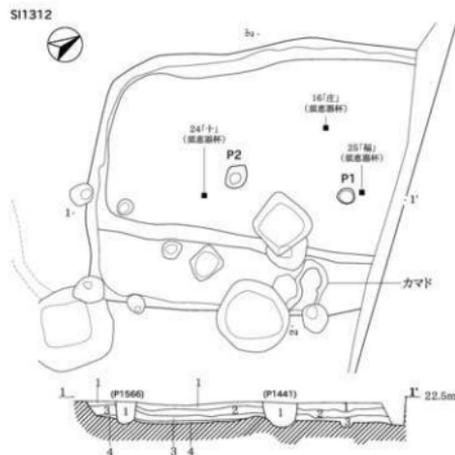
- SB1534-P2
- 1 黒褐色シルト 粘性弱、しまり強。
 - 2 黒褐色シルト+暗黄褐色粘土の混合土 粘性弱、しまり強。

SB1534-P3 23 23' 22.5m



- SB1534-P3
- 1 黒色シルト 粘性弱、しまり強。
φ1~2mmの黄褐色シルト粒少量含む。
 - 2 暗黄褐色粘土 粘性強、しまり強。
φ1~30mmの暗灰黄褐色シルトブロック少量含む。





SI1312

- 1 暗褐色シルト 粘性弱、しりり中。
 φ1mm以下の明黄褐色シルトブロック多量。
 φ5mm以下の炭化物中量。φ5mm以下の焼土少量含む。
- 2 暗褐色シルト 粘性弱、しりり中。
 φ1mm以下の明黄褐色シルトブロック中量。
 φ3mm以下の炭化物少量。φ3mm以下の焼土少量含む。
- 3 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
 φ1mm以下の炭褐色シルトブロック中量。
 φ5mm以下の炭化物中量。φ3mm以下の焼土少量含む。
- 4 暗褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土
 粘性中、しりり強。(粘結)

カマド

- 5 暗褐色シルト 粘性弱、しりり中。 φ5mm以下の炭化物少量。
 φ15mm以下の焼土少量含む。
- 6 暗褐色シルト 粘性弱、しりり中。
 φ1~3mmの明黄褐色シルトブロック多量含む。
- 7 明黄褐色シルトブロック 粘性中、しりり中。

P1441

- 1 黒褐色シルト 粘性中、しりり中。

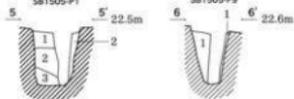
P1566

- 1 黒褐色シルト 粘性中、しりり中。

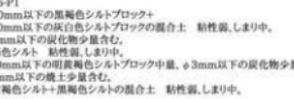
P1591

- 1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。 φ3mm以下の炭化物少量。
 φ3mm以下の焼土少量含む。
- 2 明黄褐色シルトブロック+暗褐色シルトブロックの混合土
 粘性弱、しりり中。

SB1505-P1



SB1505-P2



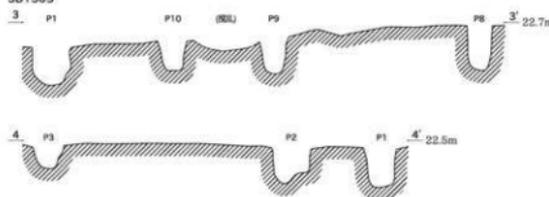
SB1505-P1

- 1 φ10mm以下の黒褐色シルトブロック+
 φ10mm以下の灰白色シルトブロックの混合土 粘性弱、しりり中。
 φ5mm以下の炭化物少量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
 φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック中量。φ3mm以下の炭化物少量。
 φ3mm以下の焼土少量含む。
- 3 明黄褐色シルト+黒褐色シルトの混合土 粘性弱、しりり中。

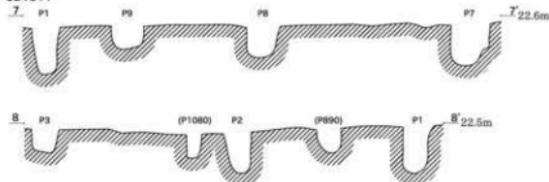
SB1505-P2

- 1 φ10~30mmの黒褐色シルトブロック+
 φ10~30mmの明黄褐色シルトブロックの混合土 粘性弱、しりり中。
 φ10~30mmの炭褐色シルトブロック中量含む。

SB1505



SB1511



SB1511-P2

- 1 φ1~3mmの黒褐色シルトブロック+ φ1~3mmの明黄褐色シルトブロックの混合土
 粘性強、しりり中。 φ1~3mmの炭褐色粘土ブロック中量含む。

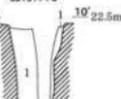
SB1511-P6

- 1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。 φ10mm前後の黄褐色シルトブロック中量。
 φ3mm以下の炭化物少量。φ3mm以下の焼土少量含む。

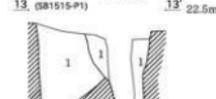
SB1511-P2



SB1511-P6



SB1512-P2



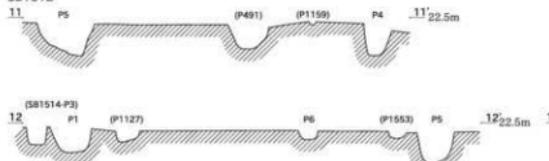
SB1512-P2

- 1 φ10~30mmの黒褐色シルトブロック+
 φ10~30mmの明黄褐色シルトブロックの混合土 粘性弱、しりり中。
 φ10~30mmの炭褐色シルトブロック中量。
 φ3mm以下の炭化物少量。φ3mm以下の焼土少量含む。

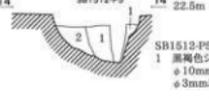
SB1515-P1

- 1 黒褐色シルト+明黄褐色シルトの混合土 粘性弱、しりり中。
 φ10~30mmの明黄褐色シルトブロック中量。
 φ3mm以下の炭化物少量。φ3mm以下の焼土少量含む。

SB1512

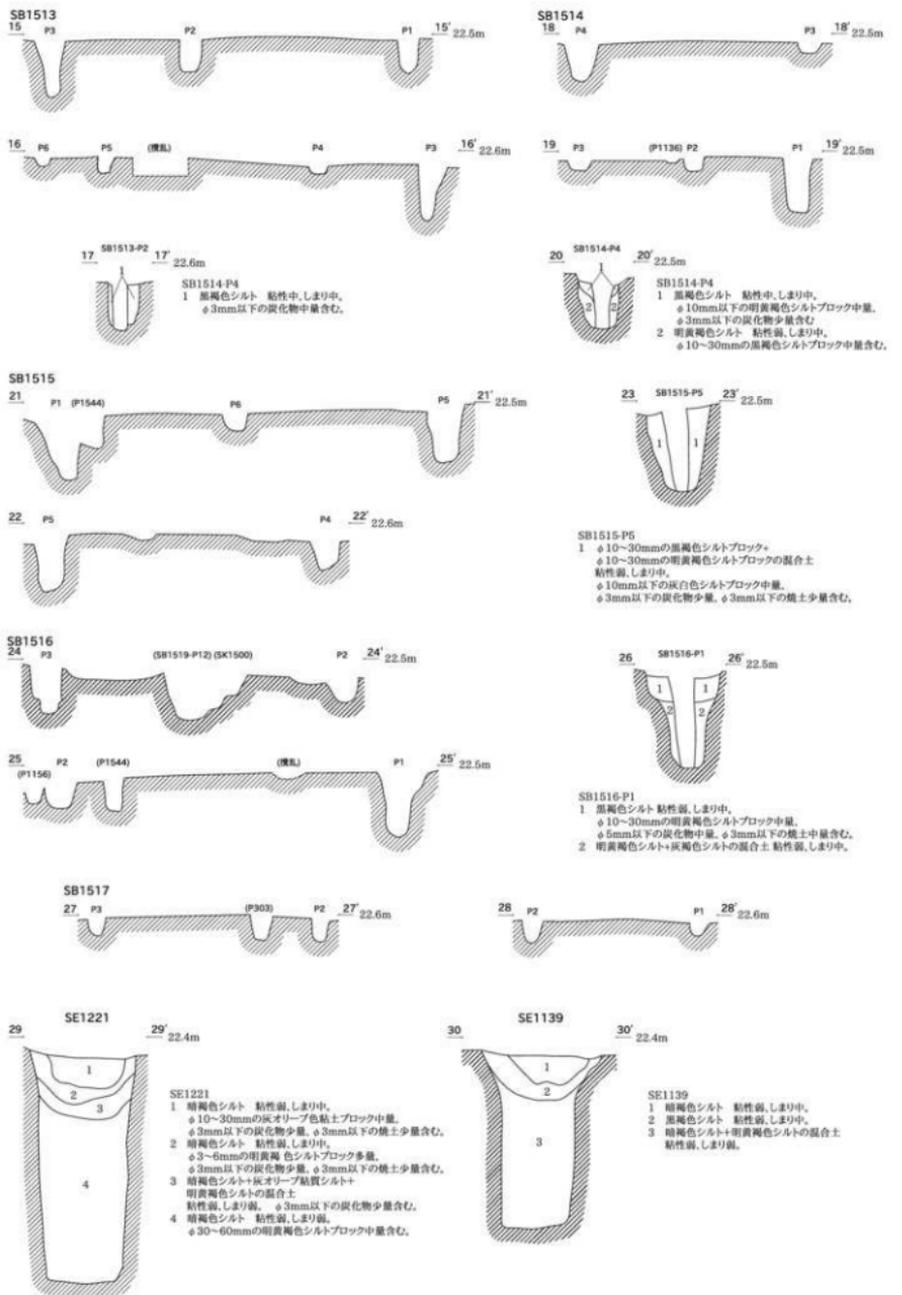


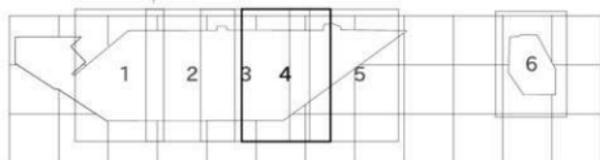
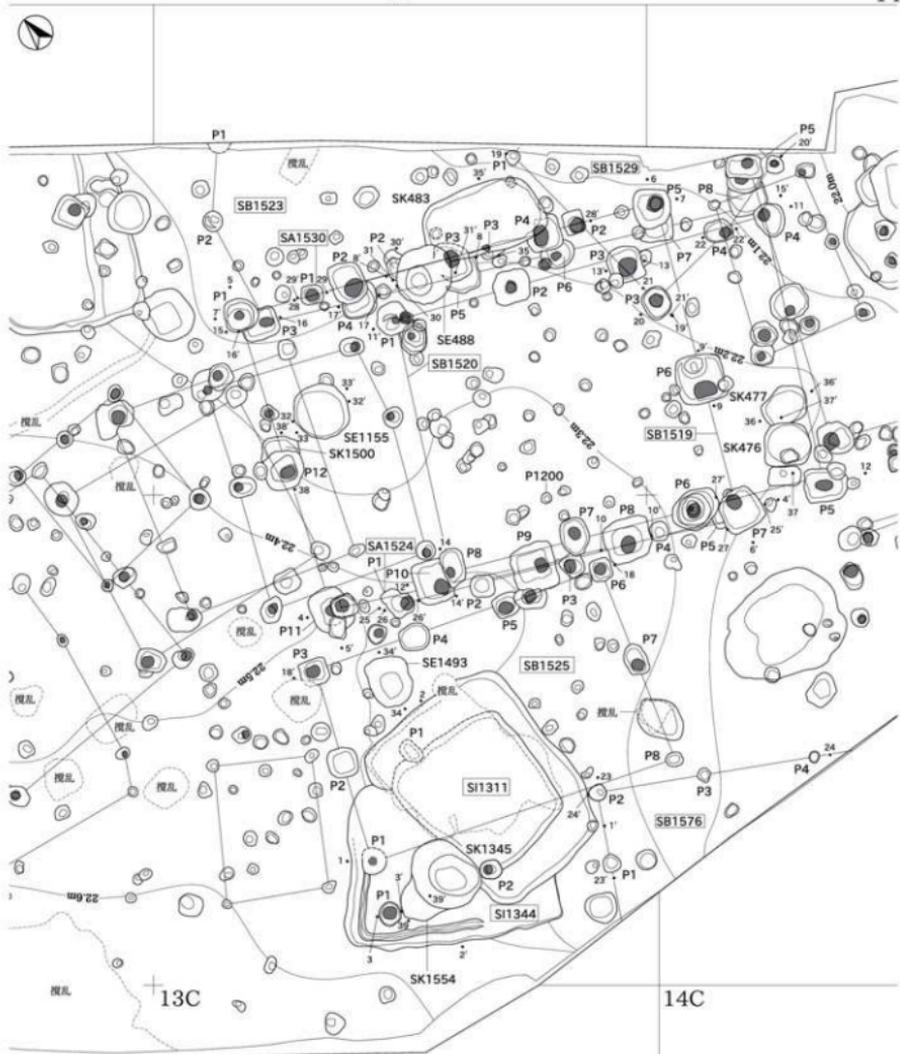
SB1512-P5



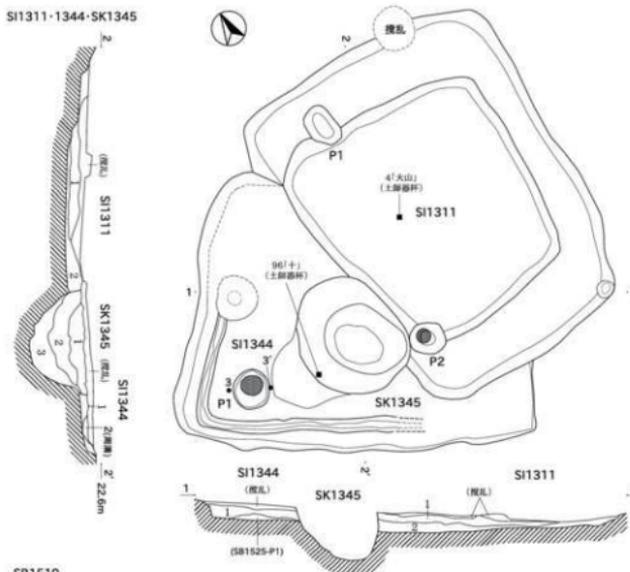
SB1512-P5

- 1 黒褐色シルト 粘性弱、しりり中。
 φ10mmの明黄褐色シルトブロック中量。
 φ3mm以下の炭化物少量含む。





SI1311・1344・SK1345



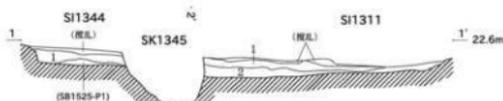
SI1311

- 1 暗褐色シルト 粘性中, しまり中。
φ10~30mmの明黄褐色シルトブロック多量含む。
 - 2 明黄褐色シルト+暗褐色シルトの混合土 粘性中, しまり中。
φ5mm以下の炭化物中量含む。(粘土)。
- SI1344
- 1 暗褐色シルト+明黄褐色シルトの混合土 粘性中, しまり強。
 - 2 暗褐色シルト 粘性中, しまり中。(周溝)。
- SK1345
- 1 暗褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ3mm以下の炭土中量含む。
 - 2 暗褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ1mm以下の明黄褐色シルトブロック少量。
φ3mm以下の炭化物中量含む。
 - 3 暗褐色シルト 粘性弱, しまり中。
φ1~3mmの明黄褐色シルトブロック多量。
φ5mm以下の炭化物多量。
φ3mm以下の炭土中量含む。

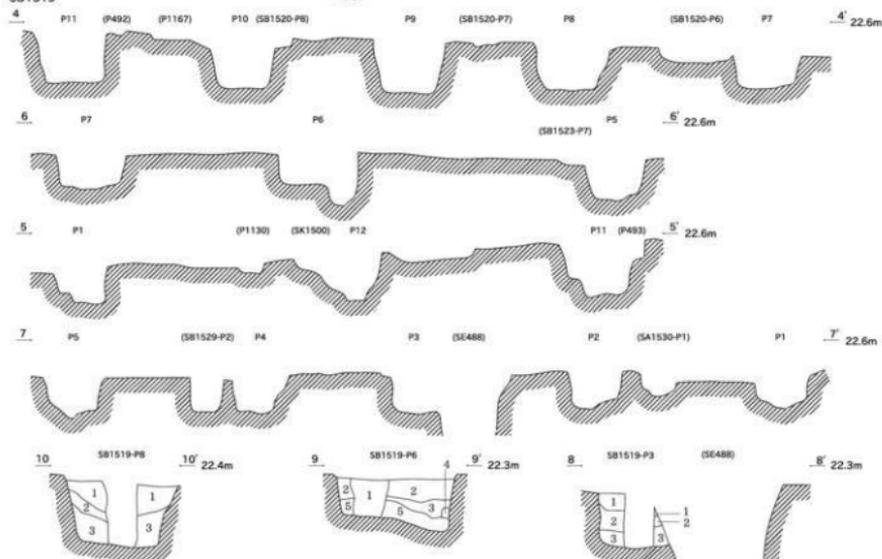
3 SI1344-P1 3' 22.7m



SI1344-P1
1 暗褐色シルト 粘性中, しまり中。



SB1519



SB1519-P1

- 1 暗褐色シルト 粘性中, しまり中。
黄褐色シルトブロック中量, φ1~7mmの炭化物微量含む。
- 2 暗褐色シルト 粘性中, しまり中。
暗褐色シルトブロック少量含む。
- 3 暗褐色シルト 粘性やや強, しまり中。
黄褐色シルトブロック微量, φ3~11mmの炭化物微量含む。

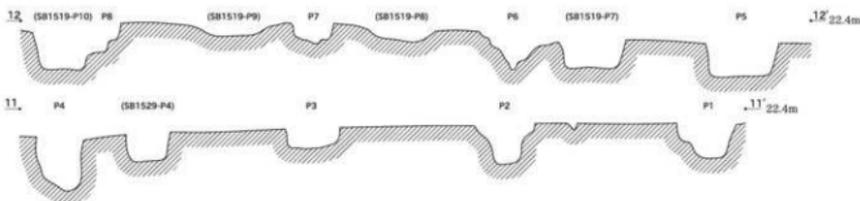
SB1519-P2

- 1 におい・暗褐色シルト+暗褐色シルト 粘性中, しまり中, φ1~3mmの炭化物微量量含む。
- 2 におい・暗褐色シルト+暗褐色シルト 粘性中, しまり中, φ1~3mmの炭化物微量量含む。
- 3 1層と同様
- 4 におい・暗褐色シルト+暗褐色シルト 粘性中, しまり中, 炭化物なし。
- 5 におい・暗褐色シルト+暗褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック少量。
暗褐色シルトブロック微量。
φ1~5mmの炭化物微量量含む。

SB1519-P3

- 1 暗褐色シルト 粘性中, しまり中。
黄褐色シルトブロック, φ1~7mmの炭化物微量量含む。
- 2 暗褐色シルト 粘性中, しまり中。
- 3 黄褐色シルトブロック微量, φ1mm以下の炭化物微量量含む。
暗褐色シルト 粘性やや強, しまり中。
明黄褐色ブロック中量含む。

SB1520

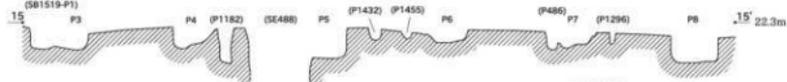


SB1520-P3
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
褐色シルトブロック少量。
φ1~10mmの炭化物微量含む。

SB1520-P8
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。

SB1520-P8
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
黄褐色シルトブロック中量。φ1~2mmの炭化物極微量含む。柱状。
2 黒褐色シルト-黄褐色シルトの混合土 粘性中, しまり中。
φ1~2mmの炭化物微量含む。

SB1523



SB1523-P3
1 黒色シルト 粘性やや強い, しまり中。
2 黒色シルトブロック
明黄褐色シルトブロックの混合土
粘性やや強い, しまり中。

SB1523-P4
1 黒色シルト 粘性中, しまり中。
2 黒色シルト 粘性中, しまり中。
3 明黄褐色シルトブロック中量。φ2mm以下の炭化物中量含む。
4 黒色シルト 粘性やや強い, しまり中。
5 黄褐色シルトブロック少量。φ1mm以下の炭化物微量含む。
6 黒色シルト 粘性中, しまり中や弱。
明黄褐色シルトブロック微量含む。

SB1523-P4
1 黒色シルト 粘性やや強い, しまり中。
黄褐色シルトブロック含む。炭化物なし。
2 黒色シルト 粘性中, しまり中。
明黄褐色シルトブロック中量。φ2mm以下の炭化物中量含む。
3 明黄褐色シルト 粘性やや強い, しまり中や弱。崩壊土。
4 黒色シルト 粘性やや強い, しまり中。
黄褐色シルトブロック少量。φ1mm以下の炭化物微量含む。
5 黒色シルト 粘性中, しまり中や弱。
明黄褐色シルトブロック微量含む。

SB1525



SB1525-P4
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
明黄褐色シルトブロック少量。
φ1~6mmの炭化物微量含む。
2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
明黄褐色シルトブロック多量含む。

SB1529-P4
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
明黄褐色シルトブロック中量。
φ1~4mmの炭化物微量含む。
2 黒褐色シルトブロック
明黄褐色シルトブロックの混合土
粘性中, しまり中。

SB1529



SB1576



SA1524



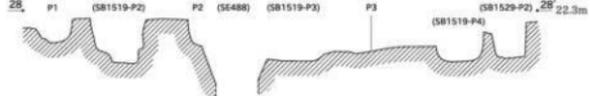
SA1524-P1
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
黄褐色シルトブロック中量。
φ1mm以下の炭化物微量含む。

SA1524-P5
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
黄褐色シルトブロック微量。
φ1~2mmの炭化物少量含む。

SA1530-P1
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
φ1mm以下の炭化物微量含む。

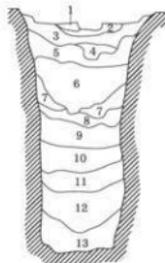
SA1530-P2
1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
φ2mm以下の明黄褐色シルトブロック微量。
φ1~3mmの炭化物微量含む。
2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
明黄褐色シルトブロック中量含む。
炭化物なし。
3 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
明黄褐色シルト中量。
φ2mm以下の炭化物微量含む。
4 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。
φ2mm以下の明黄褐色シルトブロック微量。
φ1~3mmの炭化物微量含む。

SA1530



0 セクション図 (1:40) 2m 0 エレベーション図 (1:60) 3m

31. SE488



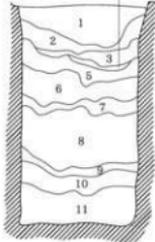
SE488

- 1 におい黄褐色シルト 粘性中,しまり中,灰白色粘質シルトブロック少量,φ1~3mmの炭化物少量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,褐色シルトブロック少量,灰白色粘質シルトブロック少量,φ1~6mmの炭化物微量含む。

31' 22.4m

- 3 黒褐色シルト 粘性中,しまりやや強,浅黄褐色シルトブロック中量,φ1~5mmの炭化物微量含む。
- 4 黒褐色シルト 粘性やや強,しまりやや強,灰白色粘質シルトブロック微量,黄褐色シルトブロック少量含む。炭化物なし。
- 5 黒褐色シルト 粘性やや強,しまり中,明黄褐色シルトブロックが下部に集中して多量,φ1~7mmの炭化物微量含む。
- 6 黒色シルト 粘性やや強,しまり中,黄褐色シルトブロック少量,φ1~9mmの炭化物少量含む。
- 7 黒褐色シルト 粘性やや強,しまり中,明黄褐色シルトブロック少量,灰白色粘質シルトブロック少量,φ1~6mmの炭化物少量含む。
- 8 黒褐色シルト 粘性強,しまり中,黒灰白シルトブロック少量,明黄褐色シルトブロック少量含む。炭化物なし。
- 9 黒色シルト 粘性強,しまり強,炭化物なし。
- 10 黒色シルト 粘性強,しまり強,灰白色粘質シルトブロック多量,φ1mm以下の炭化物少量含む。
- 11 黒色シルト 粘性強,しまり強,灰白色粘質シルトブロック少量。炭化物なし。
- 12 黒褐色シルト 粘性強,しまり中,灰白色粘質シルトブロック少量,明黄褐色シルトブロック中量,φ2mm以下の炭化物微量含む。
- 13 黒褐色シルト 粘性強,しまり中,灰白色粘質シルトブロック多量,明黄褐色シルトブロック多量含む。炭化物なし。

32. SE1155



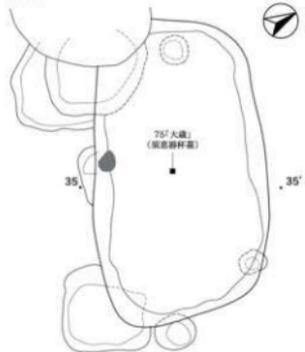
SE1155

- 1 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,明黄褐色シルトブロック中量,φ1~6mmの炭化物微量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,褐色粘質シルトブロック中量,φ1~3mmの炭化物微量含む。
- 3 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,黄褐色シルトブロック中量,φ1~3mmの炭化物微量含む。

32' 22.4m

- 4 炭化物層 粘性やや強,しまり強。
- 5 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,明黄褐色シルトブロック中量含む,炭化物なし。
- 6 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,褐色粘質シルトブロック少量含む,炭化物なし。
- 7 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,黄褐色シルトブロック中量含む,炭化物なし。
- 8 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,褐色粘質シルトブロック中量含む,炭化物なし。
- 9 黒褐色シルト 粘性強,しまり強,炭化物なし。
- 10 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,褐色シルトブロック中量含む,φ1~30mmの炭化物中量含む。
- 11 黒褐色シルト 粘性強,しまり強,明黄褐色シルトブロック中量,黄褐色シルトブロック中量,灰白色シルトブロック中量,φ1~5mmの炭化物少量含む。

SK483



33. SE1155



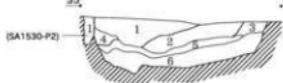
34. SE1493



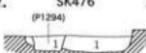
SK483

- 1 黒褐色シルト+明黄褐色シルトの混土 粘性中,しまり中,φ1~10mmの炭化物微量含む。
- 2 明黄褐色シルトブロック 粘性中,しまり中,腐葉土。
- 3 黒色シルト 粘性中,しまり中,暗褐色シルトブロック少量,φ1~12mmの炭化物少量含む。
- 4 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,におい黄褐色シルトブロック少量,φ1~2mm炭化物の炭化物微量含む。
- 5 暗赤灰色シルト 粘性中,しまり中,φ1~14mmの炭化物少量含む。
- 6 黒褐色シルト+浅黄褐色シルトの混土 粘性強,しまり強,φ1~21mmの炭化物多量含む。

35. (SA1530-P2)



37. SK476



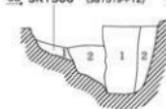
SK476

- 1 黒色シルト 粘性中,しまりやや強,φ1~11mmの明黄褐色シルトブロック少量,φ1~8mmの炭化物微量含む。

SK477



38. SK1500



SB1510-P12

- 1 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,褐色シルトブロック少量,φ1~3mmの炭化物微量含む。
- 2 明黄褐色シルト 粘性やや強,しまり強,炭化物なし。

SK1500

- 1 黒褐色シルト 粘性中,しまり中,明黄褐色シルトブロック微量,φ1~9mmの炭化物微量含む。
- 2 暗褐色シルト 粘性強,しまり中,明黄褐色シルトブロック多量含む。

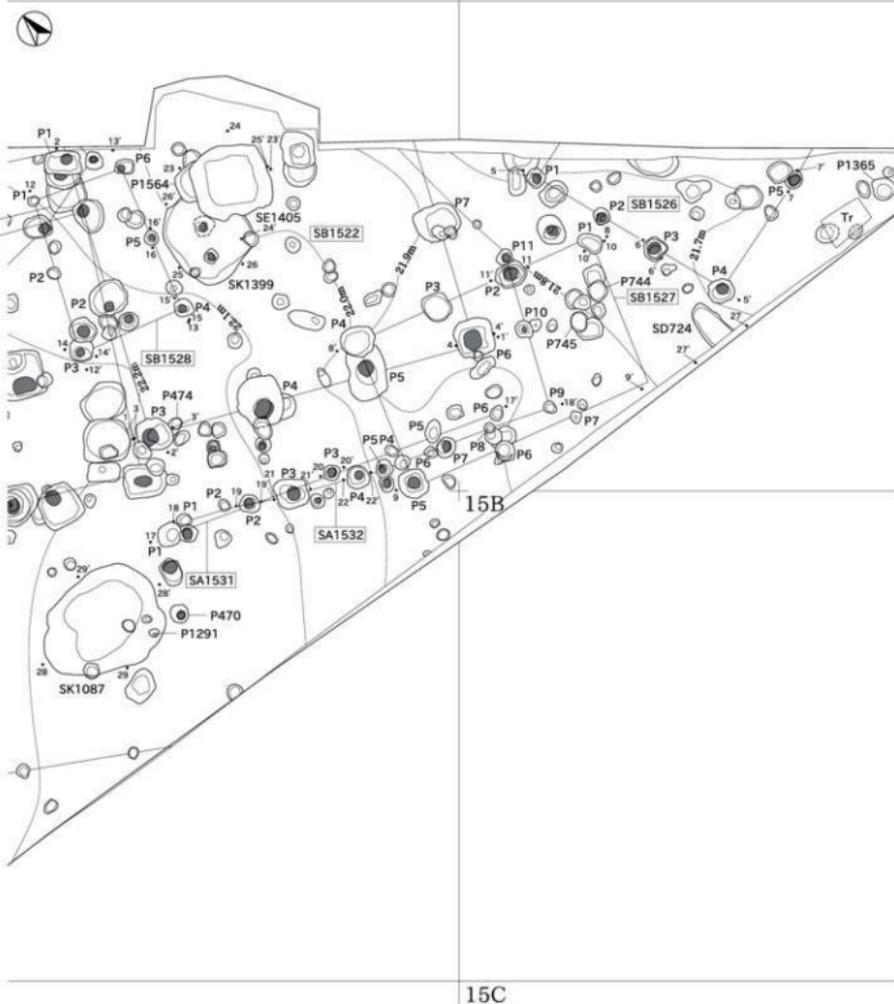
SK477

- 1 黒褐色シルト+暗褐色シルトの混土上 粘性中,しまり中,明黄褐色粘質シルトブロック中量,浅黄褐色粘質シルトブロック少量,φ1~8mmの炭化物少量,φ1~3mmの焼土微量含む。

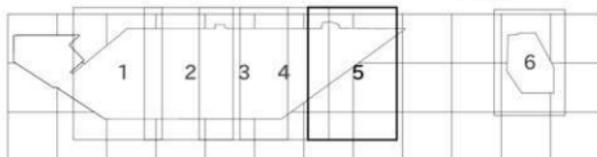


14

15



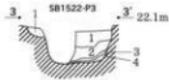
15C



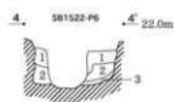
0 (1:100) 5m

SB1522

1. P3 (P474) P4 (P473) P5 P6 1' 22.6m



2. P1 (SB1523-P6) (SB1520-P4) P2 (P1548) P3 2' 22.6m



SB1522-P3

- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中、黄褐色シルトブロック中量、φ2~4mm以下の炭化物微量含む。
- 2 黒色シルト 粘性中、しまり中、黄褐色シルトブロック少量、φ2mm以下の炭化物微量含む。
- 3 黒色シルト 粘性中、しまり中、黄褐色シルトブロック含む、炭化物なし。
- 4 黒色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック含む、炭化物なし。

SB1522-P5

- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック多量、φ2mm以下の炭化物微量含む。

SB1522-P6

- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック少量、φ1~6mmの炭化物微量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック多量含む、炭化物なし。
- 3 黒色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック少量含む、炭化物なし。

SB1526

5. P1 (P736) P2 P3 P4 5' 21.9m



SB1526-P3

6. 6' 21.8m



SB1526-P5

7. 7' 21.8m



SB1526-P3

- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック少量、φ1mm以下の炭化物微量含む。

SB1526-P5

- 1 黒色シルト 粘性やや強、しまり中、φ1~2mmの炭化物微量含む。

SB1527

8. P1 P2 P3 P4 8' 22.2m



SB1527-P1

10. 10' 21.9m



SB1527-P2

11. 11' 21.9m



SB1527-P1

- 1 黒色シルト 粘性中、しまり中、φ1~2mmの炭化物微量含む。

SB1527-P2

- 1 黒色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック少量、φ1~2mmの炭化物微量含む。

SB1528

12. P1 (SB1529-P4) P2 (SB1528-P3) P3 12'



SB1528-P3

14. 14' 22.3m



SB1528-P4

15. 15' 22.2m



SB1528-P5

16. 16' 22.2m



SB1528-P4

13. P4 (P1287) P5 (P1285) P6 13'



SB1528-P3

- 1 黒色シルト 粘性中、しまり中、φ1~2mmの炭化物微量含む。
- 2 黒色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混入。

SB1528-P4

- 1 黒色シルトブロック+明黄褐色シルトブロック 粘性中、しまり中、φ1~2mmの炭化物微量含む。

SB1528-P5

- 1 黒色シルト 粘性中、しまり中、φ1~1.2mmの炭化物微量含む。

SA1531

17. P1 P2 P3 P4 P5 P6 17' 22.3m



SA1532

18. P1 P2 P3 P4 P5 P6 (P1583) P7 P8 P9 18' 22.2m



SA1531-P2

19. 19' 22.3m



SA1531-P3

20. 20' 22.1m



SA1532-P3

21. 21' 22.2m



SA1532-P4

22. 22' 22.2m



SA1531-P2

- 1 黒褐色シルト 粘性やや強、しまり中、明黄褐色シルトブロック少量、φ2~5mmの炭化物微量含む。

SA1531-P3

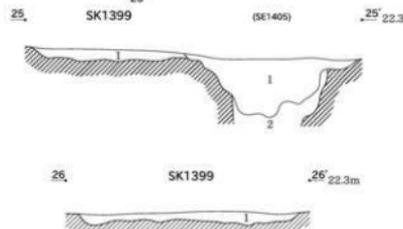
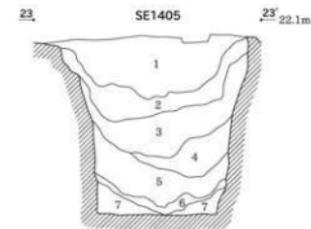
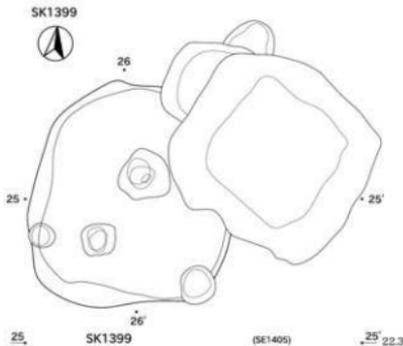
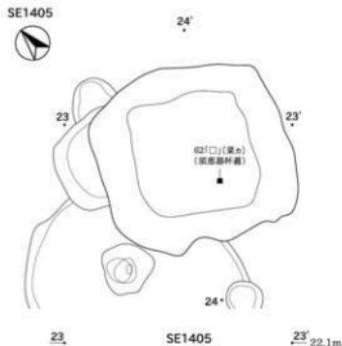
- 1 黒褐色シルト 粘性やや強、しまり中、明黄褐色シルトブロック少量、φ1~7mmの炭化物微量含む。

SA1532-P3

- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック多量、φ1~3mmの炭化物微量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中、しまり中、明黄褐色シルトブロック少量、φ1~6mmの炭化物微量含む。

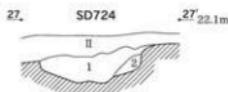
SA1532-P4

- 1 黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロック 粘性やや強、しまり中、明黄褐色シルトブロックの割合多い、炭化物なし。



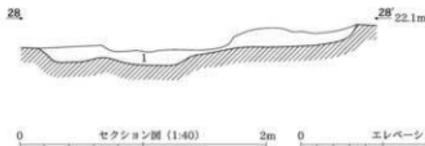
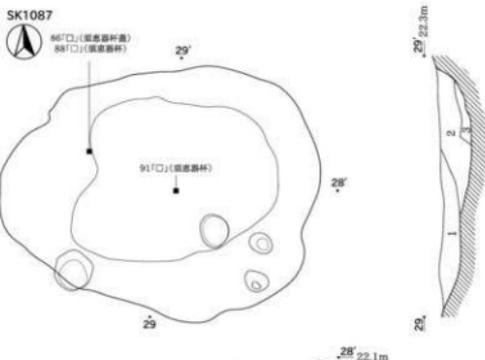
24 (SK1399) SE1405 .24' 22.3m

SK1399
1 黒色シルト 粘性中、しまり中。
明黄褐色シルトブロック少量、 ϕ 1~3mm以下の炭化物微量含む。

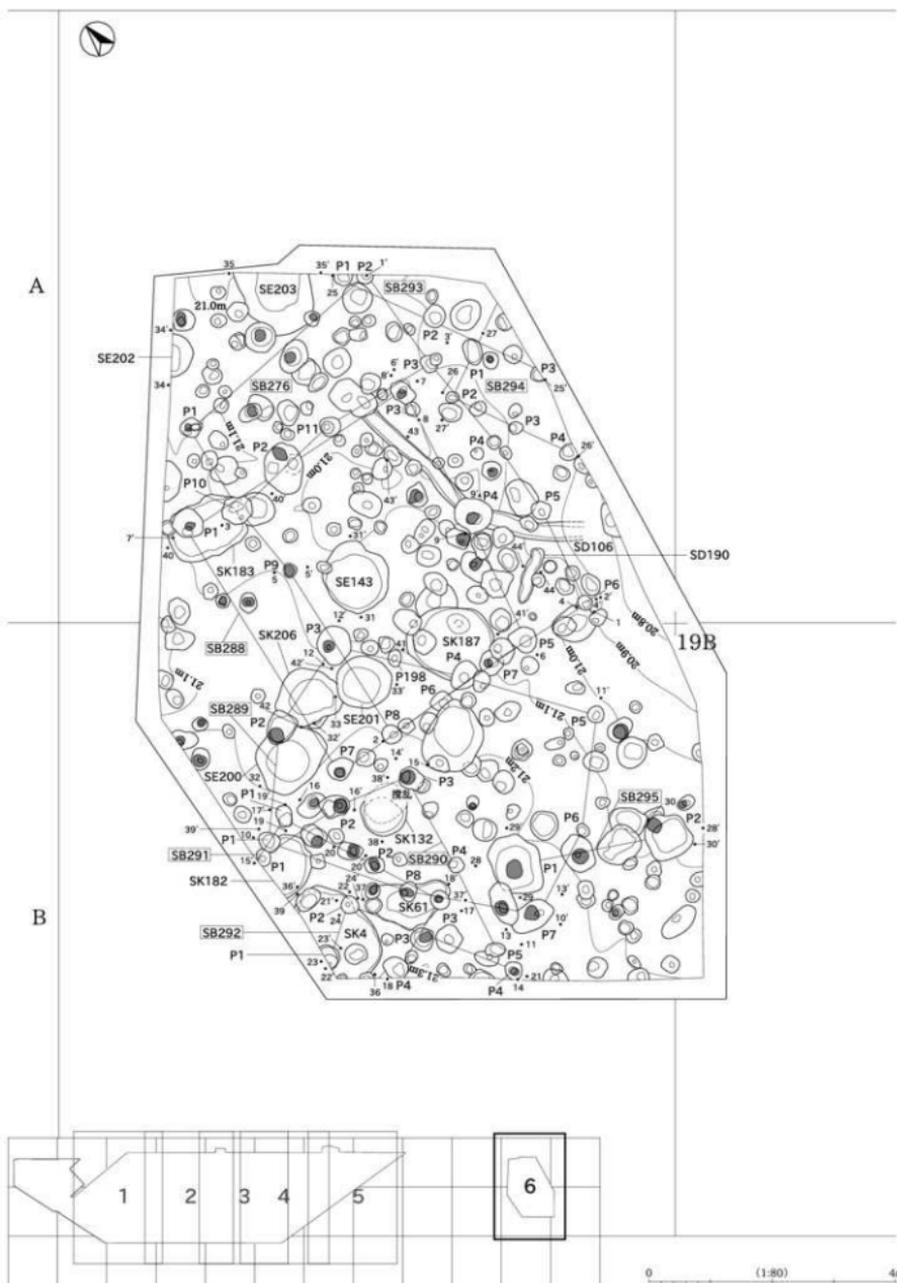


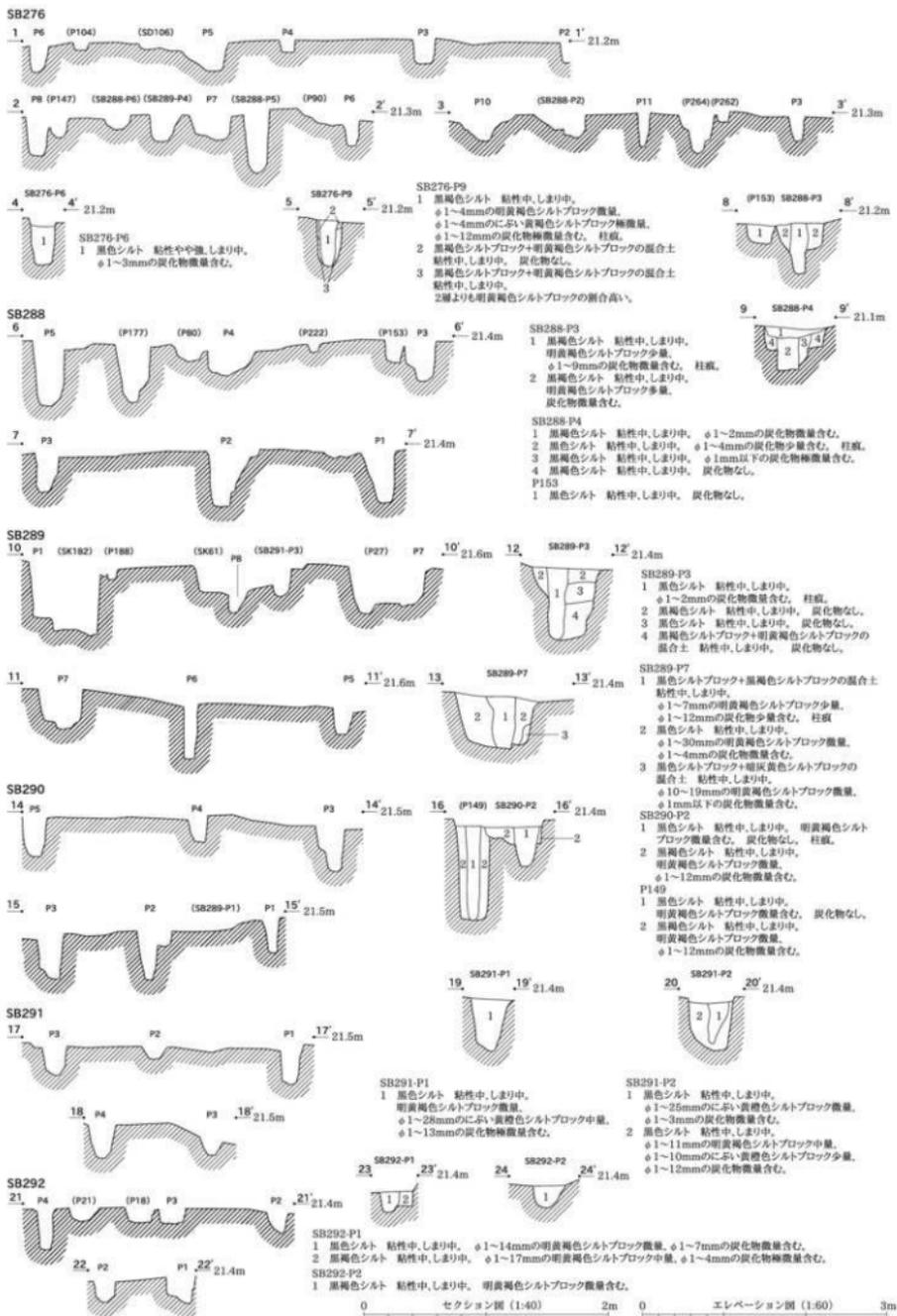
SD724
1 黒色シルト 粘性強、しまり弱。
明黄褐色粘質シルトブロック微量。
 ϕ 1mm以下の炭化物微量含む。
2 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
明黄褐色粘質シルトブロック少量含む。炭化物なし。

- SE1405
- 1 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
黄褐色シルトブロック少量、浅炭質シルトブロック少量。
 ϕ 1~13mmの炭化物少量含む。
 - 2 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
黄褐色シルトブロック多量、 ϕ 2mm以下の炭化物微量含む。
 - 3 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
褐色シルトブロック多量、浅炭質シルトブロック多量含む。
炭化物なし。
 - 4 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
黄褐色シルトブロック多量含む、炭化物なし。
 - 5 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
褐色シルトブロック中量、 ϕ 1~7mmの炭化物微量含む。
 - 6 黒褐色シルト 粘性強、しまり弱。
黄褐色粘質シルトブロック多量。
浅炭質粘質シルトブロック多量含む。炭化物なし。
 - 7 黒褐色シルト 粘性中、しまり中。
褐色シルトブロック少量、 ϕ 1~7mmの炭化物微量含む。

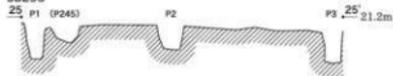


- SK1087
- 1 褐色シルト 粘性弱、しまり中。
 ϕ 10~30mmの明黄褐色シルトブロック少量。
 ϕ 5mm以下の炭化物中量、 ϕ 5mm以下の焼土中量含む。
 - 2 褐色シルト 粘性弱、しまり中。
 ϕ 10~30mmの明黄褐色シルトブロック中量。
 ϕ 5mm以下の炭化物少量、 ϕ 5mm以下の焼土少量含む。
 - 3 褐色シルト 粘性弱、しまり中。

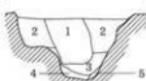




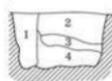
SB293



29 SB295-P1 29' 21.4m



30 SB295-P2 30' 21.1m



SB294



SB295-P1

- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~6mmの明黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1~4mmの炭化物少量, ϕ 40mm角の炭化物含む, 柱状。
- 2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~12mmの明黄褐色シルトブロック中量, ϕ 1~2mmの炭化物微量含む。
- 3 黒褐色シルト 粘性やや強, しまりやや弱, ϕ 1~3mmの明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 1~3mmの炭化物微量, ϕ 32mm角の炭化物含む。
- 4 黒色シルト 粘性中, しまり中, 炭化物なし。
- 5 黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土 粘性中, しまり中, 炭化物なし。

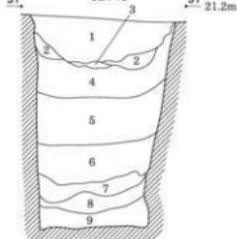
SB295-P2

- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, 柱状。
- 2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量含む。
- 3 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック少量含む。
- 4 黒褐色シルト 粘性中, しまり中。

SB295



SE143

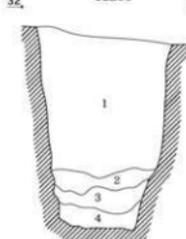


- 1 黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土 粘性やや強, しまりやや弱。
- 2 黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土 粘性やや強, しまりやや弱。
- 3 黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土 粘性やや強, しまりやや弱, ϕ 1~13mmの炭化物少量含む。
- 4 黒色シルトブロック 炭化物なし。
- 5 明黄褐色シルトブロックの割合高い, 明黄褐色シルトブロックの割合高い。
- 6 黒色シルトブロックの割合高い, 黒色シルトブロックの割合高い。
- 7 明黄褐色シルトブロックの割合高い, 明黄褐色シルトブロックの割合高い。
- 8 黒褐色シルト 粘性やや強, しまり弱, ϕ 1~32mmの炭化物少量含む, 黒色シルトブロックの割合高い。
- 9 黒褐色シルト 粘性中, しまり弱, ϕ 1~20mmの炭化物少量含む, 炭化物なし。

SE143

- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~34mmの明黄褐色シルトブロック中量, ϕ 1~23mmの明黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1~16mmの炭化物中量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~21mmの明黄褐色シルトブロック中量, ϕ 1~5mmの炭化物微量含む。

SE200

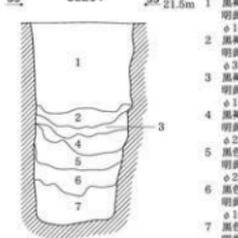


- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまりやや弱, 明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 1~11mmの炭化物微量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 1~6mmの炭化物微量含む。
- 3 黒褐色シルト 粘性やや強, しまりやや弱, 明黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1~20mmの炭化物微量含む。
- 4 黒色シルト 粘性やや強, しまり弱, 明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 1~12mmの炭化物微量含む。

SE200

- 1 黒色シルト 粘性強, しまりやや弱, ϕ 1~15mmの炭化物中量含む, 1層下部はしまり弱。

SE201



- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまりやや弱, 明黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1~9mmの炭化物微量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 3mm前後の炭化物微量含む。
- 3 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1~10mmの炭化物微量含む。
- 4 黒褐色シルト 粘性中, しまり弱, 明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 2mm以下の炭化物微量含む。
- 5 黒色シルト 粘性やや強, しまり弱, 明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 2mm以下の炭化物微量含む。
- 6 黒色シルト 粘性やや強, しまり弱, 明黄褐色シルトブロック微量, ϕ 10mm前後の炭化物微量含む。
- 7 黒褐色シルト 粘性やや強, しまり弱, 明黄褐色シルトブロック微量含む, 炭化物なし。

SK4



- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1~5mmの炭化物微量, ϕ 1~7mmの硝灰混練体微量含む。

P297

- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量含む。

SK61



- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック少量, ϕ 1~4mmの炭化物少量含む。

SK183

- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~22mmの炭化物少量含む。

SK206

- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量含む。

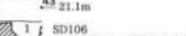
SK132

- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量含む, ϕ 1~7mmの炭化物微量含む。

SK182

- 1 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量含む, ϕ 1~5mmの炭化物微量含む。

SD106



- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1mm以下の炭化物微量含む。

SD190



- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~5mmの炭化物微量含む。

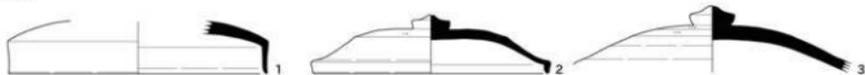
SK187

- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~22mmの炭化物微量含む。

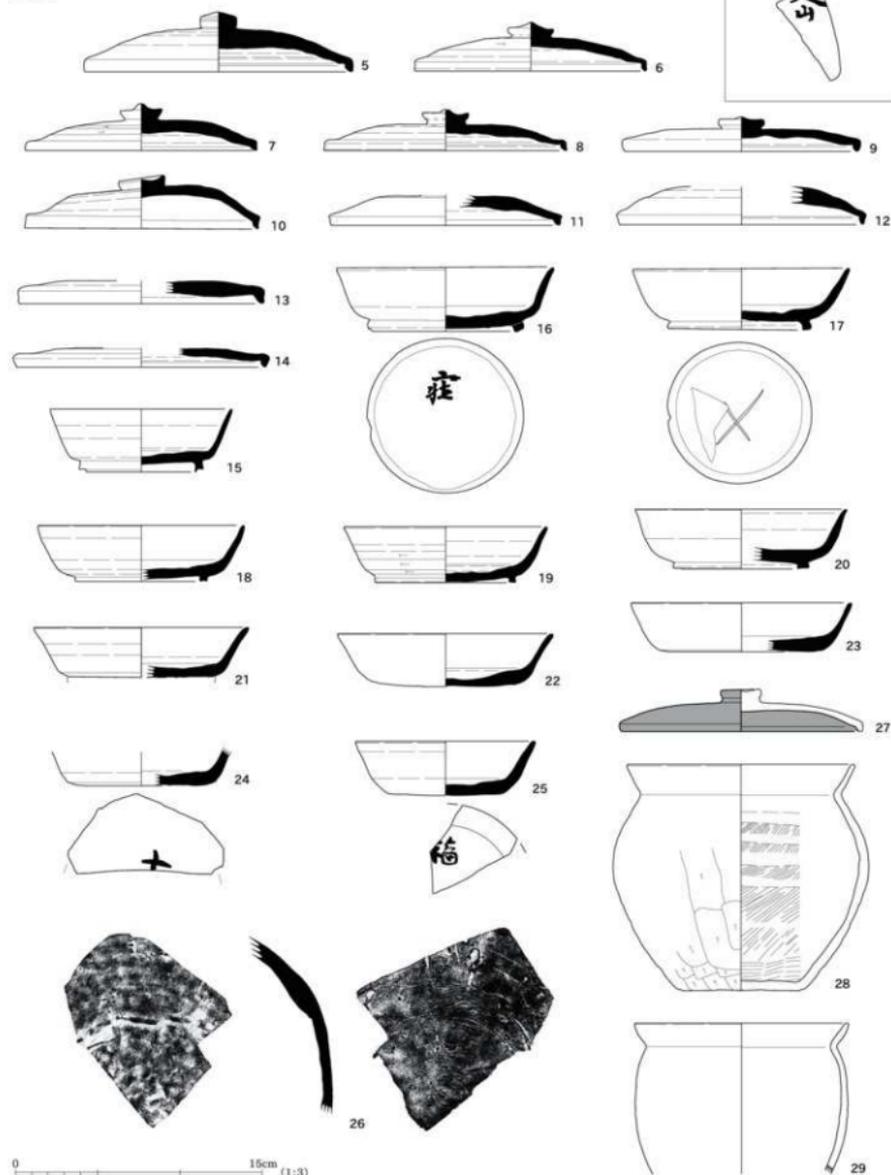
SK206

- 1 黒色シルト 粘性中, しまり中, ϕ 1~22mmの炭化物微量含む。
- 2 黒褐色シルト 粘性中, しまり中, 明黄褐色シルトブロック微量含む。

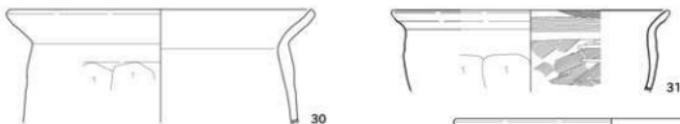
SI1311



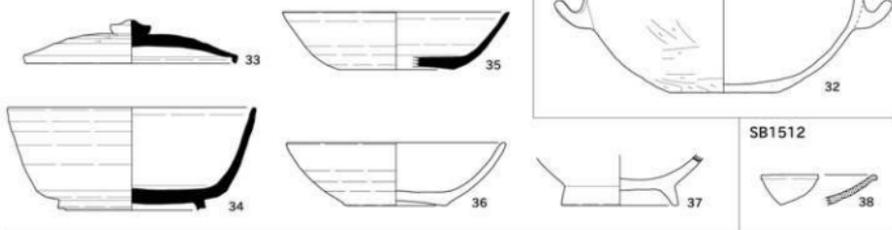
SI1312



SI1312

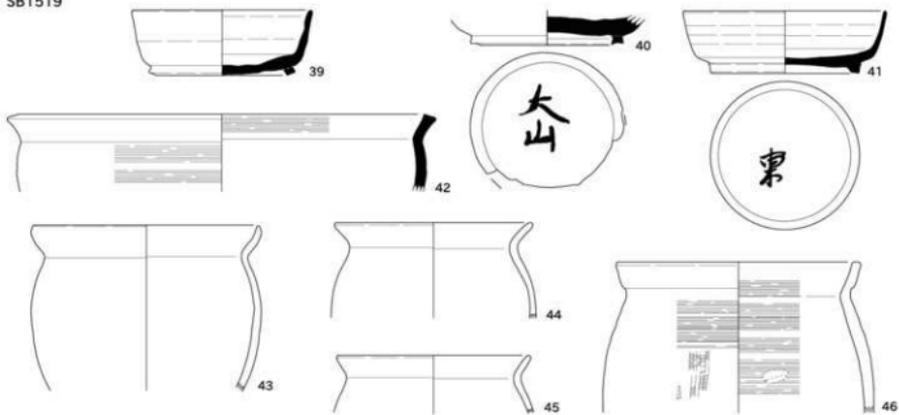


SI1344



SB1512

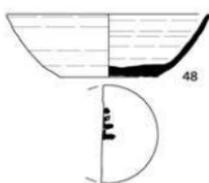
SB1519



SB1526



SB1528



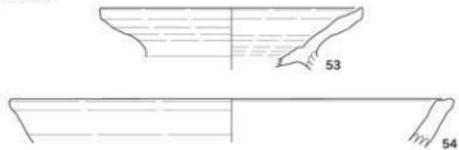
SA1532



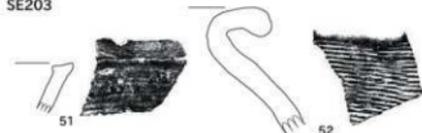
SE143



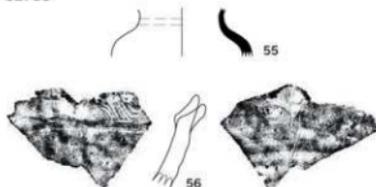
SE488



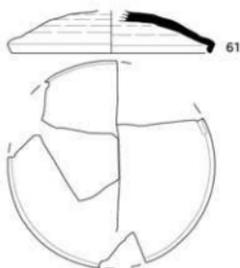
SE203



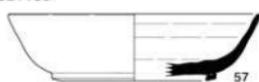
SE788



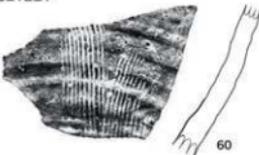
SE1405



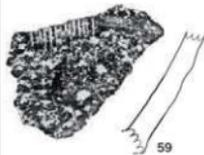
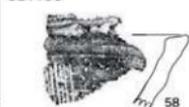
SE1139



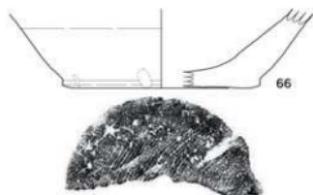
SE1221



SE1155



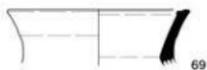
SE1565



SK183



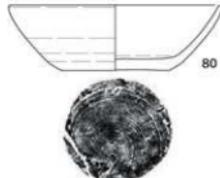
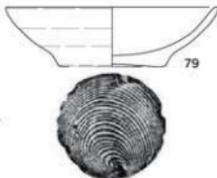
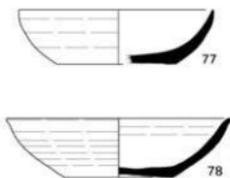
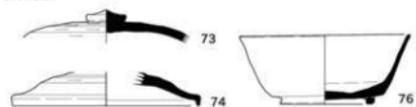
SK187



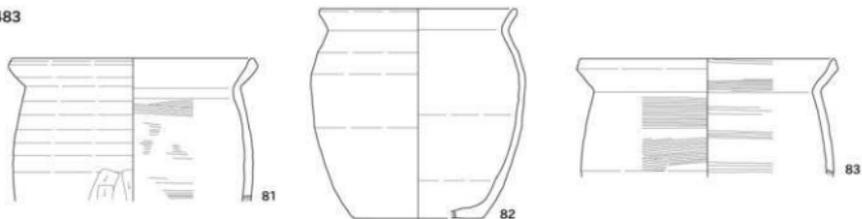
SK477



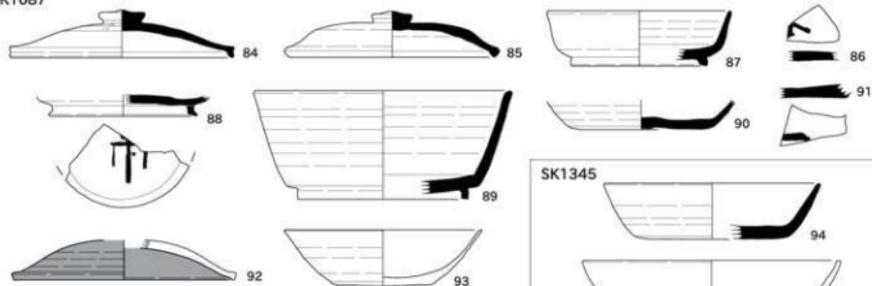
SK483



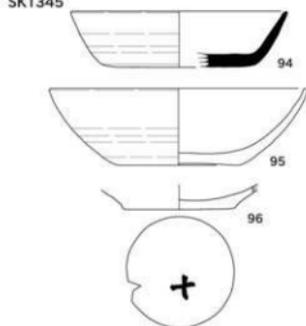
SK483



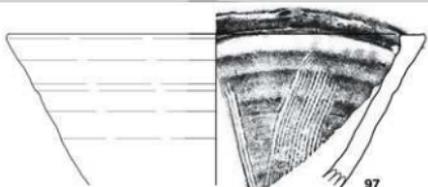
SK1087



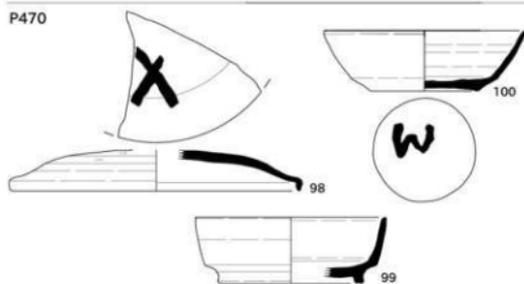
SK1345



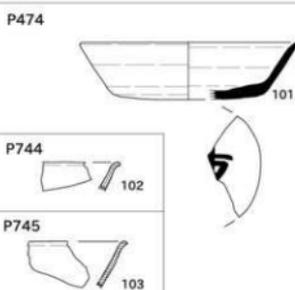
P198



P470



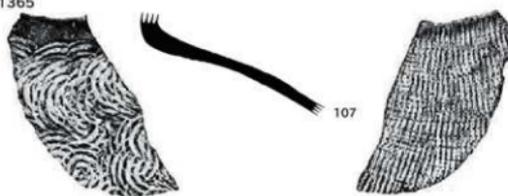
P474



P1200



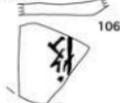
P1365



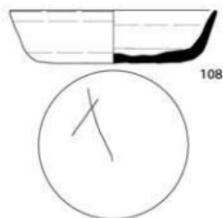
P1291



P1328



P1441



108



109

P1564



110



112

遺構外



111



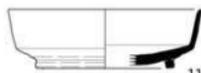
113



114



115



116



117



118



119



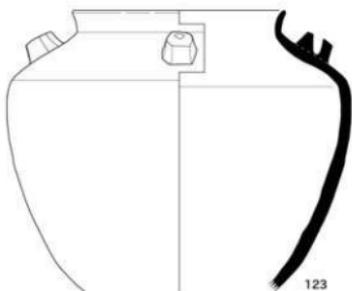
120



121



122



123



124



126



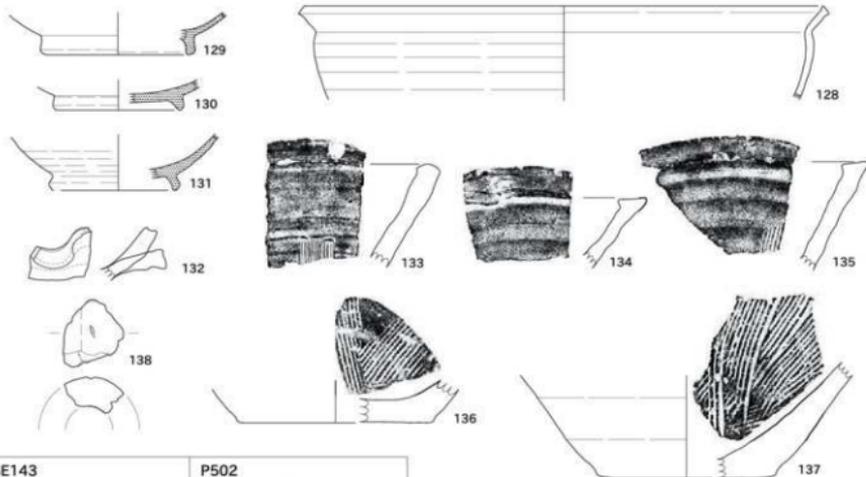
125



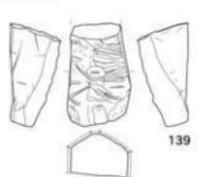
127

0 15cm (1:3)

遺構外



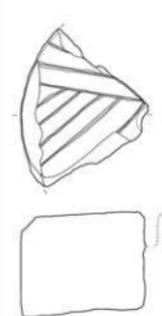
SE143



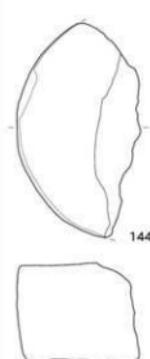
P502



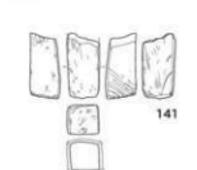
SE788



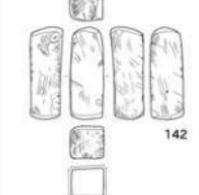
P623



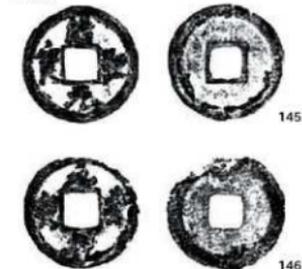
P591



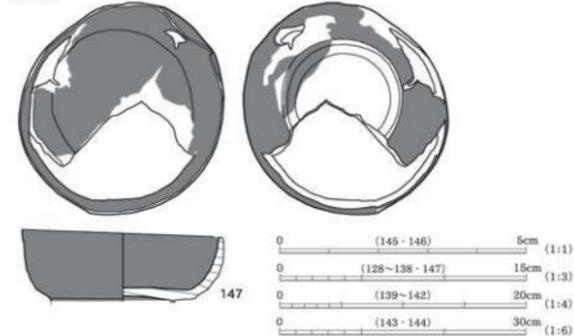
P893

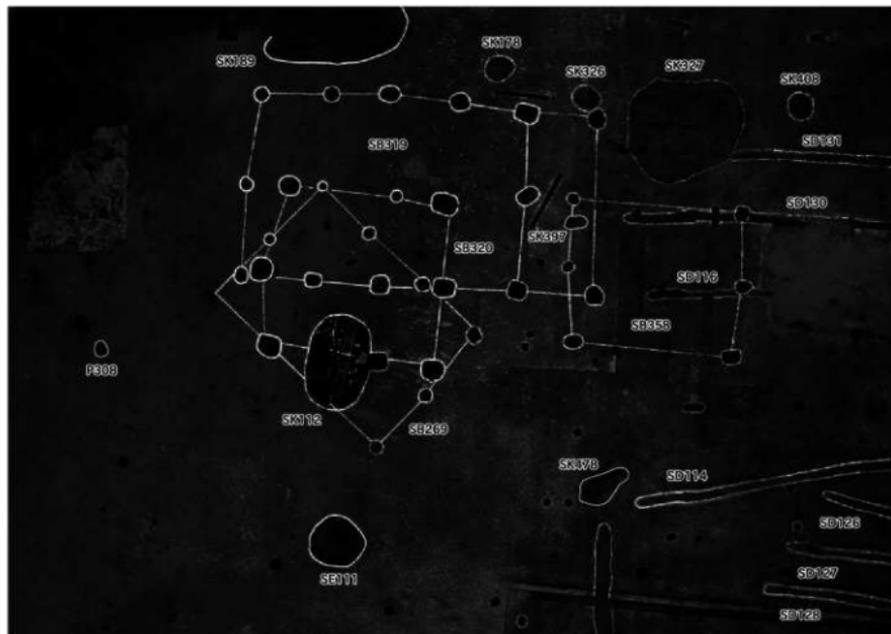


P1591

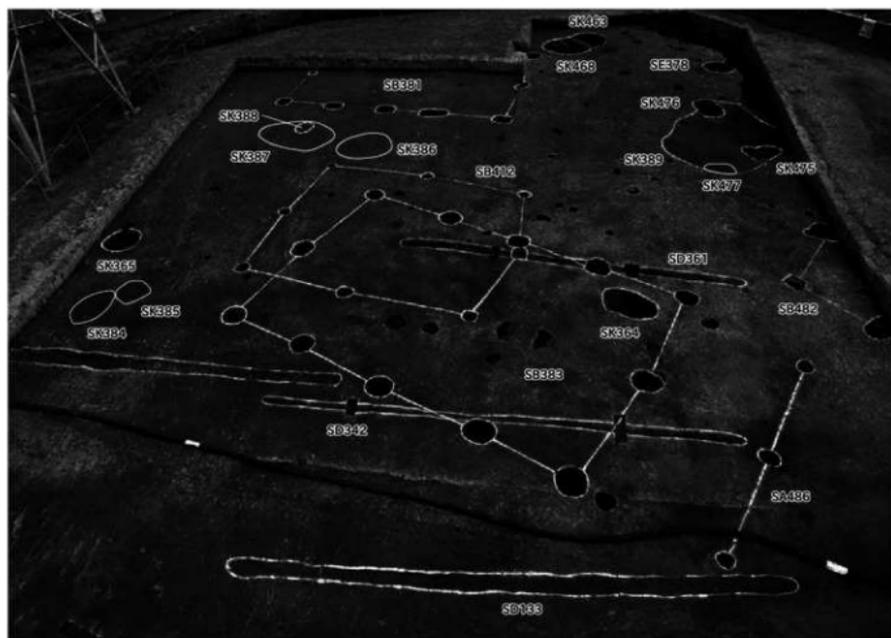


SE143





3M~O・4M~Oグリッド 全景(南から)



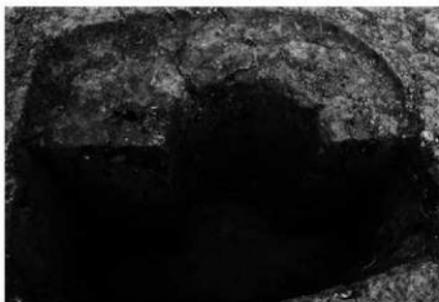
2~4K-Lグリッド 全景(南から)



4016 基本層序 (南から)



6N6 基本層序 (南から)



SB381-P5 土層断面 (西から)



SB383-P6 土層断面 (南から)



SB482-P3 土層断面 (西から)



SB412-P2 土層断面 (南から)



SB269-P1 土層断面 (北東から)



SB307-P4 土層断面 (北東から)



SB319-P5 土層断面 (南から)



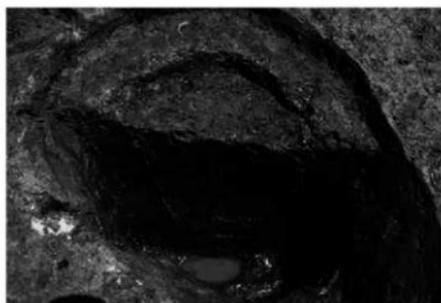
SB320-P5 土層断面 (南から)



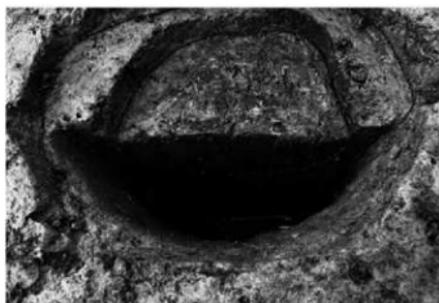
SB358-P1 土層断面 (西から)



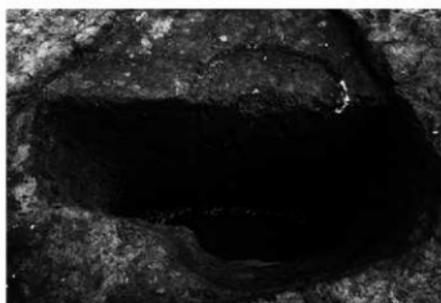
SB108-P1 土層断面 (北から)



SB258-P1 土層断面 (南から)



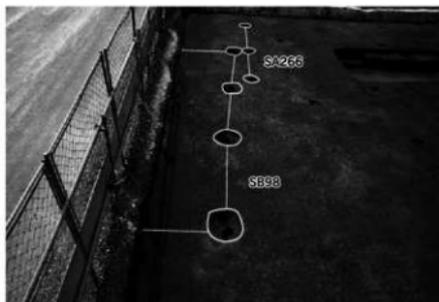
SB259-P5 土層断面 (南から)



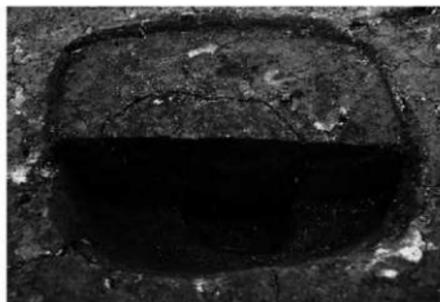
SB287-P3 土層断面 (南から)



SB288-P1 土層断面 (東から)



SB98・SA266 瓦器(東から)



SB98-P2 土層断面(南から)



SB99-P4 土層断面(南から)



SB100-P1 土層断面(南から)



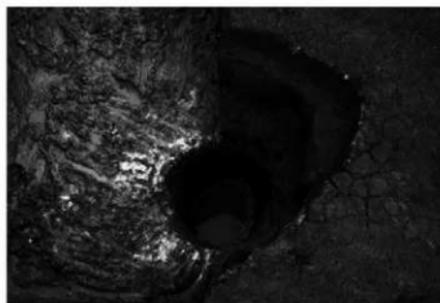
SE378 土層断面(南から)



SE474 土層断面(北から)



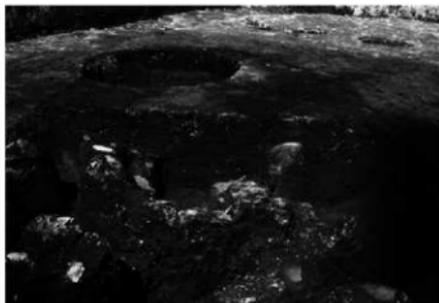
SE111 土葬断面(南から)



SE277 瓦器(北から)



SK463 土層断面 (西から)



SK468 土層断面 (南西から)



SK476 土層断面 (南から)



SK475 土層断面 (北から)



SK389 土層断面 (西から)



SK491 土層断面 (東から)



SK364 土層断面 (南から)



SK365 刀子出土状況 (北から)



SK369 土層断面 (北東から)



SK189 土層断面 (南から)



SK327 土層断面 (北から)



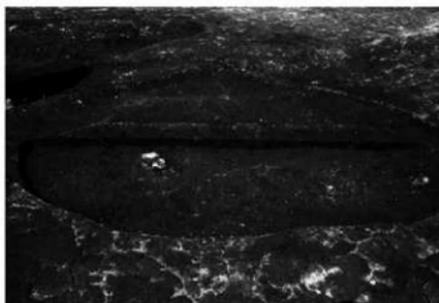
SK207 土層断面 (西から)



SK228 土層断面 (南から)



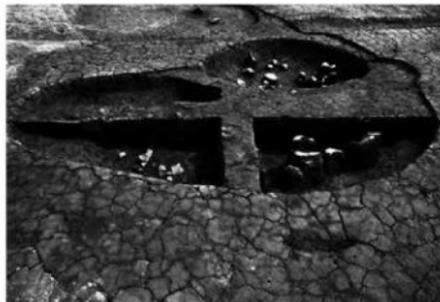
SK112 土層断面 (西から)



SK200 土層断面 (南西から)



SK313 土層断面 (南から)



SK251・SK203 土層断面（北から）



SK160 土層断面（南から）



SK213 土層断面（北から）



P308 墨書土器出土状況（南から）



SD115 土層断面（西から）



SD116 土層断面（東から）



SD119 土層断面（東から）



SD109 土層断面（西から）



SE277(1)・SE341(2)・SE474(3)・SK112(4～7)・SK189(8～10)・SK200(11～13)・SK203(14)・SK207(15)・SK251(16～18・20)

S=1/3 (1～6・8・9・11～16) S=1/4 (7・10・17・18・20)



SK251(19)・SK327(21～24)・SK389(25・26)・SK468(27・28)・SD109(29)・SD114(30)・P308(31)・II層(32・33)
 土製品・石製品・金屬製品(34～37)
 S=1/3(21～34・36・37) S=1/4(19・29・35)



野群遺跡 調査区全景 (北から)



基本層序 (東から)



SB34-P2 土層断面 (西から)



SB34-P3 土層断面 (東から)



SB46-P3 土層断面 (西から)



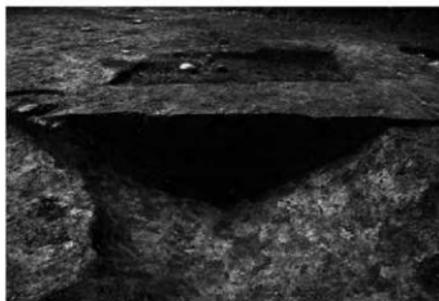
SE10 土層断面 (西から)



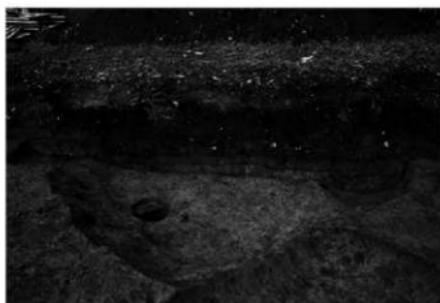
SK11 土層断面 (西から)



SK14・P13 土層断面 (南から)



SD1 土層断面 (北西から)



SX41 穴掘 (西から)



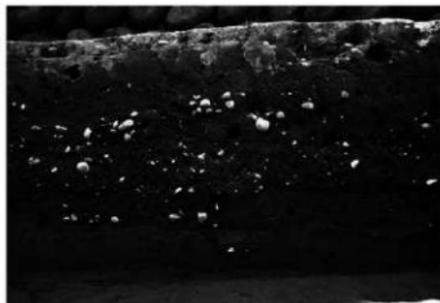
SX43・P42 土層断面



SD1 (1~5)・石製品 (6) S=1/3 (1~5) S=1/4 (6)



諏訪前遺跡 調査区全景 (東から)



南壁基本層序 (北から)



SK5 土層断面 (南から)



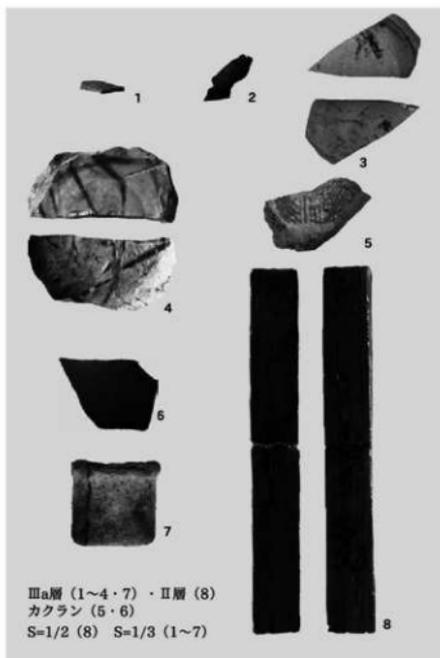
SK5 発掘 (北から)



SK11 土層断面 (南から)



SK11 発掘 (東から)



Ⅲa層 (1~4・7)・Ⅱ層 (8)
カクラン (5・6)
S=1/2 (8) S=1/3 (1~7)



北新田遺跡II 調査区全景 (南西から)



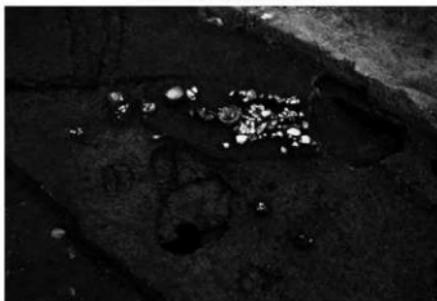
32G4・9 基本層序 (西から)



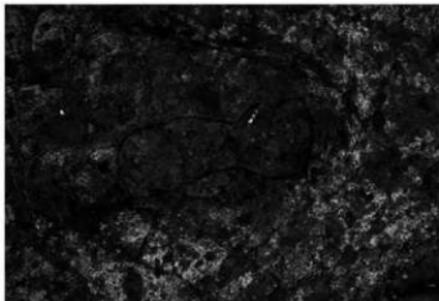
SI203 土層断面 (南東から)



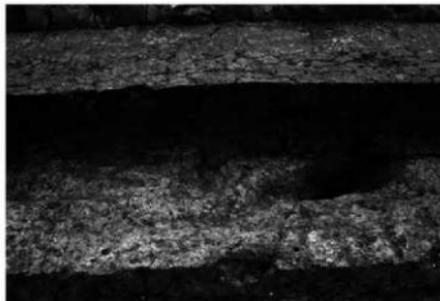
SI203 完掘 (南西から)



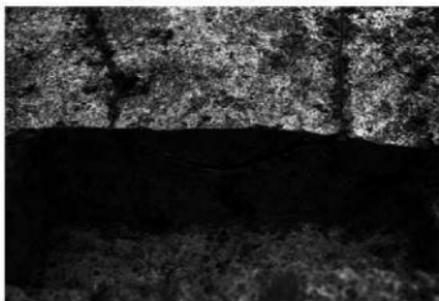
SI203 カマド周辺遺物出土状況 (西から)



SI203 カマド検出状況 (北から)



SI203 炉土層断面 (南東から)



SI203 円溝土層断面 (西から)



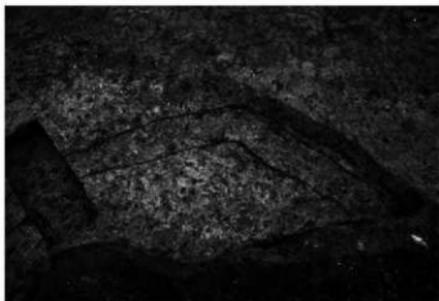
SI203-P1 土層断面 (西から)



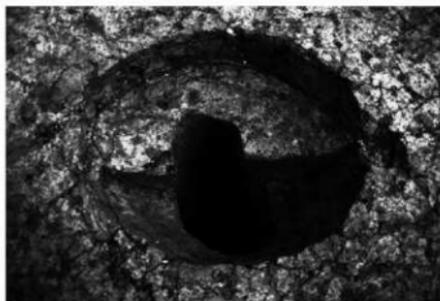
SI1660 土層断面 (北西から)



SI1660 完器 (南西から)



SI1660 円溝検出状況 (南東から)



SI1660-P1 土層断面 (南から)



SB1605 完器 (北東から)



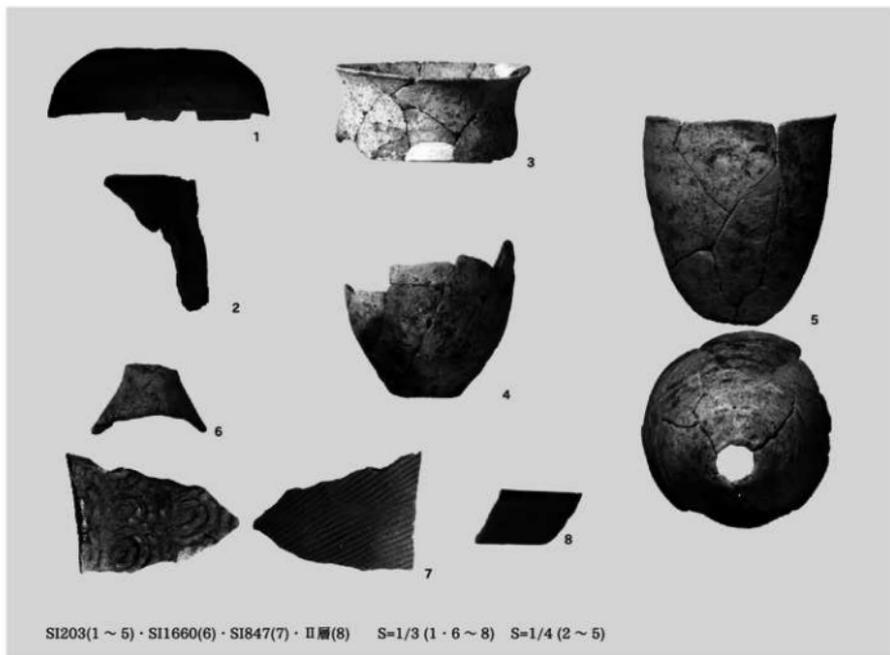
SB1605-P1 土層断面 (南から)



SK1645 土層断面 (南東から)



SI847 土層断面 (北から)



SI203(1~5)・SI1660(6)・SI847(7)・Ⅱ層(8) S=1/3(1・6~8) S=1/4(2~5)



中田原遺跡Ⅱ 調査区全景 (南東から)



3C5 基本層序 (南東から)



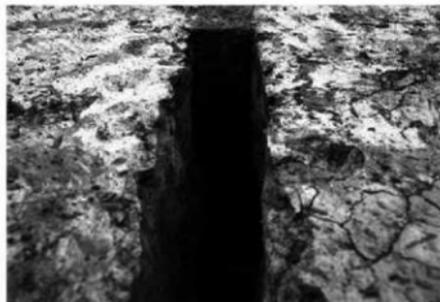
4A17 基本層序 (南西から)



TP14 土層断面 (南西から)



TP14 発掘 (南東から)



TP20 土層断面 (南西から)



TP20 完掘 (南西から)



TP23 土層断面 (北西から)



TP23 完掘 (東から)



TP24 土層断面 (北西から)



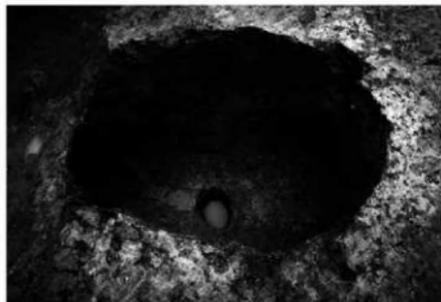
TP24 完掘 (東から)



TP26 土層断面 (西から)



TP26 完掘 (西から)



TP18 完掘 (西から)



TP37 土層断面 (西から)



TP37 完掘 (東から)



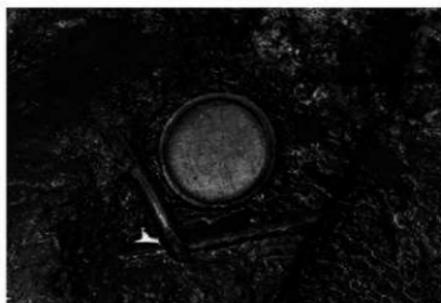
TP41 土層断面 (南東から)



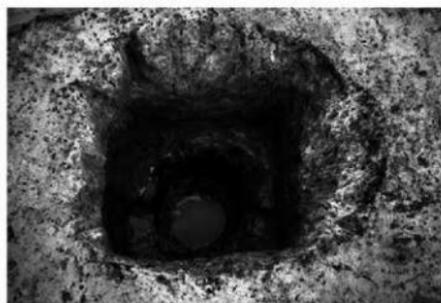
TP41 完掘 (南東から)



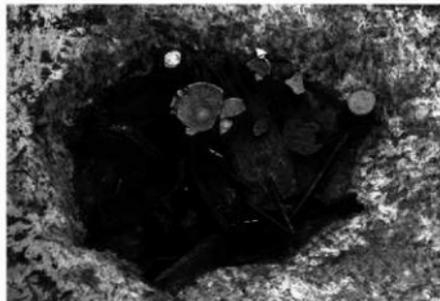
SE13 土層断面 (南から)



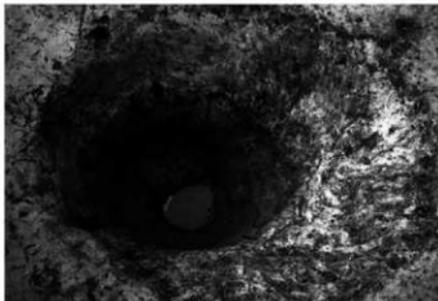
SE13 曲物出土状況 (南西から)



SE13 完掘 (南から)



SE15 遺物出土(南から)



SE15 完掘(南から)



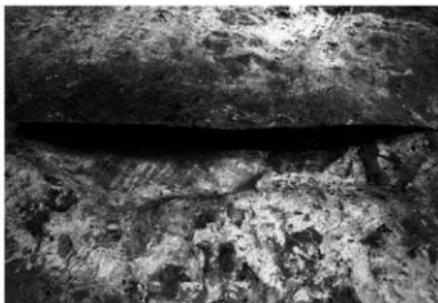
SK32 土層断面(東から)



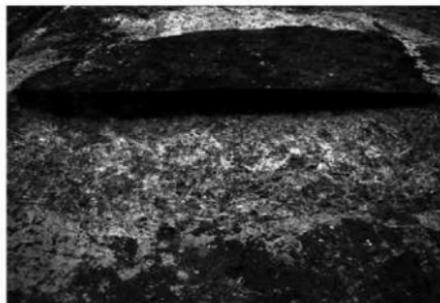
SK38 土層断面(南西から)



SK42 土層断面(南西から)



SK44 土層断面(西から)



SX12 土層断面(南西から)



SX31 土層断面(北から)



SX39 木製品出土状況1回目（西から）



SX39 木製品出土状況2回目（西から）



SX39 弓出土状況（北西から）



SX39 完掘（北東から）



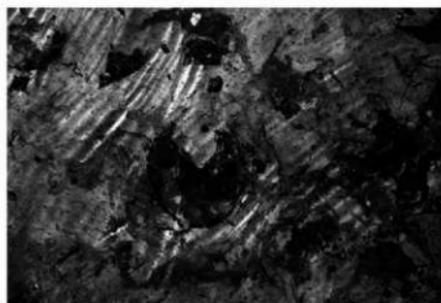
SX40 全景（南から）



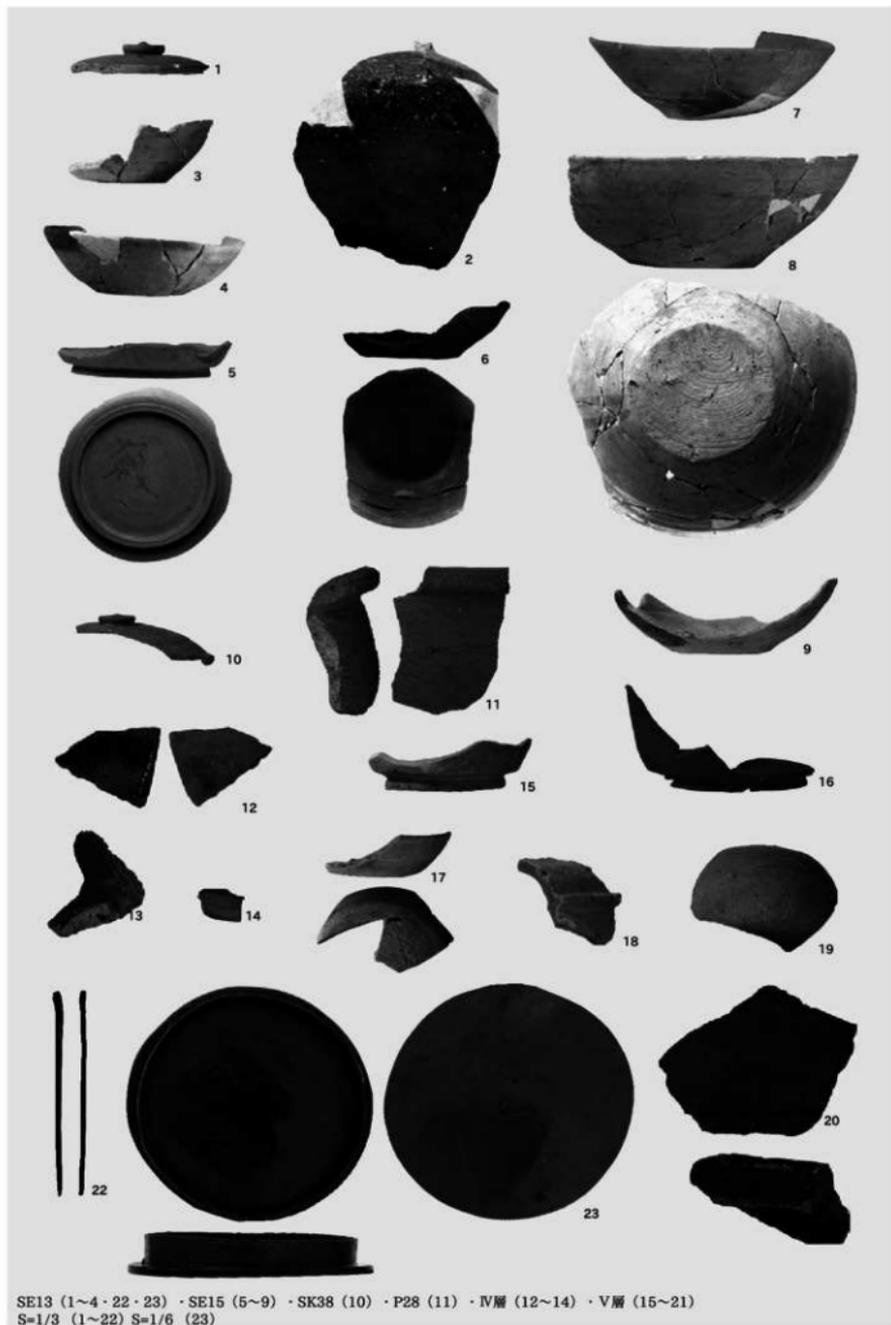
SX40 全景（西から）



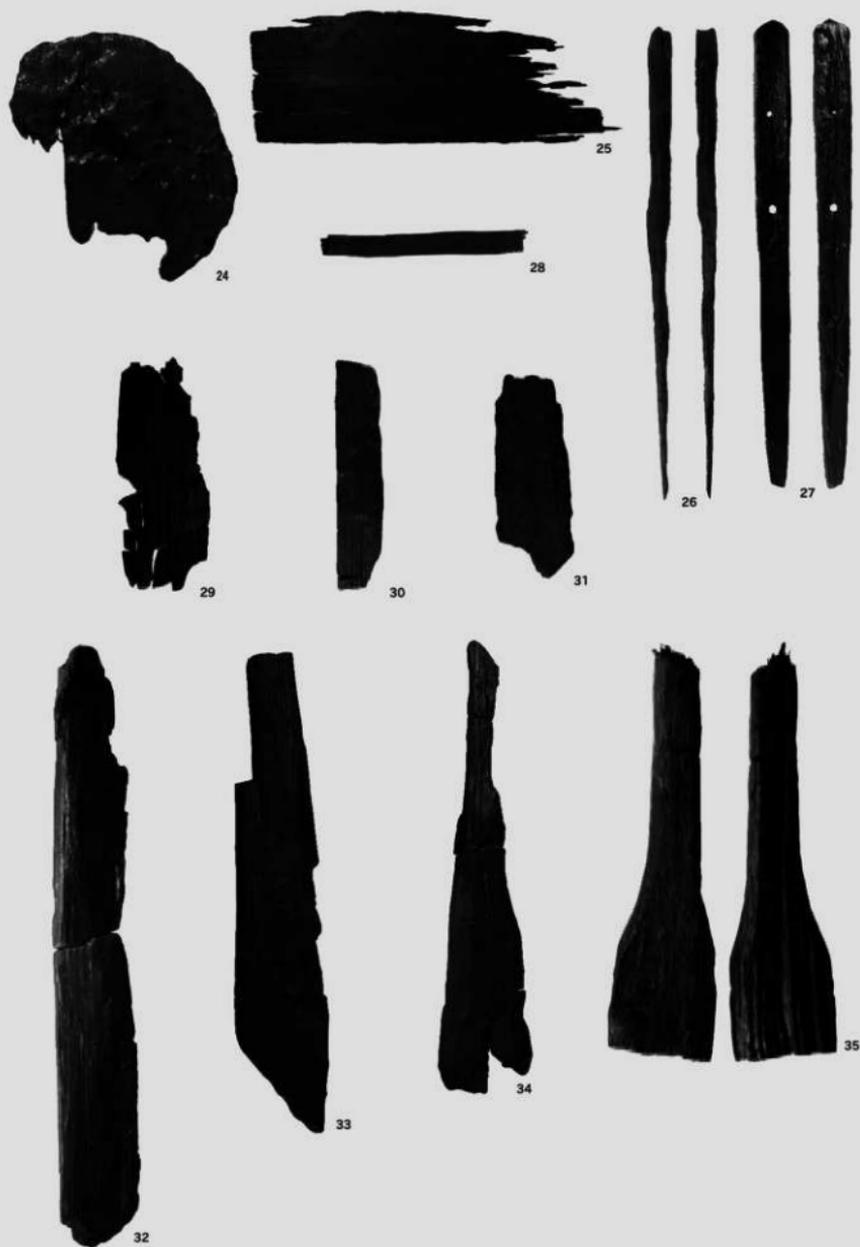
足跡 1



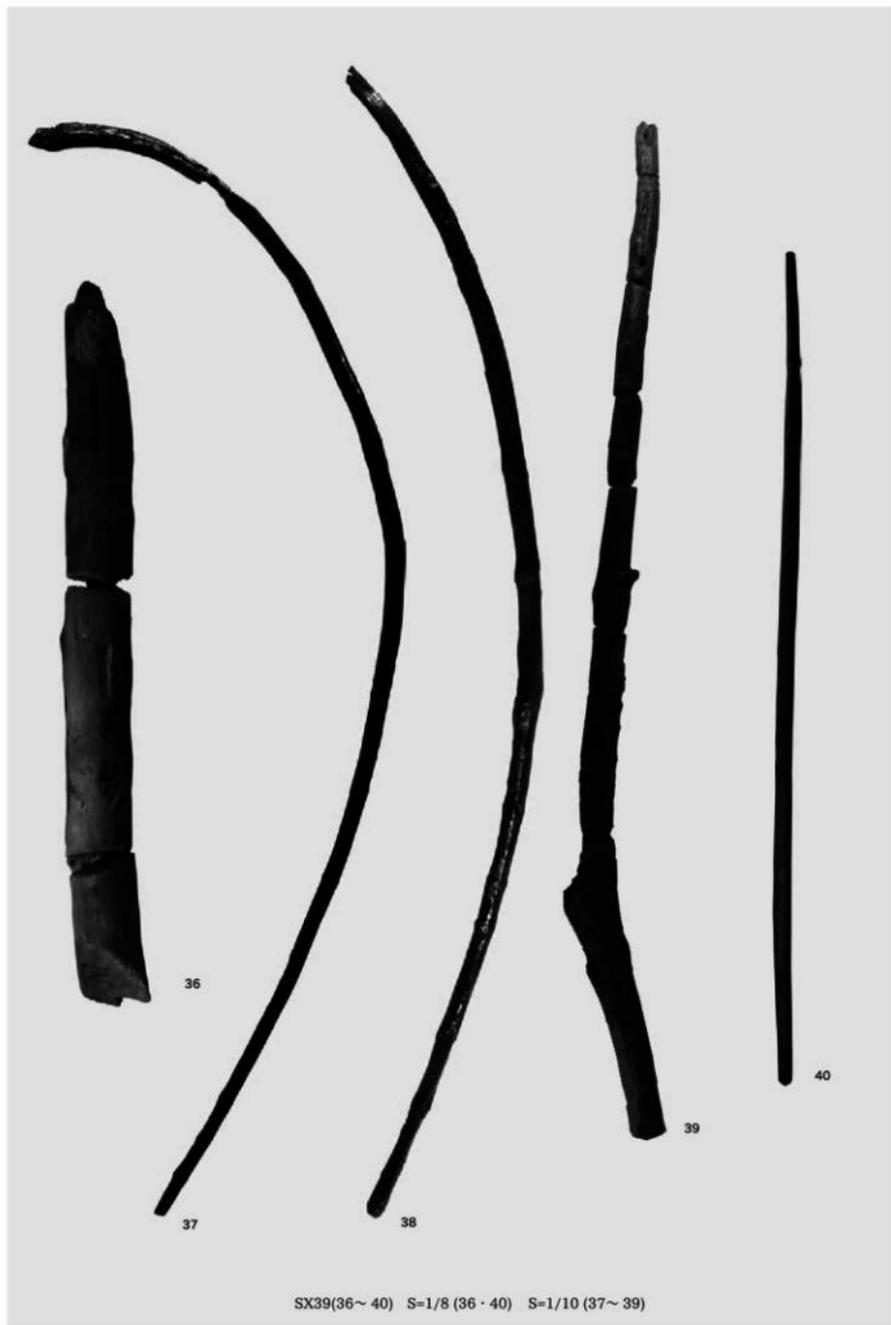
足跡 2



SE13 (1~4・22・23)・SE15 (5~9)・SK38 (10)・P28 (11)・IV層 (12~14)・V層 (15~21)
 S=1/3 (1~22) S=1/6 (23)



SE15(24~27)・SX31(28)・SX39(29~35) S=1/4(26・27) S=1/6(35) S=1/8(24・25・28~34)





石器・石製品(41～49) S=1/2 (41～48) S=1/4 (49)



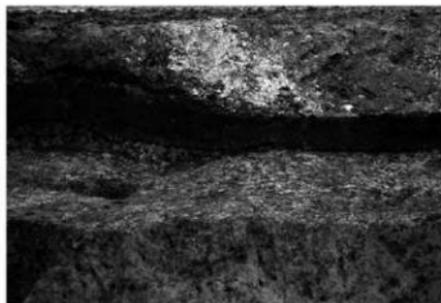
岩ノ原遺跡Ⅱ 調査区遠景（南東から）



岩ノ原遺跡Ⅱ 調査区全景（北東から）



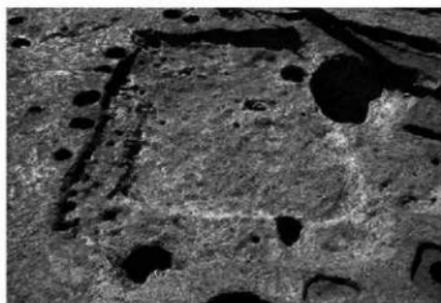
13~15A・Bグリッド 掘立柱建物群 (北東から)



14A3 基本層序 (南西から)



SI1311 土層断面 (北東から)



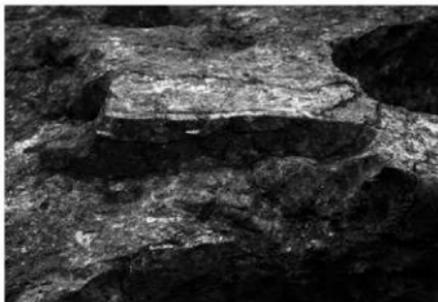
SI1311 発掘 (北から)



SI1312 土層断面 (南西から)



SI1312 壳掘(北西から)



SI1312 カマド土層断面(西から)



SI1312-P1 土層断面(南から)



SI1312 遺物出土状況(南西から)



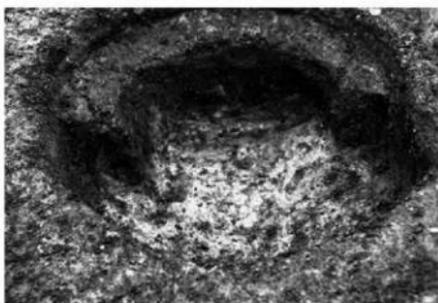
SI1344 土層断面(1)(北東から)



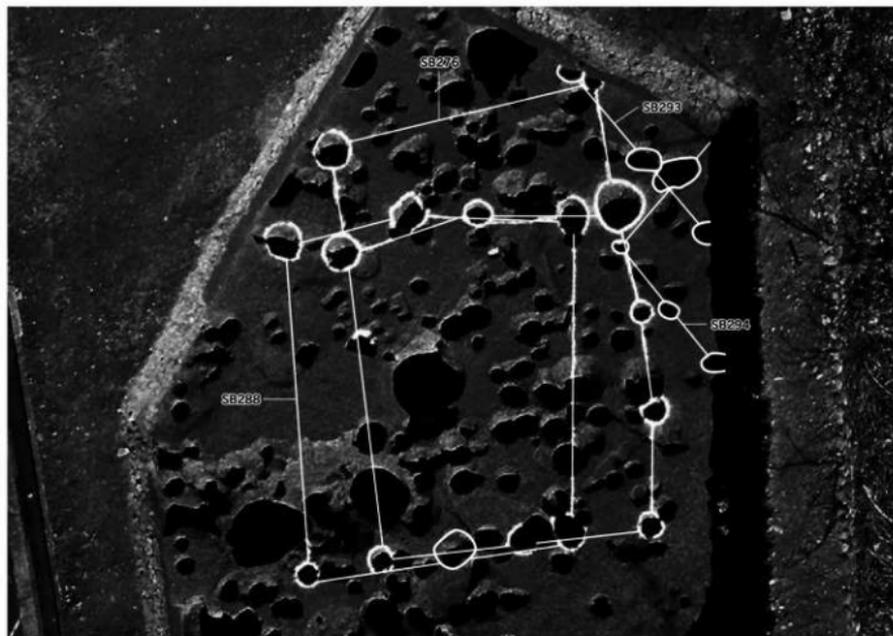
SI1344 土層断面(2)(北東から)



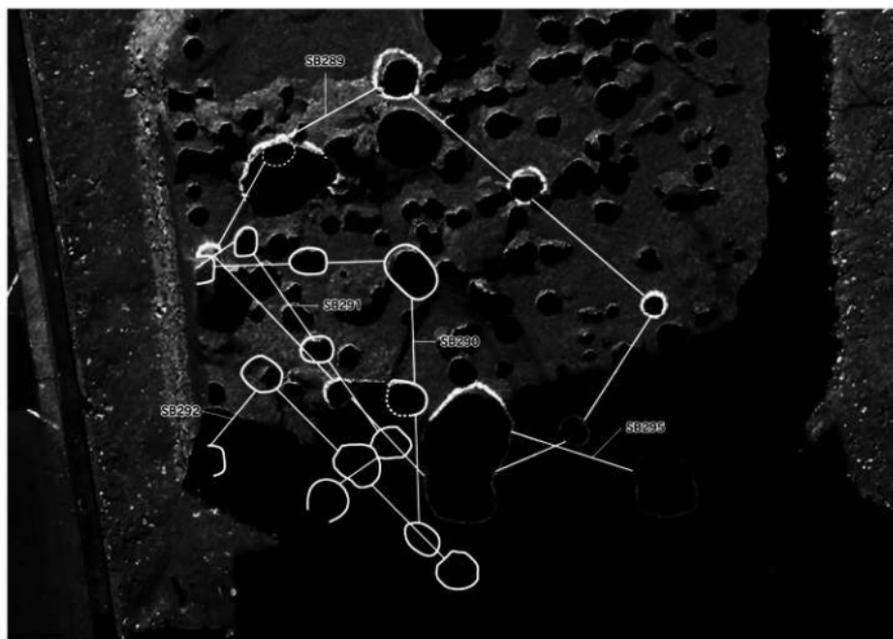
SI1344 壳掘(北西から)



SI1344-P1 土層断面(南西から)



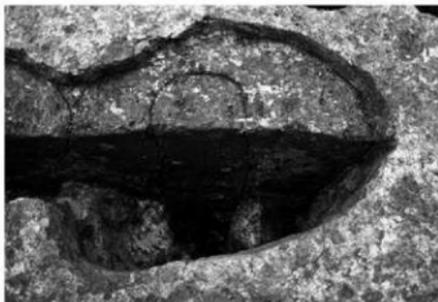
SB276・288・293・294 完麗（南から）



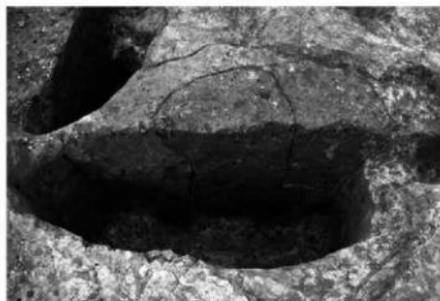
SB289・290・291・292・295 完麗（南から）



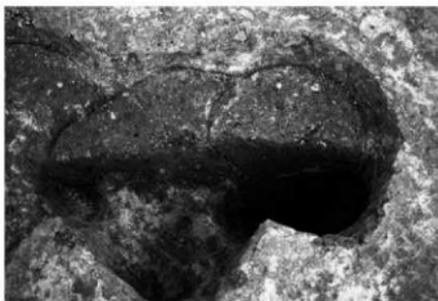
SB276-P9 土層断面 (南西から)



SB288-P3 土層断面 (東から)



SB289-P7 土層断面 (南から)



SB290-P2 土層断面 (南西から)



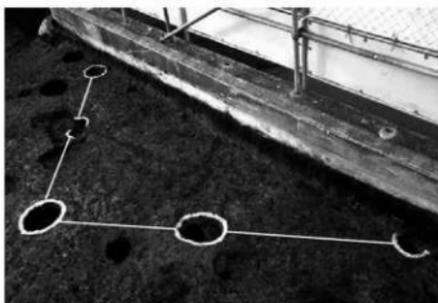
SB291-P3 土層断面 (南西から)



SB292-P1 土層断面 (北から)



SB295-P1 土層断面 (南東から)



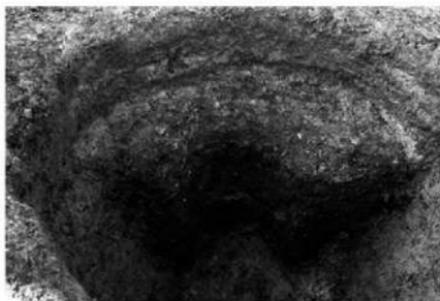
SB1501 完掘 (南東から)



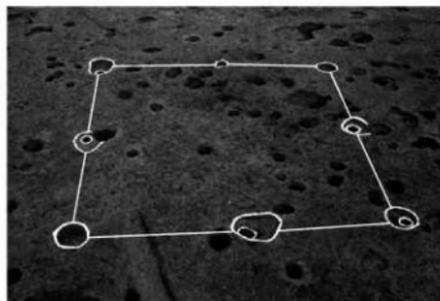
SB1501-P3 土層断面 (南東から)



SB1502 完掘 (南から)



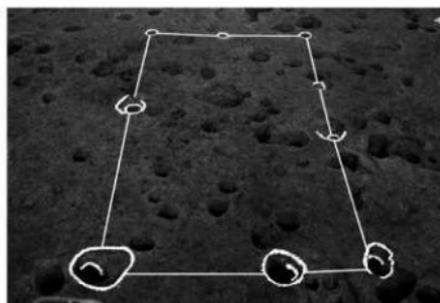
SB1502-P3 土層断面 (南から)



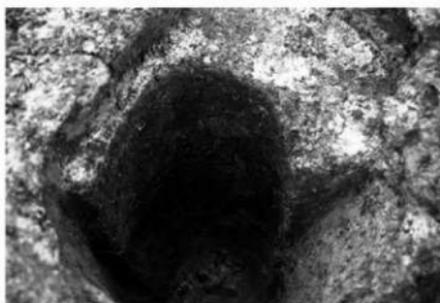
SB1503 柱痕完掘 (南から)



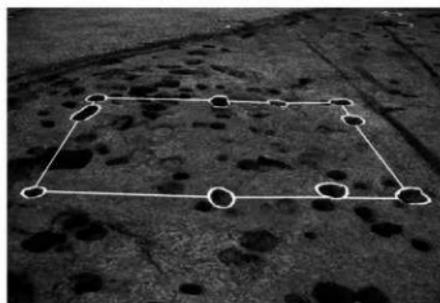
SB1503-P1 土層断面 (西から)



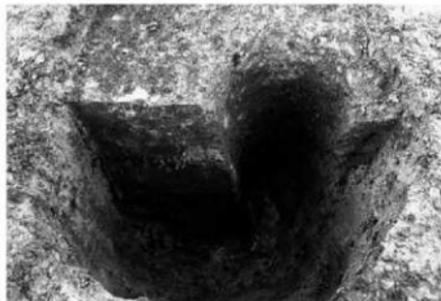
SB1504 柱痕完掘 (南から)



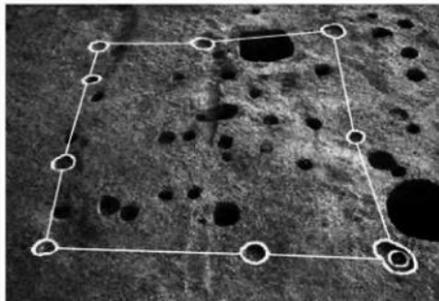
SB1504-P5 土層断面 (南西から)



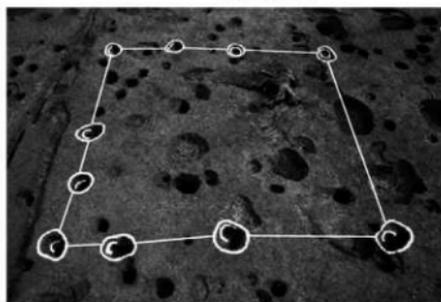
SB1505 完掘 (東から)



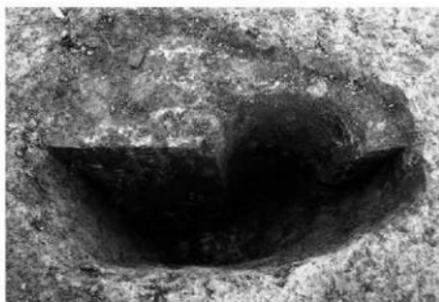
SB1505-P1 土層断面 (南から)



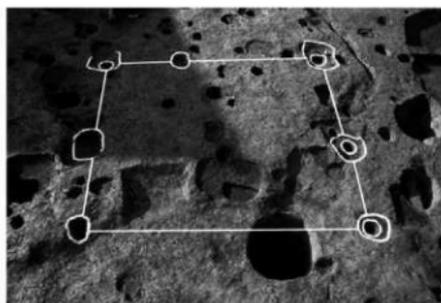
SB1508 柱痕完掘 (北から)



SB1511 柱痕完掘 (西から)



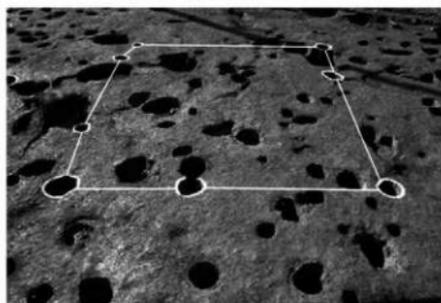
SB1511-P5 土層断面 (南から)



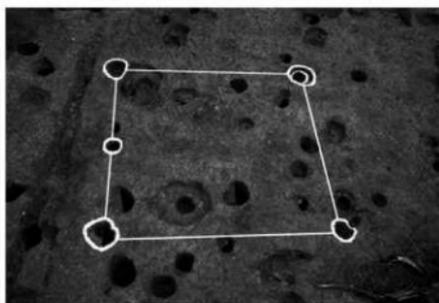
SB1512 柱痕完掘 (北西から)



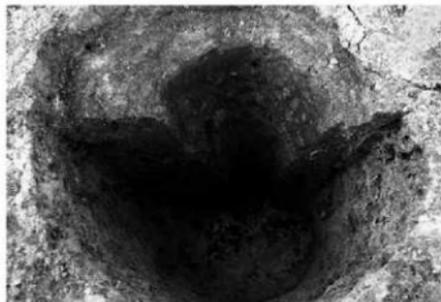
SB1512-P2・SB1515-P1 土層断面 (南から)



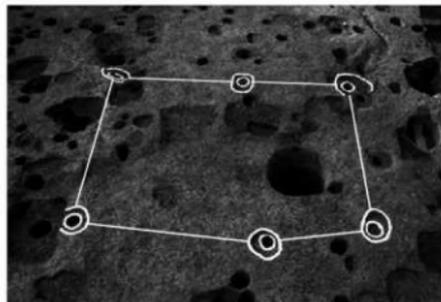
SB1513 完掘 (北から)



SB1514 柱痕完掘 (西から)



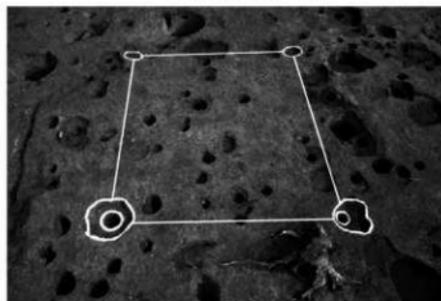
SB1514-P4 土層断面 (南東から)



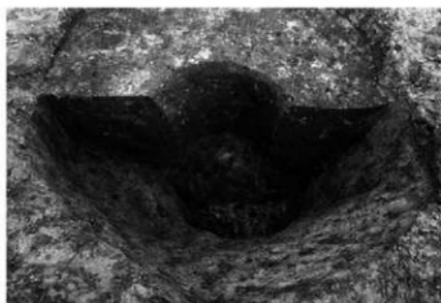
SB1515 柱痕完掘 (南東から)



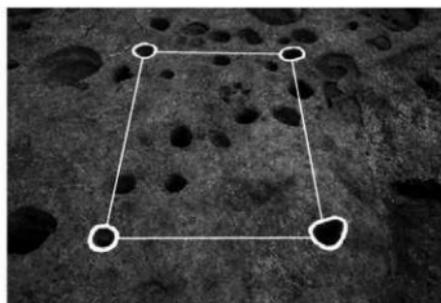
SB1515-P6 土層断面 (南から)



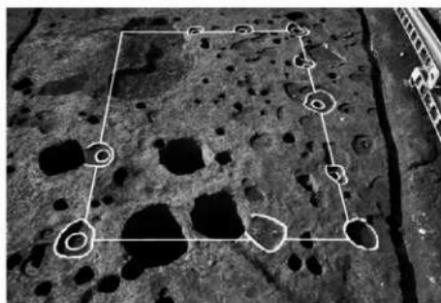
SB1516 柱痕完掘 (西から)



SB1516-P1 土層断面 (南から)



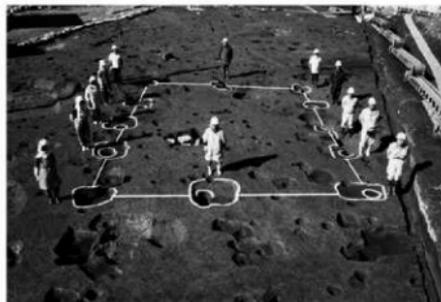
SB1517 完掘 (南西から)



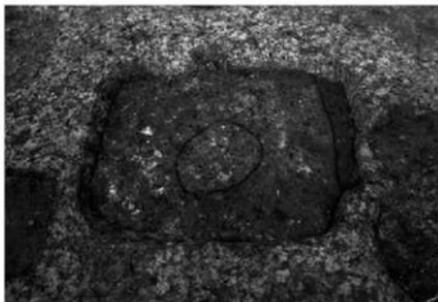
SB1518 柱痕完掘 (南東から)



SB1518-P1 土層断面 (南から)



SB1519 柱痕完掘 (南東から)



SB1519-P8 柱痕検出状況 (南西から)



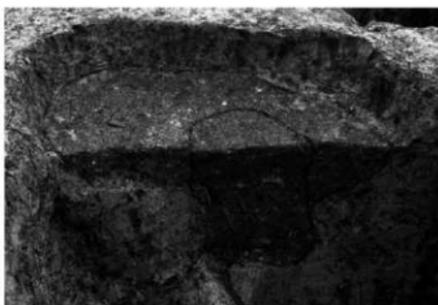
SB1519-P3 土層断面 (北東から)



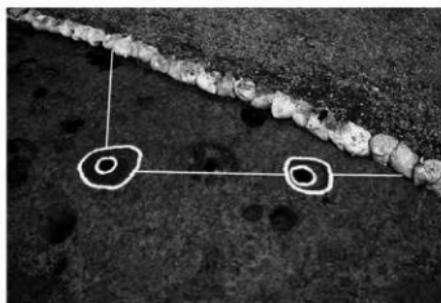
SB1519-P9 土層断面 (南西から)



SB1520 柱痕完掘 (南西から)



SB1520-P8 土層断面 (北西から)



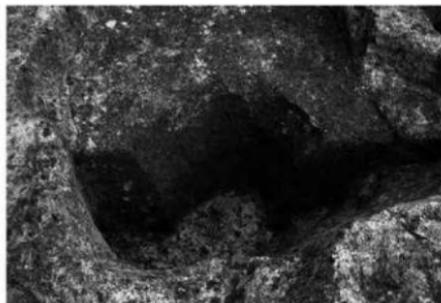
SB1521 柱痕完掘 (北から)



SB1521-P2 土層断面 (南から)



SB1522・SA1532 柱礎完掘 (南東から)



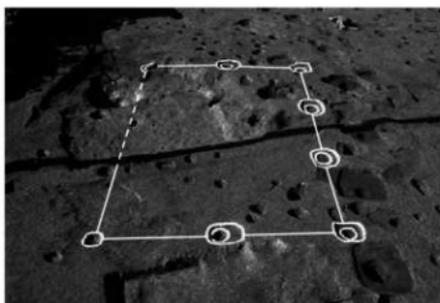
SB1522-P4 土層断面 (南西から)



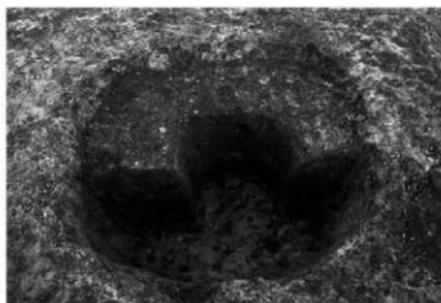
SB1523 完掘 (南東から)



SB1523-P4 土層断面 (北西から)



SB1525 柱礎完掘 (南東から)



SB1525-P2 土層断面 (北西から)



SB1526 柱礎完掘 (南西から)



SB1526-P2 土層断面 (西から)



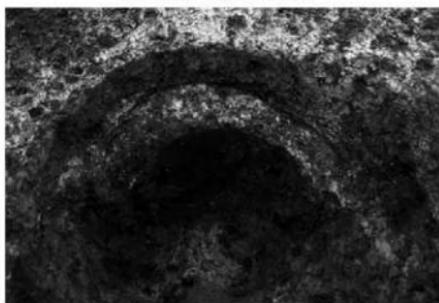
SB1527 柱痕完掘 (北西から)



SB1527-P5 土層断面 (南から)



SB1528 柱痕完掘 (南西から)



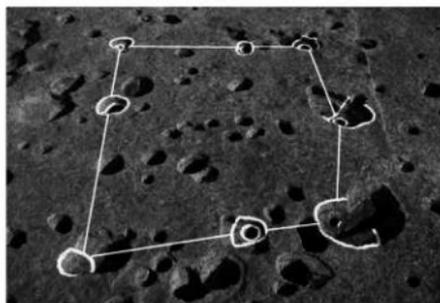
SB1528-P4 土層断面 (東から)



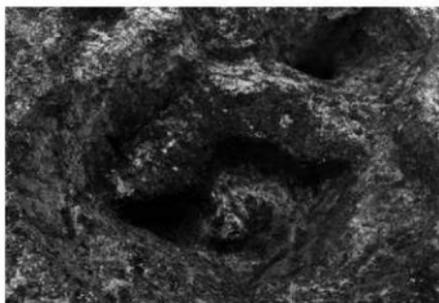
SB1529 柱痕完掘 (南西から)



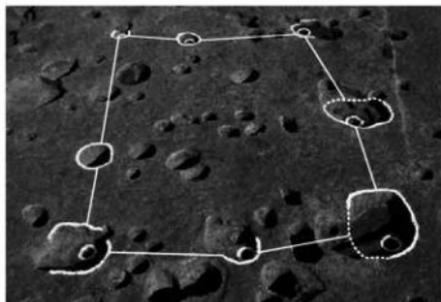
SB1529-P2 土層断面 (東から)



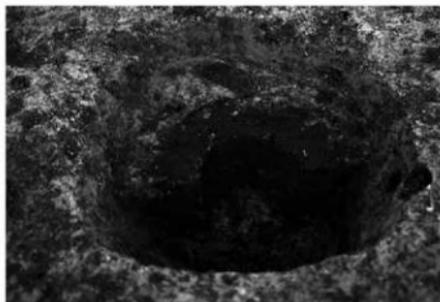
SB1533 柱痕完掘 (南西から)



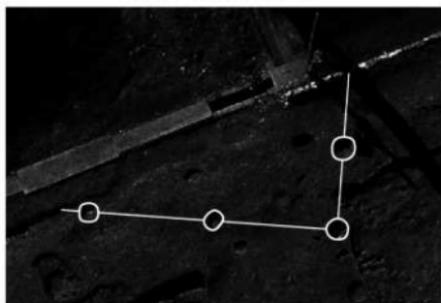
SB1533-P4 土層断面 (南東から)



SB1534 柱痕完掘 (南西から)



SB1534-P2 土層断面 (東から)



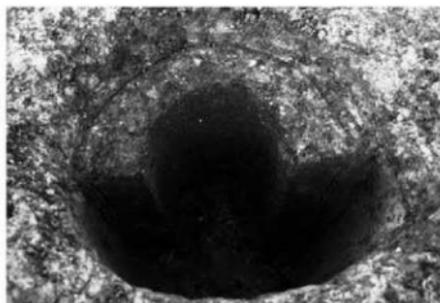
SB1576 完掘 (北東から)



SA1530-P1 土層断面 (北東から)



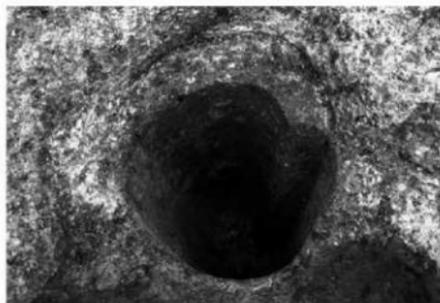
SA1531 柱痕完掘 (北西から)



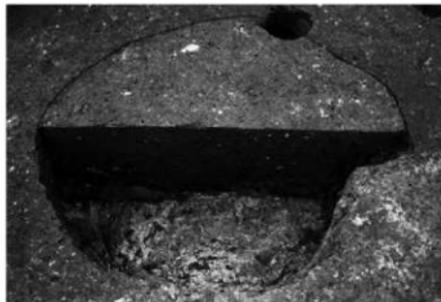
SA1531-P2 土層断面 (北西から)



SA1532 柱痕完掘 (北西から)



SA1532-P11 土層断面 (南から)



SE143 土層断面 1～3層 (東から)



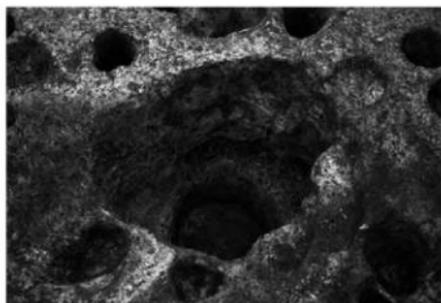
SE143 土層断面 4～7層 (東から)



SE143 遺物出土状況 (東から)



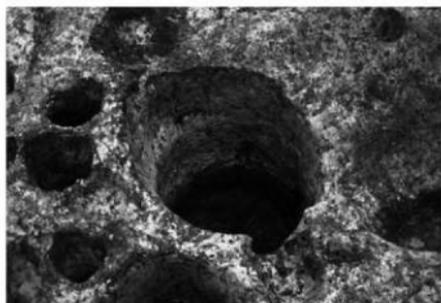
SE200 土層断面 (南から)



SE200 発掘 (南西から)



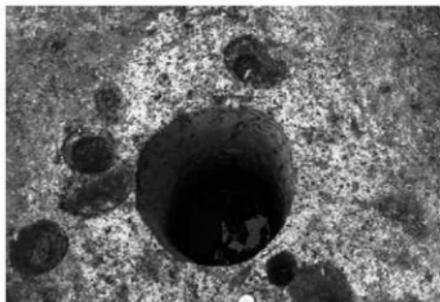
SE201 土層断面 (南西から)



SE201 発掘 (北から)



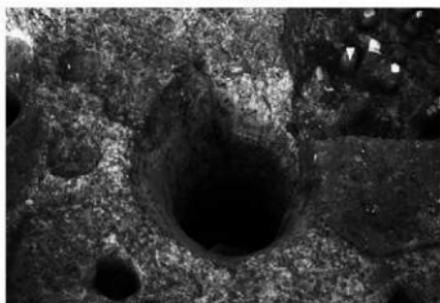
SE337 土層断面 (南東から)



SE337 完掘 (南から)



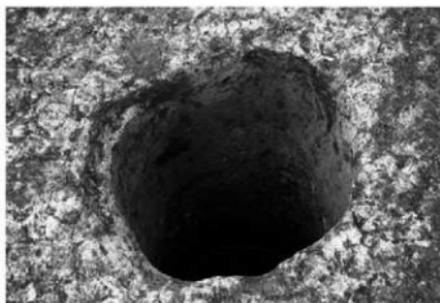
SE488 土層断面 1~5層 (南西から)



SE488 完掘 (南西から)



SE609 土層断面 (南から)



SE609 完掘 (西から)



SE760 土層断面 (南から)



SE760 完掘 (南から)



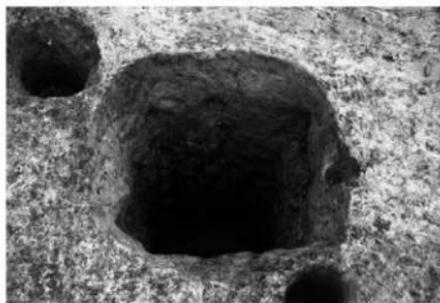
SE788 土層断面 (南から)



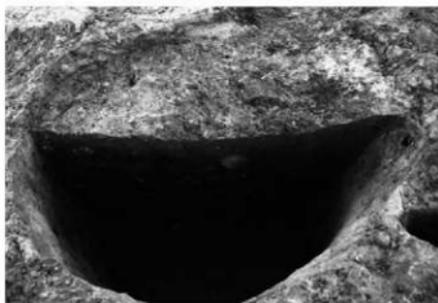
SE826 土層断面 (南から)



SE826 遺物出土状況 (南西から)



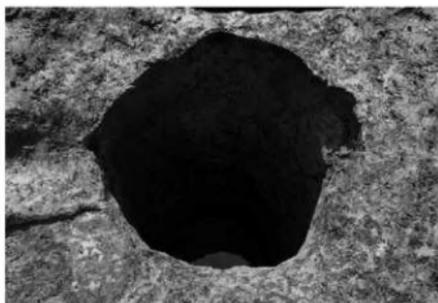
SE826 完掘 (南東から)



SE830 土層断面 (南から)



SE834 土層断面 (南から)



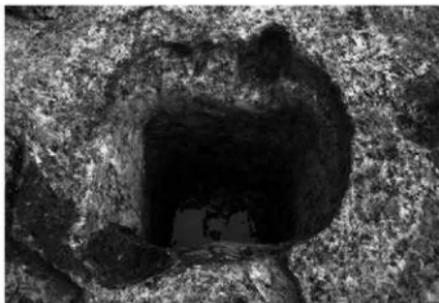
SE834 完掘 (北から)



SE1139 土層断面 (南から)



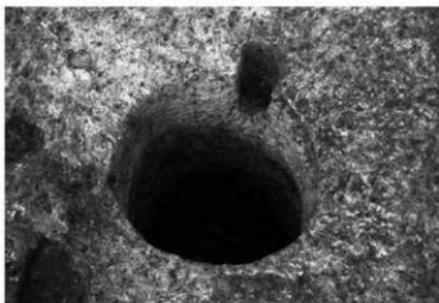
SE1139 遺物出土状況 (西から)



SE1139 発掘（西から）



SE1155 土層断面 1~8層（南から）



SE1155 発掘（南西から）



SE1221 土層断面（南西から）



SE1221 発掘（東から）



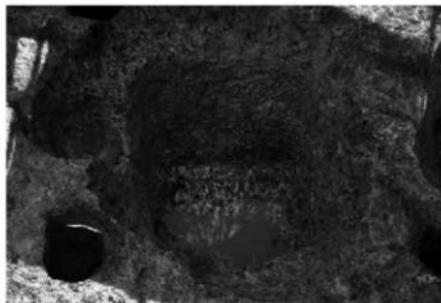
SE1363 土層断面（南から）



SE1363 発掘（西から）



SE1405 土層断面（南西から）



SE1405 完掘 (南西から)



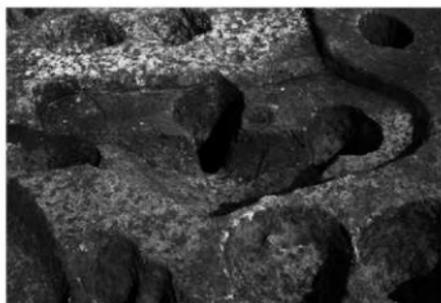
SE1493 完掘 (北から)



SE1565 完掘 (南から)



P6・SK4・P297 土層断面 (東から)



P16・SK61 土層断面 (南西から)



SK132 土層断面 (北東から)



SB289-P1・SK182 土層断面 (東から)



SK183 土層断面 (南から)



P169・SK187 土層断面 (南西から)



SK476 土層断面 (南東から)



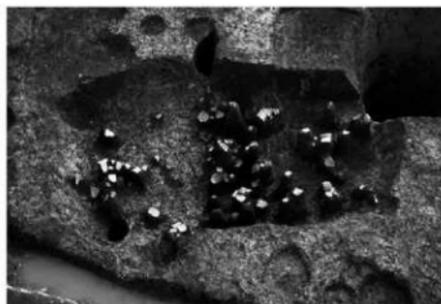
SK477 土層断面 (南から)



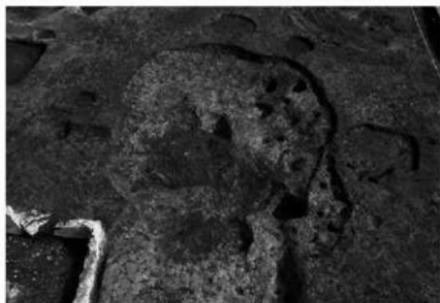
SK477 遺物出土状況 (南から)



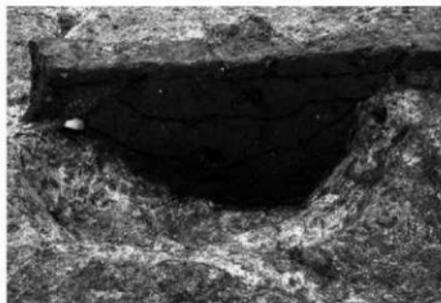
SK483 土層断面 (南東から)



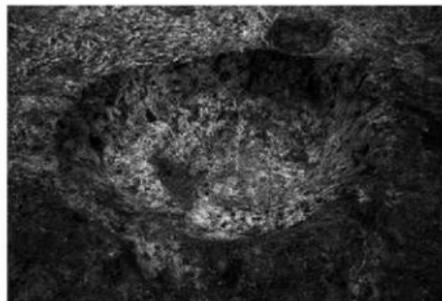
SK483 遺物出土状況 (北東から)



SK1087 穴掘 (西から)



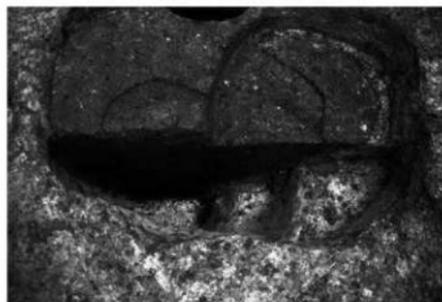
SK1345 土層断面 (北西から)



SK1345 発掘 (西から)



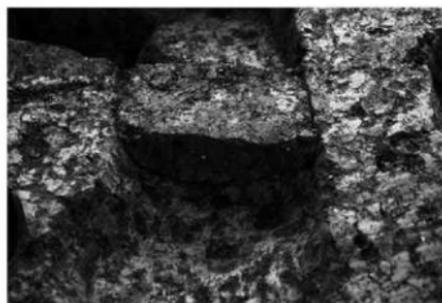
SK1399 土層断面 (西から)



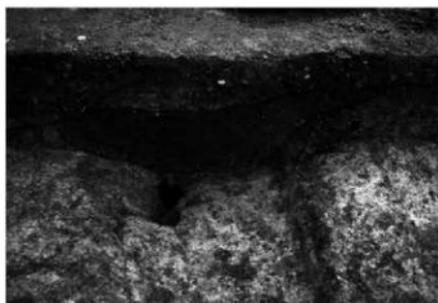
SB1519-P12 - SK1500 土層断面 (南東から)



SD106 土層断面 (北から)



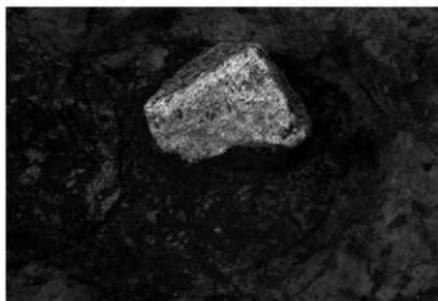
SD190 土層断面 (北東から)



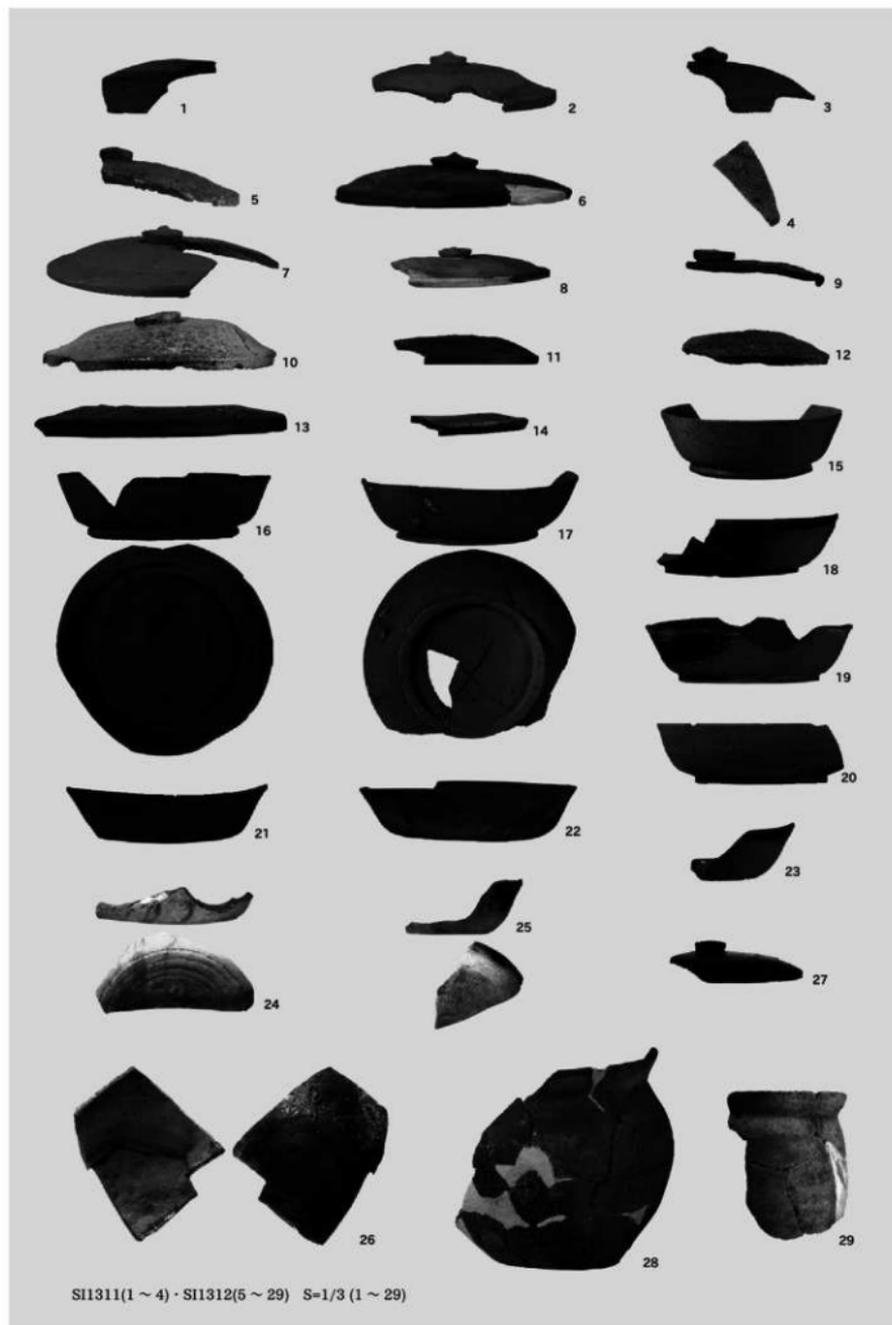
SD724 土層断面 (北から)



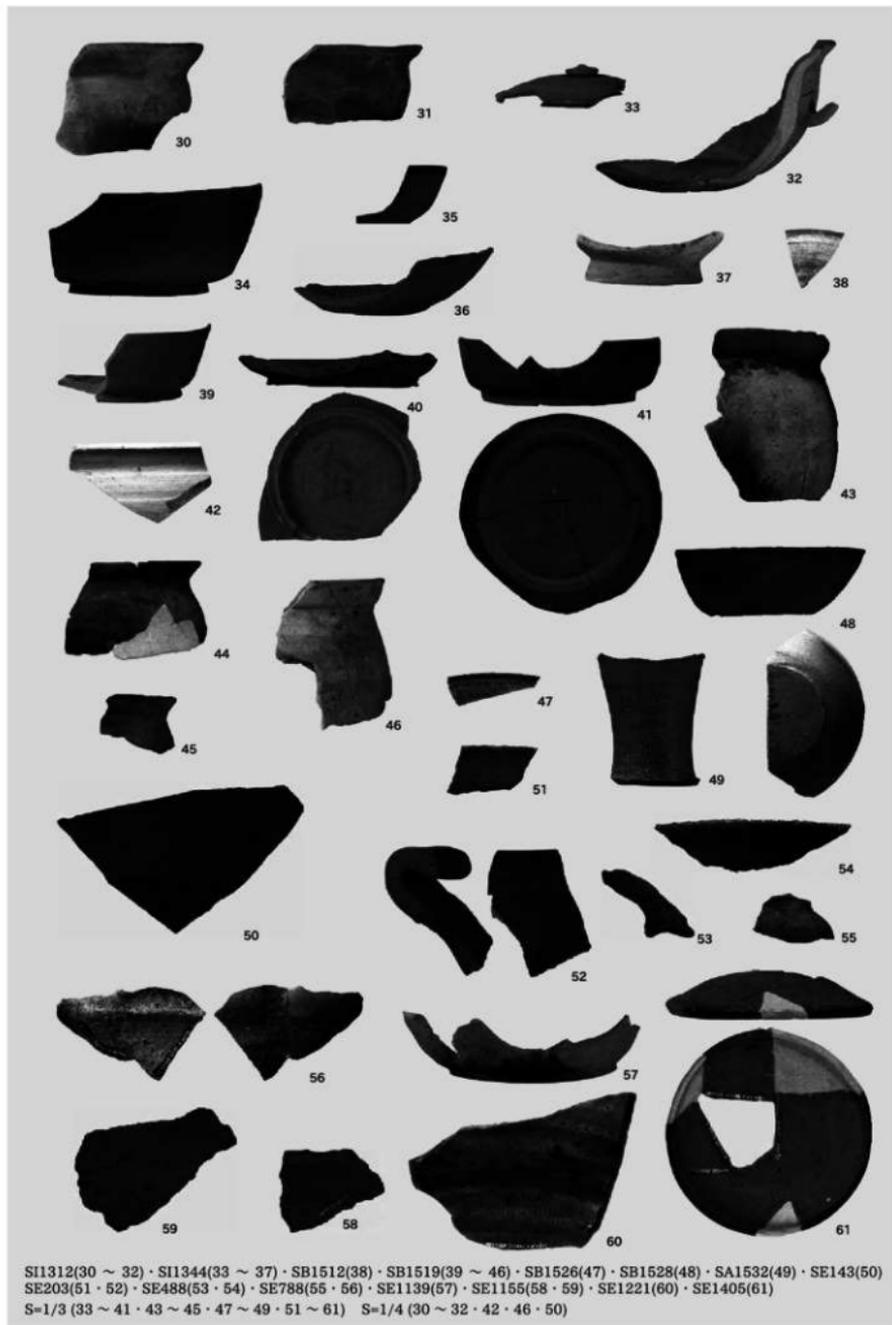
SD1265 土層断面 (西から)



P623 遺物出土状況 (東から)

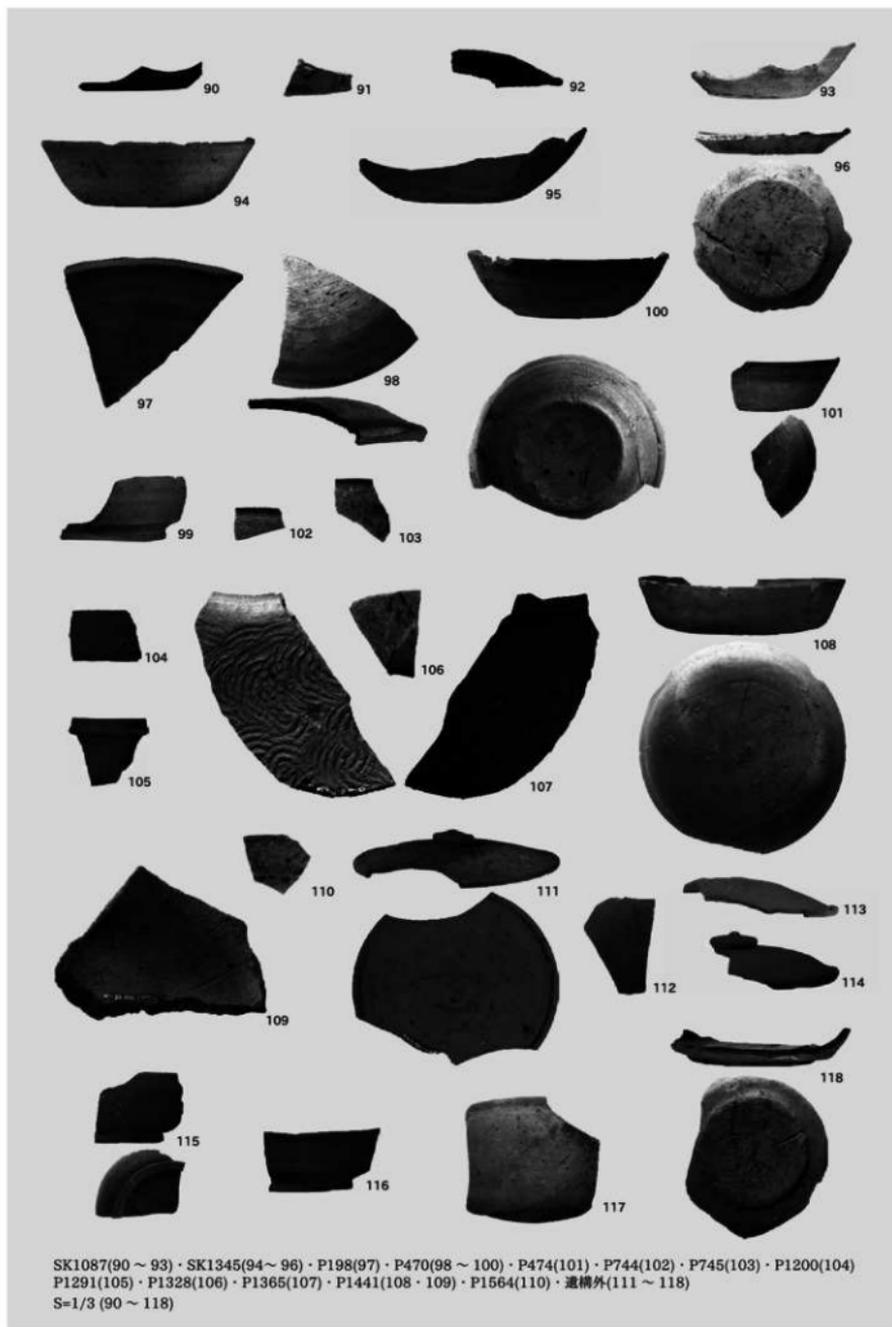


SI1311(1~4) · SI1312(5~29) S=1/3 (1~29)

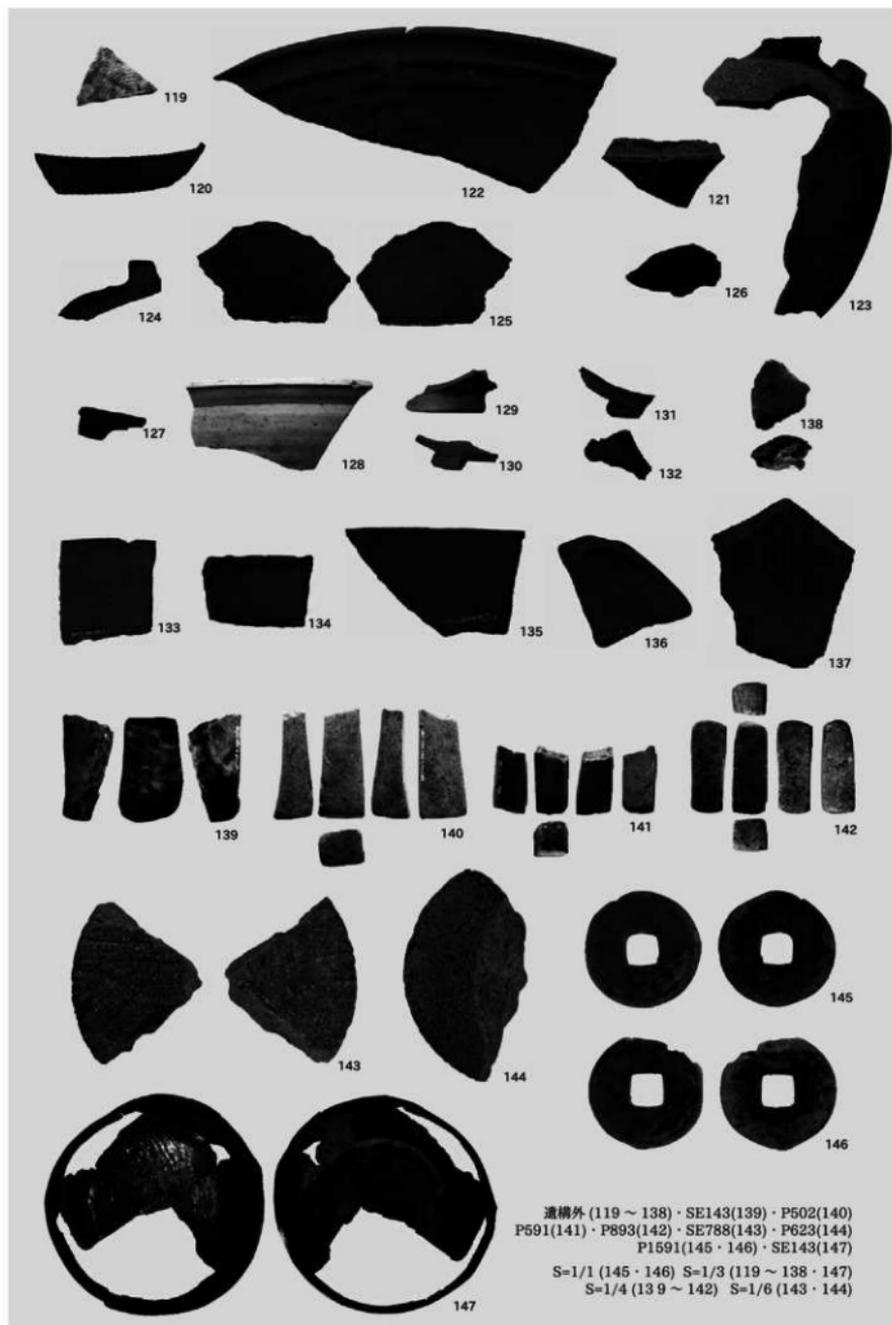


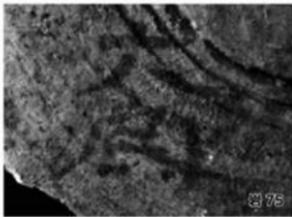
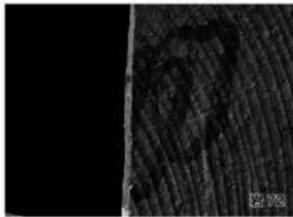
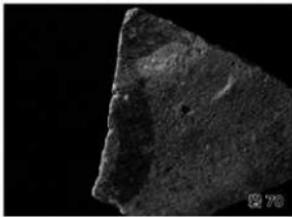
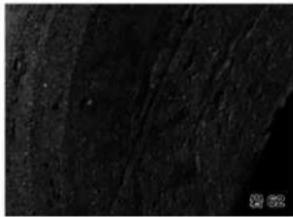
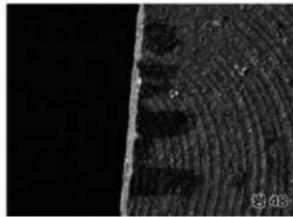
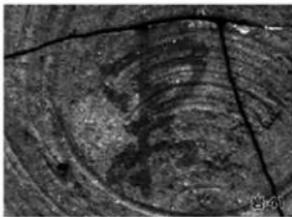
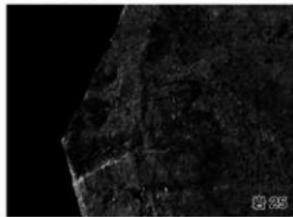
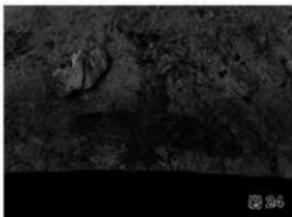
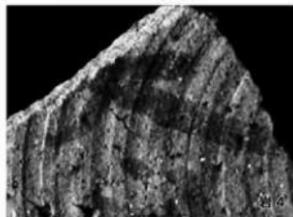
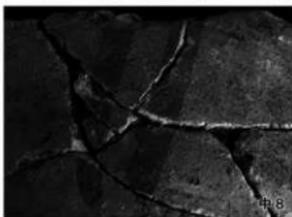
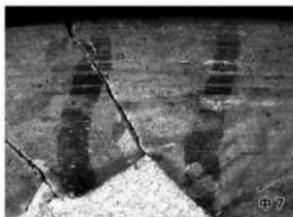
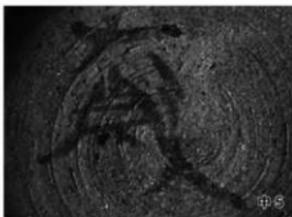
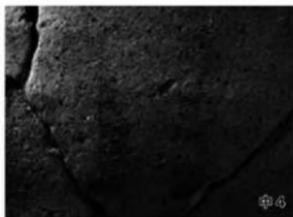


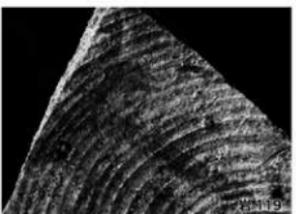
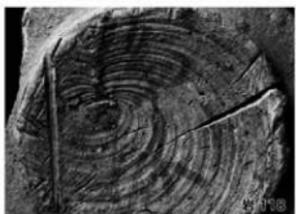
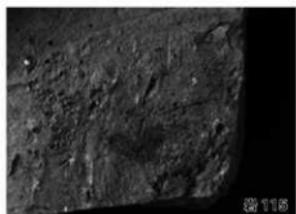
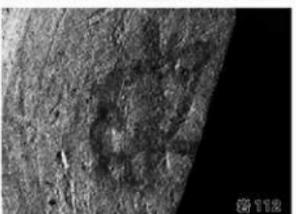
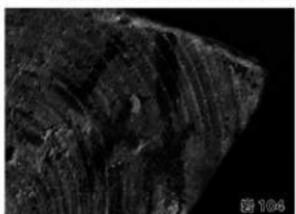
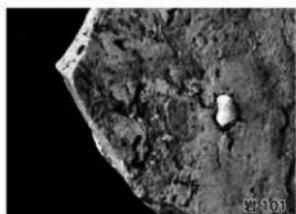
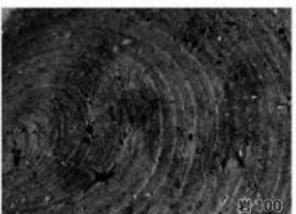
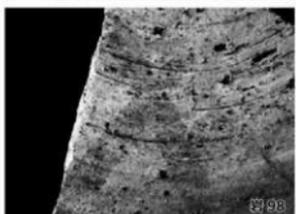
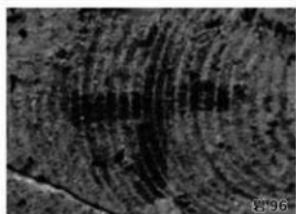
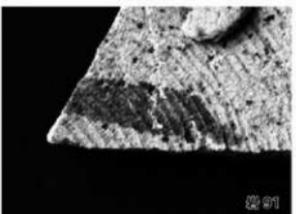
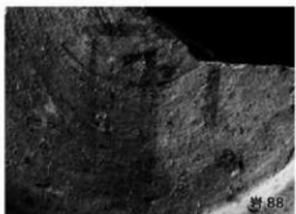
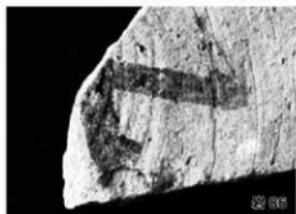
SE1405(62 ~ 65) · SE1565(66) · SK183(67 · 68) · SK187(69) · SK477(70 ~ 72) · SK483(73~83) · SK1087(84 ~ 89)
 S=1/3 (62 ~ 80 · 82 · 84 ~ 89) S=1/4 (81 · 83)



SK1087(90 ~ 93)・SK1345(94 ~ 96)・P198(97)・P470(98 ~ 100)・P474(101)・P744(102)・P745(103)・P1200(104)
 P1291(105)・P1328(106)・P1365(107)・P1441(108・109)・P1564(110)・遺構外(111 ~ 118)
 S=1/3 (90 ~ 118)







報告書抄録

| | | | | | | | | |
|---------------------|--|--|------|--|--------------------|---|-------|--|
| ふりがな | きたまたさいせきに・のあぜいせき・すわまいせき・きたしんでんいせきに・なかつはらいせきに・いわのほらいせき | | | | | | | |
| 書名 | 北前田遺跡Ⅱ・野群遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱ | | | | | | | |
| 副書名 | 北陸新幹線関係発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | XⅦ | | | | | | | |
| シリーズ名 | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第212集 | | | | | | | |
| 編者名 | 戸根与八郎・岡本範之・土沼章一・大谷祐司・金内 元・村端和樹・秋山泰利(株式会社ノガミ)、 千葉博俊・高橋 敏・馬場健司(パリオ・サーヴェイ株式会社)、相沢 央(新潟県教育委員会)、 高橋保雄(財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団)・株式会社 ノガミ | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社 ノガミ | | | | | | | |
| 所在地 | 〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93-1 電話 0250(25)3981 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒950-1136 新潟県新潟市江南区曹川甲527-3 電話 025(280)6620 (株)ノガミ | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2010(平成22)年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | |
| 所取遺跡 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | ° ° ° | ° ° ° | m ² | | |
| きたまたさいせき 北前田遺跡Ⅱ | 新潟県上越市大字上 のほらいせき 中田字北前田471ほか | 15222 | 1502 | 37度 05分 22秒 | 138度 14分 21秒 | 20080417～ 20080625 | 2,100 | 北陸新幹線建設 |
| のあぜいせき 野群遺跡 | 新潟県上越市大字 のあぜいせき 中田字野群1085ほか | 15222 | 1511 | 37度 05分 26秒 | 138度 14分 19秒 | 20080616～ 20080714 | 160 | 北陸新幹線建設 |
| すわまいせき 諏訪前遺跡 | 新潟県上越市大字寺 町字諏訪前1365ほか | 15222 | 1518 | 37度 04分 14秒 | 138度 15分 35秒 | 20080617～ 20080717 | 230 | 北陸新幹線建設 |
| きたしんでんいせき 北新田遺跡Ⅱ | 新潟県上越市大字 のあぜいせき 荒崎字南新田 | 15222 | 1503 | 37度 05分 17秒 | 138度 14分 31秒 | 20080623～ 20080808 | 250 | 北陸新幹線建設 |
| なかつはらいせき 中田原遺跡Ⅱ | 新潟県上越市大字上 のほらいせき 中田字中田原81ほか | 15222 | 1494 | 37度 05分 38秒 | 138度 14分 02秒 | 20080710～ 20080930 | 830 | 北陸新幹線建設 |
| いわのほらいせき 岩ノ原遺跡Ⅱ | 新潟県上越市大字向 のほらいせき 橋字岩ノ原162ほか | 15222 | 1483 | 37度 05分 42秒 | 138度 13分 56秒 | 20080916～ 20081127 | 1,250 | 北陸新幹線建設 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 北前田遺跡Ⅱ | 集落跡 | 古代(8世紀中葉～ 9世紀後葉) | | 掘立柱建物17棟、 杭列2基、井戸5基、 土坑36基、溝30条 | | 古代の土師器・須恵器・ 円筒形土製品・土鏃・ 砥石・刀子 | | |
| 野群遺跡 | 集落跡 | 古代(8世紀中葉～ 9世紀初頭) | | 掘立柱建物2棟、井戸 1基、土坑2基、性格不 明遺構2基、溝1条 | | 古代の土師器・須恵器・ 砥石 | | |
| 諏訪前遺跡 | 集落跡 | 古代(8世紀中葉～ 9世紀中葉) 中世(14世紀) | | 土坑2基 | | 古代の土師器・須恵器、 中世の珠洲焼・青磁・ 木簡 | | |
| 北新田遺跡Ⅱ | 集落跡 | 古墳時代後期 (7世紀前半) 古代(9世紀中葉) | | 竪穴住居3棟、掘立柱 建物1棟、土坑4基、 性格不明遺構3基、 溝14条 | | 古墳時代の土師器・ 須恵器、古代の土師器・ 須恵器 | | |
| 中田原遺跡Ⅱ | 集落跡 | 縄文時代 古代(9世紀中葉) 中世(14～15世紀) | | 井戸2基、土坑4基、 性格不明遺構3基、 陥穴8基、道条遺構1条 | | 縄文時代の石器・石製品、 古代の土師器・須恵器、 中世の珠洲焼・ 瀬戸美濃焼・木製品 | | |
| 岩ノ原遺跡Ⅱ | 荘園関連 ・集落跡 | 古代(8世紀中葉～ 9世紀後半) 中世(13世紀～ 15世紀前半) | | 竪穴住居3棟、 掘立柱建物36棟、 杭列5基、井戸19基、 土坑15基、溝4条 | | 古代の土師器・須恵器・ 灰陶陶器、中世の珠洲焼・ 羽口・砥石・石臼・ 錢貨・漆器板 | | 古代においては 東大寺領石井荘 の荘園遺跡と 考えられる。 |

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第212集

北陸新幹線関係発掘調査報告書XVII

北前田遺跡Ⅱ・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱ

平成22年3月30日印刷
平成22年3月31日発行

編集・発行

新潟県教育委員会
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
電話 025 (285) 5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
電話 0250 (25) 3981
FAX 0250 (25) 3986

印刷・製本

北越印刷株式会社
〒940-1164 長岡市南陽2丁目949番8
電話 0258 (23) 7711
FAX 0258 (23) 9712